

京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和7年度

2026年3月

京都市文化市民局

京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和7年度

二〇二六 京都市文化市民局

京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和7年度

2026年3月

京都市文化市民局



1 II - 2 史跡旧二条離宮（二条城）ほか（6N065・118）No.10 地点礎石列全景（南から）



1 III - 2 平安京右京七条一坊一町跡、御土居跡 (24H388) No.5 地点 南東から



1 IV - 5 伏見城跡 (24A009) No.3・4 全景 (西から)



2 IV - 5 伏見城跡 (24A009) No.4～6 遠景 (南西から)

例 言

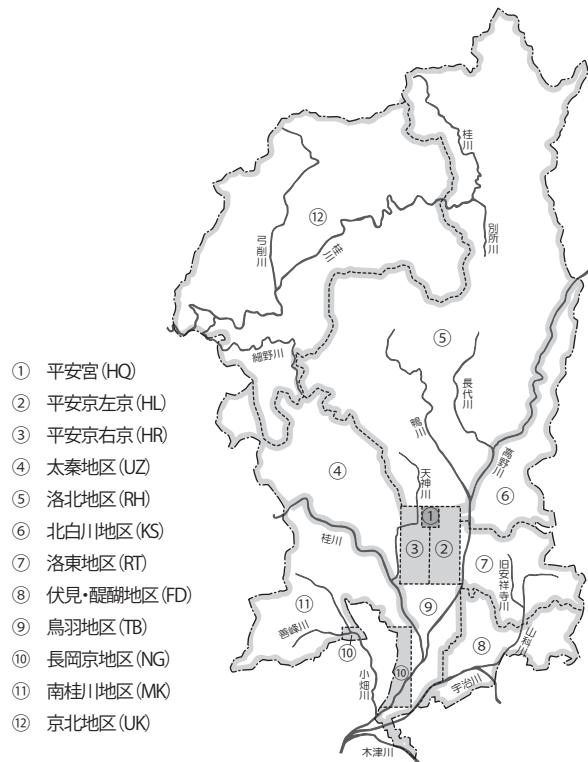
1. 本書は京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した令和7年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。令和7年1月から令和7年12月まで実施した詳細分布調査のうち、重要な成果があったものを本文で報告し、その他のものを一覧表に列記している。
2. 本文の執筆分担は、本文の末尾に記している。
3. 本書報告の調査のうち、基準点測量した調査の方位および座標は、世界測地系平面直角座標系VIによる。標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。またこれ以外の場合は、既存公共物などを仮基準点（KBM）として用いている。
4. 本書で使用した調査位置図は京都市発行の都市計画基本図（縮尺1／2,500）と一部京都市公共物GISを調整し、作成したものである。このほか、巻末の図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版1～13 1／8,000 、 図版14～31 1／10,000

5. 本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は、一部を除き、平尾政幸「土師器再考」（『洛史』研究紀要 第12号、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2019年）に準拠する。

750	840	930	1020	1110	1170	1260	1350	1410	1500	1590	1680	1740	1800	1860
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	

6. 本書で使用した土色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』2016年度版に準じる。
7. 調査一覧表では各時代の「時代」は省略し、調査日も簡略に記している。遺跡名は、平安宮跡、平安京跡、長岡京跡については、官衙・条坊を優先して記載した。西暦も年を省略している。
8. 調査及び整理にあたっては、飯沼 俊哉、一條 顯恆、上茶谷 美保、上別府 亜紀、佐藤まお、早川 仁志、林 友紀、松本 和子、吉本 健吾の協力を得た。
9. 調査及び本書作成は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が担当し、（公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。



地区設定概念図

本文目次

I 調査概要	1
II 平安宮	7
1 平安宮主水司・宮内省跡、聚楽遺跡 (24K115)	7
2 史跡旧二条城離宮、平安宮雅楽寮跡、平安京左京二条二坊三～六町跡 (6N065・118)	19
III 平安京右京	29
1 平安京右京一条二坊十二町跡 (25H105)	29
2 平安京右京七条一坊一町跡、御土居跡 (24H388)	32
IV その他の遺跡	37
1 木野墓窯跡 (24S643)	37
2 上京遺跡 (24S434)	41
3 北野天満宮・史跡御土居跡 (23S260・6C061)	44
4 史跡醍醐寺境内 (6N026)	51
5 伏見城跡 (24A009)	60
6 長岡京左京三条三坊九・十六町跡 (24NG147)	67
7 長岡京左京三条四坊九町跡 (23NG434・24NG649)	70
8 淀城跡 (24S564)	73
9 愛宕山遺跡及び隣接地 (25A004)	78
10 鳥居古墳群 (25S354)	86
V 調査一覧表	88

報告書抄録

挿図目次

地区設定概念図	i
I 調査概要	
図1 詳細分布調査の年間件数推移	2

II - 1 平安宮主水司・宮内省跡、聚楽遺跡

図 2	調査位置図	7
図 3	諸図による配置の違い	7
図 4	調査位置図及び周辺調査配置図	9
図 5	調査区平面図・土坑 1 断面図	10
図 6	土坑 1 完掘状況（北西から）	11
図 7	土坑 1 出土土器実測図 1	12
図 8	土坑 1 出土土器実測図 2	13
図 9	土坑 1 出土土器実測図 3	14
図 10	土坑 1 出土土器実測図 4	15
図 11	土坑 1 出土土器破片数量グラフ	16

II - 2 史跡旧二条離宮（二条城）、平安宮雅楽寮跡、平安京左京二条二坊三～六町跡

図 12	調査地位置図	19
図 13	緑の園東側～二ノ丸御殿北側の調査地点	20
図 14	緑の園東側 No. 1～4 地点土層図	20
図 15	饗宴場基礎検出状況（No. 8 地点、北から）	21
図 16	鳴子門～本丸東橋調査地点	22
図 17	No. 10 地点検出遺構平面図及び土層図	22
図 18	No. 12 地点検出遺構平面図	22
図 19	No. 13 地点検出遺構平面図	23
図 20	No. 10 地点遺構検出状況（南から）	23
図 21	No. 11 地点遺構検出状況（南から）	23
図 22	No. 12 地点遺構検出状況（北から）	23
図 23	No. 13 地点南遺構検出状況（東から）	23
図 24	本丸東虎口調査地点	24
図 25	No. 14 地点土層図	24
図 26	No. 15 地点検出遺構図	25
図 27	延石 4 検出状況（南東から）	25
図 28	延石 5・6 検出状況（北西から）	25
図 29	延石 4～6 全景（北から）	26
図 30	No. 16 地点土層図	26
図 31	本丸北雁木裾における控え石の検出状況（南東から）	27

III - 1	平安京右京一条二坊十二町跡	
図 32	調査位置図	29
図 33	敷地及び調査地点配置図	29
図 34	No. 1 ～ 7 地点 平断面図	30
図 35	出土遺物実測図	31
III - 2	平安京右京七条一坊一町跡、御土居跡	
図 36	調査位置図	32
図 37	調査地点配置図	33
図 38	調査地点断面図	34
図 39	調査地点付近の御土居堀幅復元図	35
IV - 1	木野墓窯跡	
図 40	調査位置図	37
図 41	調査地点配置図	37
図 42	調査区実測図	38
図 43	No. 1 焼土塊 (南から)	38
図 44	土器実測図	39
図 45	【参考】土師器窯構造物実測図	39
IV - 2	上京遺跡	
図 46	調査位置図	41
図 47	調査地点配置図	41
図 48	各地点断面図	42
図 49	出土遺物実測図	43
IV - 3	北野天満宮	
図 50	調査位置図	44
図 51	調査区配置図	45
図 52	調査地点断面図 (1)	47
図 53	調査地点断面図 (2)	48
図 54	出土遺物実測図	49

IV - 4 史跡醍醐寺境内

図 55 調査位置図	51
図 56 「下醍醐寺伽藍惣絵図」江戸初期	52
図 57 「無量光院・旧三宝院（醍醐寺）跡地形実測図」	52
図 58 調査区位置図	53
図 59 No. 1（西から）	54
図 60 No. 3（東から）	54
図 61 No. 4（東から）	54
図 62 断面図No. 1～5	55
図 63 No. 7（西から）	56
図 64 No. 9（北西から）	56
図 65 No. 11（西から）	56
図 66 断面図No. 6～14	57
図 67 出土遺物	58
図 68 全体復元図	59

IV - 5 伏見城跡

図 69 調査位置図	60
図 70 調査地配置図	61
図 71 断面図	62・63
図 72 土塁と堀のエレベーション図	64
図 73 本調査地・調査①・復元案の位置関係図	65

IV - 6 長岡京左京三条三坊九・十六町跡

図 74 調査位置図	67
図 75 調査区配置図	68
図 76 調査区断面図	68
図 77 調査地周辺との条坊側溝位置図	69

IV - 7 長岡京左京三条四坊九町跡

図 78 調査位置図	70
図 79 調査区配置図	70
図 80 調査区断面図	71
図 81 B-1 地点西壁断面（東から）	71
図 82 出土遺物実測図	72

IV - 8 淀城跡	
図 83	調査位置図 73
図 84	「淀城の石垣跡」全景（北東から） 74
図 85	張出部西面石垣（西から） 74
図 86	調査地石垣平・立面図 75
図 87	張出部北面石垣（北西から） 76
図 88	張出部南面石垣（南から） 76
図 89	淀城跡復元図と調査地位置 77

IV - 9 愛宕山遺跡及び隣接地	
図 90	愛宕山遺跡及び調査位置図 78
図 91	調査地点位置図 79
図 92	調査地点 3 平面図 80
図 93	調査地点 4 平面図 81
図 94	遺物実測図 82

IV -10 鳥居古墳群	
図 95	調査位置図 86
図 96	調査区配置図 87
図 97	航空レーザー測量写真 87
図 98	調査区断面図 87
図 99	出土遺物実測図 87

表 目 次

表 1	令和 7 年の詳細分布調査件数 1
表 2	出土遺物概要表 5

図 版 目 次

巻頭図版

巻頭図版 1	1	II - 2 史跡 旧二条離宮（二条城）ほか（6N065・118）
		No. 10 地点礎石列全景（南から）

- 巻頭図版2 1 III - 2 平安京右京七条一坊一町跡、御土居跡 (24H388) No.5 地点 南東から
 巻頭図版3 1 IV - 5 伏見城跡 (24A009) No.3・4 全景 (西から)
 2 IV - 5 伏見城跡 (24A009) No.4～6 遠景 (南西から)

図版1～30 調査位置図

- 図版1 平安宮
 図版2 平安京左京北辺～三条一・二坊
 図版3 平安京左京北辺～三条三・四坊
 図版4 平安京左京四～六条一・二坊
 図版5 平安京左京四～六条三・四坊
 図版6 平安京左京七～九条一・二坊
 図版7 平安京左京七～九条三・四坊
 図版8 平安京右京北辺～三条三・四坊
 図版9 平安京右京北辺～三条一・二坊
 図版10 平安京右京四～六条三・四坊
 図版11 平安京右京四～六条一・二坊
 図版12 平安京右京七～九条三・四坊
 図版13 平安京右京七～九条一・二坊
 図版14 伏見城跡、指月城跡、桃陵遺跡
 図版15 伏見城跡、指月城跡
 図版16 1 北野遺跡、北野廃寺、龍安寺御陵ノ下町遺跡、香隆寺跡 2 衣笠氷室町遺跡
 3 御土居跡、大徳寺旧境内、史跡船岡山、北野遺跡、北野廃寺、北野天満宮、
 史跡御土居、北野烏居前町遺跡、上京遺跡
 図版17 1 蟹ヶ坂瓦窯跡 2 御土居跡、市指定史跡久我神社境内 3 上京遺跡、
 寺ノ内旧域、革堂跡 (行願寺)、相国寺旧境内、上御霊遺跡、公家町遺跡、寺町旧域
 図版18 1 檜原遺跡 2 下津林遺跡
 3 上久世遺跡、上久世城跡、中久世遺跡、下久世構跡、長岡京跡
 図版19 長岡京跡、曆田遺跡、羽束師遺跡、羽束師志水町遺跡、久我殿遺跡、横大路城跡、
 桂川関連遺跡
 図版20 長岡京跡、淀城跡、木津川河床遺跡
 図版21 史跡仁和寺御所跡、名勝仁和寺御所庭園、円乗寺跡、仁和寺院家跡、
 鳴滝藤ノ木町古墳、草木町遺跡、常盤柏ノ木古墳群、常盤東ノ町古墳群、法金剛院境内、
 森ヶ東瓦窯跡、和泉式部塚古墳、一ノ井遺跡、常盤仲之町遺跡、広隆寺旧境内
 太秦馬塚町遺跡、上ノ段町遺跡、多藪町遺跡、村ノ内町遺跡、和泉式部町遺跡
 図版22 北白川廃寺、上終町遺跡、小倉町別当町遺跡、白河街区跡、白河北殿跡、白河南殿跡、

- 尊勝寺跡、法勝寺跡、岡崎遺跡
- 図版 23 八坂神社、建仁寺旧境内、法観寺旧境内、清水寺境内、清水寺経塚、鳥部（辺）野、六波羅政庁跡、方広寺跡、妙法院境内、法住寺殿跡、法性寺跡、塚本古墳
- 図版 24 1 嵯峨遺跡、大覚寺古墳群、宝幢寺境内
2 史跡賀茂別雷神社境内、植物園北遺跡
- 図版 25 1 鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、下鳥羽遺跡 2 堂ノ庭遺跡
3 醍醐ノ森瓦窯跡、船山須恵器窯跡、角社瓦窯跡
- 図版 26 1 法成寺跡、御土居跡、寺町旧域、法興院跡
2 四手井城跡、山科本願寺跡（寺内町遺跡）、左義長町遺跡
3 史跡随心院境内、史跡醍醐寺境内 4 中臣遺跡、中臣十三塚
- 図版 27 1 福西古墳群 2 南野古墳群 3 大雲寺跡 4 岩倉忠在地遺跡
5 元稻荷窯跡、栗栖野瓦窯跡、南池田窯跡、木野墓窯跡 6 補陀洛寺跡
7 一乗寺向畑町遺跡、一乗寺西浦畑町遺跡、一乗寺跡
- 図版 28 1 修学院遺跡 2 浄土寺七廻り町遺跡 3 西野山遺跡群（西野山古墓）
4 泉涌寺境内、本多山古墳群、鳥部（辺）野、法性寺跡 5 芝町遺跡
6 山科本願寺南殿跡 7 伏見稻荷大社境内、稻荷山坊崖遺跡、稻荷山古墳群、極楽寺跡 8 貞観寺跡、嘉祥寺跡、深草坊町遺跡、がんせんでう廃寺
- 図版 29 1 向島城跡 2 日野谷寺町遺跡 3 御土居跡 4 烏丸町遺跡
5 芹川城跡 6 大宅廃寺 7 長岡京跡、大原野石見遺跡 8 金蔵寺境内
- 図版 30 1 あやめ塚 2 鳥居古墳群 3 西芳寺川古墳群 4 愛宕山遺跡

図版 31～33 遺構・遺物写真図版

- 図版 31 II - 1 平安宮主水司・宮内省跡、聚楽遺跡 遺物
- 図版 32 IV - 5 伏見城跡 遺構
1 No.2 全景（西から）
2 No.3～6 遠景（北西から）
- 図版 33 IV - 9 愛宕山遺跡及び隣接地 遺構
1 平坦面 3a・b（南西から）
2 平坦面 3b 東端遺物散布状況
3 平坦面 4a（東から）
4 平坦面 4 下斜面遺物散布状況
5 平坦面 4 東側の瀧（南から）
6 平坦面 4 付近から南側眺望（北から）
7 磐座頂部の立石（北東から）
8 磐座裾部の岩屋（西から）

I 調査概要

本書は、文化庁国庫補助事業に伴う令和7年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本書では令和7年1月6日から3月28日までの令和6年度分193件、令和7年4月1日から令和7年12月26日までの令和7年度分358件、計551件を報告する(表1)。

今年度、京都市文化市民局文化財保護課埋蔵文化財係では久しぶりに新規のアルバイト採用をおこない、2名の学生が新たに加わった。そのうちの1名が「埋蔵文化財調査」について語った。

「八月から調査補助員として新たに業務に携わらせていただくことになりました。

私は埋蔵文化財や考古学専攻ではないので、勤務当初は右も左もわからない状態でしたが、現場や整理作業において必要な知識を手取り足取り教えていただきました。

埋蔵文化財の調査は、一度掘ってしまうと元に戻すことはできません。そのため、事前に過去の調査結果や歴史学の情報を揃え、遺跡にとって適切な調査を行う環境を整えることが求められ、さらに、調査結果から導き出す埋蔵文化財に対する評価を正しく付けられるよう、調査時に可能な限り多くの情報を収集することが、調査における最重要点であると学びました。

詳細分布調査は、1日で市内各地の多様な時代や性格の遺跡を調査できるところが魅力的であると感じています。ある質の土が示すその層や土地の環境がどのようなものかを他の調査地と比較したり、地形と調査地の関係や同じ土地で重複する遺跡同士の関係がみられたりするなど、発掘調査や試掘調査よりも広く短時間で調査するからこそその基本的な視点や知識を数多く学べたことが非常に面白かったです。また、最も印象に残っている金蔵寺境内での調査(25 A 008)では、現境内上部の尾根上の平坦面で須恵器片を採集したことにより、金蔵寺境内が広がる可能性が確認できました。

来春からは調査補助員ではなく、調査員として業務に携わることになりますが、ここで学ばせていただいたことを最大限自分の業務に活かすことができるよう、より一層精進する次第です。」

この様に埋蔵文化財事業にかかわる新たな人材の成長をみながら、今年も頑張って調査を行った。総件数は前年に比べて71件増加した(図1)。令和元年からの減少傾向が去年で底を打ち、

表1 令和7年の詳細分布調査件数

地 区	6年度1~3月	7年度4月~12月	小計	地 区	6年度1~3月	7年度4月~12月	小計
平安宮 (HQ)	22	26	48	洛東地区 (RT)	19	39	58
平安京左京 (HL)	31	65	96	伏見・醍醐地区 (FD)	20	30	50
平安京右京 (HR)	29	58	87	鳥羽地区 (TB)	7	18	25
太秦地区 (UZ)	10	19	29	長岡京地区 (NG)	17	11	28
洛北地区 (RH)	23	50	73	南桂川地区 (MK)	6	23	29
北白川地区 (KS)	8	16	24	京北地区 (UK)	1	2	3
				合 計	193	357	550

増加傾向に転じたものと考えられる。地区ごとの増減では、平安宮、太秦、北白川の3地区で総数30件の減少がみられているが、その他の地区で大増加がみられた。特に平安京右京域が26件と一番多く、洛北、伏見・醍醐、洛東、南桂川、平安京左京域の5地区でそれぞれ10件台の増加がみられている。これは京都市域全域で景気回復の傾向をみせ、構造物建築が多く始まった結果と考えられよう。

詳細分布調査の調査によって検出できた遺構、遺物は多数ある。以下、地区ごとの概要を述べる。

①平安宮（HQ）

平安宮域では、平安宮跡、史跡平安宮跡（内裏跡・朝堂院跡・豊楽院跡）、聚楽第跡、聚楽遺跡、鳳瑞遺跡、二条城北遺跡、史跡旧二条離宮（二条城）の7遺跡と左京域に延伸する工事で二条二坊二・六・七町跡、二条二坊四・五・六町跡等48件の調査を行った。

本書では、主水司跡、聚楽遺跡の調査(24K115)で検出した平安時代前期の土坑と、雅楽寮、左京二条二坊四・五・六町跡、史跡旧二条離宮（二条城）の調査(6N065)で検出した江戸時代の二条城本丸東虎口関連の遺構他を検出したので、以上2件を報告する。

近世においては、大膳職・大炊寮跡、左京二条二坊二・六・七町跡、二条城北遺跡の調査(24K476)、太政官跡、聚楽遺跡の調査(24K560)などで包含層を検出した。

②平安京左京（HL）

左京域では、平安京跡、内膳町遺跡、二条城北遺跡、高陽院跡、公家町遺跡、烏丸丸太町遺跡、烏丸御池遺跡、烏丸綾小路遺跡、寺町旧域、御土居跡、烏丸町遺跡、上京遺跡、京都新城跡、堀川

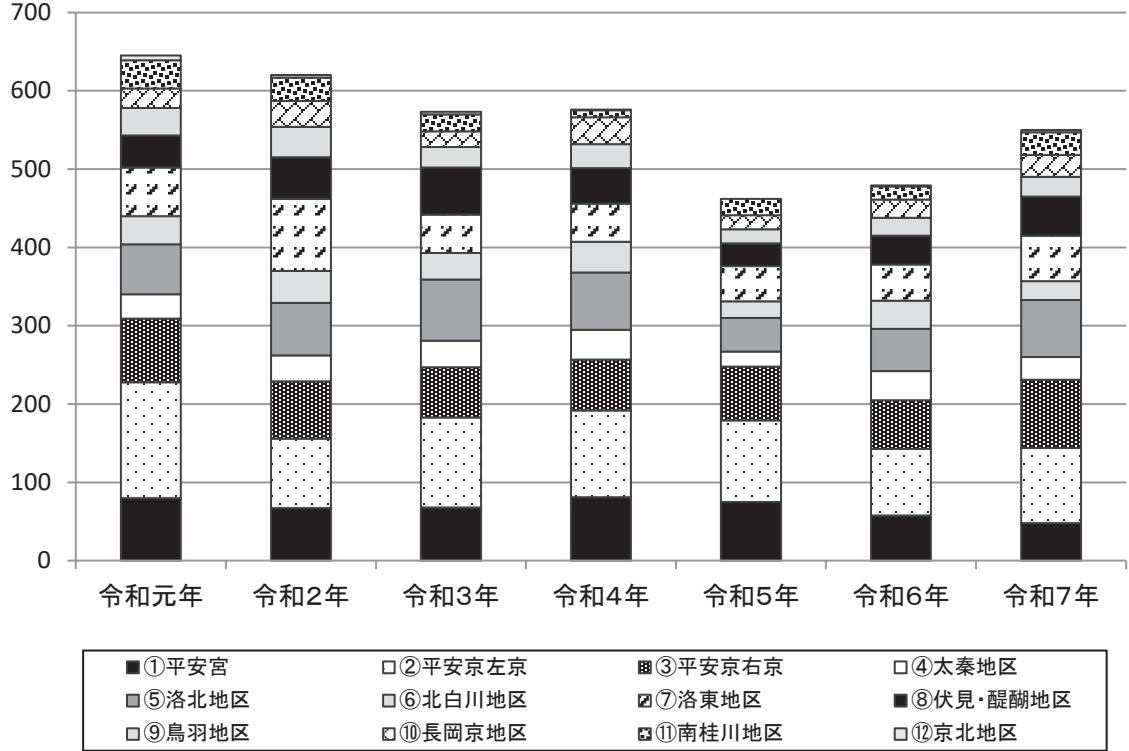


図1 詳細分布調査の年間件数推移

御池遺跡、妙覚寺城跡、だいうすの城跡、東本願寺前古墓群、東市跡の18の遺跡で96件の調査を行った。

平安時代においては、後期の包含層を三条三坊一町跡の調査(25H323)で、末期の包含層を三条三坊一町跡の調査(25H323)、四条二坊十一町跡の調査(25H053)、六条二坊十五町跡、烏丸綾小路遺跡の調査(24H487)で検出した。

平安時代末期から鎌倉時代においては、三条二坊十二町跡の調査(23H300)、二条四坊十二町跡、烏丸丸太町遺跡の調査(24H493)、四条二坊四町跡の調査(24H602)で包含層を検出している。また、八条三坊一町跡の調査(25H106)で土坑を検出した。鎌倉時代においては、五条一坊七町跡の調査(19H595)、六条二坊十五町跡、烏丸綾小路遺跡の調査(24H487)で包含層を検出した。室町時代においては、二条三坊十三町跡、烏丸丸太町遺跡の調査(24H562)、三条三坊一町跡の調査(24H425)で包含層を検出、三条三坊七町跡、烏丸御池遺跡、妙覚寺城跡の調査(25H062)で前期の池埋土を検出している。

古代末期から中世においては、六条四坊八町跡の調査(25H334)で包含層を検出した。

中世においては、一条二坊十一町跡の調査(23H537)、七条四坊七町跡の調査(24H490)、三条三坊一町跡の調査(25H323)、六条四坊八町跡の調査(25H334)、六条四坊七町跡の調査(25H249)で包含層を検出している。また、三条三坊一町跡の調査(24H425)、五条二坊十三町跡、烏丸綾小路遺跡の調査(25H464)で落込を、六条二坊三町跡、烏丸綾小路遺跡の調査(25H300)で整地層と土坑を検出した。

中近世においては、一条二坊十一町跡の調査(23H537)、七条四坊四町跡の調査(24H490)で包含層を検出した。

③平安京右京（HR）

右京域では、平安京跡、御土居跡、史跡妙心寺境内、西ノ京遺跡、法金剛院境内、山ノ内遺跡、西京極遺跡、堂ノ口町遺跡、西市跡、衣田町遺跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡、壬生遺跡、西院城跡(小泉城跡)、梅小路城跡の16遺跡で87件の調査を行った。

本書では、七条一坊一町跡、御土居跡の調査(24H388)で安土桃山時代の御土居堀を、一条二坊二町跡の調査(25H105)で平安時代の勘解由小路南側溝及び土坑と平安時代中期から後期の整地層を検出したため、合わせて報告する。

平安時代においては、九条一坊十一・十二町跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡の調査(6N051)、九条一坊十四・十五町跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡の調査(6C136)、一条二坊十五・十六町跡、御土居跡の調査(25H047)、九条一坊十二町跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡の調査(6N102)で包含層を検出している。

江戸時代以前と推定される遺構として、一条三坊十五町跡の調査(23H520)で牛若丸首途乃井の石碑付近の敷地内で井戸の一部が見つかったため確認のため調査を実施したところ、石組井戸を検出した。

中世においては、四条三坊五町跡、西院城跡(小泉城跡)での調査(25H092)で包含層を検出した。

④太秦地区（UZ）

大覚寺古墳群、史跡仁和寺御所跡、名勝仁和寺御所庭園、仁和寺院家跡、草木町遺跡、常盤柏ノ木古墳群、太秦馬塚町遺跡、上ノ段町遺跡、常盤仲之町遺跡、広隆寺旧境内、多藪町遺跡、愛宕山遺跡、嵯峨遺跡、宝幢寺境内、南野古墳群、龍安寺御陵ノ下町遺跡、円乗寺跡、村ノ内町遺跡、常盤東ノ町古墳群、和泉式部塚古墳、森ヶ東瓦窯跡、和泉式部町遺跡、一ノ井遺跡と鳴滝藤ノ木町古墳隣接地の23遺跡と1遺跡の隣接地で29件の調査を行った。

広隆寺旧境内、常盤仲之町遺跡での調査(24S364)では、試掘調査後の調査で、鎌倉時代から室町時代の遺構を検出した。広隆寺旧境内、常盤仲之町遺跡での調査(24S646)では、竪穴建物と考えられる遺構を検出し、さらに同地での別の調査(25S192)では時期不明包含層を検出したため、以上3件を試掘調査の成果と共に『京都市内遺跡試掘調査報告 令和7年度』に報告する。

また、本書では愛宕山遺跡での調査(25A004)で平安時代前期から中期の平坦面を2箇所確認したため報告する。

この他、一ノ井遺跡の調査(24S623)で中世包含層を検出した。

⑤洛北地区（RH）

堂ノ庭遺跡、蟹ヶ坂瓦窯跡、船山須恵器窯跡、岩倉忠在地遺跡、南池田窯跡、木野墓窯跡、植物園北遺跡、衣笠氷室町遺跡、御土居跡、相国寺旧境内、上御霊遺跡、上京遺跡、革堂跡（行願寺）、公家町遺跡、北野鳥居前町遺跡、北野天満宮、香隆寺跡、北野遺跡、北野廃寺、補陀落寺跡、大雲寺跡、醍醐ノ森瓦窯跡、角社瓦窯跡、元稲荷窯跡、栗栖野瓦窯跡、史跡賀茂別雷神社境内、市指定史跡久我神社境内、大徳寺旧境内、史跡船岡山、寺ノ内旧域の30遺跡で73件の調査を行った。

本書では、木野墓窯跡の調査(24S643)で、奈良時代の須恵器と瓦、近世後期の土師器皿が出土したので報告する。また、上京遺跡の調査(24S434)で室町時代の土坑群を検出し、北野天満宮の調査(23S260)では史跡御土居付近で土師器皿、伏見人形がまとめて出土したので合わせて報告する。

古墳時代においては、植物園北遺跡の調査(24S220)で南北溝を検出している。平安時代前期においては、香隆寺跡、北野遺跡、北野廃寺の調査(23S516)で土坑を検出した。

中世においては、上京遺跡の調査(24S628)で包含層を検出している。

近世においては、岩倉忠在地遺跡の調査(24S474)、上京遺跡の2件の調査(24S628、24S472)、上京遺跡、寺之内旧域の調査(24S144)で包含層を検出した。近世後期においては、上京遺跡の調査(24S044)で包含層を検出した。また、上京遺跡、革堂跡（行願寺）の調査(24S366)で整地層と堆積層を検出した。

⑥北白川地区（KS）

修学院遺跡、一乗寺向畑町遺跡、一乗寺西浦畑町遺跡、北白川廃寺、上終町遺跡、白河街区跡、尊勝寺跡、岡崎遺跡、法成寺跡、御土居跡、一乗寺跡、小倉町別当町遺跡、白河北殿跡、白河南殿跡、法勝寺跡、寺町旧域と浄土寺七廻り町遺跡隣接地の17遺跡と1遺跡の隣接地で24件の調査を行った。

近世においては、白河街区跡での調査(25S179)で土坑を検出した。また、近世後期では、同調査(25S179)で溝を検出した。

また、浄土寺七廻り町遺跡隣接地での調査(25A003)では信楽焼のさや鉢が出土している。

⑦洛東地区（RT）

法興院跡、六波羅政庁跡、方広寺跡、法住寺殿跡、鳥部（辺）野、法性寺跡、塚本古墳、西野山遺跡群（西野山古墳）、山科本願寺跡（寺内町遺跡）、左義長町遺跡、芝町遺跡、中臣遺跡、寺町旧域、八坂神社、建仁寺旧境内、法観寺旧境内、妙法院境内、清水寺境内、清水寺経塚、泉涌寺境内、本多山古墳群、四手井城跡、山科本願寺南殿跡、中臣十三塚、大宅廃寺、史跡隨身院境内の26遺跡で58件の調査を行った。

古墳時代においては、法性寺跡の調査(24S266)で包含層を検出した。また、鎌倉時代においては、建仁寺旧境内の調査(24S460)で包含層を検出した。

中世においては、六波羅政庁跡の調査(24S024)で包含層を検出した。近世においては、法興院跡の調査(23S611)、六波羅政庁跡の調査(24S024)、史跡随心院境内の調査(6N110)で包含層を検出している。また、六波羅政庁跡の調査(24S024)では、土坑やピットも検出した。

この他、泉涌寺境内、鳥部（辺）野、本多山古墳群の調査(25S395)では時期不明の造成土と無縫塔の基底石掘方を検出した。

⑧伏見・醍醐地区（FD）

伏見稻荷大社境内、稻荷山坊崖遺跡、稻荷山古墳群、貞観寺跡、深草坊町遺跡、がんせんどろ廃寺、伏見城跡、指月城跡、太閤堤（小倉堤、槇島堤）、史跡醍醐寺境内、日野谷寺町遺跡、極楽寺跡、嘉祥寺跡、桃陵遺跡、向島城跡の15遺跡で50件の調査を行った。

本書では、伏見城跡の調査(24A009)で惣構えの土塁を、また史跡醍醐寺境内の調査(6N026)では平安時代の庭園遺構を検出したので以上2件を報告する。

近世においては、深草坊町遺跡の調査(24S488)で堆積層を検出。また、伏見城跡の調査(24F153、24F594、25F002)で包含層を検出した。

また、伏見城跡の調査(25F439)で伏見城期の造成土を検出している。

⑨鳥羽地区（TB）

御土居跡、鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、淀城跡、烏丸町遺跡、下鳥羽遺跡、芹川城跡、久我殿遺跡、横大路城跡、木津川河床遺跡の10遺跡で25件の調査を行った。

本書では、淀城跡の調査(24S564)では淀城の石垣を検出したので報告する。

⑩長岡京地区（NG）

長岡京跡、暦田遺跡、羽東師遺跡、羽東師志水町遺跡、桂川関連遺跡、淀城跡、大原野石見遺跡の7遺跡で28件の調査を行った。

本書では、左京三条三坊九・十六町跡の調査(24NG147)で東二坊坊間東小路西側溝を検出し、左京三条四坊九・十町跡の調査(23NG434)では長岡京期と考えられる柱穴と溝を検出、左京三条四坊九町跡の調査(24NG649)では長岡京期の包含層とピットを検出したので、以上3件を報告す

る。

近世末期においては、左京七条四坊十四町跡、桂川関連遺跡の調査 (25NG172) で包含層を検出した。この他、左京五条四坊十五町跡、羽東師志水町遺跡の調査 (24NG378) では有機物混じりの湿地状遺構を検出した。

⑪南桂川地区 (MK)

下津林遺跡、檜原遺跡、上久世遺跡、上久世城跡、福西古墳群、西芳寺川古墳群、中久世遺跡、下久世構跡、金蔵寺境内の9遺跡で29件の調査を行った。

中久世遺跡、下久世構跡での調査 (24S600) で時期不明包含層と土坑2を検出した。

金蔵寺境内での調査 (25A008) では、現境内上部の平坦面にて須恵器片を表採している。

⑫京北地区 (UK)

あやめ塚の隣接地と鳥居古墳群の1遺跡の隣接地と1遺跡で3件の調査を行った。

本書では、鳥居古墳群の調査 (25S354) では、古墳時代の包含層を検出したので報告する。

あやめ塚の隣接地の調査 (24A005) では、日吉神社境内に所在する墳丘状隆起を参道と本殿北側の尾根上に各1箇所確認した。また、本殿北側に岩盤を掘りぬいた石室も確認した。

(吉本 健吾・佐藤 まお)

表2 出土遺物概要表

	Aランク点数 (箱数)	内訳	Bランク 箱数	Cランク 箱数	出土箱数 合計
点数 及び 箱数	257点 (9箱)	土師器181点、須恵器59点、 黒色土器2点、緑釉陶器3点、 灰釉陶器1点、白磁1点、瓦器1点、 焼締陶器1点、瓦1点、土製品7点	1箱	8箱	18箱

Ⅱ - 1 平安宮主水司・宮内省跡、聚楽遺跡 (24K115)

1. はじめに (図2～4)

本件は、上京区千本通二条下る東入主税町953-1におけるNHK京都放送局跡地での共同住宅建設に伴う詳細分布調査である。この調査で平安時代初頭の遺物を多量に含む土坑を確認したため、これを報告する。

調査地は平安宮主水司・宮内省跡、聚楽遺跡に該当する。主水司は、中務省東側、大膳職西側に配されているが、諸図によって内部の区画が異なる(図3)。九条家本『延喜式』「宮城図」・陽明文庫本「宮城図」では3区画で、西半「西院」、東側北半「主水司」、同南半「醬司(院)」であるが、『二中歴 附 掌中歴』では2区画で、北半「醬院」、南半「主水司」となる¹⁾。宮内省は、主水司南、太政官東に位置する。

主水司は、朝廷で消費される飲料水、粥や氷室の管理などを職掌とする。醬院は、醤油や味噌を司る。西院については史料に記載がなく、職掌等は不明である。宮内省は、天皇や皇族の衣食住のほぼ全てを司る。

主水司と宮内省間の道路幅についても、諸図で異なる。九条家本・陽明文庫本「宮城図」には同所についての記載がなく、史料編纂所本『拾芥抄』「宮城図」にのみ、春日小路の延長として「四丈」と記載されている。しかし、主水司西隣の中務省と太政官間の宮内道路幅は、調査成果から7丈で確定しており²⁾、主水司-宮内省間の道路幅については、現在も決着を見ていない。

主水司跡では、複数の調査が実施されているが、ここでは区画に関する調査を中心に述べる(図4)³⁾。南限付近の調査1では、大型の土坑から、

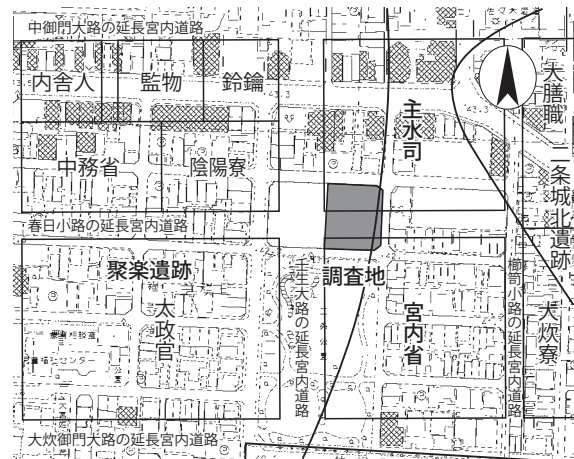
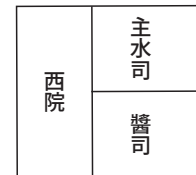


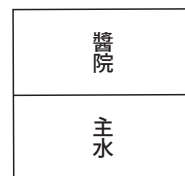
図2 調査位置図 (1 : 5,000)



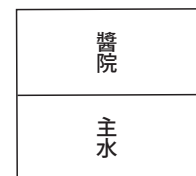
九条家本『延喜式』「宮城図」



陽明文庫所蔵「宮城図」



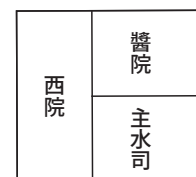
東京大学史料編纂所所蔵『拾芥抄』



(公財)前田育徳会所蔵『二中歴 附 掌中歴』



故実叢書『大内裏図考証』第一100頁(宮城図)



故実叢書『大内裏図考証』第一98~99頁(宮城図)

図3 諸図による配置の違い

平安時代初頭の土師器、須恵器、灰釉陶器が多数出土、中でも須恵器杯に「醬」の墨書を認め、区画南半に鬻院の存在が推定されている。調査2では、南北溝から平安時代前期の多量の土師器と、墨書を持つ複数の須恵器が出土しており、東限の内溝とされている。須恵器の墨書には、「干」「度」「治」「水」など、土師器には「廣」の文字が残る。調査3では、南北方向の盛土に並行する溝を2条確認し、西限の築地及び内外溝とされている。調査4では、複数の土坑から平安時代初頭の土師器、須恵器、緑釉陶器が多数出土した。また、土坑群の分布から調査区南端に区画南限が推定されている（図4破線部分）。

上記の調査成果から、主水司の西限は壬生大路東築地芯、東限は櫛笥小路西築地芯、北限は中御門大路南築地芯の各延長線上に当たり、東西幅は40丈に復元できる。

掘削工事に伴う詳細分布調査を令和6年8月19日から開始、同23日に土坑から平安時代初頭の土師器、須恵器が出土することを確認した。これを受けて、当課は調査の延長を指導、事業者側の協力を得て、同26・27日の2日間で調査を実施した。その後も工事の進捗に合わせ、令和7年1月29日まで調査を継続した。

2. 遺構（図5・6）

8月26・27日の調査では、遺物が出土した土坑を中心に調査を行った。その結果、黄橙色シルトの地山上面で平安時代前期の土器を多量に含む土坑や時期不明の土坑、攪乱を確認した（図5）。地山の標高は40.7mである。

土坑1 調査区南西端で検出した土坑である。東肩及び北肩の一部を除き、攪乱による削平を受けており、さらに調査区外に展開するため、全容は不明である。調査区内での形状は、東西3.5m以上、南北1.3m以上で、東西に細長く、北肩は西端で北側に折れ曲がる。深さは0.5mである。埋土は大きく3層に分かれ、下層から灰黄褐色粘質土（図5-7層）、暗灰黄色粘質土（3層）、黄灰色礫混じり砂質土（2層）となる。最下層の灰黄褐色粘質土には有機物が含まれており、一定期間滞水していたことがわかる。同層からは遺物はほとんど出土しなかったが、上層からは炭化物とともに平安時代初頭の土師器、須恵器が多量に出土した。土層の堆積状況から北東部から投棄された様相を示す。

土坑2 土坑1の北東で検出した土坑である。平面形は円形で、直径0.7mを測る。土坑1の調査を優先したため、掘削は実施できず、時期等は不明である。

3. 遺物（図7～11・図版31）

ここでは、土坑1から出土した土器群について報告する。時間の制約のため、土層観察用のベルト部分を除き層序による取り上げは行っていない。土坑1からは、土師器、須恵器、瓦、凝灰岩片が出土しているが、土師器が9割以上を占め、1割弱が須恵器、他は極少数である。

1～90は土師器である。1～23は椀Aである。丸みを帯びた形状（1～8）と平底の底面と外上方にのびる体部を持つ形状があり、後者は杯との判別が困難なものもある。口径9.5～16.8cm、

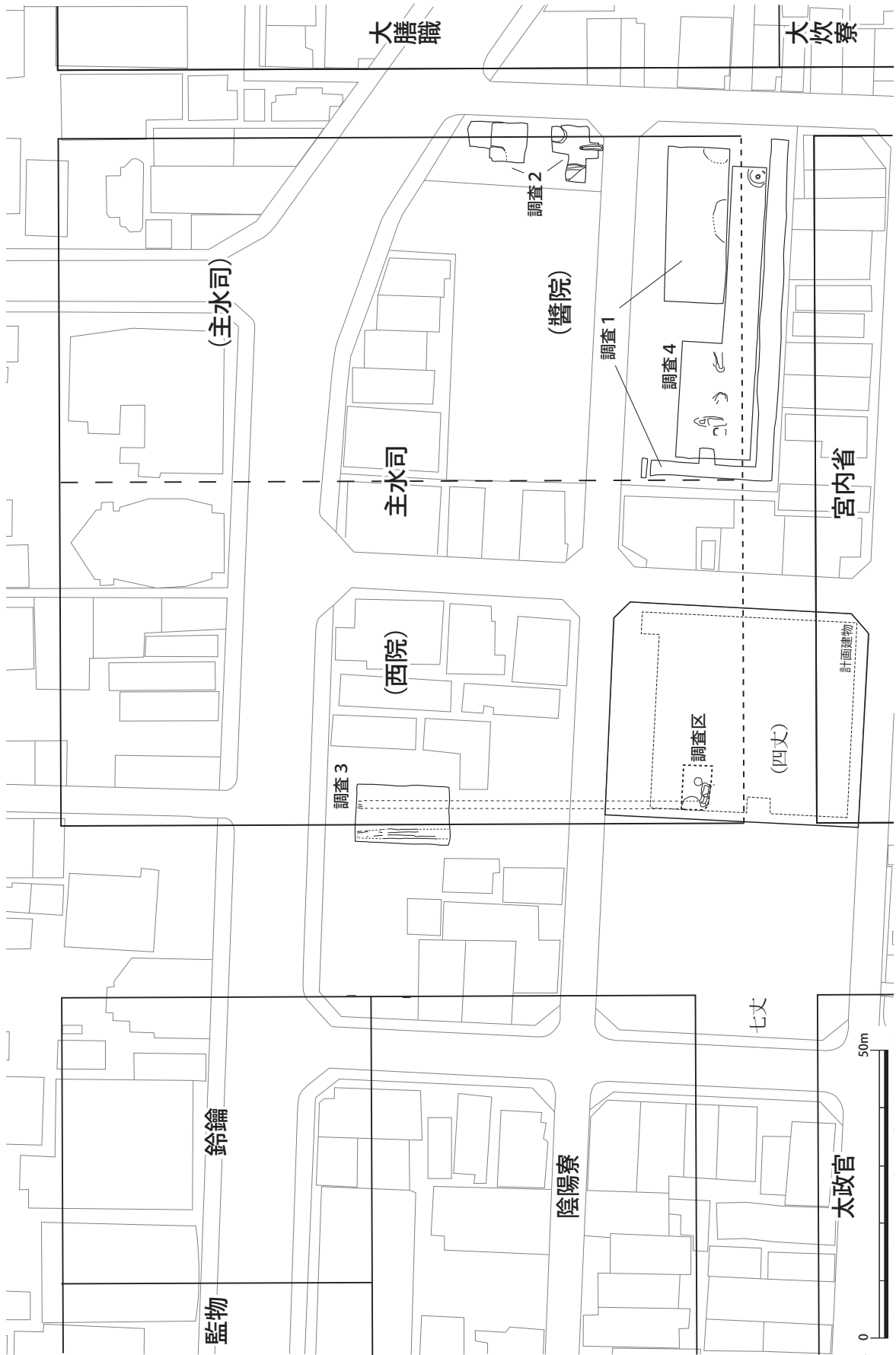


図4 調査位置図及び周辺調査配置図 (1 : 1,000)

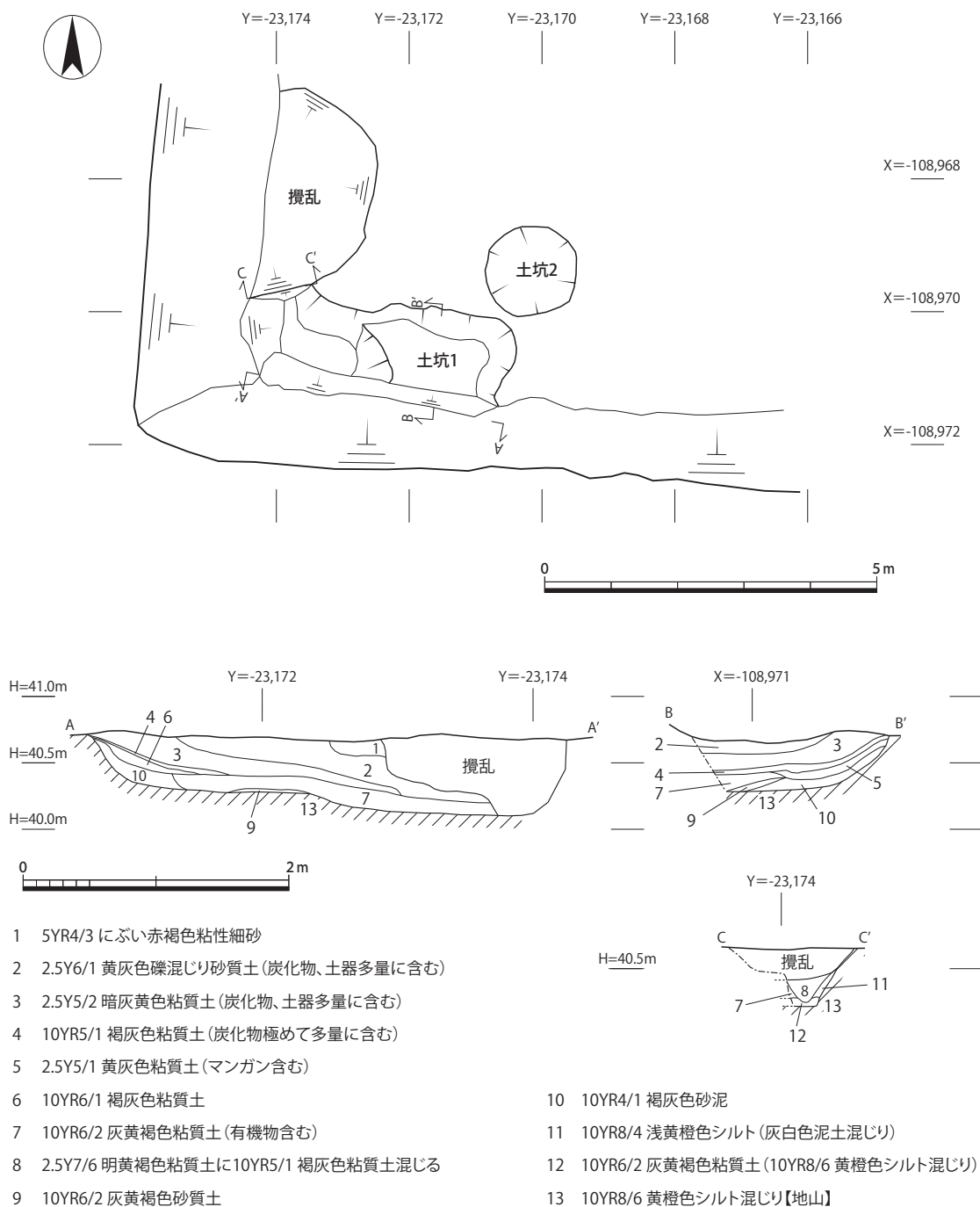


図5 調査区平面図 (1:100)・土坑1断面図 (1:50)

器高は把握できるもので2.9～4.0cmを測る。口径13～14cm台が中心となる。外面の調整にヘラケズリを施すものが大半であるが、10は体部下半はユビオサエ、口縁部にヨコナデを施す。6・12・15・21には口縁部内外面に煤が付着する。

24～38は杯である。24～36は杯Aである。杯Aは、平底の底面と外上方に開く体部の境が椀よりも明瞭である。杯Aの口径は14.0～19.8cm、器高は把握できるもので3.3～4.4cmを測る。口径17cm台のものが中心で、19cm台のものは少数である(35・36)。外面の調整にヘラケズリ



図6 土坑1完掘状況（北西から）

を施すものが大半である。37・38は杯Bである。37は口径18.6cm、器高5.4cm、底径11.6cm、38は口径18.8cm、器高5.2cm、底径11.4cmを測る。高台は貼り付けで、外面のヘラミガキは摩耗が進み明瞭ではない。

39～78は皿Aである。口径14.2～20.6cm、器高は把握できるもので1.8～3.0cmを測る。口径15.5～16.5cm台、器高2.0～2.5cm前後のもの、口径19cm以上の大小2法量が主体となる。口径17cm以上の皿の口縁部は端部を丸く収めるものが多い。外面の調整にヘラケズリを施すものが大半を占める。

79～81は杯Bの蓋である。口径22.8～28.4cmを測る。いずれも頂部が欠損しているが、つまみが付く。外面はヘラミガキを施す。82は高坏の杯部である。口径32.0cmを測る。外面はヘラミガキを施す。

83～89は甕である。大小2法量あり、86は口径13.8cm、88は22.2cm、89は26.2cmである。調整は87を除きほぼ共通しており、口縁部内面ヨコハケ、外面タテハケ、体部内外面にハケを施す。87は体部外面にタタキを施す。90は土師器の土製品で、厚さ1.5cmを測る。両面ともユビオサエが明瞭に残る。甕の破片の可能性はある。

91～121は須恵器である。91～97は杯Aである。口径は11.6～19.0cmであるが、浅手のもの（91・92・95）と、深手のもの（93・96・97）の大小2法量がある。98～109は杯Bである。口径9.2～17.8cmで、口径の大きさと器高の高さは比例している。

110～114は蓋である。110～113は杯Bの蓋である。110・111は頂部につまみが付く。114は短頸壺の蓋である。頂部に宝珠形につまみが付く。115・116は鉢である。115は底部で

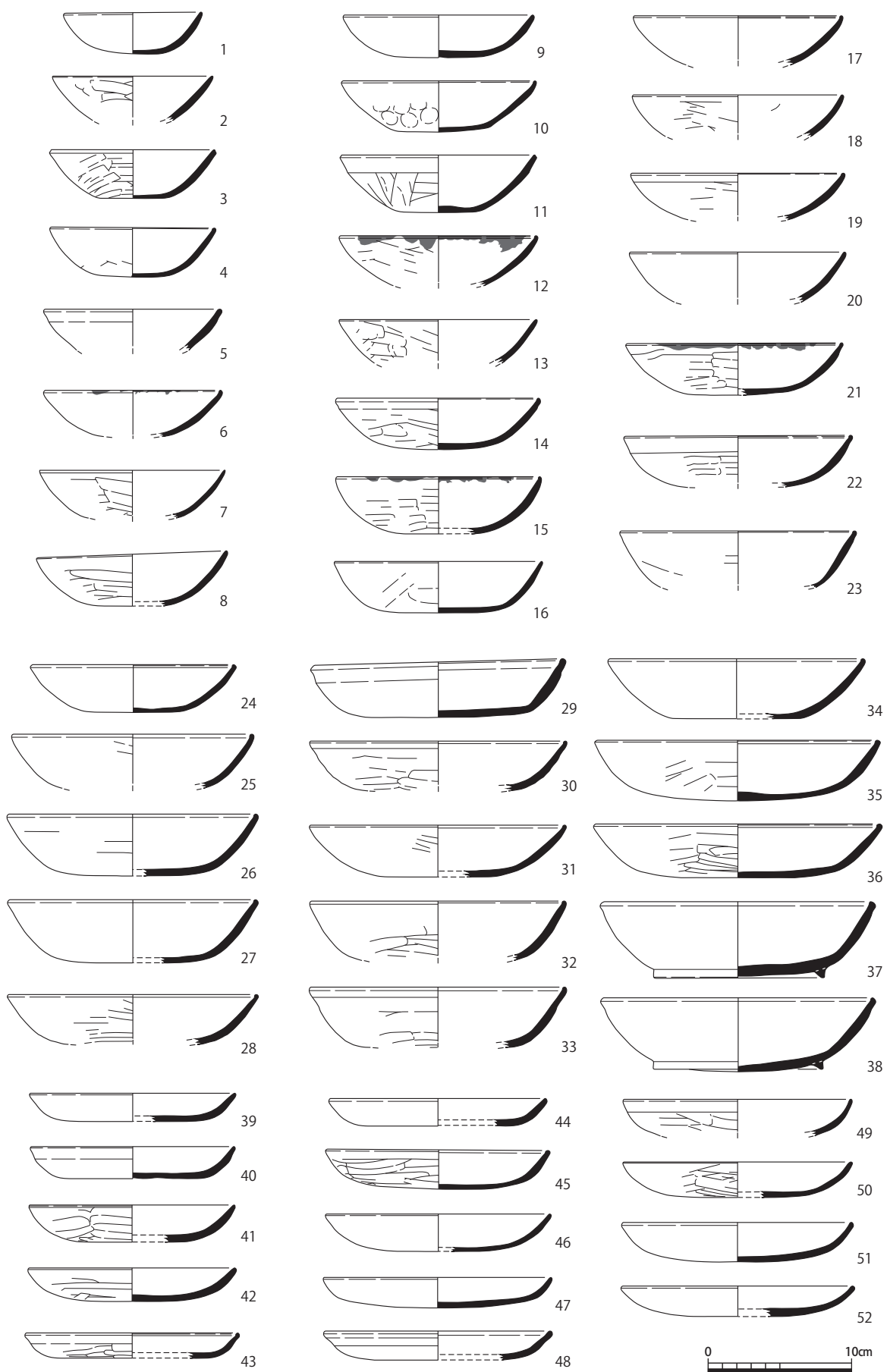


图7 土坑1出土土器实测图1 (1:4)

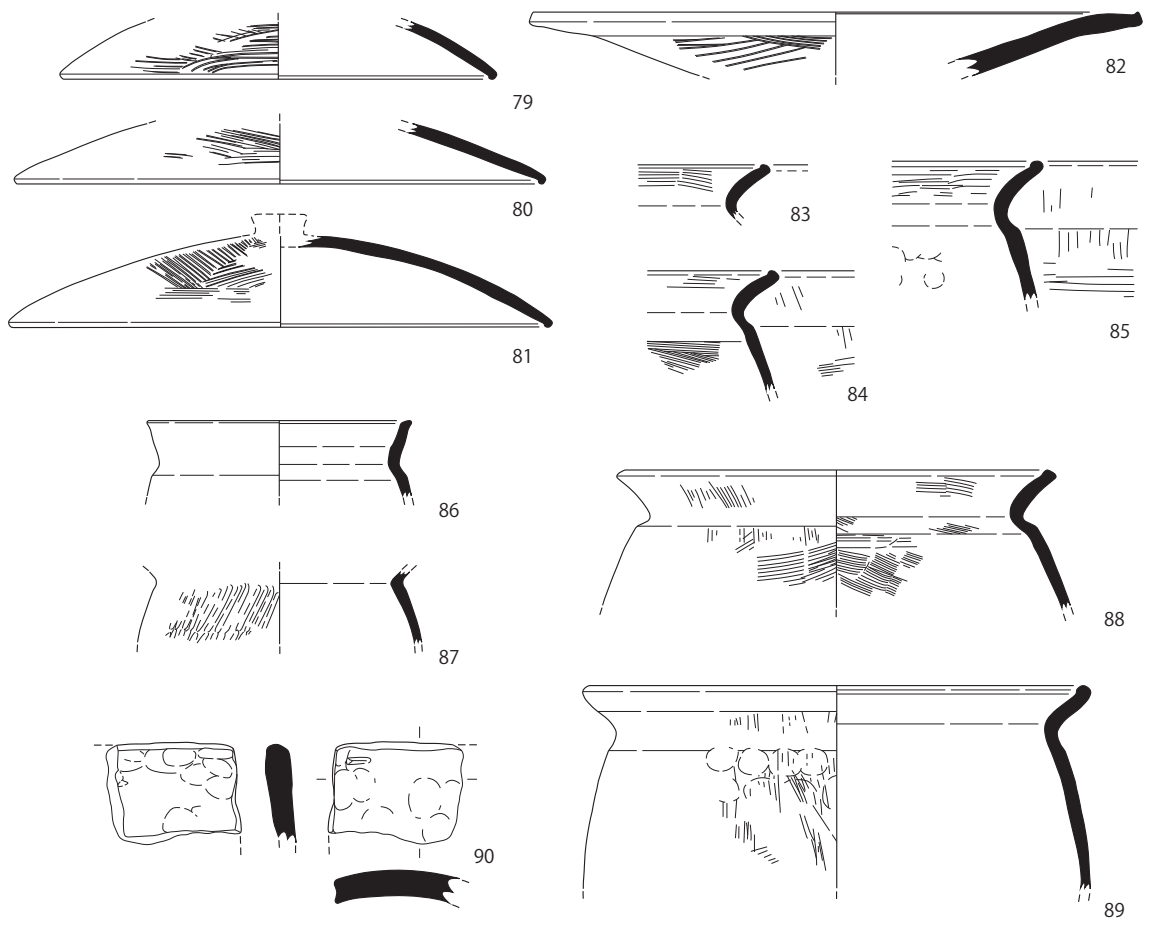
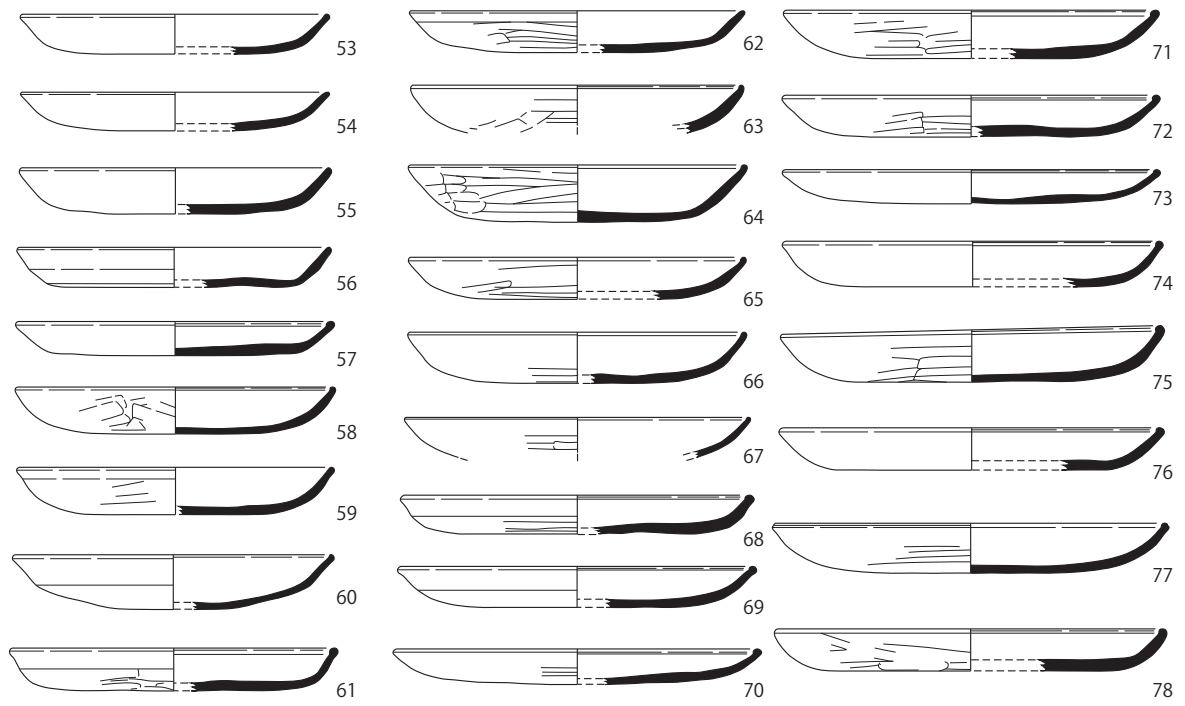


图8 土坑1出土土器实测图2 (1:4)

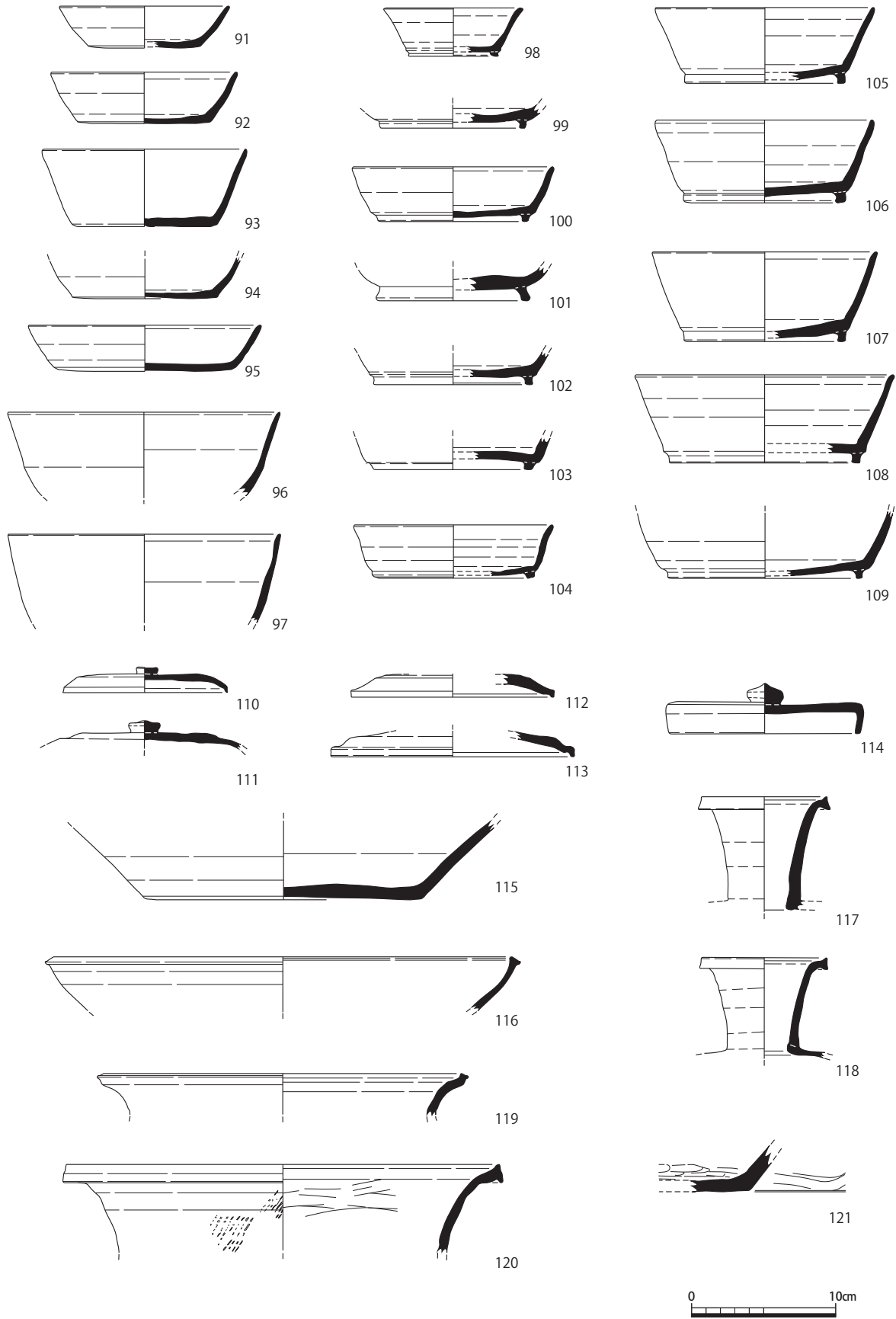


图9 土坑1出土土器实测图3 (1:4)

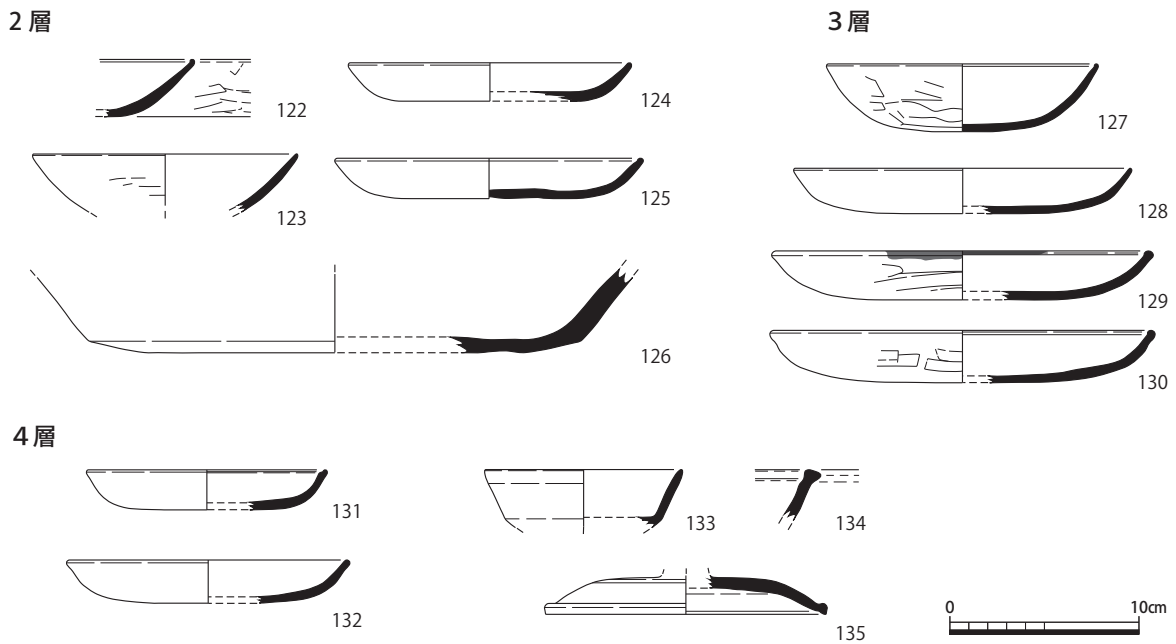


図 10 土坑 1 出土土器実測図 4 (1 : 4)

底径 19.0 cm である。116 は口縁部で、端部を肥厚させる。117・118 は壺 L である。いずれも口径 8.6 cm を測る。119～120 は甕である。119 は口径 24.8 cm で、口縁端部を内面に折り曲げる。120 は口径 30.2 cm で、頸部外面はタタキを施した後、ナデ消ししている。121 は底部である。底部と体部の内面境目にユビオサエの痕跡が残る。

図 10 は土坑 1 南北土層断面観察用のベルトから出土した土器群で、層序に沿って取り上げたものである(図 5)。122～126 は 2 層から出土した。122～125 は土師器である。122 は杯 A で外面にヘラケズリを施す。123 は椀 A で、口径 14.0 cm である。外面にヘラケズリが僅かに残る。126 は須恵器の鉢又は盤の底部である。127～130 は 3 層から出土した土師器である。127 は杯 A で、口径 14.2 cm、器高 3.6 cm を測る。外面にヘラケズリを施す。128～130 は皿 A である。129 は口縁部外面に煤が付着する。129・130 は外面にヘラケズリを施す。131～135 は 4 層から出土した。131・132 は土師器皿 A である。131 は口径 12.6 cm、132 は 14.8 cm を測る。133～135 は須恵器である。133 は杯 B で、口径 10.4 cm を測る。134 は鉢口縁部で、端部はやや肥厚する。135 は杯蓋で、口径 14.8 cm を測る。

土坑 1 から出土した土器群は、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器を含んでおらず、1 B 段階に属するもので、平安京遷都直後の 8 世紀末の年代が与えられる。

4. まとめ

今回の調査では、土坑 1 から多量の土器群が出土した。ここでは、土器群の様相の把握と、遺構の性格について検討を行う。

(1) 土器群について

多量の土器群は、土坑1の上半部から集中して出土した。断面観察から炭化物とともに北東部から投棄された様相を示している。完形に復元できるものはなく、不要品を廃棄したものと判断できる。

遺物の年代は、土師器の椀A、杯A、皿Aの外面調整の大半がヘラケズリであること、黒色土器や灰釉陶器、緑釉陶器が含まれないことから、1B段階に属するものであり、平安京遷都直後の8世紀末に位置づけられる。土器群には型式差が認められないことや、出土状況からみて、短期間のうちに一括投棄されたものと判断できる。

遺物の内容は、9割以上を土師器が占め、1割弱の須恵器のほか、少量の瓦片、凝灰岩片が出土した。

図11は、土坑1から出土した土器片について、総破片数を計測したものである。総破片数1348点の内、土師器が9割以上を占める。供膳具である皿・椀・杯類の点数は須恵器も含め1307点と非常に高く、全体の97%を占める。供膳具が圧倒的多数であることがわかる。供膳具が多数を占める様相は、多数の土器が出土した調査1・2・4でも同様で、主水司・醫院が宮廷内の食料を扱う職掌であることと密接に関わっているとされる⁴⁾。しかし、以前の調査では、供膳具の割合が高いものの、煮炊具も10%以上出土しており⁵⁾、土坑1の煮炊具の少なさ(1.5%)と供膳具の高い割合は極めて特徴的な様相を示す。

今回の調査地は、主水司南西隅付近に位置している。先述した通り、区画内部の配置は諸説あり、

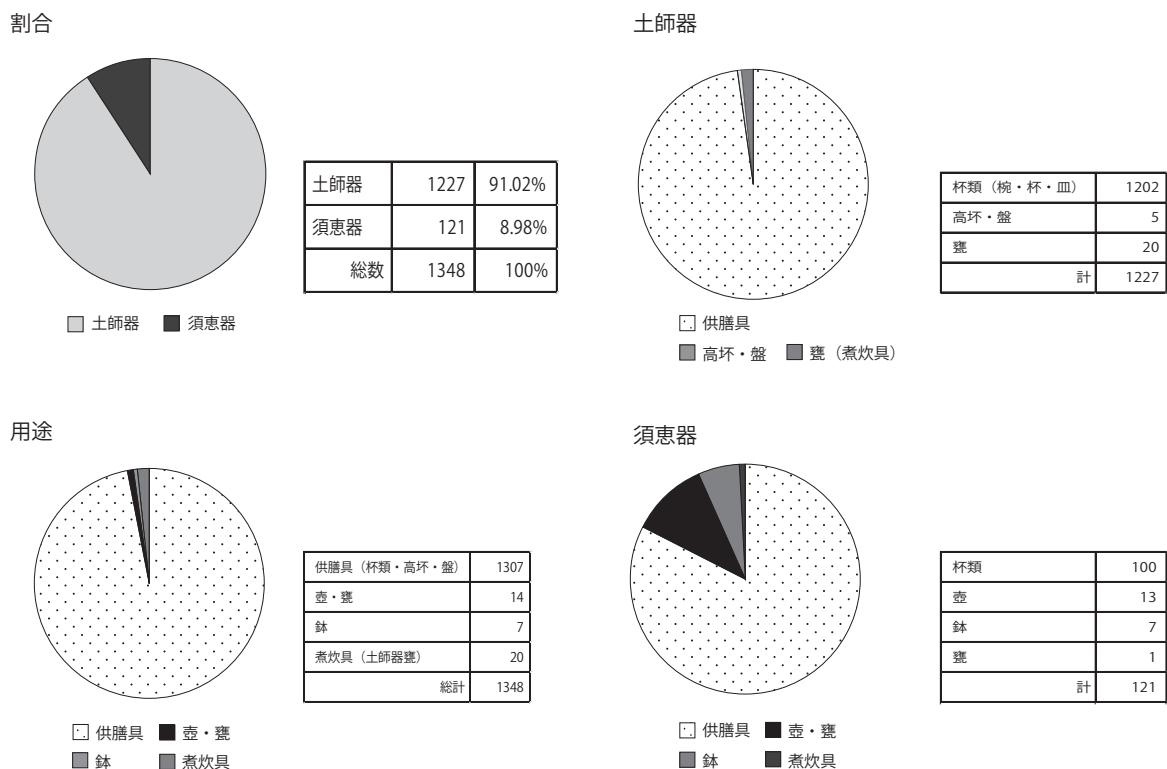


図11 土坑1出土土器破片数量グラフ

区画西半を詳細不明の「西院」とするものがある。区画東半の調査1・2・4との内容の違いは、属する役所の違いを示す可能性がある。

或いは、土器群の年代が平安京遷都直後であることに加え、当地が遷都に伴い造営が急務であった内裏に近接し、中務省、太政官といった中枢官衙に隣接する位置関係が重要な意味を持つと考えられる。主水司や齋院は、その職掌から内裏や中務省、太政官よりも造営の優先順位は低いものと考えられ、当地が平安宮造営の拠点の一つであった可能性も指摘できる。主水司跡では、平安初頭の土器群が多量に出土する事例が多いことも傍証となる。土坑1出土土器は、徴発された人夫が使用していたものを一括廃棄されたものと理解することが可能であろう。

(2) 土坑1について

土坑1から出土した土器群は、埋土の上半部に集中しており、下半部からは極少量の出土に留まる。下半部には、灰黄褐色粘質土(図5-7層)が15cmの厚みで堆積しており、一定期間滞水していたことがわかる。これは土坑1が開削後、暫く凹んでいた状態であったことを示す。

土坑1の性格を位置付けるうえで重要となるのが、平面形状と区画内での配置である。土坑1の平面形は、攪乱による削平と調査区外に展開することから、全容は明らかではないが、北肩が西端で北に屈曲する。その先は攪乱による削平を受けているため、遺構の展開状況は調査区内では明らかではないが、北延長線上には主水司西限築地と内外溝を確認した図3調査3の内溝が存在する。したがって、土坑1は主水司の区画に関わる遺構である可能性が指摘できよう。下層の堆積が滞水を示す粘質土であることもこれを裏付ける要素といえる。

中務省や造酒司では、築地内溝が9世紀初頭に人為的に埋め戻されている事例が多く確認されており⁶⁾、土坑1も同様であったと考えられる。

では、東西方向の形状についても、区画に関わる遺構であるかを検討したい。主水司の南限については、主水司-宮内省間の道路幅が定まっていないことから、現在も決着を見ていない。調査1・4においても明確な区画を示す遺構は確認出来ていない。その中で、調査4で確認した土器が多量に出土した複数の平安時代前期の土坑南端が $X = -108,974$ 付近に揃うことから、区画南限築地芯を $X = -108,977$ 付近とし、宮内省間の道路幅を4丈としている⁷⁾。土坑1の位置は、中務省-太政官間の道路幅と同様の7丈とした場合、中務省南限の東延長線上南側となり、区画外溝の位置となる。しかし、土坑1の堆積状況から、土器群は北東方向から投棄されたことが明らかで、区画内部に位置すると考えられる。土坑1はさらに南側にも展開することは明らかであり、調査4で確認した複数の土坑群と同様に、最終的には区画内の廃棄土坑として用いられたと捉えられる。したがって東西方向が築地外溝とは考えにくく、道路幅7丈とする復元案については否定しうる。

以上、推論を重ねた部分も多いが、未だ明確ではない主水司の区画を考える材料の一つを提供できたといえる。また、多量に出土した土器群は、宮内における平安時代初期の一括性の高い資料として、重要な意義を持つと考えられる。

(西森正晃)

註

- 1) 西山良平「平安宮宮城図と出土木簡・墨書土器」国際研究集会「御所（宮殿）・邸宅造営関係資料の地脈と新天地」報告集（2）、東京大学史料編纂所研究成果報告2021-10、2021年
- 2) 長宗繁一「平安宮中央部の新復元案」立命館大学アート・リサーチセンター「平安京跡プラットホーム」公開記念寄稿、2021年
- 3) 図4記載の調査番号の出典は下記の通り。
調査1 山田邦和「平安宮主水司・齋院跡出土の土器・陶器」『平安京出土土器の研究』古代學研究所研究報告 第4輯、(財)古代學協會、1994年
調査2 本弥八郎・和泉田殻・辻裕司「平安宮主水司」『平安京発掘調査概報 京都市埋蔵文化財研究所概報集』1978-Ⅱ、(財)京都市埋蔵文化財研究所、1978年
調査3 上村和直「平安宮西院跡・聚楽遺跡」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成14年度』京都市文化市民局、2003年
調査4 松吉祐希『平安宮主水司・齋院跡、二条城北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2022-5、(公財)京都市埋蔵文化財研究所、2023年
- 4) 註3) 調査1
- 5) 註3) 調査4
- 6) 『平安宮Ⅰ』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告第13冊、(財)京都市埋蔵文化財研究所、1995年
- 7) 註3) 調査2

II - 2 史跡 旧二条離宮（二条城）、平安宮雅楽寮跡、平安京左京二条二坊三～六町跡（6N065・118）

1. 調査の経緯（図12・13）

調査地は、史跡旧二条離宮（二条城）の城内である。二条城では、平成29年度より実施してきた重要文化財本丸御殿（旧桂宮邸）の耐震工事が令和5年度で終了し、令和6年9月1日から18年ぶりに公開された。しかし、既設の電力線では今日的な電力需要に応じきれず、また老朽化もしていたため、その増強を行うこととなった。

事業概要は、二ノ丸北東隅の通称「緑の園」にある第1キュービクルを更新するとともに、本丸北東隅に第3キュービクルを新設し、これらの間に電力線を敷設するものであった。事業

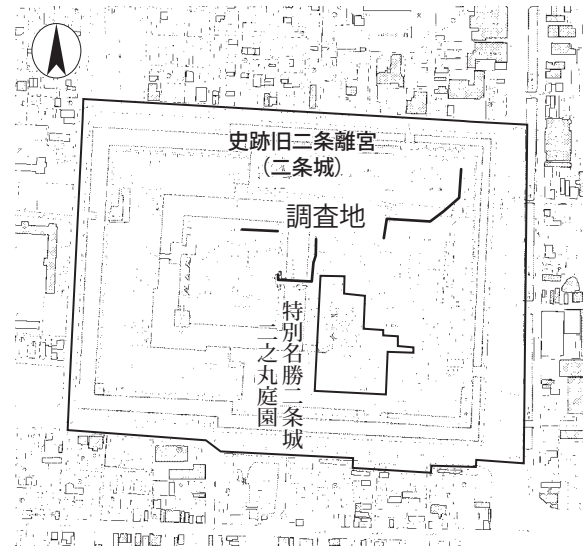


図12 調査地位置図（1：10,000）

に際しては、史跡の保護のため極力新規掘削を避ける配慮がなされたが、やむを得ず新規掘削が発生する第1・第3キュービクルやいくつかのハンドホールの設置箇所については事前の発掘調査を行い¹⁾、顕著な遺構については設計変更等により保存の措置を行った。

また、電力線の管路についても、観覧者の目に触れない場所では地上露出配管とし、それ以外の場所でも極力既存管の管路を踏襲することでなるべく新規掘削を行わないようにした。令和7年1月から8月にかけて行われた埋設管路の掘削においては、適宜土層の観察や遺構の記録を行ったので、ここに報告するものである。

2. 緑の園東側（図14）

城の北東部は、江戸時代の絵図によれば東番頭小屋のあった地区である²⁾。第1キュービクル予定地の発掘調査では、GL-0.4 mで明治時代の遺構面に達している³⁾。既存管はこの面を掘り下げて敷設されており、今回の埋設管工事でも同ルートで行ったため、土層の観察のみを4地点で行った（図14）。いずれの地点でも明確な遺構成立面は認められず、客土や攪拌が繰り返されたような印象を受ける。No.1及び4地点ではGL-0.8 mで砂礫又は礫混じり泥砂の地山を確認した。

3. 二ノ丸御殿北側（図13・15）

煉瓦組基礎 施工管路のうち、土蔵（米倉）の北側から北塀重門附近までの区間である。この区間では、大正4年（1915）の大正大礼に伴って建設された饗宴場の煉瓦組基礎をNo.6～9の4

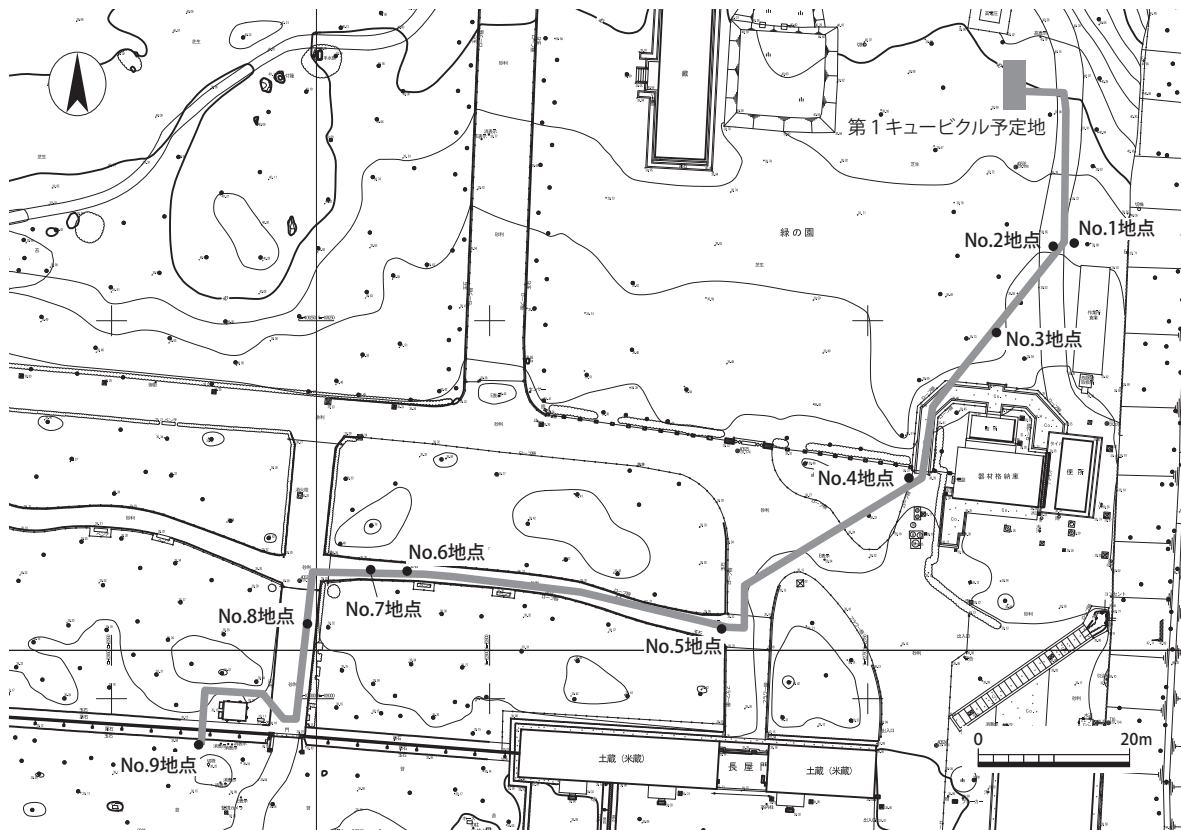
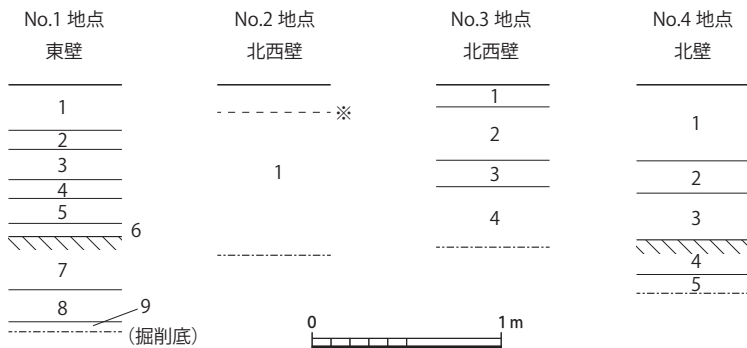


図 13 緑の園東側～二ノ丸御殿北側の調査地点 (1:1,000)



- 【No.1 地点】
- 1 現代盛土
 - 2 10YR5/1 褐灰色泥砂
 - 3 2.5Y6/4 にぶい黄色泥砂 (礫含)
 - 4 2.5Y4/1 黄灰色泥砂 (締めり悪い)
 - 5 2.5Y5/3 黄褐色泥砂 (硬く締まる、瓦片含、近世か)
 - 6 10YR3/1 黒褐色泥砂 (炭を大量に含む (3m四方に拡がる))
 - 7 10YR5/2 灰黄褐色砂礫 (地山か)
 - 8 2.5Y6/3 にぶい黄色微砂 (地山)
 - 9 2.5Y5/1 黄灰色砂礫 (地山)

- 【No.2 地点】
- 1 攪乱
- ※ 既存ハンドホール天端 (撤去)

- 【No.3 地点】
- 1 現代盛土
 - 2 2.5Y3/2 黒褐色泥砂 (土師器片・瓦片・礫含)
 - 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色泥砂 (土師器片・瓦片・炭片含)
 - 4 2.5Y4/4 オリーブ褐色泥砂

- 【No.4 地点】
- 1 現代盛土
 - 2 10YR5/6 黄褐色砂泥 (推定径 2m、深さ 0.3mの土坑。瓦含)
 - 3 7.5YR4/2 灰褐色泥砂 (土師器細片含)
 - 4 10YR5/1 褐灰色泥砂 (礫多含、地山)
 - 5 10YR5/3 にぶい黄褐色砂礫 (地山)

図 14 緑の園東側No. 1～4 地点土層図 (1:40)

箇所を確認した(図 13・15)。捨てコンクリートの上にまず煉瓦を正方形に2段積み、その上に一回り小さな正方形で5段積み、さらにその上に再び捨てコンクリートが打たれている。内部の構造は不明。No. 9 地点を例にとると、基礎の天端は現状 GL から 25cm の深さにある。

なお、このほか No. 5 地点では差し渡し 90cm ほどで矢穴をもち、上面が平坦な石材を管路南壁で確認した。攪乱層中のものであるが、一応記載しておく。

4. 鳴子門～本丸東橋 (巻頭図版1、図16～24)

礎石列1 No.10地点では、GL-30cmで硬く締まった整地面と、そこに並ぶ石列を検出した(巻頭図版1、図17・20)。検出したのは4石で、平滑な面を上にして心々距離0.9～1.1mで南北一直線に並んでおり、その延長線上には鳴子門の東柱列がある。礎石1～3は西辺を揃えているが、礎石4だけは西へ突出する。石の大きさは南北長60～65cm、厚さ25cm前後。礎石3のみが砂岩で、それ以外は花崗岩である。すぐ横に現代の消火管⁴⁾が埋設されており、埋設時の掘削により礎石2～4はその東端部を破碎されていた。掘方はなく、整地と同時に据えられている。また、栗石もない。礎石4



より南には続かないが、整地土も認められないため、過去の消火管埋設によって撤去された可能性がある。

煉瓦組暗渠 No.11地点で、煉瓦で側壁を積み花崗岩の蓋石を被せた暗渠を確認した。現状GLから蓋石天端までの深さは約60cmである。東西方向の暗渠で、西でやや南に振っており、内法寸法は幅39cm深さ20cm。用いられている煉瓦の寸法は23×11.5×6cmで、これを長手積みに3段積んでいる。蓋石は63×30×6cmで、下面と側面は平滑に仕上げ、長辺中央に手掛け穴を設ける。離宮期に二之丸御殿域の雨水を内堀へ排出するために設けられたものと考えられる。

後に数回の改修が加えられており、検出地点の西では溝内の幅一杯に2本の土管が据えられ、隙間をモルタルで埋めている。東には塩ビ管が1本据えられ、同様に隙間をモルタルで充填している。また、南から土管を新設して煉瓦組溝に排水を落とし、(おそらく蓋石を1～2枚撤去して)型枠工による粗雑なモルタル枡を煉瓦組溝の上に造り付ける。枡の上にはモルタル製の蓋を被せる。このモルタル製蓋の天端が現状GL-20cmである。

礎石列2 本丸東橋の中軸線から北へ14mのNo.12地点では、GL-40cmで硬く締まった整地面と、石列を検出した(図18・22)。石はいずれも花崗岩で、礎石5は長さ75cm、厚さ30cm前後、その東に接して礎石6がある。礎石7は長さ50cm。No.10地点と異なり、石の長手を東西にして据えている。礎石5と7の心々距離は1.85mを測り、上面の高さもほぼ揃うことから、両者が組み合う可能性がある。石8は周囲の土層が十分に観察できなかったが、礎石5～7と軸線が揃わず、上面が凹凸をもつことから、原位置を保っていない可能性がある。

石3 本丸東橋の東詰にあたるNo.13地点では、GL-33cmで硬く締まった整地面と、GL-53cmで相接して並ぶ大小2つの花崗岩を検出した(図19・23)。大きい石で差し渡し43cmを測る。

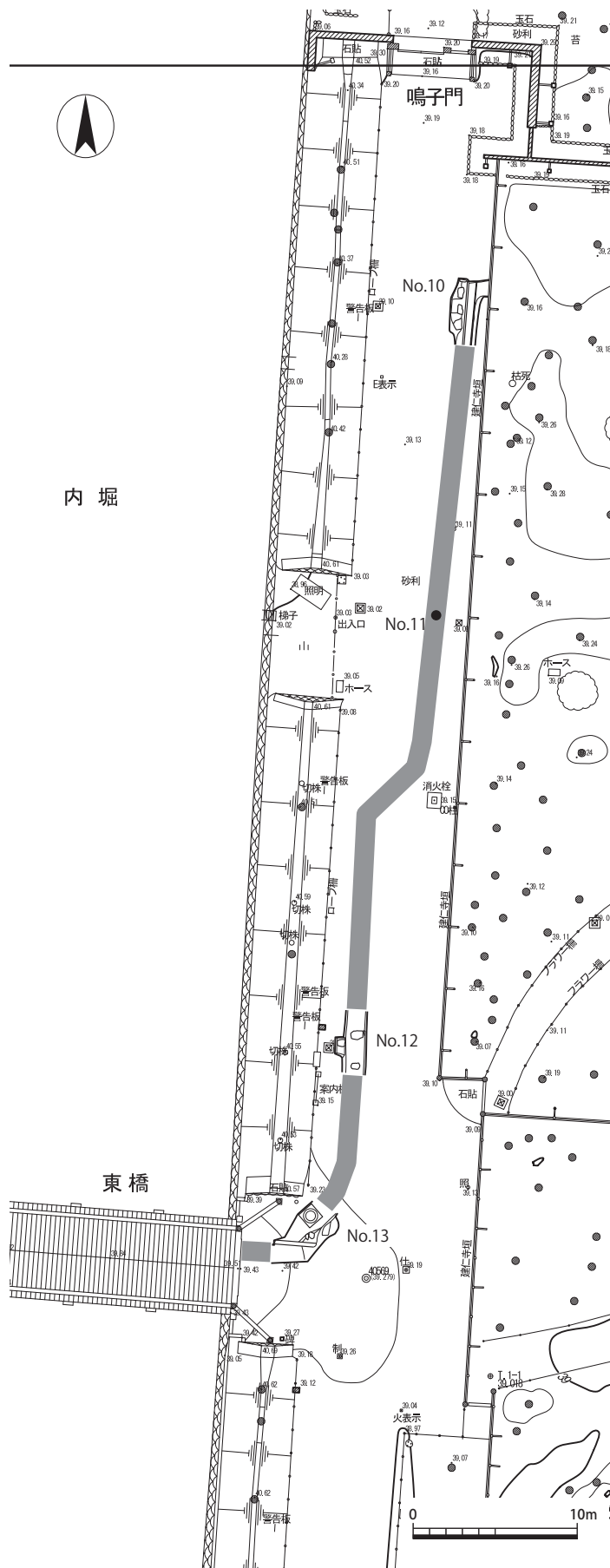


図16 鳴子門～本丸東橋調査地点 (1:400)

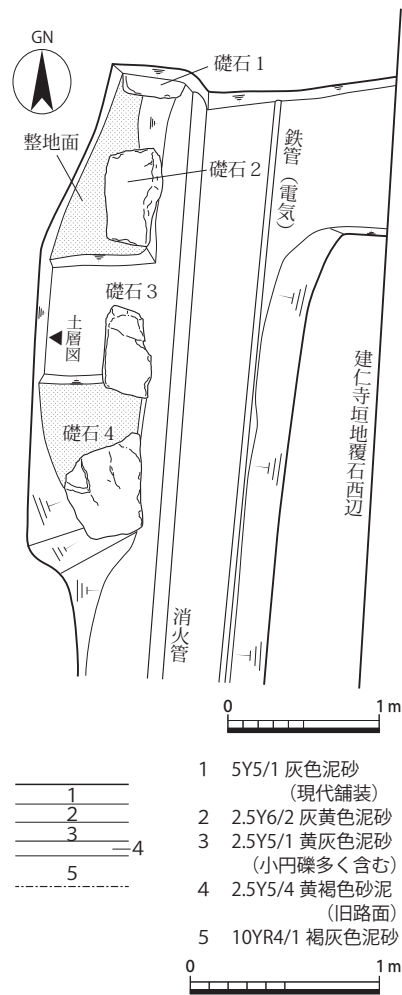


図17 No.10 地点検出遺構平面図 (1:50) 及び土層図 (1:40)

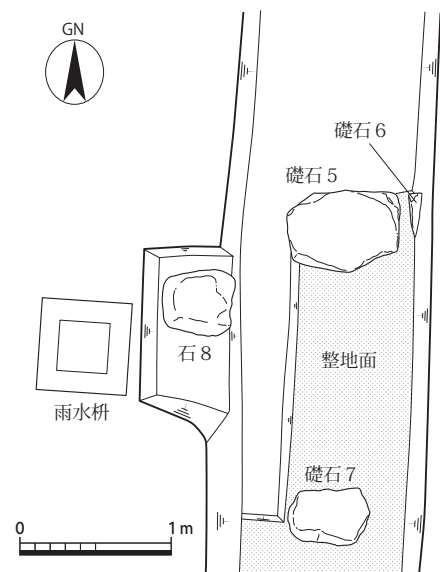


図18 No.12 地点検出遺構平面図 (1:50)

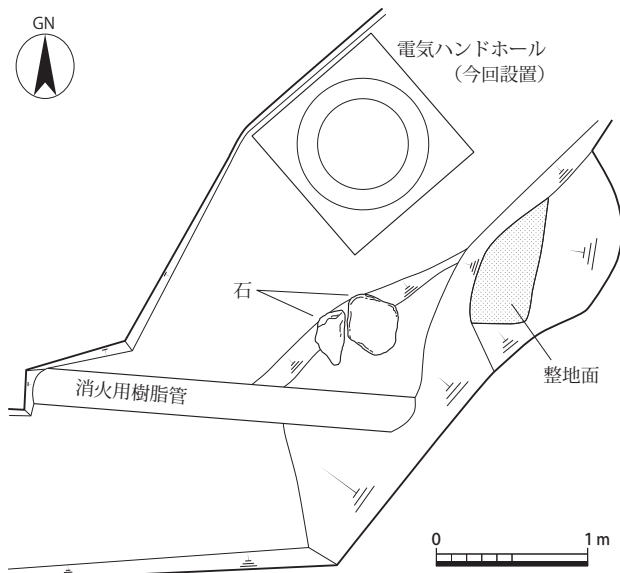


図 19 No. 13 地点検出遺構平面図 (1:50)



図 20 No. 10 地点遺構検出状況 (南から)



図 21 No. 11 地点遺構検出状況 (南から)



図 22 No. 12 地点遺構検出状況 (北から)



図 23 No. 13 地点南遺構検出状況 (東から)

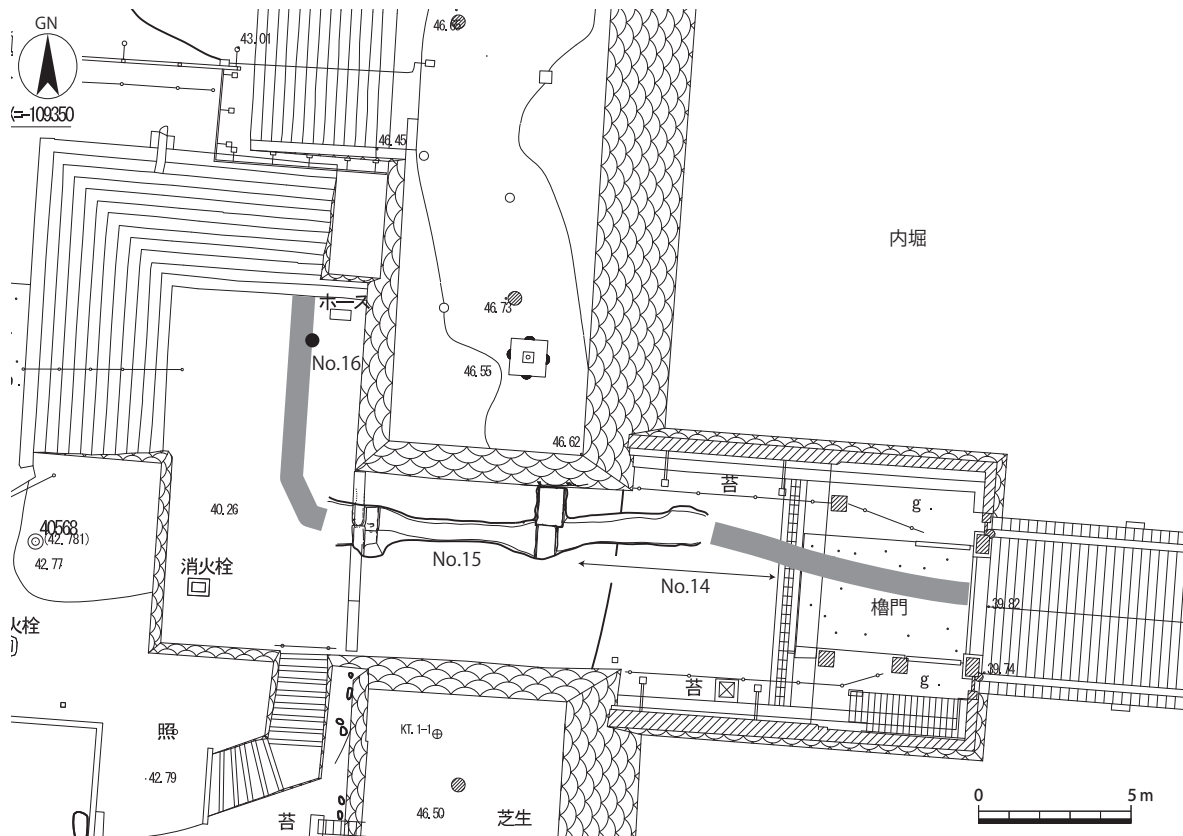


図 24 本丸東虎口調査地点 (1 : 250)

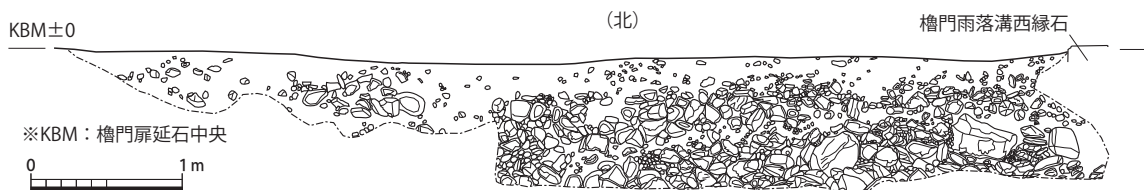


図 25 No. 14 地点土層図 (1 : 50)

上面が平らで礎石風に見えるが、同じレベルに明確な遺構面がないため、整地土へ混入したものである可能性が高い。

5. 本丸東虎口 (図25～30)

槽門地業 槽門の建物下から本丸石垣までの区間で、拳大の円礫を積み上げた地業を確認した (図 25)。図示したのは槽門雨落溝以西の部分であるが、東橋のたもとまで続いている。石どうしの噛み合いは緩く、壁面を清掃すると容易に石がこぼれ落ちる状態であった。この地業はハンドホール予定地の発掘調査でも確認していたものであるが⁵⁾、今回の調査で、本丸から内堀へ突き出した区画の全域に同じ地業が及ぶことが改めて確認できた。これに対し本丸本体は土を主体として築造されているが、両者の境界は明確でなく、漸移的である。水堀の中へ突き出す構造上、この箇所だけは耐水と排水を兼ねて石積みにしたものではないかと考えられる。

延石 4～6 本丸石垣に挟まれた入口部分で、南北方向の花崗岩製延石列を 3 条確認した (図

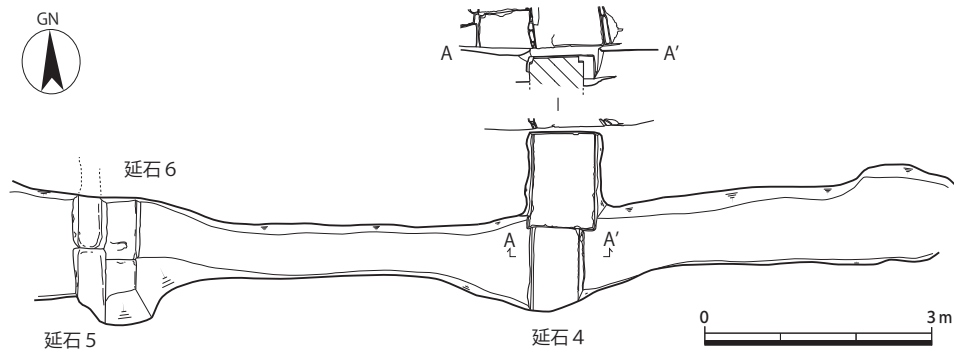


図 26 No.15 地点検出遺構図 (1:100)

26・29)。

延石 4 は 2 石を確認し、南のものは断面凸字形で上面幅 60cm、北のものも不明瞭ながら断面凸字形で上面幅 86cm を測る。いずれも地表下に埋まる部分は荒仕上のままである。便宜上延石と記述したが、北側の石は一回り大きいため礎石であると思われる (図 26・27)。この 2 石は造り出しの西辺を揃えて据えられている。現状は GL-5cm に埋もれているが、櫓門の延石上面と高さを比較すると ± 1 ~ 2 cm とほぼ同一レベルである。

延石 5 は延石 4 に対し心々距離にして 6.2 m 西に位置する。従来地表に顔を出していたもので、観覧者が往来を重ねたことによって上面は蒲鉾状に磨り減っている。断面凸字形で上面幅は 30cm。地表下に埋まる部分は荒仕上に止めている (図 28)。

延石 6 は延石 5 の東に接して検出した。延石 5 よりも上面どうしの比較で 15cm 深く据えられており、凸字形の造り出しはなく、断面方形で上面幅 40cm。延石 4・5 と異なり側面も平滑に仕上げられており、その下端には矢穴跡が残る。延石 5 の下には続いておらず、その荷重を受けるようにはなっていない。

このほか、No.16 地点では GL-10cm で焼瓦を多量に包含した土坑を確認した (図 30)。瓦の多くは赤変し、歪んだり互いに熔着したものが多く見られる。天明 8 年 (1788) の大火では、二之丸との境にある門 (櫓門) は亀山藩などの消火活動により守られたものの、本丸



図 27 延石 4 検出状況 (南東から)



図 28 延石 5・6 検出状況 (北西から)



図 29 延石 4～6 全景（北から）

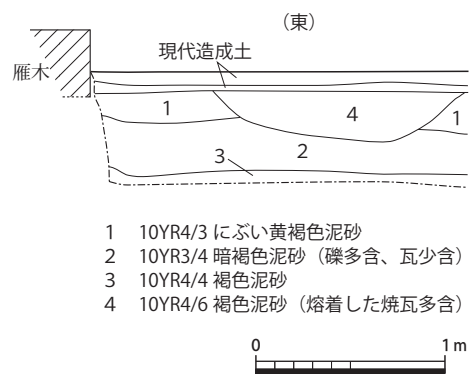
の建物群はほとんど全てが焼失している⁶⁾。本丸を圍繞する多聞櫓も例外ではなく、虎口の石垣にその被熱痕が残っている。検出した土坑は火災後の片付けのために掘られたものと思われる。

6. 本丸御殿北東側

東虎口を抜けた本丸内では、外周に沿って露出配管することになっていたので大きな掘削はなかったが、配管の架台を据えるために、雁木に沿って表土の鋤取りが行

われた。その立会調査では、北辺雁木に沿って地表下すぐに石材が点在しているのを確認した（図 31）。雁木の北東隅から始まって、西へ 52 m 地点までの間に 18 箇所で見ることができた。地表に顔を出した部分のみの観察であるが、いずれも差し渡し 15～30cm 程度の不整形な自然石で、1 箇所につき 1 ないし数石が固まって置かれている。置かれている位置が必ず雁木の継ぎ目であることから、雁木が前へ滑り出さないよう押さえる意図をもって据えられたものと推測する。であれば、東辺雁木にも存在するはずであるが、鋤取りを行った限りにおいて 1 石も認められなかった点は不審である。

本丸御殿雁の間の北側においては、配管の終点となる分電盤の設置に伴う立会を行った。2 箇



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂
- 2 10YR3/4 暗褐色泥砂（礫多含、瓦少含）
- 3 10YR4/4 褐色泥砂
- 4 10YR4/6 褐色泥砂（熔着した焼瓦多含）

図 30 No. 16 地点土層図（1：40）

所の基礎掘削のうち、西基礎のすぐ西に接して煉瓦積構造物を検出した。北辺雁木裾から南へ3.5 mの位置である。全形は掘り出していないため不明であるが、おそらく方形の構造物の北東隅部で、南北35cm 東西20cmを確認した。検出深はGL-15cmで、4段以上積まれている。離宮期のもと思われるが、位置的に基礎とは考えにくいので、雨水枡であろう。

7. まとめ

今回の管路敷設工事は、冒頭に記したとおり、史跡保護のために極力新規掘削を避けて行った。

緑の園東側から二之丸御殿北塀重門までは既存管路を再利用したため、顕著な知見はなかったが、大正大礼の饗宴場のもと思われる煉瓦積基礎を4箇所を確認した。この成果は今後、図面でのみ残る大礼時の施設を現在の測量図上に正確に落とし込むための定点になると思われる。

鳴子門～本丸東橋区間では、現在の通路部分の2箇所で礎石列を検出する予期せぬ成果があった。古図では鳴子門の南東側に「西之御蔵」があったことが分かるが⁷⁾、門の東柱筋よりもやや東に描かれており、礎石列1がこれに該当するかは決めがたい。また礎石列2については古図に候補となる施設が認められず、性格は不明である。

本丸東虎口ではやむを得ず新規掘削による埋設となったが、その結果、従来地表に見えていた延石5のほかにも2条の延石列があることが判明した。特に延石4は大型の礎石を伴う重厚なものである。位置から見て多聞櫓の下部に設けられた門としか考えられないが、古図には明確な記載



図31 本丸北雁木裾における控え石の検出状況（南東から）

が認められず、重要な新知見と言える。

なお、今回検出した煉瓦積基礎、礎石列1・2、煉瓦組暗渠、石3、延石4～6、雁木控え石、煉瓦組枅については、養生の上で埋設管を迂回させる、または下をくぐらせるなどの措置により現状保存した。工事関係者に感謝する次第である。

(堀 大輔)

註

- 1) 岡田麻衣子・小檜山一良『史跡旧二条離宮（二条城）』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2022-9、2023年
- 2) 『史跡旧二条離宮（二条城）保存活用計画』京都市、2020年
- 3) 註1に同じ（3区）。
- 4) No.11地点の北側で切断されており、既に使用されていないことが判明した。
- 5) 註1に同じ（9区）。
- 6) 大邑潤三ほか「京都天明大火における大名火消の実態」（『京都歴史災害研究』第14号、立命館大学歴史都市防災研究所、2013年
- 7) 註2に同じ。

Ⅲ-1 平安京右京一条二坊十二町跡 (25H105)

1. 調査の経緯 (図32)

本件は共同住宅建設に伴う調査で、調査地は中京区西ノ京円町 58-1 の一部及び 58-2、58-3 である。

当該地は右京一条二坊十二町跡の北辺中央部にあたる。当町域には京内に 2 箇所ある獄のうち、西獄(右獄)が所在していたことが知られ、安倍貞任や藤原信西は西獄で獄門にかけられたとされる。ただし、現状で当該地に西獄が存在したとする資料は鎌倉時代以降のもののみで、『續日本紀』の承和 9 年(842)に京内の獄舎に関する言及がみられるが、その所在地は記されていない。

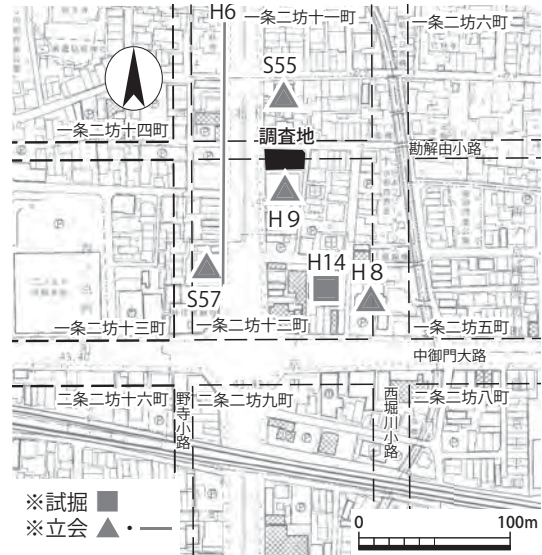


図 32 調査位置図 (1 : 5,000)

本町域では、これまで発掘調査は実施されておらず、1 件のみ実施された試掘調査(図 32-H14)でも顕著な遺構は確認されていない。ただし、詳細分布調査では平安時代に遡る遺構が各所で確認されている。主要なものをあげると、昭和 57 年度 (S57) には平安時代の土坑、平成 8 年度 (H8) には平安時代前期の溝と掘立柱建物、平成 6・9 年度 (H6・H9) には平安時代遺物包含層がそれぞれ確認されている。いずれも GL-0.2m ~ 0.7m ほどの非常に浅い深度で確認されている。北側に隣接する十一町域でも同様の深度で平安時代中期の遺構が確認されている (S55)。

2. 層序と遺構 (図33・34)

調査は 7 箇所で行った(図 33-No.1 ~ No.7)。地層は主に表土、平安時代遺物包含層、基盤層からなる。基盤層は No.1 ~ 3 地点で確認できる砂礫層で、天神川由来の堆積と考えられる。

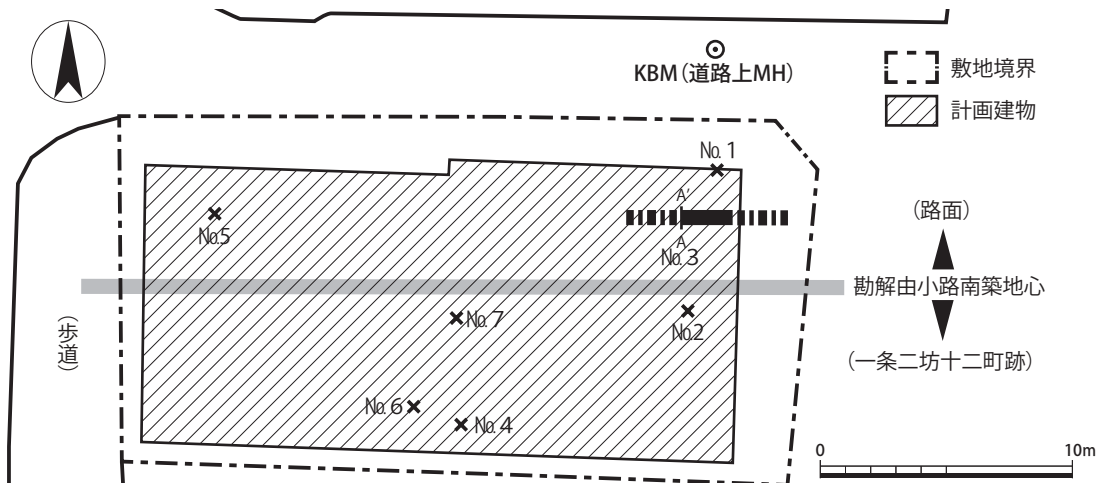


図 33 敷地及び調査地点配置図 (1 : 300)

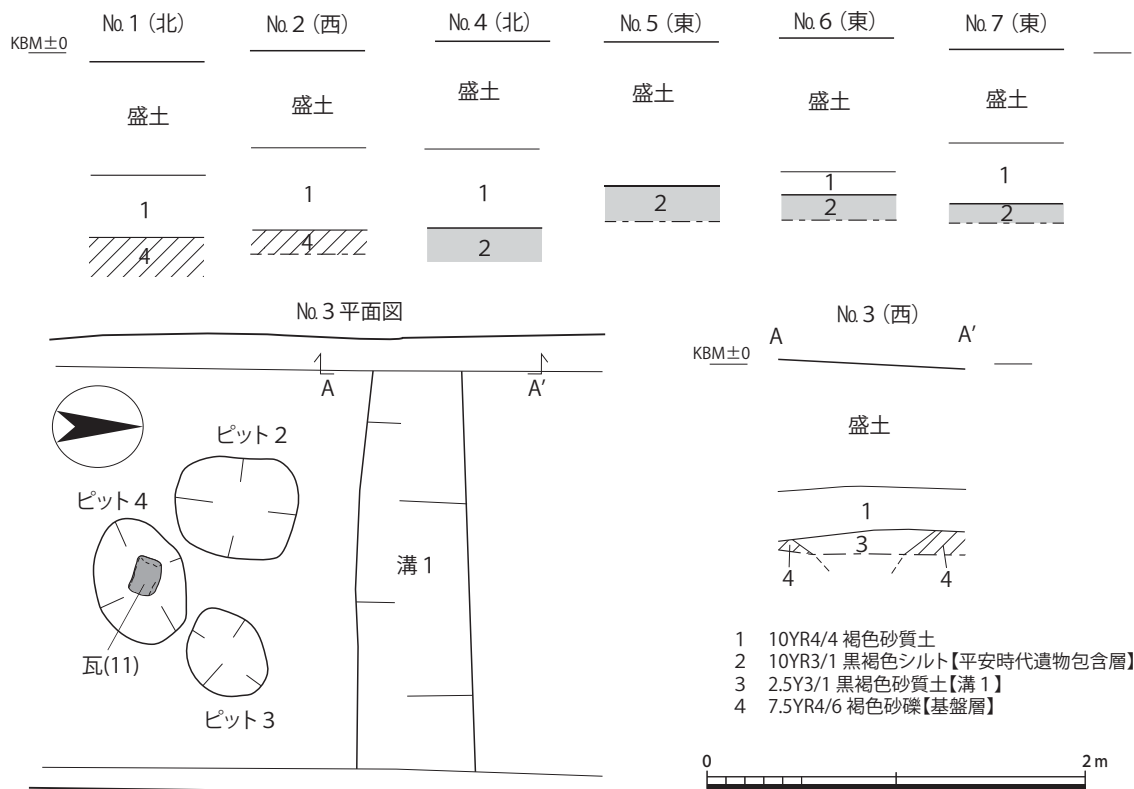


図 34 No. 1～7 地点 平断面図 (1:40)

調査の結果、計画範囲の西半部にあたるNo. 4～7 地点で平安時代遺物包含層を確認した。また、No. 3 地点では基盤層上面で溝 1 条とピット 3 基を確認した。なお、これらの遺構は工事内容を踏まえ、計画建物の基礎の下に保存されることから遺構検出に留めた。

溝 1 計画範囲の北西部で確認した東西方向の溝である。最大幅 0.63m、東西長 2.1m 以上、深さ 0.12m 以上。出土遺物から 3 A～3 B 段階に埋没したと考えられる。なお、溝 1 は勘解由小路南築地心の北側に位置することから、この南側溝である可能性が高い。

ピット 2 平面形は、やや不定形な隅丸方形を呈する。南北長 0.66 m、東西長 0.56 m。時期が判別できる遺物は出土していない。

ピット 3 平面形は、やや不定形な楕円形を呈する。直径は 0.4～0.5 m。時期が判別できる遺物は出土していない。

ピット 4 平面形は、やや不定形な楕円形を呈する。直径は 0.5～0.68 m。中央に根石もしくは根固めのために転用したと考えられる軒平瓦が凹面を上に向けて据えられる。この転用された瓦は平安時代前期に位置付けられものの、ほかの出土遺物から 3 A～3 B 段階の遺構と考えられる。

3. 遺物 (図35)

1 は土師器皿 A、2 は土師器椀 A、3 は土師器の甕、4 は須恵器の甕の口縁部、5 は緑釉陶器の高台部である。3 の口径は 15.8cm。1・2 は 3 A・B 段階と考えられる。

6～8 は土師器皿 A、9 は須恵器の蓋、10 は黒色土器 A 類の椀、11 は均整唐草文軒平瓦である。9 は内面が平滑で墨が付着しており、転用硯と考えられる。6～8 は 3 A・B 段階と考えられる。

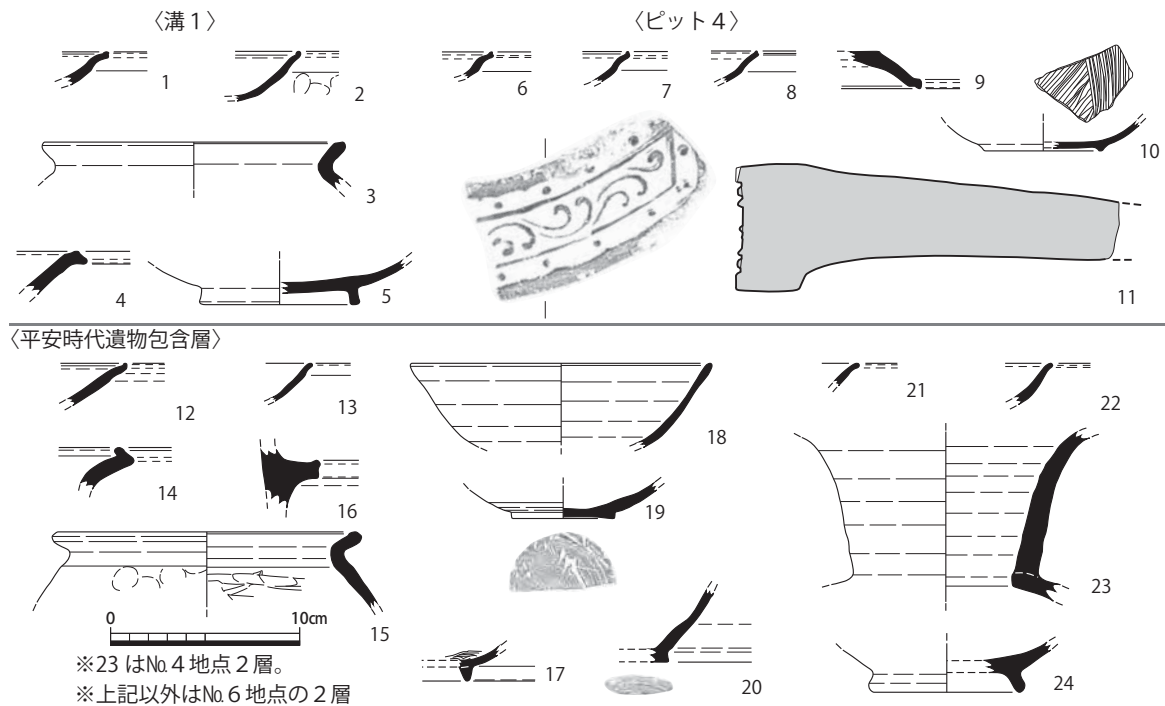


図35 出土遺物実測図(1:4)

12～24は平安時代遺物包含層から出土した。12～16は土師器で、12は皿A、13は皿N、14・15は甕口縁、16は羽釜の鏝、15の口径は15.6cm。17は黒色土器A類椀である。18～20は須恵器で、18・19は椀である。18は口径15.8cm、19は底径7.8cm。19・20の底部には糸切り痕が確認できる。21・22は緑釉陶器の椀、23は灰釉陶器の壺である。24は白磁の椀の高台で、底部径は5.4cm。おおよそ4A・B段階までの遺物包含層と考えられる。

4. まとめ

以上、本調査では勘解由小路南側溝を確認した。また、その南で確認したピットは時期不明なものも含むが、位置的に築地等の遮蔽施設に伴う可能性がある。これらは当町域(西獄)の北端を示す遺構と考えられる。ただし、現状では具体的な町域内での土地利用の在り方については不明瞭と言わざるを得ず、中心域での今後の調査が期待される。

幸いにも本工事が遺跡に与える影響は軽微と考えられ、計画建物の下に遺跡が保存されている可能性が高い。また、調査事例から付近一体は非常に浅い深度に遺跡が良好に遺存している可能性があり、本計画地を含めた周辺での今後の開発工事に関しては注視する必要がある。

(熊井亮介)

【周辺調査一覧】

- 京都市文化観光局文化財保護課『京都市内遺跡試掘・立会調査報告』1980年
- 京都市文化観光局ほか『京都市内遺跡試掘立会調査概報』1982年
- 京都市文化市民局『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』1994年
- 『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』1996年
- 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成10年度』1998年

Ⅲ-2 平安京右京七条一坊一町跡、御土居跡 (24H388)

1. はじめに

本件は、中京区朱雀分木町に所在する中央卸売市場第一市場整備工事に伴う調査である。調査地は、御土居跡及び平安京右京七条一坊一町跡に該当する。周辺では、第一市場関連工事に伴う発掘調査が複数実施されており、一町内においても左女牛小路及び朱雀大路の条坊側溝のほか（図 36 調査 1・2）¹⁾、調査 3 では御土居の堀跡を確認している²⁾。中でも御土居の堀底には、畝状の高まりが認められ、京七口の一つ「丹波口」周辺の防御性を高めるため、付近の御土居の堀が障子堀で構築されていたとの見解が示されている。

したがって、今回の調査地においても、御土居跡に関連する遺構・遺物の存在が想定された。調査は、令和 6 年 12 月 6 日～同 7 年 3 月 6 日まで実施、2 箇所（図 37-No.3・5 地点）で御土居の堀埋土を確認したため、これを報告する。

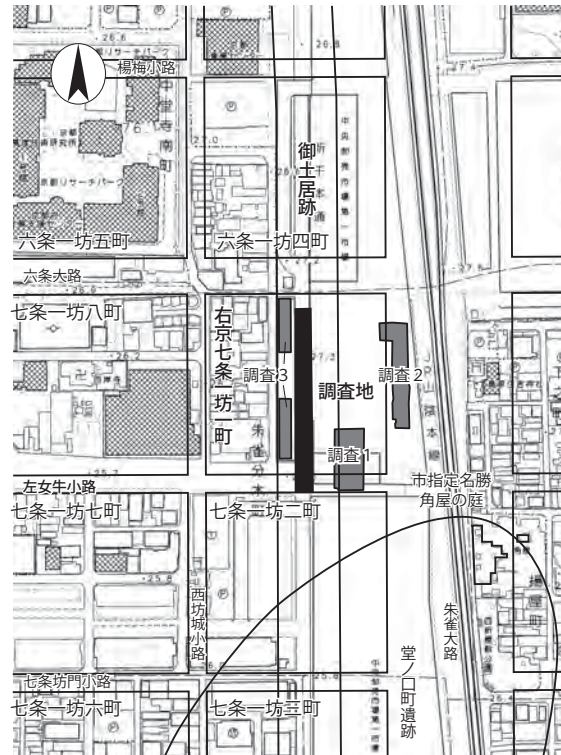


図 36 調査位置図（1：5,000）

2. 遺構

今回の調査では、工事の進捗状況に合わせ計 5 地点で断面観察を行った。ここでは 3 地点の調査について報告を行う（図 37）。

No.3 地点 調査 3 の 1 区と 2 区との間で、想定される御土居の堀西半にあたる。上面は大きく削平を受け、標高 23.9 m (GL-2.25m) で堀埋土である黄灰色粗砂～細砂礫混じりの水成堆積、23.2 m (GL-2.9 m) で明褐色砂礫の地山となる。

No.4 地点 2 区東側の地点で、土塁部分にあたる。上面は大きく削平を受け、23.2 m (GL-2.9 m) でぶい黄橙色砂礫の地山となり、土塁盛土は残存していなかった。

No.5 地点（巻頭図版 2） 2 区東側の地点で、堀東半にあたる。堀に直交する東西方向の断面観察を行い、幅約 7.5 m 分の堀埋土を確認した。堀の堆積状況は、東西両側は緩やかに立ち上がり、中央部分が凹む。層序は 22.8 m (GL-3.1m) 以下、ラミナのある灰色シルト、黄灰色粗砂～細砂の水成堆積となり、21.9 m (GL-4.0 m) で明黄褐色砂礫の地山となる。遺物は用途不明の木製品が少量出土したのみである。

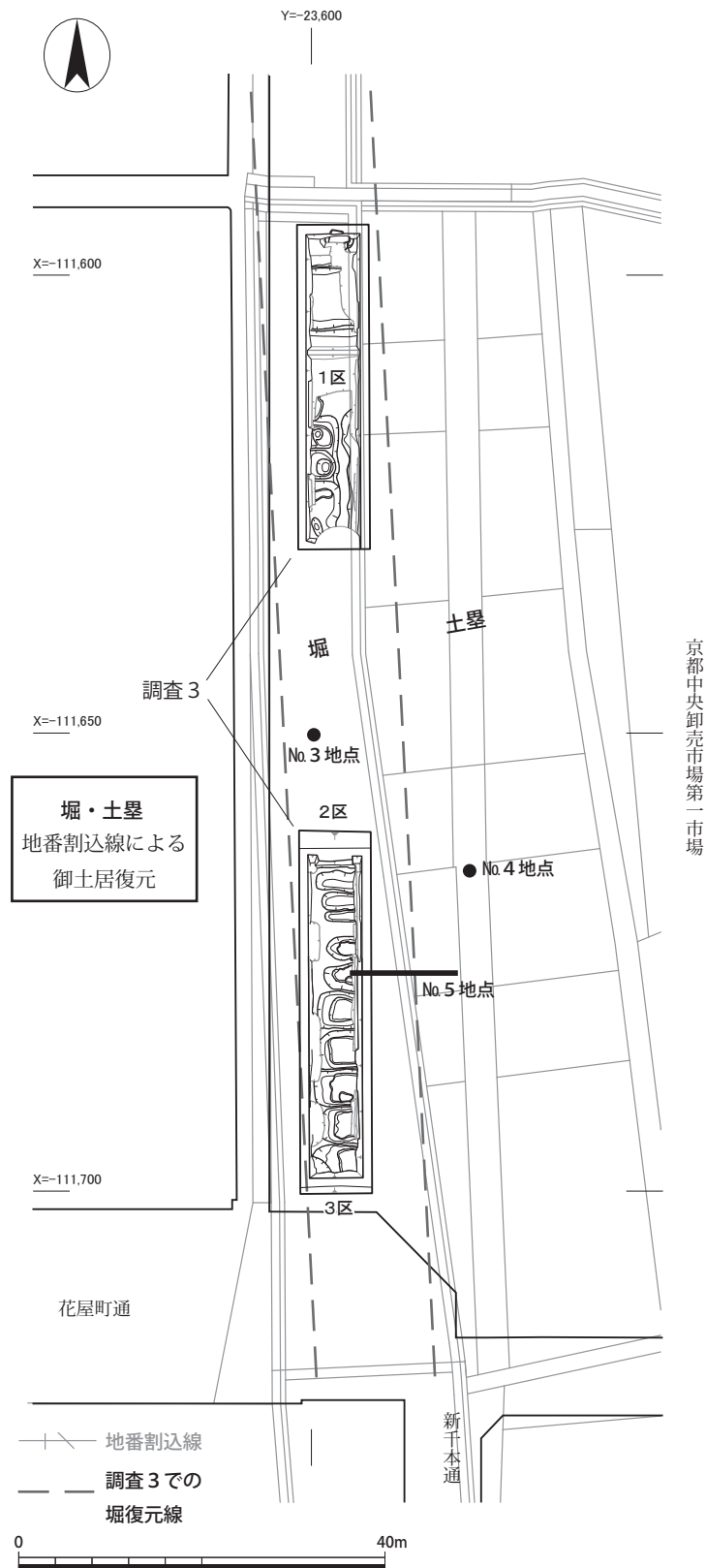


図 37 調査地点配置図 (1 : 800)

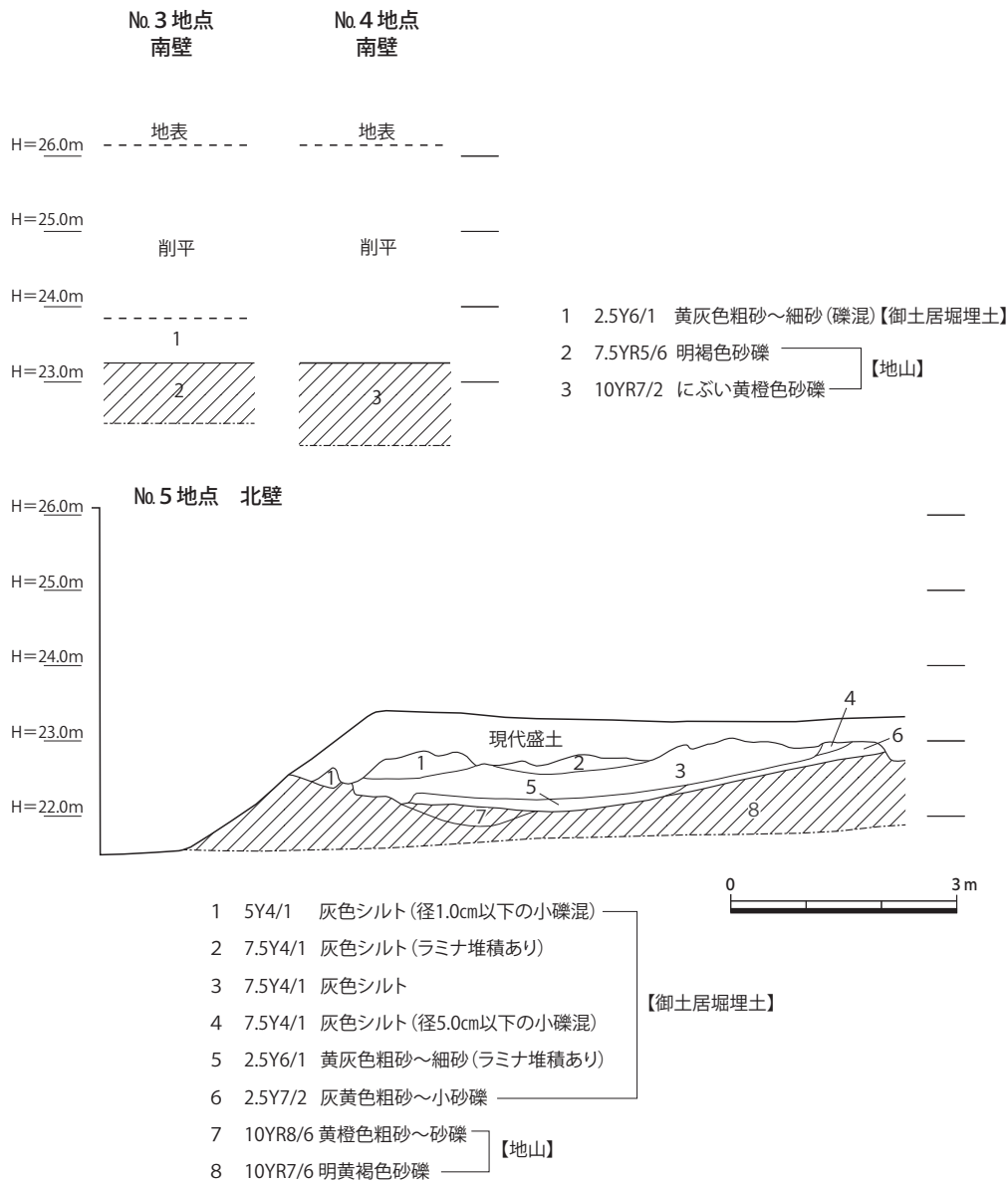


図 38 調査地点断面図 (1 : 100)

3. まとめ

今回の調査では、御土居の堀埋土を確認する成果が得られた。調査3からNo.5地点は、堀の東半にあたることからわかる。ここでは周辺調査成果を踏まえ、御土居の堀について検討を行う。

(1) 御土居の規模について

御土居の規模について、江戸時代の記録には、土塁基底部幅が十～十五間半 (18～28 m)、犬走が三～四間半 (5.6～8.1m)、高さが二～三間 (3.6～5.4 m) とある³⁾。堀幅については、これまでの調査で7～20 m、深さ1.5～4 mと場所によって異なり、立地する場所の地理的・歴史的環境に左右されることがわかる。したがって、御土居の規模を把握することは、築造当時の周辺環境を考えるうえで重要な視点となる。なお、今回の調査地周辺では、土塁部分は近代に削平を受け、全容は明らかではない。堀幅については、調査3で13～14 mに復元されている⁴⁾。

今回、御土居の規模復元にあたり、「地番図」を用いて検討を行いたい。地番図とは、固定資産

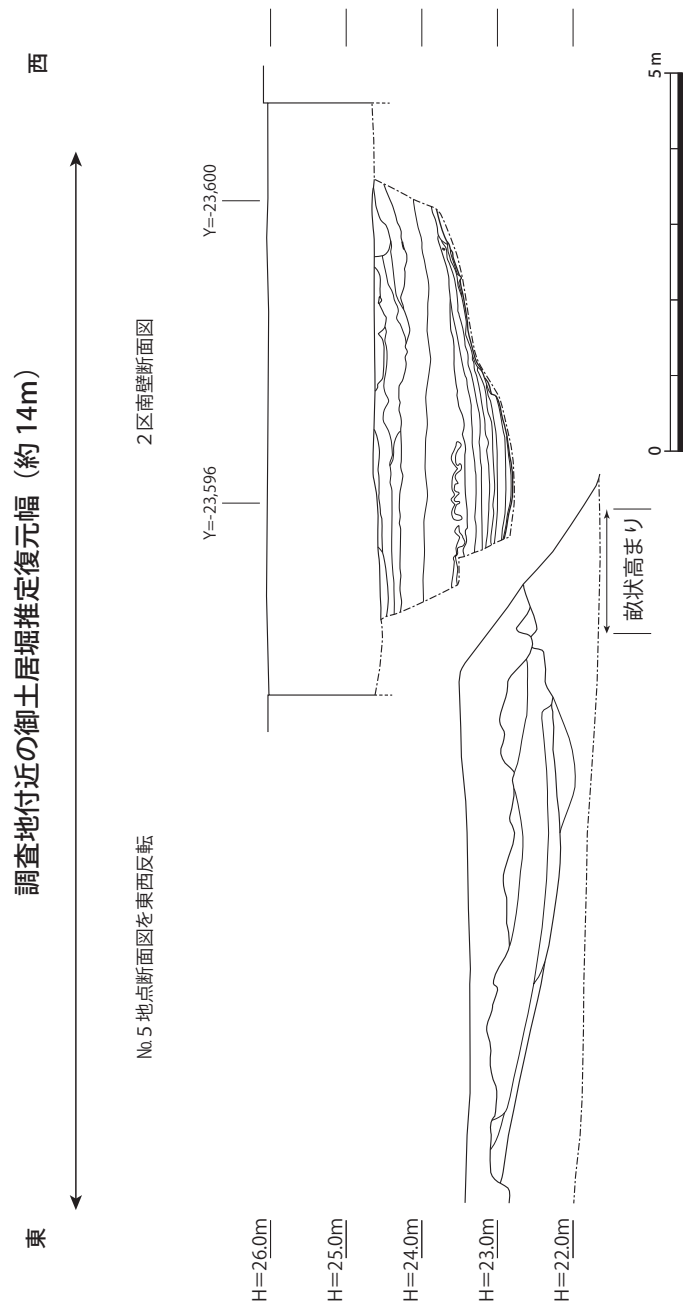


図 39 調査地点付近の御土居堀幅復元図 (1 : 100)

税の課税等の参考にするため、土地の所在、町名及び地番を示した地図で、市街地を中心に作成されている。本市においても固定資産税（土地）地番参考図 (<https://city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000112913.html>) として閲覧が可能である。図 37 は調査地付近の地番図を重ね合わせたものである。調査地は、昭和 2 年（1927）に開設された京都市中央卸売市場敷地内にあたるが、開設以前の大正元年正式図には、当該地附近に土塁状の高まりが南北方向に認められ、近代まで土塁が残存していたことが分かる。地番図は、現況の地割と大きく異なることから、表現された地割は、市場開設以前の状況を一定程度反映したものと評価できる。図 37 から調査地近辺の地割に、北に対しやや西に振る南北方向の 2 列の地割が並行することが認められる。西側の地割に該当する調査 3 は堀跡であることが判明しており、その東側が土塁部分と想定される。

上記を踏まえると、調査地付近の土塁幅は約 22 m となり、堀幅は場所によって出入りがあり、約 11 ～ 20 m に復元できる。堀幅 13 ～ 14 m とした調査 3 の復元規模に対し、やや異なる規模となるが、旧地割の名残を留める地番図は、土塁の削平や堀の埋め立てによって地表面で痕跡が認められない市街地での御土居の復元の一助になることを示したといえよう。

(2) 障子堀について

前述した通り、「丹波口」北側の御土居の堀底では、東西・南北方向に畝状の高まりが確認されており、当該付近の堀は、「丹波口」の防御性を高めるための障子堀であったことが指摘されている。

堀東半に当たる No. 5 地点の調査では、断面観察のみに留まったこともあり、明確な畝状高まりは確認できなかった。しかし、堀西半の調査を行った調査 3 の 2・3 区では、堀に直交する東西方向の断面観察が実施されていることから、No. 5 地点に近接する 2 区南壁断面図と組み合わせるうえで (図 39)、障子堀の有無について検討を行う。

調査地近辺の発掘調査から、堀底に見られる畝状の高まりは、東西方向のみの場合と東西・南北方向の 2 方向に存在する可能性があることが明らかとなっており、調査 3 では、2 方向の畝状の高まりが確認されている。堀東半にあたる No. 5 地点では、堀底の標高が 22.3 m で、近接する 2 区堀底 (22.7 m) と比べやや深くなっており、断面観察部分には東西方向の畝状の高まりは存在し得ない。しかし、西肩は緩やかに立ち上がっていること、2 区南壁断面図では東肩が立ち上がっていることから、両調査地点間に南北方向の畝状の高まりの存在が想定できよう。

今回の調査では、断面観察に留まったものの、周辺調査成果及び地番図を用い、御土居について検討を行った。地番図については、失われた御土居の姿を復元する一助になることを示し得た。調査に当たっては、周辺調査成果だけではなく、地番図や地形図、古地図等を参考にすることで、より遺跡の実態に迫ることができることを改めて裏付けることができたといえよう。

(西森正晃)

註

- 1) 平尾政幸・加納敬二「平安京右京七条一坊」『昭和 61 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所、1989 年
- 2) 小檜山一良・松吉祐希・岡田麻衣子『平安京右京七条一坊一町跡・御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2023-10、(公財)京都市埋蔵文化財研究所、2025 年
- 3) 『京都御役所向大概覚書』
京都御土居數長合 壹萬貳百拾九間余
但 根敷拾間より拾五間半迄 馬踏參間より四間半迄 高貳間より參間迄
- 4) 註 2)

IV-1 木野墓窯跡 (24S643)

1. はじめに

木野墓窯跡は宝ヶ池の北側、長代川右岸にあたる丘陵の南斜面に位置する瓦陶兼業窯で、北白川廃寺等に瓦を供給していたことで知られている(図40)。昭和5年(1930)に木村捷三郎氏によってその存在が確認された。その後、昭和54～60年にかけて京都大学考古学研究会によって踏査・測量・遺物の採集が行われ、その分析成果が報告されている¹⁾。採集された須恵器

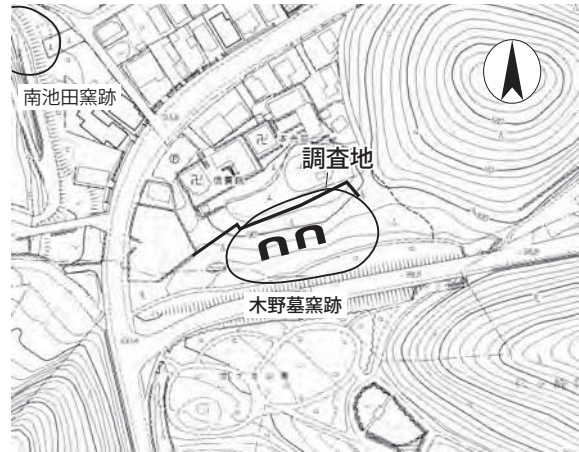


図40 調査位置図(1:5,000)

の特徴から木野墓窯跡の操業開始時期を7世紀第三四半期頃とし、軒丸瓦や平瓦の調整痕跡の特徴から、岩倉地域に点在する御用谷窯やケシ山窯、栗栖野5・6号窯の工人集団との関係性についても言及されている。近年では、平成30年(2018)の台風21号に伴う倒木の根起しによって巻き上げられた須恵器や瓦の報告や²⁾、公園施設整備計画に伴う試掘調査がある³⁾。

今回、公園用地と墓地境界のフェンス取替え工事に伴い実施した詳細分布調査で、江戸時代後期の土器器皿がまとまって出土したため、これを報告する。調査は、令和7年2月26～28日にかけて実施した。

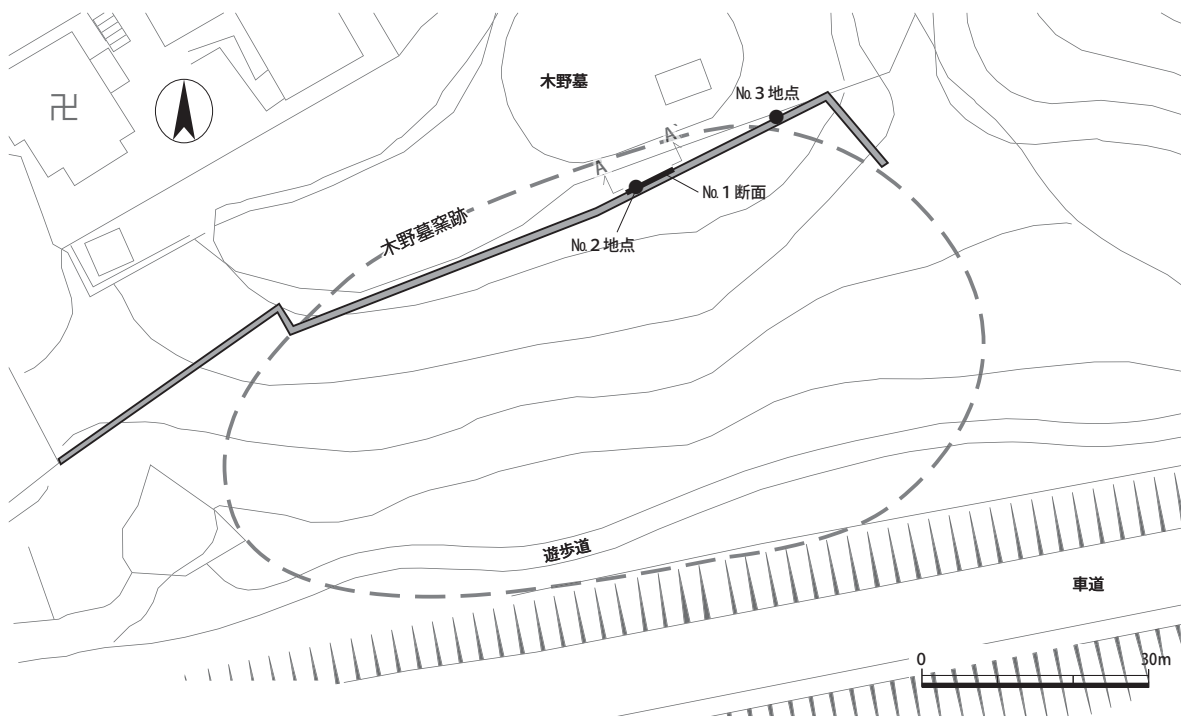


図41 調査地点配置図(1:1,000)

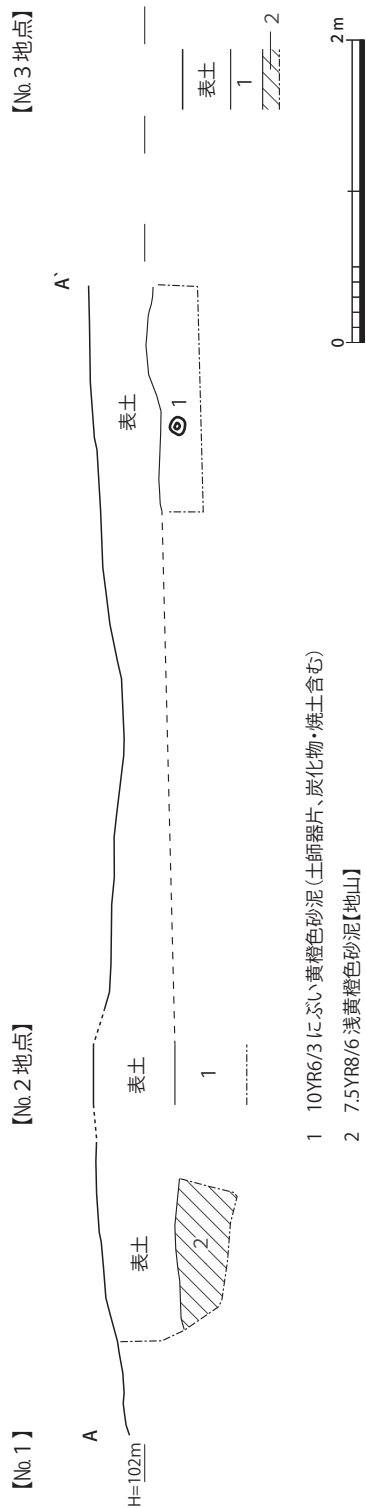


図 42 調査区実測図 (1 : 50)



図 43 No.1 焼土塊 (南から)

2. 遺構 (図 41・42)

調査は3地点で実施した(図 41-No.1~3)。No.1は、工事施工箇所に沿って、断続的に断面の観察を実施した。層序は、西端で GL-0.5 m で浅黄橙色砂泥の地山を確認したが、大半は土師器片、炭化物、焼土を含むにぶい黄橙色砂泥となる。東端では、径 10cm の筒状の焼土塊を認めた(図 43)。脆弱な材質により、取り上げる際に破損してしまったため、形状観察に留まった。No.2・3地点でも、GL-0.3~-0.5 m で土師器片、炭化物、焼土を含むにぶい黄橙色砂泥となり、調査地東側に同層が広く分布する様相を把握した。

3. 遺物 (図 44)

今回の調査では、土師器、須恵器、瓦が出土した。ここではまとめて出土した土師器について報告する。

1~16は土師器皿である。全て図 42-1層から出土したものである。1はロクロ製で、口径 6.6 cm、器高 1.7 cmを測る。底部外面には糸切痕が残る。2~8は、底部と体部の境が判然としない、又は底部の平坦面が僅かしかない形状の皿 S である。底部から緩やかに立ち上がり、口縁端部をやや上方に摘み上げるものが多い。体部外面下半には指頭圧痕が明瞭に残り、口縁端部はヨコナデを施す。いずれも口径 7~8 cm 前半、器高 1.0~1.5 cm である。9~12は、底部と体部の境が明瞭な皿 S である。口縁端部はやや内傾する。いずれも口径 7 cm 後半、器高 1 cm 前半である。13~16は内面の底部と体部の境界に圈線を持つ皿 S である。14のみ圈線を断面 V

字状に施すが、残りは緩やかな凹みとなる。圏線を有する皿は口径が一回り大きく、8 cm後半～9 cm台となる。土師器皿の年代は、いずれも 11B～12A にあたり、17 世紀後半から 18 世紀前半に属するものである。

3. まとめ

木野墓窯跡では、須恵器、瓦が採集され、白鳳時代の瓦陶兼業窯として周知されているが、これまで近世の土師器皿がまとまって出土した事例はない。一方で、同じ岩倉盆地内の調査地北側に位置する木野村は、近世から近代に至るまで、土師器皿の生産地として著名な場所である。今回出土した土師器皿は、焼土、炭化物とともに出土しており、付近での土師器生産の可能性も視野に入れた検討を加えたい。

岩倉盆地は、飛鳥時代より須恵器・瓦生産が盛んな地域で、平安京に瓦を供給した栗栖野瓦窯や緑釉陶器窯が知られており、数多くの窯業遺跡が確認されている。土師器の生産については、応仁 2 年（1469）に良質の粘土を求めて嵯峨野の土器工人が幡枝村に移住し、さらに元亀年間（1570～1572）に木野へ移ったとされる⁴⁾。盆地内で生産された土師器皿は、「幡枝土器（はたえだのかわらけ）」と称され、近世以降も宮中や社寺での伝統行事に用いられた。

「幡枝土器」については、木野の集落では終戦直後まで生産が続けられ、聞き取り調査や製作実演が記録されるなど、これまで数多くの研究がある⁵⁾。集落内には、現在も焼成に使用された窯が現存して

おり、丸窯に焚口が付随する形状である。丸窯は内径 90 cm、高さ 70 cm の円形で焚口に対して直交する方向に梁を 3 本通し、火格子が形成され、焼成室の床面を構成している。梁は支柱で支えられている。この形状の土師器窯とされる構造物の一部が、旧幡枝村（岩倉幡枝町）の発掘調査で出土している⁶⁾。調査では、焼土とともに、中が空洞の筒状の破片（図 45）や被熱した土塊が多数出土し、土師器窯の部材片と評価されている。筒状の構造物は、土師器窯の焼成室の床面を

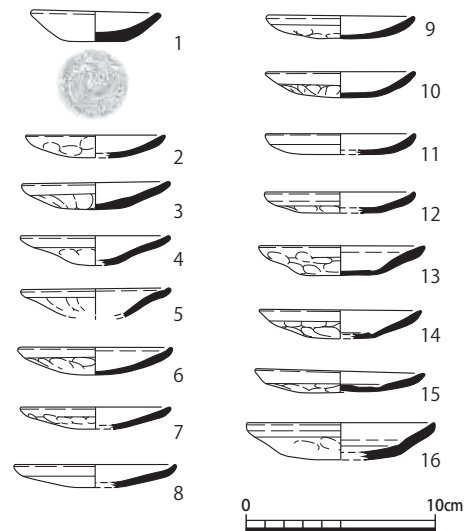


図 44 土器実測図（1：4）

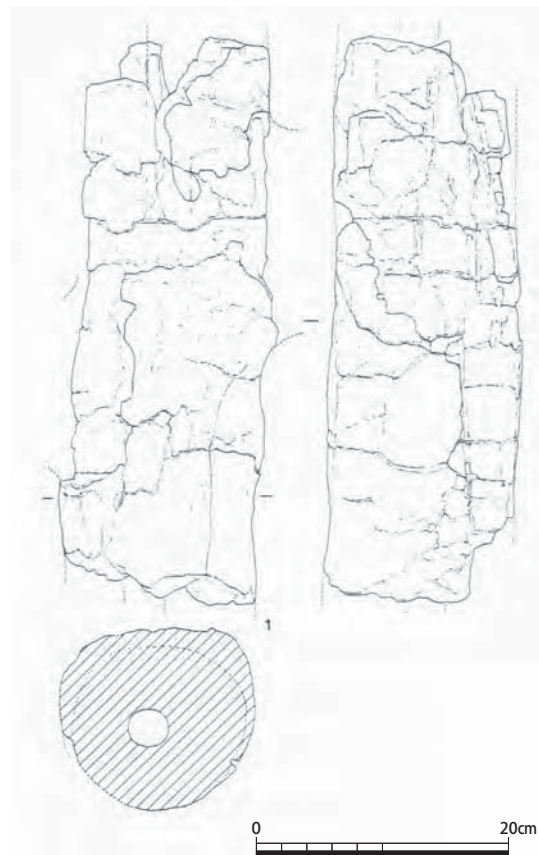


図 45 【参考】土師器窯構造物実測図（1：6）
註 6 から転載

構成する梁材と想定されており、今回の調査で検出した焼土塊（図 43）の形状に共通する。

今回、土師器皿とともに焼土、炭化物、土師器窯の構造物と似通った焼土塊が出土したことから、図 42- 1 層は土師器生産に伴う堆積と捉えられる。調査地付近での土師器皿生産も想定されよう。しかし、先述のとおり元亀 3 年（1572）には土師器皿の生産集団は木野村に移住したとされており、18 世紀まで当地で土師器皿の生産を行っていたかは疑問が残る。

木野村で古老の聞き取りを行った田中一廣氏によると⁷⁾、近代の事例にはなるが、岩倉盆地内に土師器生産に必要な粘土を採取する土取り場所が 5 箇所存在したとされ、その内の 1 箇所に調査地が所在する木野墓の名が挙げられている。土取穴の形状は、幅 7～8 m、深さ 3～5 m 程度であったとされ、土師器皿が出土した土層は、断面観察を行った地点以外にも展開する可能性が高く、土取穴の可能性も考慮する必要がある。粘土採取後に、木野村での土師器生産によって発生した不良品や廃棄物を埋め戻しに利用したとも考えられる。いずれにせよ今回の調査は、岩倉盆地内の近世土師器生産の一端を窺い知る成果といえよう。

（西森正晃）

註

- 1) 『岩倉古窯跡群』京都大学考古学研究会、1992 年
- 2) 鈴木久史・西森正晃・清水早織「木野墓窯跡（19A002）」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和 4 年度』京都市文化市民局、2023 年
- 3) 八軒かほり「木野墓窯跡」『京都市内遺跡試掘調査報告 令和 6 年度』京都市文化市民局、2025 年
- 4) 『本朝陶器巧證』
- 5) 島田貞彦「山城幡枝の土器」『考古学雑誌』21 卷 3 号、1931 年
中ノ堂一信「深草・幡枝の土器」『京の伝統と文様』9 京焼の歴史、1981 年
田中一廣「京都・岩倉木野の土器窯—近世土師器焼成窯の紹介—」『滋賀考古』12 号、1994 年
など、多数の論考がある。
- 6) 上村憲章「岩倉幡枝古窯跡群（元稻荷窯跡隣接地）」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成 8 年度』京都市文化市民局、1997 年
- 7) 田中一廣「京・岩倉木野の土師器-『いわゆる幡枝土器』の分類-」『大阪文化財研究 第 9 号』（財）大阪文化財調査研究センター、1995 年

IV-2 上京遺跡 (24S434)

1. 調査の経緯

本件は共同住宅新築工事に伴う詳細分布調査である。調査地は上京区継孝院町に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地「上京遺跡」に該当する。共同住宅の新築に先立ち、地中埋設物の確認のための掘削をおこなう計画であったため、この掘削時及び建物基礎掘削時の2度調査を実施した。調査は令和6年11月26日から12月2日、令和7年3月12日から19日に合わせて7度おこなった。

継孝院町という町名は当町の南に天台宗継孝院が所在したことに由来する。継孝院は戦国時代ごろに臨済宗宝鏡寺に属する尼寺となった後、明治時代には荒廃し、播州垂水（神戸市垂水区）に移転した。洛中洛外図屏風などでは一帯に室町幕府要職の邸宅が描かれる。周辺一帯での調査事例は少ないが、北側の岩栖院町（図46-地点1）で平成19・21年に試掘調査をおこない、部分的に中世後期の遺構面や平安時代の遺物を確認しているが、遺存状況が悪く、発掘調査には至っていない¹⁾。西側の妙顕寺前町（同-地点2）では令和4年に（株）文化財サービスが発掘調査を実施し、室町時代後期～末期の溝、柱列、土坑などを検出している²⁾。事例は少ないながらも、中世後期に開発が進んだエリアだということが分かる。

2. 遺構と遺物

掘削に合わせて5か所で断面を確認した（図47）。このうち、No.2地点は掘削底まで攪乱だったが、残る4地点では遺跡の遺存がおおむね良

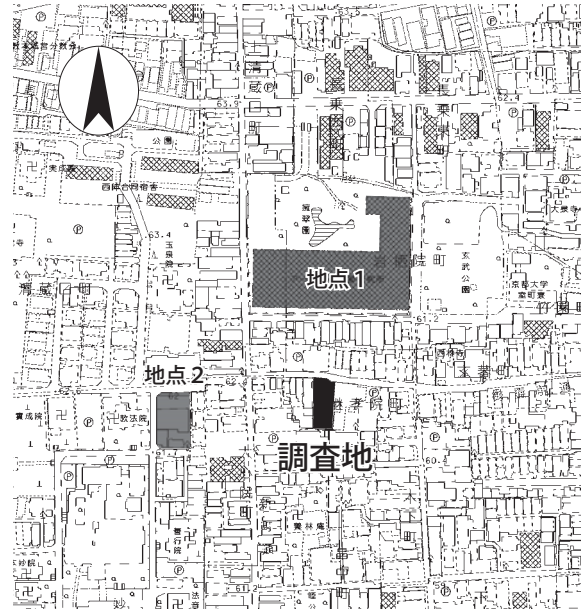


図46 調査位置図 (1 : 5,000)

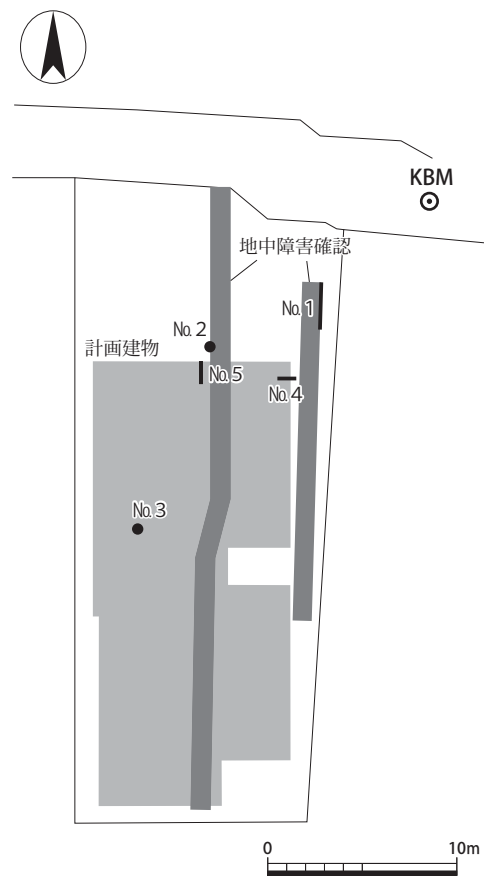


図47 調査地点配置図 (1 : 400)

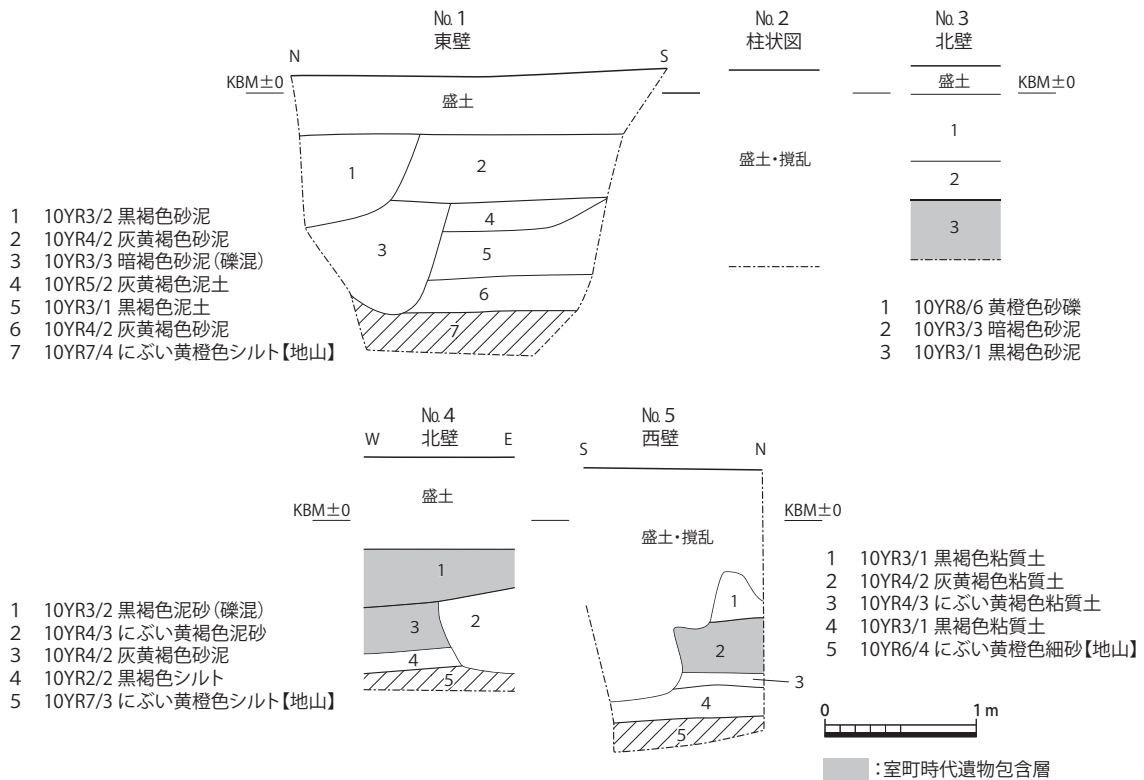


図 48 各地点断面図 (1 : 50)

好だった。No. 1 地点では盛土直下の GL-0.38m で黒褐色砂泥を埋土とする土坑、-0.84m で暗褐色砂泥を埋土とする土坑をそれぞれ確認し、多量の土師器皿が出土した。GL-1.56m でにぶい黄橙色シルトの地山となった。No. 3 地点では GL-0.89 ~ -1.29m の黒褐色砂泥層から室町時代の土師器が出土した。No. 4 地点では盛土直下の GL-0.6m で黒褐色泥砂(礫混)の室町時代包含層、-0.9m で灰黄褐色砂泥の室町時代包含層、-1.2m で黒褐色シルト層、-1.3m でにぶい黄橙色シルトの地山を確認した。灰黄褐色砂泥層を切って、にぶい黄褐色泥砂を埋土とする土坑を検出し、ここから室町時代の土師器皿が出土した。さらにNo. 5 地点では GL-0.7m で黒褐色粘質土、-1.0m で灰黄褐色粘質土の室町時代包含層、-1.35m でにぶい黄褐色粘質土、-1.45m で黒褐色粘質土、-1.65m でにぶい黄橙色細砂質土の地山となる。

以上のように、No. 2 地点を除く 4 地点で室町時代の遺構ないし包含層を確認しており、全体として室町時代の遺跡が良好に遺存していることが確認できた。

No. 1 地点 1 層・3 層、No. 4 地点 2 層・3 層、No. 5 地点 2 層からそれぞれ土師器皿が多数出土した。1 ~ 16 がNo. 1 地点 1 層出土、17 ~ 22 がNo. 1 地点 3 層出土、23 ~ 26 がNo. 4 地点 2 層出土、27 ~ 30 がNo. 4 地点 3 層出土、31 ~ 35 がNo. 5 地点 2 層出土である。土師器は 23 のみ皿 N で、他は皿 S である。このうち、No. 1 地点 3 層出土のものはやや深みがあり、口縁部が外反するものが多い。他層出土のものは器高が低く、体部が直線的なものが多い。年代幅は広くなく、No. 1 - 3 層出土遺物は 9C 段階、他は 10A 段階、全体としておおむね 15 世紀後半から 16 世紀前半に帰属する資料群と判断する。土師器皿以外では、No. 1 - 3 層から備前焼のすり鉢(図 49-22)、No. 4 - 3 層から瓦器火鉢の蓋(同 30)が出土した。前者は 15 世紀後半のもの、後者は火窓を持つ可能性がある。

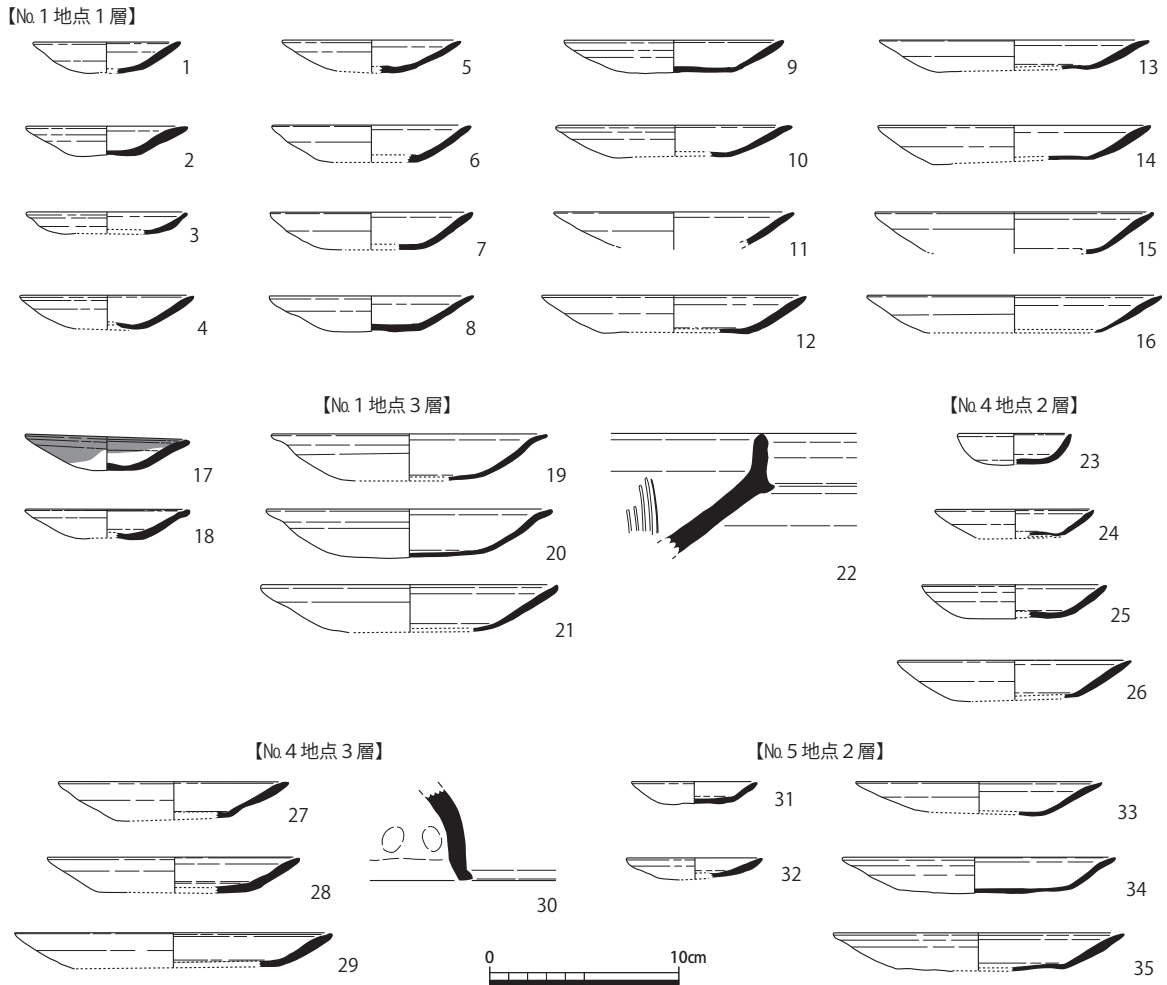


図 49 出土遺物実測図（1：4）

3. まとめ

本地点では室町時代後期の遺構・遺物を良好な状態で検出した。室町時代の邸宅街であった上京遺跡だが、周囲は調査事例が少なくその実態はこれまでもあまり明らかになっていない。今回の調査では瓦はまったく出土しておらず、町名の由来となった継孝院との関係は不詳であるが、応仁の乱以後に当該地で多量の土師器皿を消費する活動がなされたことが明らかとなった。これ以前、以後の遺物はほとんど出土していない。地点ごとの情報を少しずつでも収集していくことで、上京遺跡内の時期による土地利用の変化がみえる可能性が高い。

（新田和央）

註

- 1) 堀大輔「V-1 上京遺跡 No.12」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成21年度』京都市文化市民局、2010年。
- 2) 田邊貴教ほか『上京遺跡・寺ノ内旧域発掘調査報告書』文化財サービス発掘調査報告書第23集、2022年。

IV-3 北野天満宮、史跡御土居（23S260・6C061）

1. 調査にいたる経緯と経過

調査地は、上京区馬喰町に所在する北野天満宮境内と、これに隣接する史跡御土居の一部である。北野天満宮は、天曆元年（947）に菅原道真を祀る社として創建されたと伝えられており、その後、藤原氏や豊臣氏等、歴代の権力者の庇護を得て、社殿の建設が行われてきた。このうち、本殿をはじめとする歴史的建造物は、現在、国宝や重要文化財に指定されている。

令和5年8月、宗教法人北野天満宮は、これらの建造物を保護するための防災措置として、ポンプ室の設置と給水管の埋設を計画した（国宝北野天満宮本殿、石の間、拝殿及び楽の間ほか7棟防災施設整備事業）。これを受け、当課はポンプ室設置範囲については試掘調査（図50-①）を、管路部分については、詳細分布調査を実施した。このうち前者については、令和5年度試掘調査報告書にて詳細を報告した。本稿では、後者の詳細分布調査の成果について報告する。

調査は、令和5年10月2日～令和7年9月30日の約2年間にかけて、断続的に実施した。調査の結果、複数箇所で見世のピット、土坑、溝等の遺構と出土遺物を確認した。

2. 既往の調査

北野天満宮境内では、これまでに上記を含む3箇所で見世調査を実施している。このうち、本殿東にある社務所内の調査（図50-②）では、東辺に設けた第2区で、GL-0.3mで土器器細片を含む近世の盛土、-0.9mで黒褐色泥砂の地山を確認した。同じく第4区では、GL-0.35mで礫を多く含む黒褐色泥砂の近世整地層、-0.55mで灰黄褐色砂泥の地山を確認しており、ともに近世包含層が良好に残存することが明らかとなった。一方、境内の南部では、中門の南西にあたる文道会館内の調査（図50-③）において、GL-0.4m～-1.0mで暗褐色～黄褐色砂泥の地山を確認した。地山上面では、ピット、土坑、柱穴が稠密に展開する近世の遺構面が検出された。

以上のことから、今回の調査においても境内の広い範囲において近世以前の遺構群が検出されることが予測された。

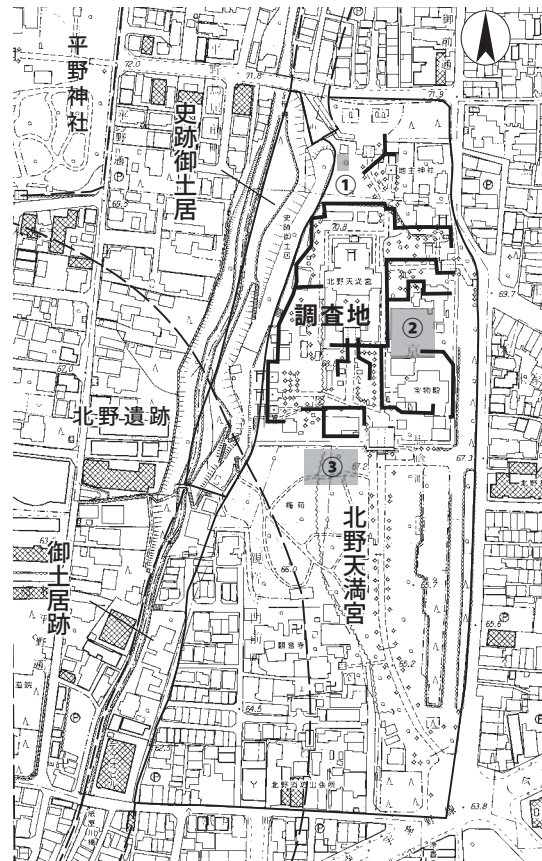


図50 調査位置図（1：5,000）

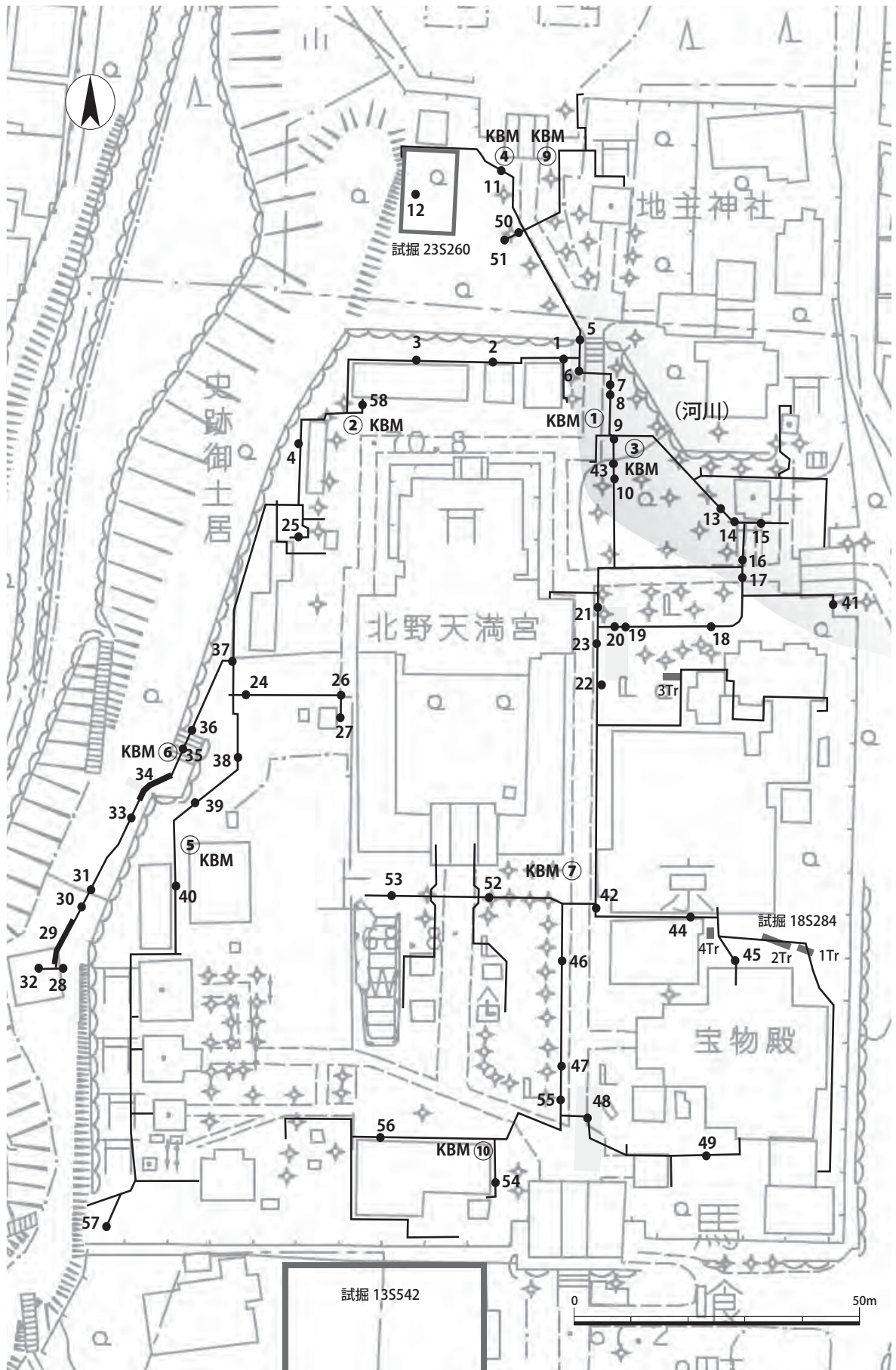


图 51 調査区配置図 (1 : 1,000)

3. 調査成果

今回の調査地点は、計 58 箇所を数える（図 51）。このうち 52 箇所近代以前の堆積層を確認した¹⁾。また 18 箇所、遺構や遺物包含層を確認した。以下、エリアごとに報告する。

本殿北東部（図 52・53） 計 6 地点において近世の遺物包含層と遺構を検出した。本殿の北辺と東回廊付近では地山を確認した。また本殿北東角から東門の範囲では、下層に河川堆積を確認した。

No.9 地点では、GL-0.21m で黒色シルト、-0.28m で灰黄褐色微砂、-0.35m で褐色礫混じり砂泥を切って黒褐色シルトの時期不明土坑 2 基が成立、-0.48m 以下で灰黄褐色～灰黄色の砂礫または粗砂の河川堆積を確認した。土坑内からは、土師器皿（時期不明）の破片が出土した。No.10 地点では、GL-0.16m で黒褐色砂泥、-0.27m で黒褐色泥土の近世包含層、-0.4m 以下でにぶい黄色砂礫の河川堆積を確認した。近世包含層からは、土師器皿（17 世紀）の破片が出土した。No.14 地点では、GL-0.13m で黒褐色シルト、-0.22m で灰黄褐色砂泥を切って江戸時代の漆喰溝、-0.36～-1.07m で浅黄色砂礫の地山を確認した。地山上面では、黒褐色泥土もしくは同色泥砂を埋土とする時期不明の土坑を 2 基検出した。No.17 地点では、GL-0.1m で黒褐色シルト、-0.18m で暗褐色砂泥の近世包含層、-0.27m で灰黄褐色泥土、-0.39m でにぶい黄橙色微砂、-0.52m 以下で浅黄色細礫混じり粗砂～灰黄色細砂の河川堆積を確認した。近世包含層からは、土師器皿（近世）の破片が出土した。No.20 地点では、GL-0.12m で黒褐色粘質土、-0.27m で明黄褐色粗砂、-0.34～-0.77m でにぶい黄色粗砂の河川堆積を確認した。河川堆積の上面では、時期不明のピットを 1 基検出した。ピットの直径は 0.4 m 以上、最大深度は 0.5 m を測る。No.23 地点では、GL-0.07 m で黒色微砂混じりシルトブロックとオリーブ褐色微砂混じりシルトブロックが混合する近世包含層、-0.25 m で黒色微砂混じりシルト、-0.4～-0.7 m でオリーブ褐色微砂混じりシルトの地山を確認した。近世包含層の下層では、暗オリーブ褐色粗砂混じりシルトを埋土とする近世の土坑を 1 基検出した。土坑内からは、土師器灯明皿の破片が多数出土した（図 54- 1～3）。

本殿西部（御土居裾）（図 52・53） 御土居の裾部に近い No.24 地点では、GL-0.32m で浅黄色細砂の近世包含層、-0.41～-0.48m で黒褐色シルトを確認した。包含層からは、土師器皿と伏見人形（形状不明）の破片が出土した。紅梅殿付近に位置する No.40 地点では、GL-0.31～-0.66m で極暗褐色粘質土の近世包含層を確認した。層内からは、土師器皿と伏見人形の破片が出土した。

御土居斜面（図 53） No.28～34 地点は、御土居東側斜面に相当する。No.28・29 地点では、GL-0.21～-0.6m で径 1～3 cm の礫を含む褐色中砂を確認した。非常に固く締まることから、御土居構築土の可能性はある。No.30 地点では、GL-0.19 m で暗褐色粗砂混じりシルト、-0.26 m で締まりの良い黒褐色粗砂混じりシルト、-0.38～0.54 m で黒褐色細砂混じりシルトを確認した。いずれも御土居構築土の可能性はある。最下層から焼締陶器の破片の細片（近世）が出土した。No.31 地点では、GL-0.08m で黒色砂質土、-0.4～-0.57m で黒色砂質土の近世包含層を確認した。包含層からは、土師器皿（16～17 世紀・図 54- 4～8）、灯明皿、伏見人形（狐形）の破片が出土した。No.33 地点では、GL-0.3～0.45m で黒色砂質土の近世包含層を確認した。埋土から土師器

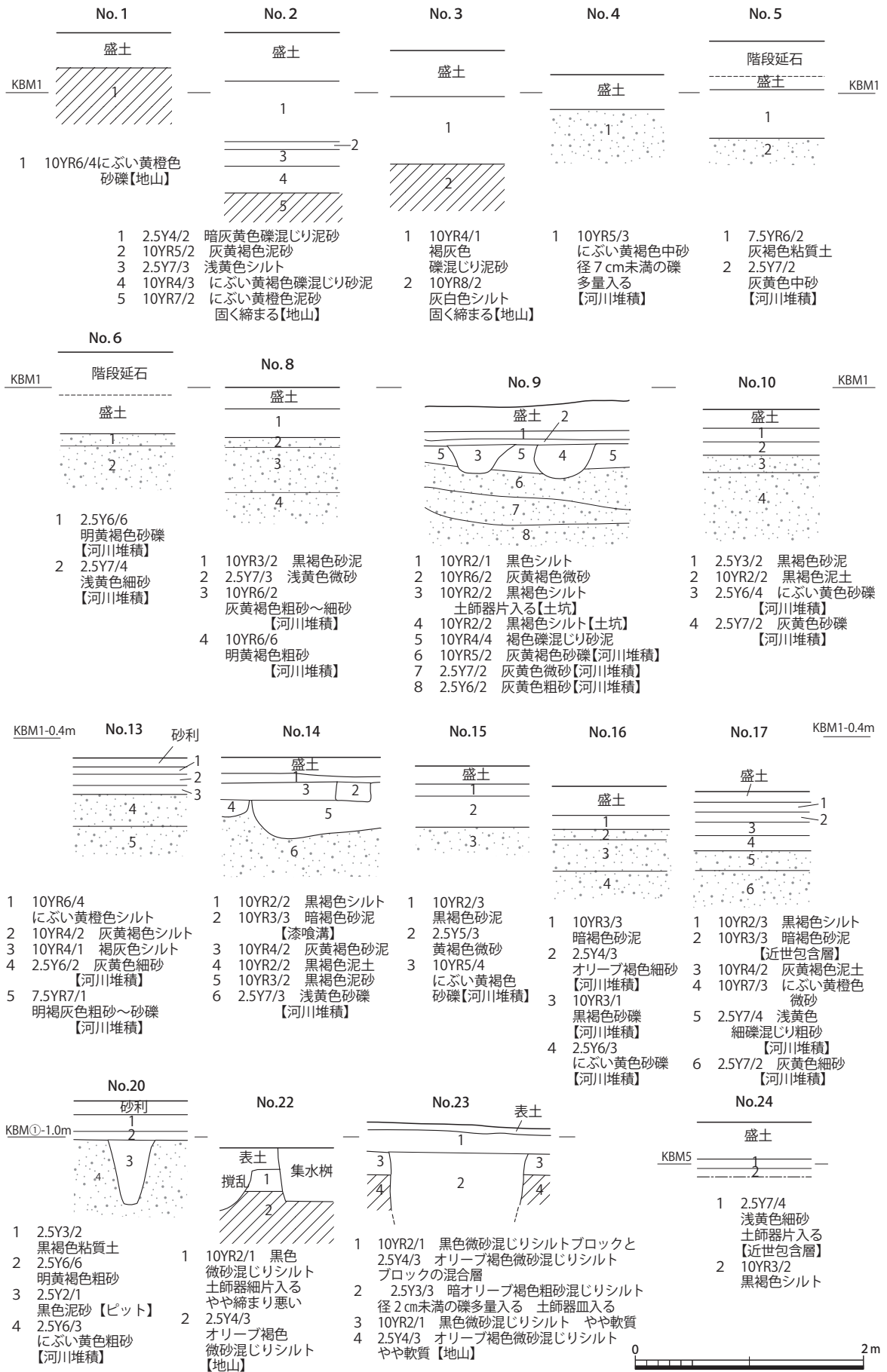


図 52 調査地点断面図 (1) (1 : 50)

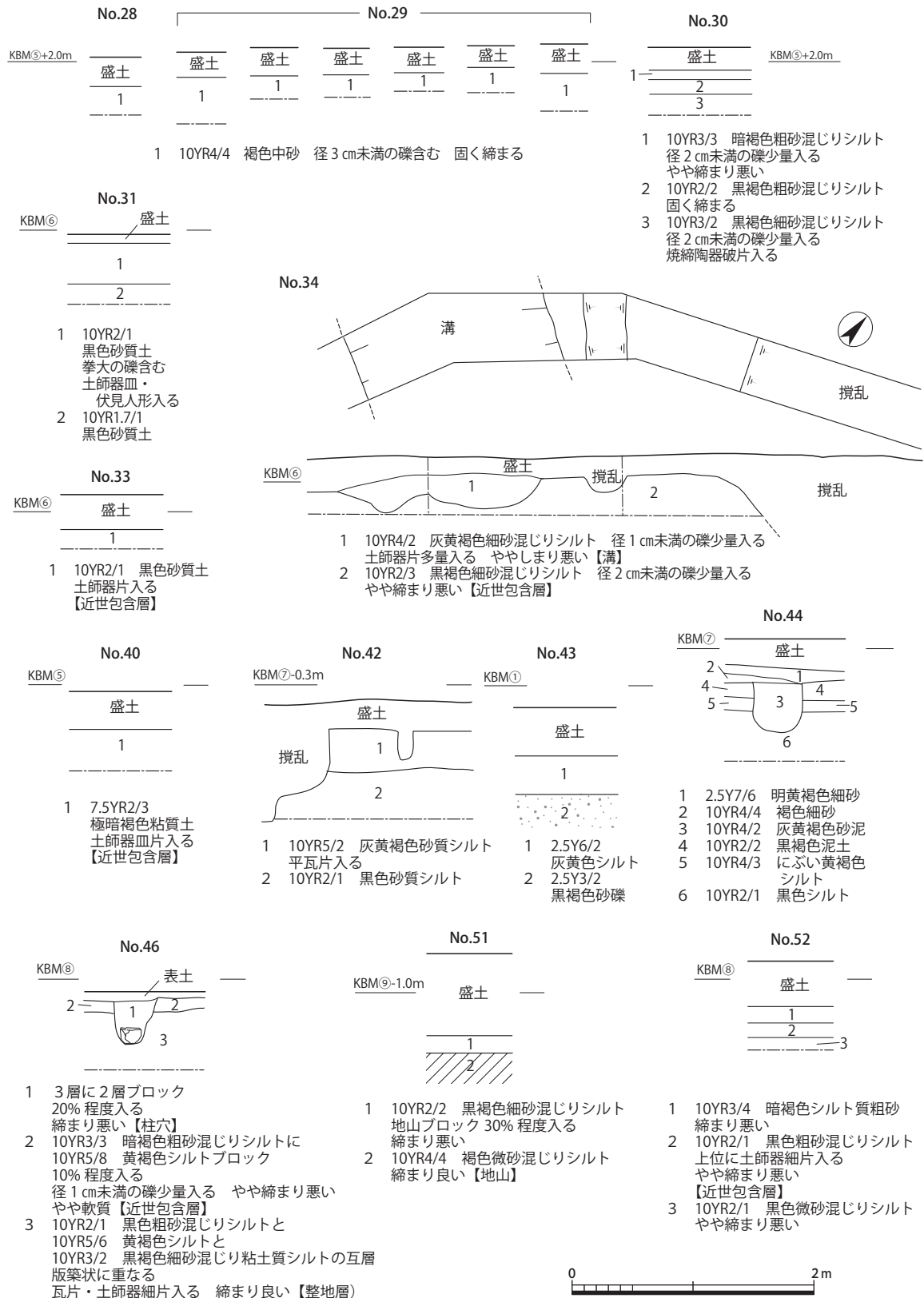


図 53 調査地点断面図 (2) (1:50)

Ⅲ (近世) の破片が出土した。No. 34 地点では、GL-0.15 ~ -0.45 m で黒褐色細砂混じりシルトの近世包含層を確認した。包含層上面では、灰黄褐色細砂混じりシルトを埋土とする溝を検出した。溝は御土居の主軸と直交し、北西—南東方向に続く。溝の最大幅は 1.6 m、最大深度は 0.3 m を測

る。断面形状は不定形で、底面に凹凸が認められる。埋土から、土師器皿（17世紀）と伏見人形（狐・布袋、図54-9～15）の破片が出土した。

本殿南東部（図53）No.42地点では、GL-0.25mで灰黄褐色砂質シルトの時期不明包含層、-0.56mで黒色砂質シルトを確認した。包含層からは、平瓦の細片が1点出土した。凸面に縄目、凹面に布目が残る中世以前の製品である。No.44地点では、GL-0.2mで明黄褐色細砂、-0.28mで褐色細砂、-0.35mで黒褐色泥土の基盤層、-0.47mでにぶい黄褐色シルト、-0.58～-1.0mで黒色シルトを確認した。基盤層の上面で、灰黄褐色砂泥の埋土をもつ時期不明の土坑を検出した。No.46地点では、GL-0.07mで暗褐色粗砂混じりシルトの近世包含層、-0.16m～-0.65mで黒色粗砂混じりシルトと黄褐色シルト、黒褐色細砂混じり粘土質シルトから成る整地層を確認した。整地層は互層を呈しており、版築状に突き固められている。近世包含層の上面では、礎石を備える柱穴を検出した。柱穴の規模は最大径0.35m、最大深度0.35mを測る。周辺にも柱穴と見られる遺構が計3基あり、柱列となる可能性が高い。整地層からは、土師器皿（近世）と平瓦（近世）の破片が出土した。No.52地点では、GL-0.38mで暗褐色シルト質粗砂、-0.52mで黒色粗砂混じりシルトの近世包含層、-0.62～-0.74mで黒色微砂混じりシルトを確認した。包含層からは、土師器皿（16世紀）と甕の破片が出土した。

出土遺物（図54）1～8は、土師器皿である。1・4は小型の皿で、下半部の指オサエが顕著に残る。2・3・5は灯明皿で、口縁に煤が付着する。8は内部底面に圈線がめぐる。16～17世紀の製品である。1～3はNo.23の土坑内より出土した。4～8は、No.31の近世包含層内より出土した。9～15は伏見人形の破片である。9～11は稲荷狐の一部である。9は、本体半身のうち前足と口先、耳、尾以外の部分に相当する。本来は、台座を伴うものである。10は頭部で、

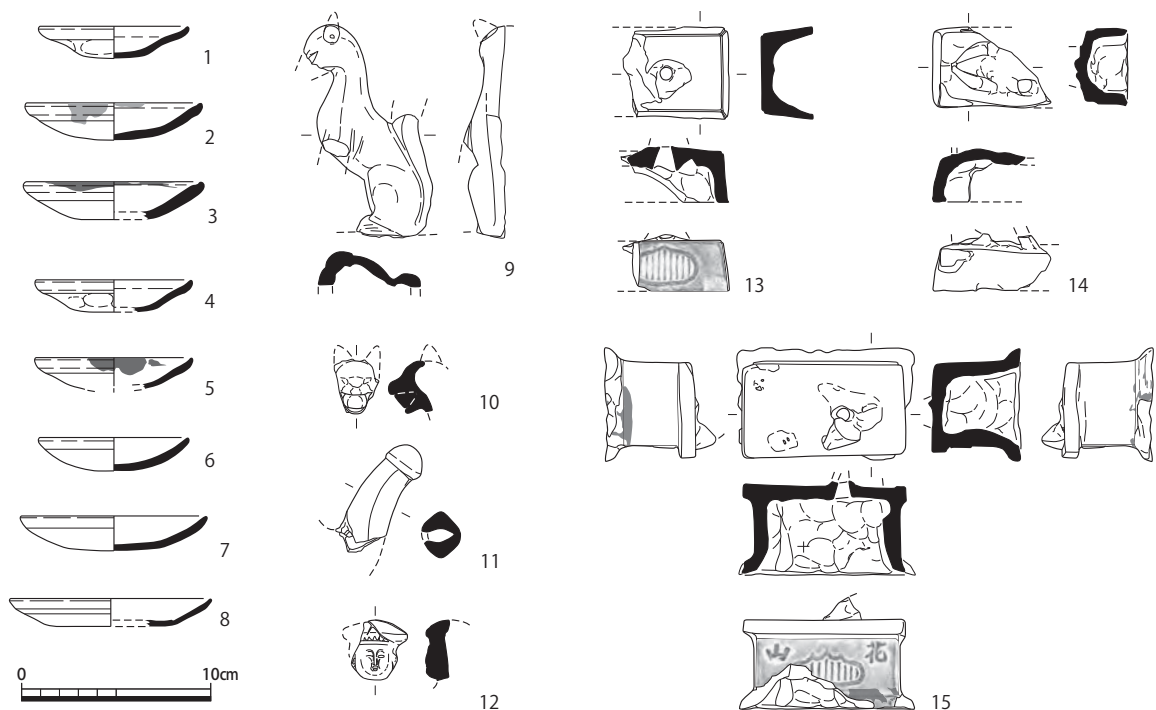


図54 出土遺物実測図（1：4）

口に玉を啜える。11は尾で、中空に作る。12は布袋の顔部分である。13～15は、稲荷狐が座る台座で、大小のサイズがある。いずれも中空で、底面は作られていない。14・15の側面には宝珠形の透かしを象った細工がある。15には「花山」の文字が陽刻される。14・15の上面には、狐の尻と前足2本を接着した痕跡があり、13・15の上面には尻を据える部分に小孔を穿つ。狐本体と台を強固に接着するための造作であろう。9はNo.31の1層から、10～15はNo.34の溝内から出土した。

4. まとめ

以上、北野天満宮境内における詳細分布調査について記述した。これまで北野天満宮境内では大規模な発掘調査が行われていなかったため、今回の調査は境内全域における埋蔵文化財の状況を把握する好機となった。最後に、調査知見より得られた情報を列記して、まとめとしたい。

- 1) 天満宮本殿の周囲に位置するNo.1～3、22、23、51地点では、浅い深度において締まりの良い地山を確認した。現存する本殿の造営は慶長12年（1607年）に遡るが、その段階には安定した地盤が選択されていたことがわかる。
- 2) 境内の北東部に位置するNo.4～6、8～10、13～17、43地点では、河川堆積と見られる砂礫層を確認した。その分布から、北西—南東方向に主軸をもつ埋没河川の存在が推定される。この河川は、層序関係から17世紀にはすでに埋没していたとみられるが、付近の環境復元に際して注目される。
- 3) 御土居斜面では、盛土の直下に固く締まった積み土を確認した。御土居の構築土と見られる。No.34地点では御土居の主軸と直交する溝を検出したが、底面に凹凸があることから排水施設など、流水を伴う施設であったと考えられる。
- 4) 御土居の東斜面と裾部に位置するNo.24、28～31、33、40地点では、16～17世紀の土師器皿、灯明皿、伏見人形がまとまって出土した。この器種組成の意味は明らかではないが、稲荷神の神使である狐形が複数存在することから、御土居付近で祭祀的な行為がなされた可能性がある。

(黒須亜希子)

註

- 1) 盛土・表土のみの確認で終了した調査区 (No.12・18・27・32・35・48・49・57) については報告を割愛した。

引用文献

- 調査① 京都市文化市民局「北野天満宮」『令和5年度 京都市内遺跡試掘調査報告』2024年
- 調査② 京都市文化市民局「試掘調査一覧表」『平成30年度 京都市内遺跡試掘調査報告』2019年
- 調査③ 京都市文化市民局「試掘調査一覧表」『平成25年度 京都市内遺跡試掘調査報告』2015年

IV-4 史跡醍醐寺境内（6N026）

1. はじめに

平成30年9月4日に京都を通過した台風21号の影響により、史跡醍醐寺境内も大きな被害を受けた。特に仁王門東側では多くの倒木被害があった。この場所は中世以降、旧三宝院（灌頂院）と無量光院が所在したことが絵図からわかる¹⁾。

醍醐寺では、その被害木の整理を行うとともに、かつて存在した旧三宝院（灌頂院）や無量光院跡を参拝者に観覧してもらうための整備を計画した。

今回の調査は、台風の影響による危険木約730本の根株切り戻しと、倒木により根が起き上がった約210本の除根を行うため、旧地形の残存状況を確認するための詳細分布調査を行ったものである。



図55 調査位置図（1：5,000）

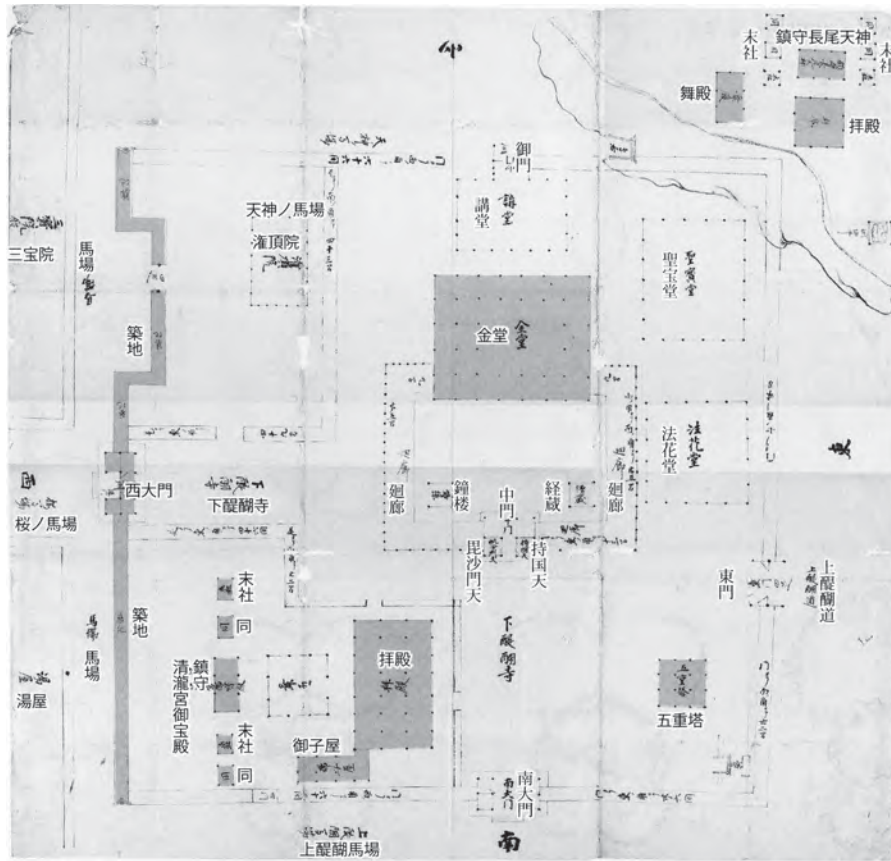


図 56 「下醍醐寺伽藍惣絵図」江戸初期（醍醐寺所蔵）（『史跡醍醐寺境内保存活用計画』から引用）

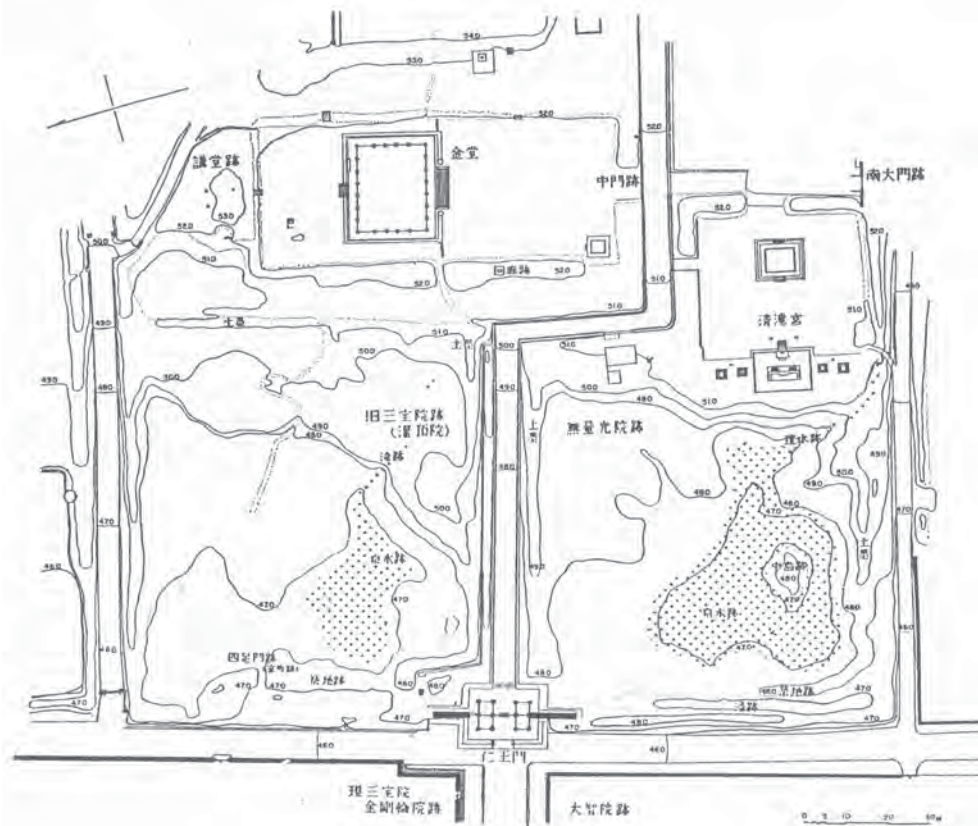


図 57 「無量光院・旧三宝院（醍醐寺）跡地形実測図」
森蘊『寝殿造系庭園の立地的考察』奈良国立文化財研究所、1962年（『史跡醍醐寺境内保存活用計画』から引用）

調査は、2024年12月18日、26日、2025年3月28日に行った。

当該地の現状は、旧地形を良好に残す。

仁王門の北東に位置した旧三宝院（灌頂院）では、東が一段高く西に下がる地形となっている。また、周囲は高い土塁が残る。この地形から、周囲は築地塀もしくは土塀が巡っていたと考えられ、その内側には西に庭園、東に建物が建てられたと考えられる。江戸時代の絵図「下醍醐寺伽藍惣絵図」には周囲の築地塀と灌頂院が描かれており、現在でも当時の地形を良好に残していることがわかる。灌頂院は桁行7間、梁行5間の南北棟建物で描かれているが、現状は東から西に舌状

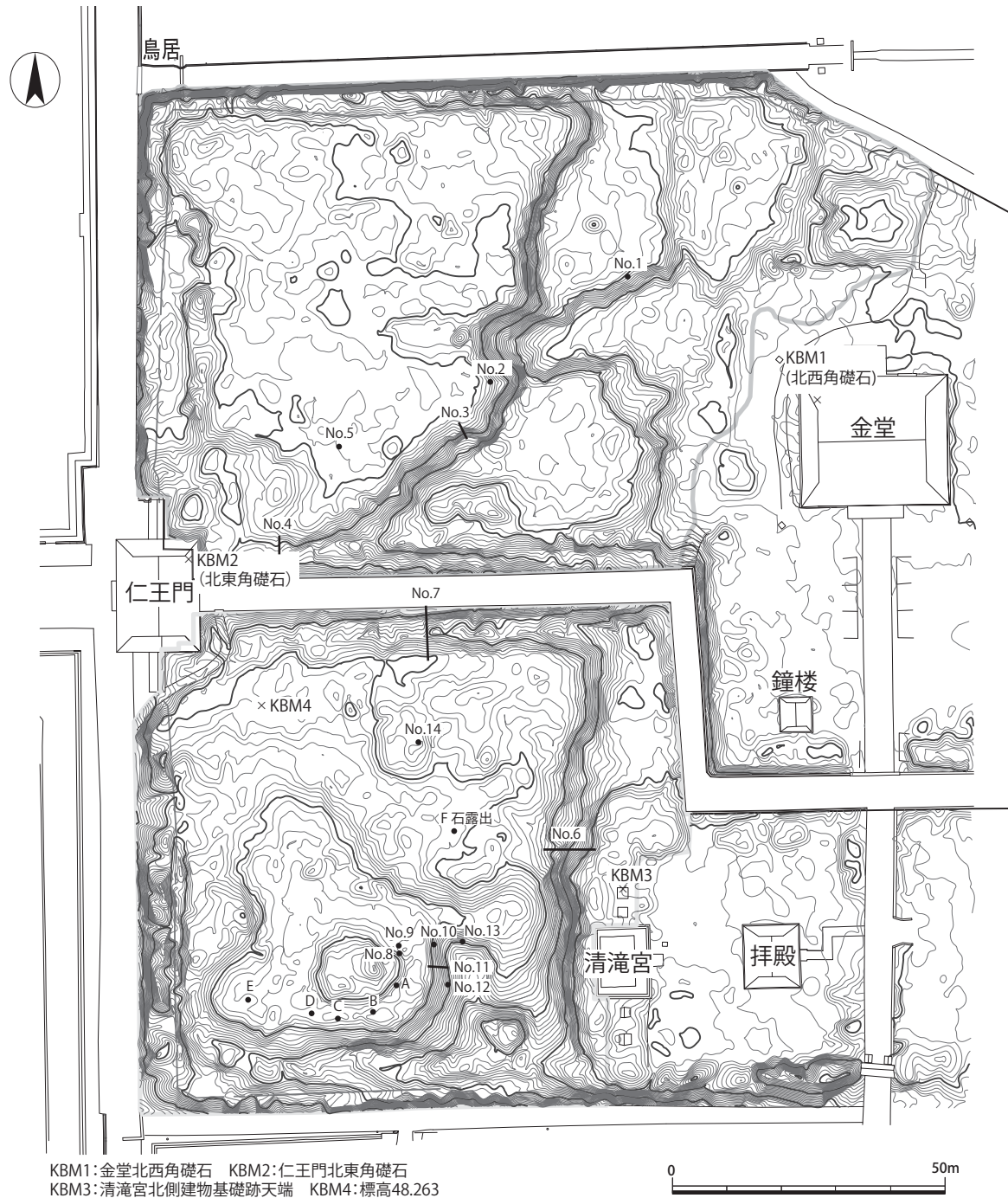


図 58 調査区位置図 (1 : 1,200)

に平坦地がのびており、灌頂院の建物を配置するスペースはない。また、絵図では西門・南門・北門（2箇所）描かれているが、西門想定位置は現在も開口部を視認できるものの、北門と南門については現状ではその場所は特定できない。

仁王門の南東に位置した無量光院では、北東部が高く、南半は低い地形となっている。南半は庭園の痕跡とみられ、中島も現状の地形として良好に残っている²⁾。また、北東部は一段高い平坦地があり、絵図にはみられないが建物があった可能性が高い。

2. 調査成果（図59～66）

調査は、倒木を除根する場所（No.1～14地点）について、断面観察と記録作成を行った。

調査箇所No.1～5は北側の旧三宝院（灌頂院）、No.6～14は南側の無量光院跡での調査である。

No.1 金堂北西部の、南が高く北が低い傾斜部分である。GL-10～20cmの現代盛土の下層で橙色泥紗、灰褐色泥紗、にぶい黄褐色泥砂が堆積する。いずれも積土であるが、遺物が出土していないため時期は不明である。橙色泥紗、灰褐色泥紗はしまりが良く、にぶい黄褐色泥紗はしまりが悪い。

No.2 金堂西方の、東が高く西が低い傾斜部分である。除根が及ぶGL-70cmまで現代盛土であることを確認した。

No.3 No.2の南西へ約10mの傾斜部分である。現代盛土の下GL-20～30cmで明褐色泥砂の積土を検出した。法面底部には、にぶい黄褐色泥砂が堆積するが、積土が崩れてたまった土とみられる。

No.4 仁王門東側に残存する土塁の北法面である。現代盛土直下でにぶい黄褐色泥砂が堆積する。しまりが悪いが築地（基礎）の積土とみられる。法面底部は築地積土がくずれ流れたことにより厚く堆積する。

No.5 仁王門北東の平坦部分である。現代盛土がGL-10cmあり、その下層で明褐色泥砂の中世以前とみら



図59 No.1（西から）



図60 No.3（東から）



図61 No.4（東から）

れる造成土が堆積する。

No.6 清滝宮北側の、東が高く西に低い傾斜部分である。現代盛土が約20cmあり、その下層で褐色泥砂を確認した。12世紀頃の土師器片が出土したことから、平安時代の造成土の可能性が高い。

No.7 仁王門東側の土塁が残存している部分である。除根が及ぶGL-50cmまで近世の盛土であ

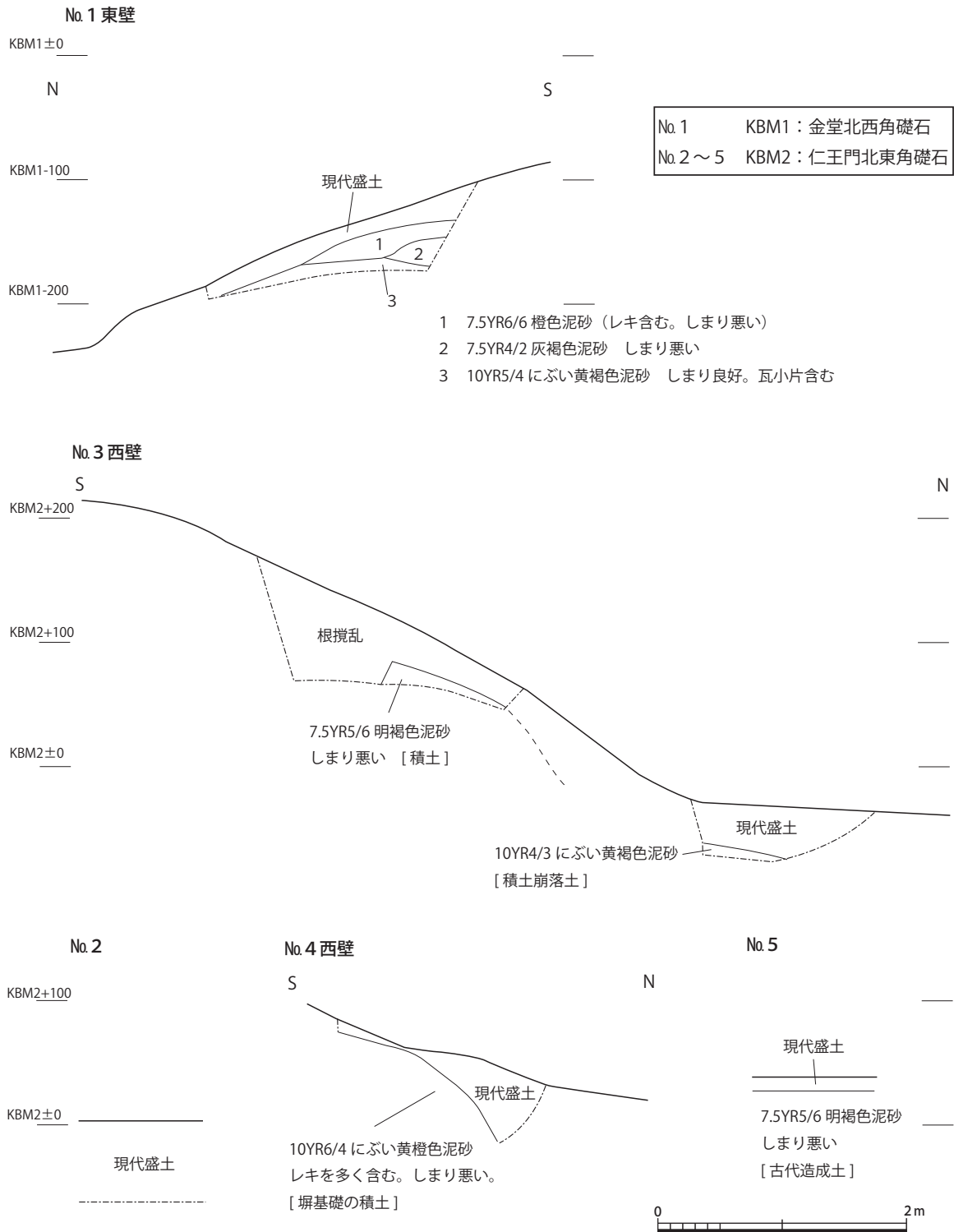


図 62 断面図No.1~5 (1:50)

る。しまりが悪くNo.4地点と同様、築地（基礎）部分の積土とみられる。仁王門から東に延びる土塁は近世に（再）整備された可能性が高い。

No.8 中島状地形の東法面である。現代盛土の下、GL-35cmで褐色砂礫の地山を確認した。人頭大の石を検出したが原位置を保っているわけではない。周辺にも同規模の石が散布しており、庭園に用いられた石材の可能性もある。

No.9 No.8の北約2mの位置である。GL-8cmの現代盛土の下で明黄褐色粘土を検出した。池底に貼った粘土とみられる。

No.10 No.9東側の、東が高く西に低い法面部分である。GL-40cmの現代盛土の下で灰オリーブ色砂泥とオリーブ褐色泥砂を確認した。ともに築山の積土とみられ、灰オリーブ色砂泥は築山最上層の化粧土とみられる。築山積土の下層（GL-65cm）で地山を確認した。

No.11 No.10の南へ約3mの法面部分である。法面中腹は地山が露出している。法面底部には明黄褐色粘土があり、No.9と同様池底とみられる。

No.12 No.11の南へ約3mの法面中腹部分である。GL-17cmの現代盛土直下で地山を検出した。

No.13 No.10の東側へ5m、南が高く北が低い法面中腹部である。GL-20cmの現代盛土直下でNo.10で検出したものと同様の築山積土を確認した。

No.14 No.7の南方で平坦部分に位置する。GL-17cmの現代盛土直下で明黄褐色泥砂を確認した。明黄褐色泥砂層には炭化粒、土師器小片を含む。詳細な時期は不明であるが、No.8～13地点ではみられない。No.14は周辺から約0.8m高くなっており、建物にかかわる整地層もしくは基壇土の可能性もある。周辺には近世以降の瓦が散布するものの、中世以前の瓦はみられない。

No.9やNo.11で検出した明黄褐色粘土をA～E地点で確認した。現存する地形からも池の痕跡が良好に残存している可能性が高い。また、F地点では約50cmの大きな石が露出している。池の景石等に使用されていた可能性もあるが、詳細は不明である。



図 63 No.7（西から）



図 64 No.9（北西から）



図 65 No.11（西から）

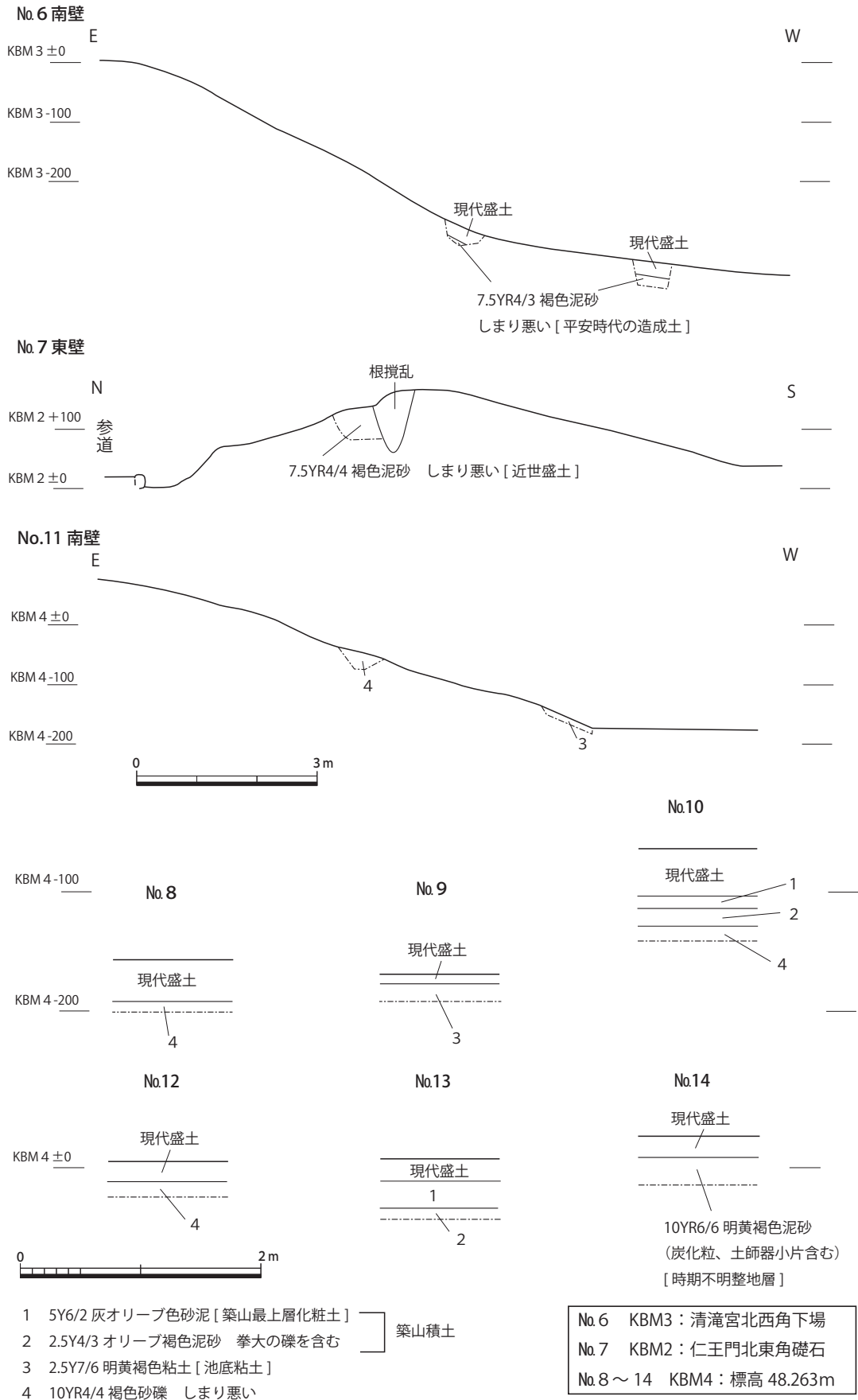


図 66 断面図No. 6 ~ 14 (No. 6・7・11 は 1 : 100 No. 8・9・10・12・13・14 は 1 : 50)

3. 出土遺物 (図67)

No.6 地点の褐色泥砂から土師器皿が4点出土した。

いずれも口縁部が若干内湾する。2は上端部が上方に突出し断面が三角形を呈する。12世紀前半頃とみられる。

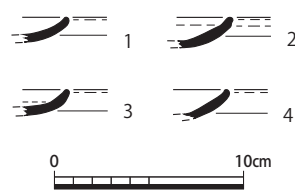


図67 出土遺物 (1:4)

4. おわりに

今回の調査は、除根時の立会調査であり基本的に断面観察を中心とした限定的な調査となった。ただし、現状の地形や絵図とあわせて考えることで、旧三宝院(灌頂院)や無量光院の遺構が良好に残存していること、部分的に近世以降に地形の改変が加えられていることなどが明らかとなった。

現状で旧三宝院(灌頂院)や無量光院の遺構復元を行うと図68となる。

旧三宝院(灌頂院)では、中世以前に遡る土層はNo.5で確認した明褐色泥砂層に限られる。西半の低いところは中世以前の地形が残っている可能性が高い。

東側の金堂に近い場所では古い土層は確認できない。現状では東から西へ舌状に広がる平坦面がある。ただし、この舌状部分は昭和37年の実測図にはなく、現在までの間に盛られたものと考えられる。絵図では、金堂西側に灌頂院の建物が描かれている。舌状盛土の北は平坦地となっており、灌頂院が想定できるが、詳細な位置と規模は不明である。ただし、No.1で時期不明の積土を確認していることから、その時期と範囲を確認することで灌頂院の位置を探る手掛かりになるかもしれない。

無量光院跡ではNo.8~13で遺構面が良好に残存していることが明らかになった。現在の地形からも池や中島が残存している可能性が高いことがわかっていたが、池底に粘土が貼られていること、また、それが非常に浅いところで検出されることが明らかとなった。この粘土層は特に南半の広範囲に分布しており、庭園整備の状況をみてとることができる。ただし、州浜や景石は今回の調査では確認できなかった。

築山については、今回の調査で2層確認し、下層は礫を多く含むしまりが悪い土である一方、上層は礫を含まないことから、化粧土として積まれた可能性が高い。

清滝宮西方は現状の地形から遣り水跡が想定されているが、現代のゴミが堆積しており詳細は不明である。

全体的に平安時代の瓦の散布はみられず、近世以降のものが多く散布する。No.4・7では、近世に築地もしくは土塀がつくりかえられた可能性があり、中世と近世で改変が加えられたと考えられる。

今後、当該地で整備を行う際には、より詳細な調査を行ったうえで絵図を加味し中世と近世の伽藍復元を行う必要がある。

(家原圭太)

註

- 1) 森蘊『寢殿造系庭園の立地の考察』奈良国立文化財研究所、1962年。
- 2) 総本山醍醐寺『史跡醍醐寺境内保存活用計画』2022年。

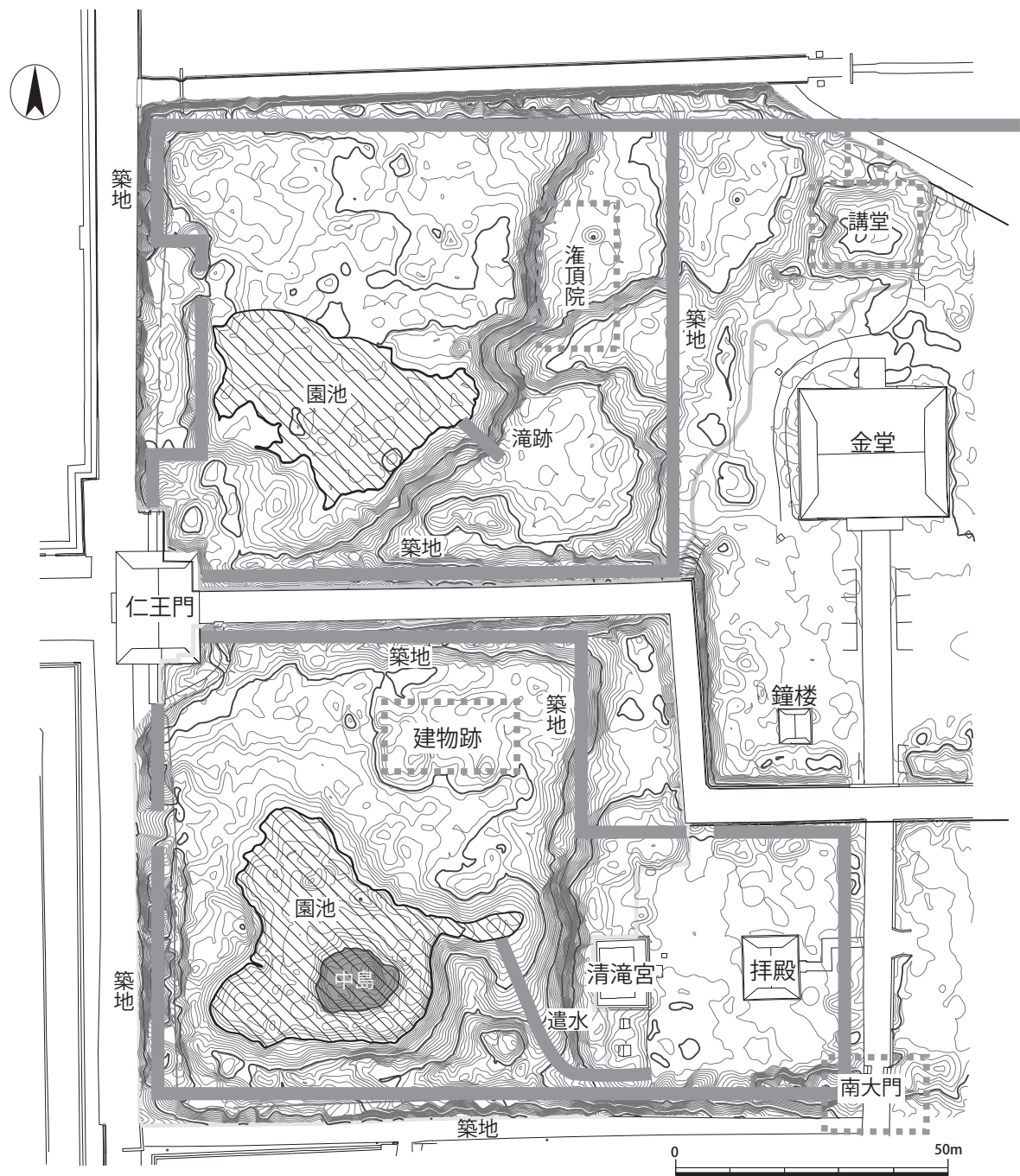


図 68 全体復元図 (1 : 1,200)

IV-5 伏見城跡 (24A009)

1. 調査の経緯と周辺調査 (図69・70)

本件は伏見城惣構跡に係る詳細分布調査である。調査地は伏見区桃山町丹後に位置し、周知の埋蔵文化財「伏見城跡」に該当する。伏見城跡はその城下町の主要範囲を土塁と堀で画す惣構を有し、調査地点の東に隣接する栄春寺には東西方向の土塁が現存している。今回の調査地点も土塁の復元ライン上に位置している¹⁾。

当該地に木造住宅の建設が計画されたが、この工事自体は本市の埋蔵文化財取り扱い基準に基づき、届出が省略された。しかし、本工事の付帯工事として敷地東端に擁壁を設置することとなり、工事が現存土塁の横断面を一部掘削するものであった。近隣住民より工事によって土塁断面が露出しているとの連絡を受けたため、現地確認を行った。その結果、土塁の断面が良好な状態で確認できた。この遺構が伏見城にとって重要なものであると判断し、工事関係者及び近隣住民、栄春寺の協力を得て、緊急で詳細分布調査を実施した。工事は複数段階に分けて実施するものであったため、令和6年12月2日から令和7年2月19日まで計6回の調査を実施した。

2. 近隣調査 (図69・70)

共同住宅新築工事に伴う調査①では、伏見城期以前の平安時代の掘立柱建物や鎌倉・室町時代の土坑などを確認したほか、伏見城の外堀と考えられる堀を確認している。堀の南北の両肩口を

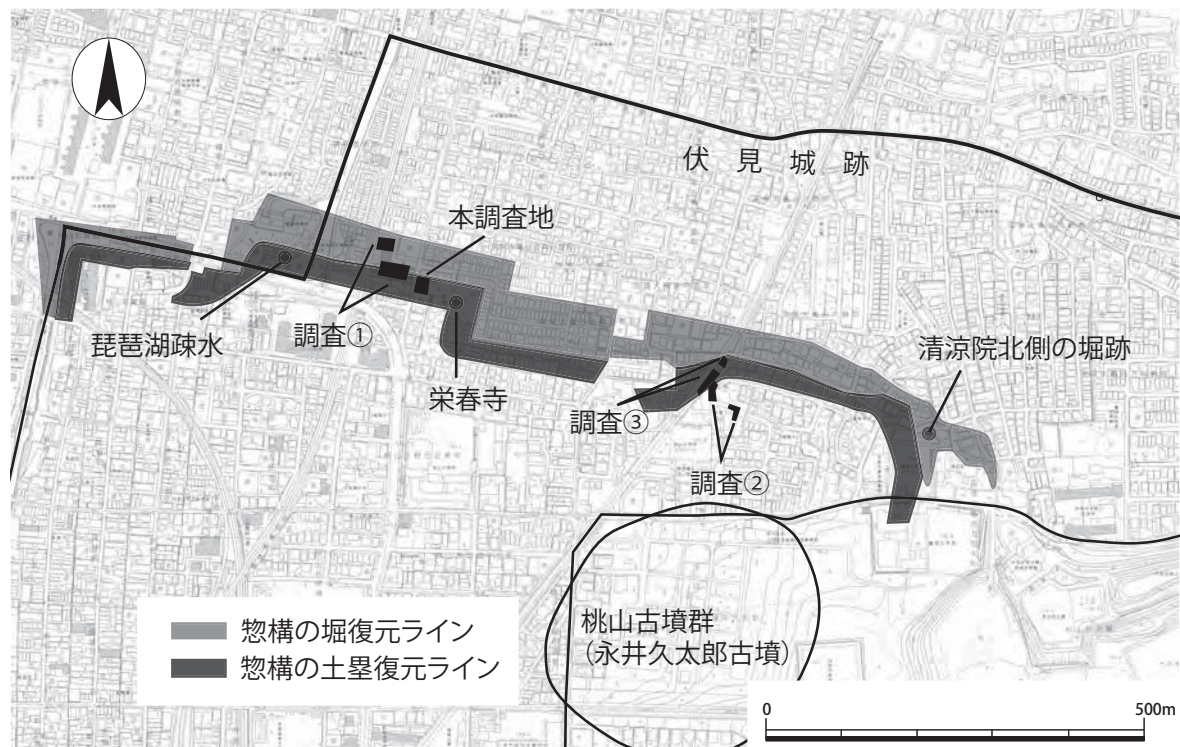


図69 調査位置図 (1:10,000)

確認したことにより、堀幅が約5mであることが明らかとなったほか、深さは3m以上ある。埋土の状況から明治以降に琵琶湖疏水掘削時の土砂をもって埋め立てられていると判断されている²⁾。

調査②では、伏見城期にひな壇造成された整地層と惣構土塁を検出している。盛土の構築状況の詳細が明らかとなったことに加え、土塁の裾部には土滑りの防止による土留め機能の工法がなされていることが明らかとなった³⁾。

調査③では、伏見城惣構の北辺土塁の積土の断面構造を明らかとした。特徴は、積土は異なる土質の土を意識的に選択し積み上げていること。作業効率を考慮して地形に促して地山上面を南下りに成形すること。均した地山上面に整地層を施すこと。整地層の上に土塁の構築土を積み上げることなどの状況が挙げられる。さらに、地山に近い構築土は硬度が固くなっていることや、斜面部では裾部に土留めのための土手状の高まりを設け、構築土を積み上げていることを確認している⁴⁾。

以上のように土塁と堀の規模と構築工程の一部が明らかになっている。

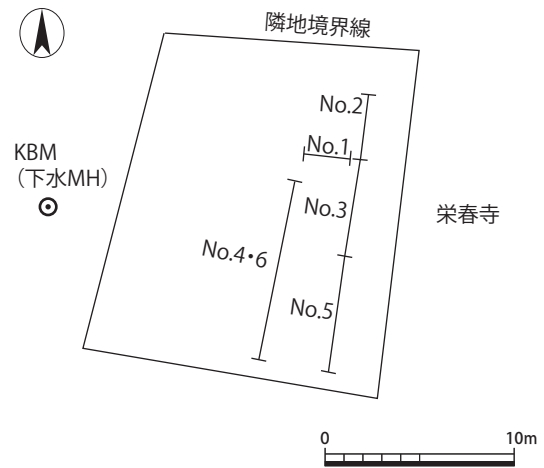


図 70 調査地配置図 (1 : 400)

3. 遺構 (図71)

今回確認した土塁は伏見城惣構えの北辺で、東西方向の延長部を概ね直行方向を確認した。

本調査地の層序は高まりとして残っている土塁の断面のため、KBM からおよそ +4.3 m の高さが頂部であった。

基本層序は、KBM-0.4 ~ -0.45 m で粘土ブロック含む土塁構築以前の整地層 (55・56 層)、-0.45 ~ -1.5 m が地山 (57 ~ 62 層) である。

土塁の構築土は KBM-0.4 ~ +3.5 m までである (1 ~ 53 層)。

土塁 土塁の構築土は大きく 2 段に分けられる。各段には水平堆積 A 群と斜め堆積 B 群に分けられる。

1 段目は 25 ~ 53 層である。層厚は約 2 m の積土である。1-A は 48 ~ 53 層で黄橙色粘質土から灰黄褐色泥砂などの土を主体とし、固く締まる。1-B は 25 ~ 47 層で暗褐色礫混じり粗砂や礫混じり粘質土などからなり、この内、36 ~ 47 層は扁平な土饅頭状に観察できる。

2 段目は A・B に加えて最上層の締まりの悪い土を C 群とする。2 段目は 1 ~ 24 層である。層厚は約 2.2 m の積土である。2-A は 22 ~ 24 層で、粘土質シルトと締まりが緩い細砂ブロック含む粗砂混じりシルトなどが固く締まる。2-B は 5 ~ 21 層で礫混じり砂質土や小礫を含む粗砂混じり粘土質シルトの土が互層状に積まれる。この内、8 ~ 14 層は淡黄色小礫混じり泥砂 ~ 明黄褐色小礫混じり泥砂と黄橙色礫混じり粘質土などの土が互層となり、15 ~ 21 層は礫混じり砂質土や小礫を含む粗砂混じり粘土質シルトの土からなる。また、粗砂混じりシルトに含まれる小礫は少

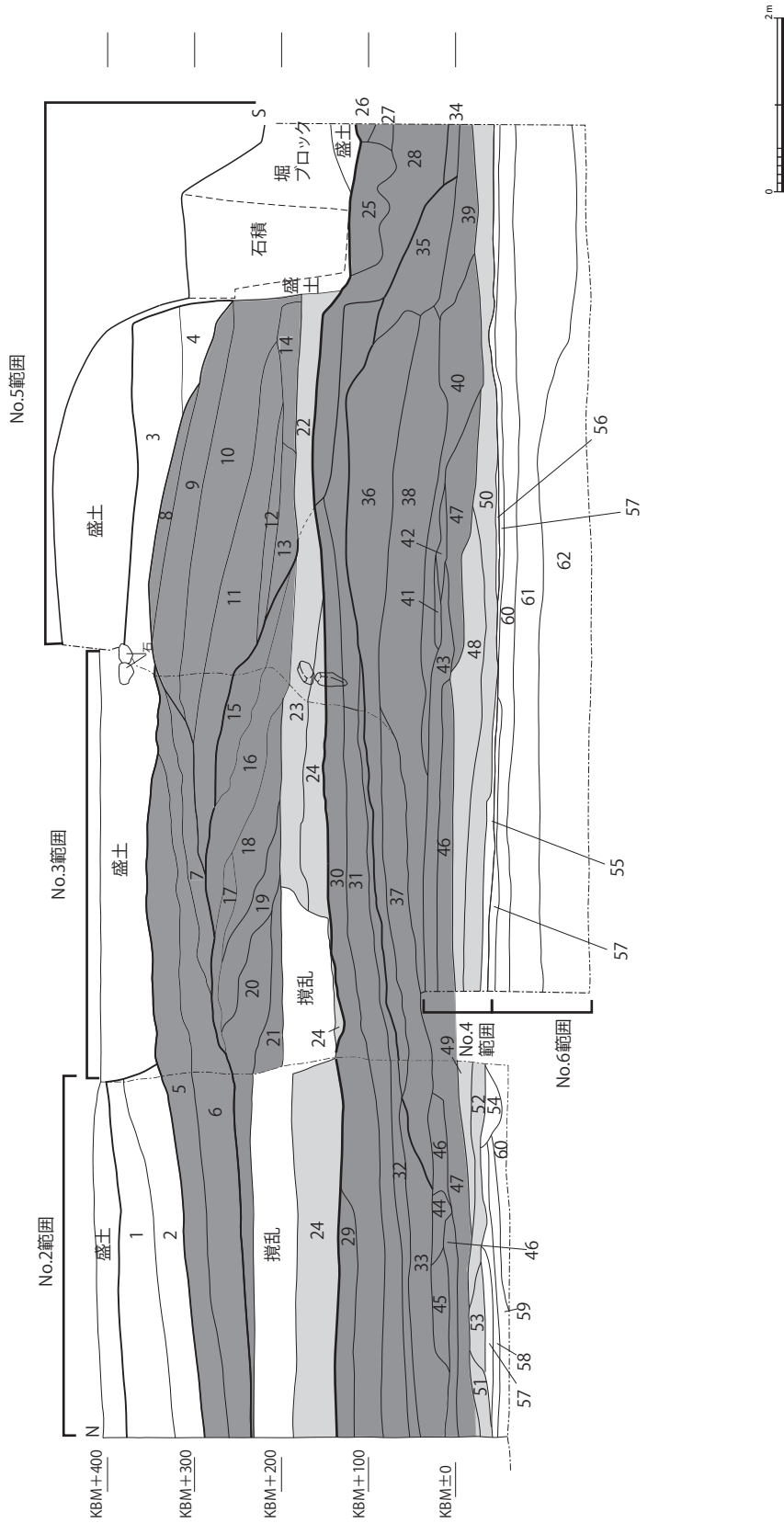


图 71 断面图 (1 : 80)

- 1 2.5Y7/2灰黄色中砂(φ5~10mm礫含む)
- 2 2.5Y7/3浅黄色粘土に2.5Y7/2灰黄色中砂混じる
- 3 10YR5/6黄褐色中砂(締まり悪い)
- 4 2.5Y6/4にぶい黄色細砂にシルトブロック含む(締まり悪い)
- 5 10YR5/6黄褐色中砂
- 6 2.5Y6/4にぶい黄色細砂にシルトブロック含む
- 7 10YR6/8明黄褐色粗砂混じりシルト(φ2cm礫多く入る)(締まり悪い)
- 8 2.5Y8/3淡黄色小礫泥砂質土
- 9 10YR7/6明黄褐色小礫混じり泥砂
- 10 10YR7/4にぶい黄褐色粗砂(粘土ブロック含む)
- 11 10YR6/6明黄褐色礫混じり砂質土
- 12 10YR8/6黄褐色礫混じり粘質土
- 13 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土
- 14 10YR5/8黄褐色泥
- 15 10YR7/6明黄褐色礫混じり砂質土、(礫多く含む、しまり悪い)
- 16 10YR6/6明黄褐色粗砂混じりシルト(φ2cm礫多く入る、締まり悪い)
- 17 10YR4/6褐色粗砂混じり粘土質シルト(φ1cm礫少量入る、やや締まり悪い、一部暗色化)
- 18 10YR4/6褐色粗砂混じりシルト(φ2cm礫多く入る)(10YR7/2にぶい黄褐色粘土含む、やや締まり悪い)
- 19 10YR5/6黄褐色粗砂混じりシルトφ3cm礫少し入る(10YR7/2にぶい黄褐色粘土ブロック少量入る、やや締まり悪い)
- 20 10YR5/8黄褐色粗砂混じり粘土質シルト(φ2cm礫少量入る、やや締まり悪い)
- 21 10YR5/8黄褐色粗砂混じり粘土質シルト
- 22 10YR7/8黄褐色小礫混じり粘質土
- 23 10YR5/8黄褐色粗砂混じり粘土質シルト(固く締まる)
- 24 10YR5/8黄褐色粗砂混じりシルトに
- 25 2.5Y6/6明黄褐色細砂ブロック少量含む(φ3cm礫少量含む、やや締まり悪い)
- 26 10YR3/4暗褐色礫混じり粗砂(礫多く含む)
- 27 10YR6/6明黄褐色礫混じり粘質土
- 28 7.5YR5/8明褐色泥砂
- 29 7.5YR5/4にぶい褐色粗砂(φ5~10mm礫多く含む、固く締まる)
- 30 10YR4/4褐色細砂混じり粘土質シルト(φ2cm礫少し入る、締まり良い)
- 31 7.5YR4/6褐色細砂混じり粘土質シルト(φ3cm礫少し入る、締まり良い)
- 32 10YR4/4褐色礫混じりシルト(φ3cm礫多く入る、締まり良い)
- 33 7.5YR5/6明褐色泥砂(φ3cm礫少量含む)

【土塁構築土】

- 34 7.5YR5/8明褐色礫混じり粘質土
- 35 7.5YR5/6明褐色細砂混じり粘土質シルト(φ2cm礫少し入る、締まり良い)
- 36 7.5YR5/8明褐色粘質土
- 37 7.5YR5/6明褐色細砂混じり粘土質シルト(細砂ブロック入る、締まり良い)
- 38 2.5Y7/6明黄褐色小礫混じり砂質土(固く締まる)
- 39 10YR4/6褐色砂質土(小礫少量含む)
- 40 10YR5/6黄褐色粘質土
- 41 10YR4/6褐色粘質土
- 42 10YR6/8明黄褐色砂質土
- 43 7.5YR4/6褐色粘質土
- 44 7.5YR5/6明褐色粘質土
- 45 7.5YR5/6明褐色泥砂(小礫含む)
- 46 7.5YR5/6明褐色泥砂に7.5YR7/6橙色シルトブロック小礫含む
- 47 10YR7/8黄褐色粘質土
- 48 10YR7/8黄褐色粘質土(固く締まる)
- 49 10YR5/6黄褐色泥砂
- 50 10YR6/6明黄褐色小礫混じり粘質土
- 51 10YR5/2灰黄褐色泥砂(固く締まる)
- 52 10YR5/2灰黄褐色泥砂
- 53 10YR4/2灰黄褐色泥砂
- 54 10YR4/4褐色泥砂、(10YR6/6明黄褐色粘質土ブロック少量含む)
- 55 10YR6/6明黄褐色泥砂(粘土ブロック含む)
- 56 7.5YR4/6褐色砂泥(炭化物含む)
- 57 10YR5/3にぶい黄褐色シルト(旧表土)
- 58 10YR6/3にぶい黄褐色粘質土
- 59 10YR4/2灰黄褐色粘質土
- 60 7.5YR5/6明褐色シルト~細砂(土壌化)
- 61 7.5YR5/6明褐色シルト~粘土
- 62 10YR6/6明黄褐色砂礫(シルト含む)

【土塁構築土】

【土坑】

【整地層】

【地山】

図 71-2 断面図土色

量の層と多量の層または粘土ブロックなどの互層となる。2-Cは1～4層で、径0.05～0.1 cmの礫を含む中砂～シルトブロック含むにぶい黄色細砂の土で締まりが緩い土が堆積する。2-Cは締まりが緩く、土質の粒子が粗いことから後世の影響を受けていると考えられる。

以上の観察から、水平堆積と斜め堆積の地層の核を一工程とし、その工程を2段確認することができた。2-Cについてはしまりが悪く現代の影響を受けている可能性があるため、判断は保留とする。

4. まとめ (図72・73)

今回の調査で伏見城惣構土塁の構築状況が明らかになった。土塁の構築について、以下のような手順で構築される。

- ①：地山上面に整地層をほどこす。
- ②：その整地層上面に固く締まる土を水平に構築し、基底部を築く (1-A)。
- ③：固く締まる斜め堆積及び土饅頭状の核を構築する (1-B)。
- ④：③の上部に土質の異なる土を互層に水平に積む (2-A)。
- ⑤：④の水平堆積の上面に礫の量が異なる土やブロックを含む土で斜め堆積や土饅頭状の核を構築する (2-B)。

②・③の工程を一工程として1段目を築き、④・⑤でさらに同じ工程で積土し、2段目を構築する。

全体的に土塁の土質は上層に使用される中砂や粗砂に比較すると、下層は粘質土や粘土質シルトなど固く締まり、粘質土の強い土を多く使用している。一方上層の土は土質は緩いものの、粘質土と砂質土などの土質が異なる土を入れることや、同じ粘土質シルトであっても、含まれる礫の量が異なるものの互層となっており、土質や礫の量の異なるものを選んで構築していると考えられる。

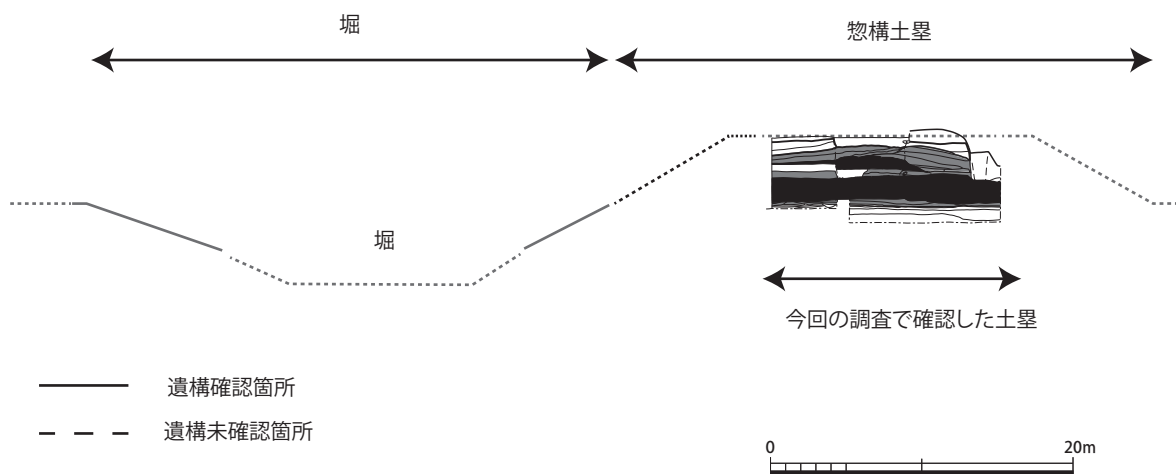


図72 土塁と堀のエレベーション図 (1:500)

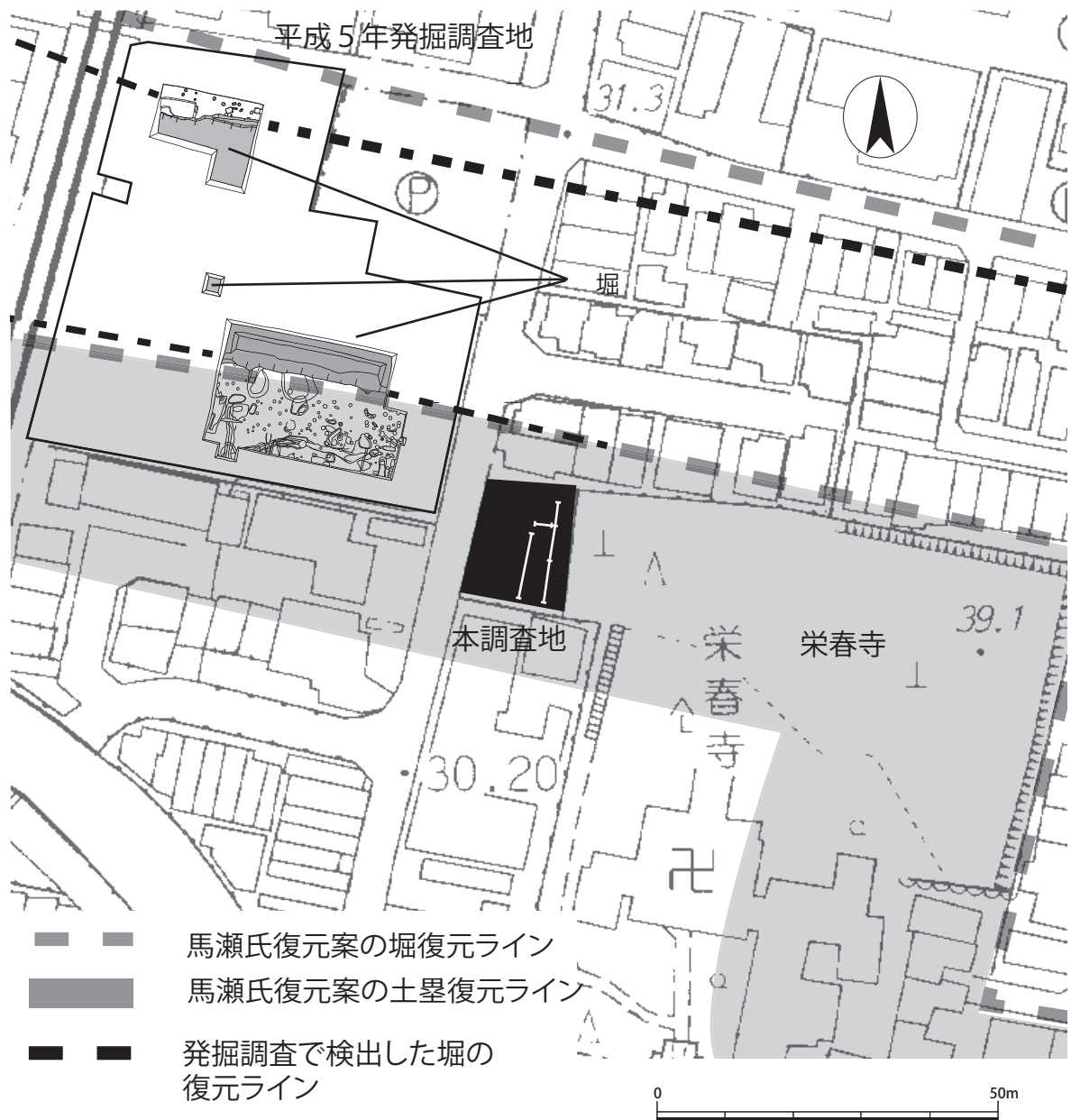


図 73 本調査地・調査①・復元案の位置関係図 (1 : 1,000)

さらに今回は水平堆積と斜め堆積の工程を2段確認でき、少なくとも2段以上の工程で土塁を構築していることが明らかとなった。また、1段目と2段目の層厚はいずれも約2mであったことから、一工程の高さの目安などがあった可能性が考えられる。

また、今回の調査地と西側の調査①の調査配置図を伏見城の復元案¹⁾と照合すると図73のようになる。調査①は土塁推定地に位置するものの、土塁は後世の削平を受けており、調査では確認には至っていない。しかし、堀の検出位置について北肩口は湾曲する箇所も見られ若干検討が必要となるが、南肩口については復元案とほぼ同位置で確認されている。今回の調査地は土塁の中央付近に位置する。

また、東に隣接する栄春寺の土塁は後世にほとんど改変されることなく、その上面に墓地が造営され現在に至っている。今回確認した土塁断面の地表面は栄春寺の墓地とほぼ同じレベルであ

ることから、遺存状況が極めて良好である。さらに、調査①で堀幅も明確となったことから、土塁と堀の規模が再確認できることとなった。

今回の調査で東西方向の土塁に対し、直行する位置で土塁の構築状況を確認することができた。限られた数しかない現存する土塁の断面状況が確認できたことに加え、土塁の基底部などの確認事例は多くあるものの、現状 4.3 m以上の高さがある土塁断面を記録できたこと。調査②・③と同様に土質の異なる土で構築する状況が一致したこと。さらに構築に伴う一工程が繰り返して行われていることが明らかとなり、大きな調査成果を得た。

今回の調査のきっかけを作っていたいただいた近隣住民の方、お話を聞かせていただいた栄春寺の方々、工事関連業者の方々のご協力があって、伏見城期の土塁の調査成果を得ることができた。本件のように届出の提出が省略されるものであっても、重要な遺構が失われかねないこともあり得る。日頃の工事立会調査と合わせて、周辺の遺構の状況確認にも注視する必要がある。

(清水 早織)

註

- 1) 馬瀬智光「天下人の城」『京都市文化財ブックス』第31集。
- 2) 調査1：古代文化調査会 平成5年度終了報告。
- 3) 調査2：柏田有香『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-17。
- 4) 調査3：中谷正和『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2017-3。

IV-6 長岡京左京三条三坊九・十六町跡（24NG147）

1. はじめに

本件は、宅地造成に伴う詳細分布調査である。調査地は伏見区久我西出町に位置し、西側には西羽東師川が流れる。周知の埋蔵文化財包蔵地「長岡京跡」に該当し、条坊復元図によると、左京三条三坊九・十六町跡、東三坊坊間東小路東西側溝及び二条大路南側溝が比定される。

周辺では、調査地南側で複数の発掘調査が実施されている（図74）。調査1¹⁾・調査2²⁾・調査3³⁾では、長岡京跡の東三坊坊間東小路西側溝と考えられる南北溝が検出されている。また、調査4⁴⁾では長岡京期の建物跡、弥生時代～古墳時代の流路跡が確認されている。



図74 調査位置図（1：5,000）

調査地において、道路拡張及び擁壁設置工事部分に対して令和6年8月13～15日に試掘調査を実施した結果、古墳時代初期の流路跡を確認したのみである⁵⁾。ただし、計画面積が広大であることから、補足のための工事施工時の詳細分布調査を実施することとなり、令和7年3月7日から4月22日に調査を実施した。

2. 遺構・遺物

調査はNo.1～7地点で実施した（図75）。その結果、No.5地点において、長岡京跡の東三坊坊間東小路西側溝の可能性が高い南北溝を確認した。遺構を確認したNo.4・5地点について報告する。

No.4地点（図76） 基本層序は、盛土以下、GL-0.2～-0.5mでにぶい黄橙色泥砂や浅黄橙色粘質シルトなどの旧耕作土、-0.5mで灰オリーブ色粘質シルトの旧耕作土、-0.6mで灰色砂質土の基盤層となる。基盤層を切り込むオリーブ黒色粘質土の落込みを確認した。落込みは深さ約0.2m、幅5.6m以上を検出し、No.4地点の掘削範囲よりも東へ続いている。しかし、東側のNo.5地点ではこの土層が確認できないことから、流路跡とも考えられる。

No.5地点（図76） 基本層序は、盛土以下、GL-0.2～-0.6mでにぶい黄橙色泥砂や浅黄色砂泥などの旧耕作土、-0.8mで灰白色砂質土の基盤層となる。基盤層を切り込んで溝や落込みを確認した。溝は、調査地点の平面では確認できなかったが、北東壁と南西壁で椀状の形をした遺構を検出し、南で西に振る南北方向の溝と確認できた。幅1.2～1.4m、深さ約0.2mで、埋土は黄灰色粘質土の単層である。埋土からは遺物は出土しなかったが、東三坊坊間東小路西側溝と考えられる。

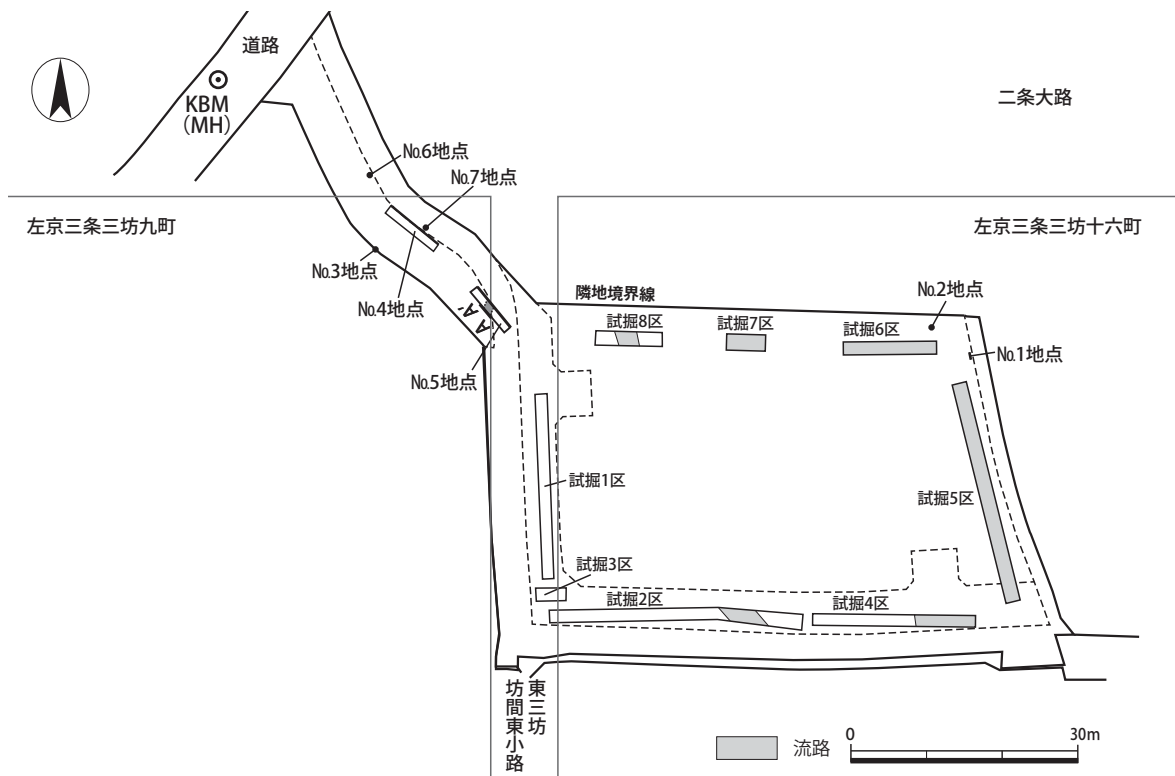


図 75 調査区配置図 (1 : 1,000)

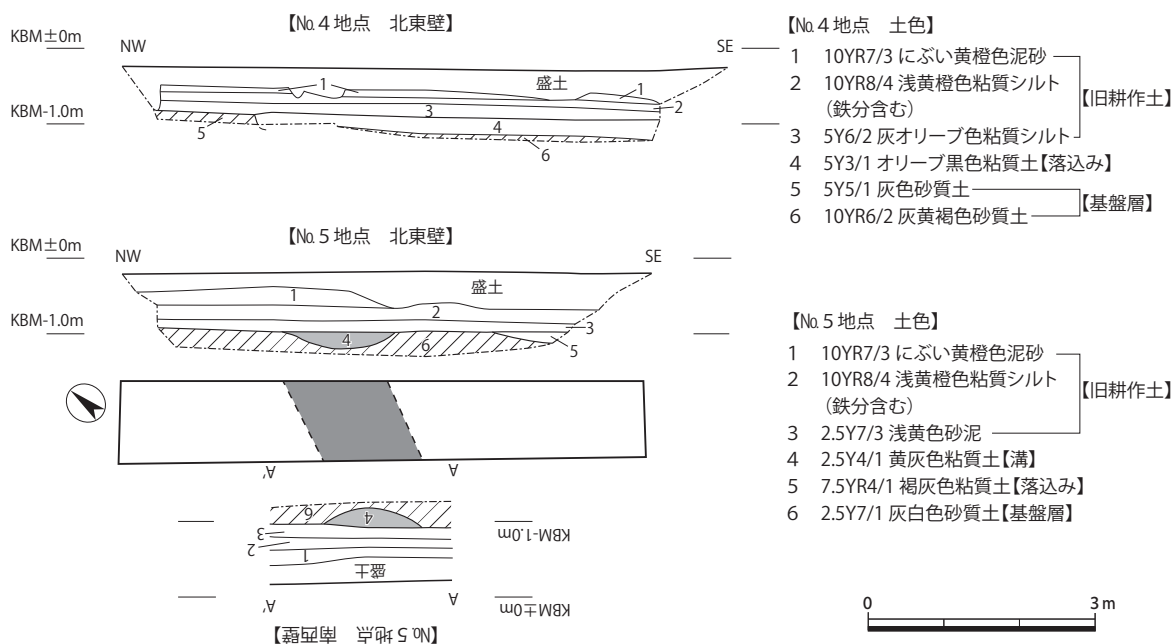


図 76 調査区断面図 (1 : 100)

3. まとめ (図77)

今回の調査では、No.5 地点において、幅 1.2 ~ 1.4m の南北溝が確認できた。この南北溝は、調査 1 ~ 3 の東三坊坊間東小路西側溝との位置関係を落とした図 77 でみると、その延長上にあたることや、調査 1 ~ 3 で確認された溝の幅が 0.8 ~ 1.3 m で埋土が粘質土やシルトと似ていることから、若干西に振っているが東三坊坊間東小路西側溝と考えたい。また、旧耕作土等の影響により、

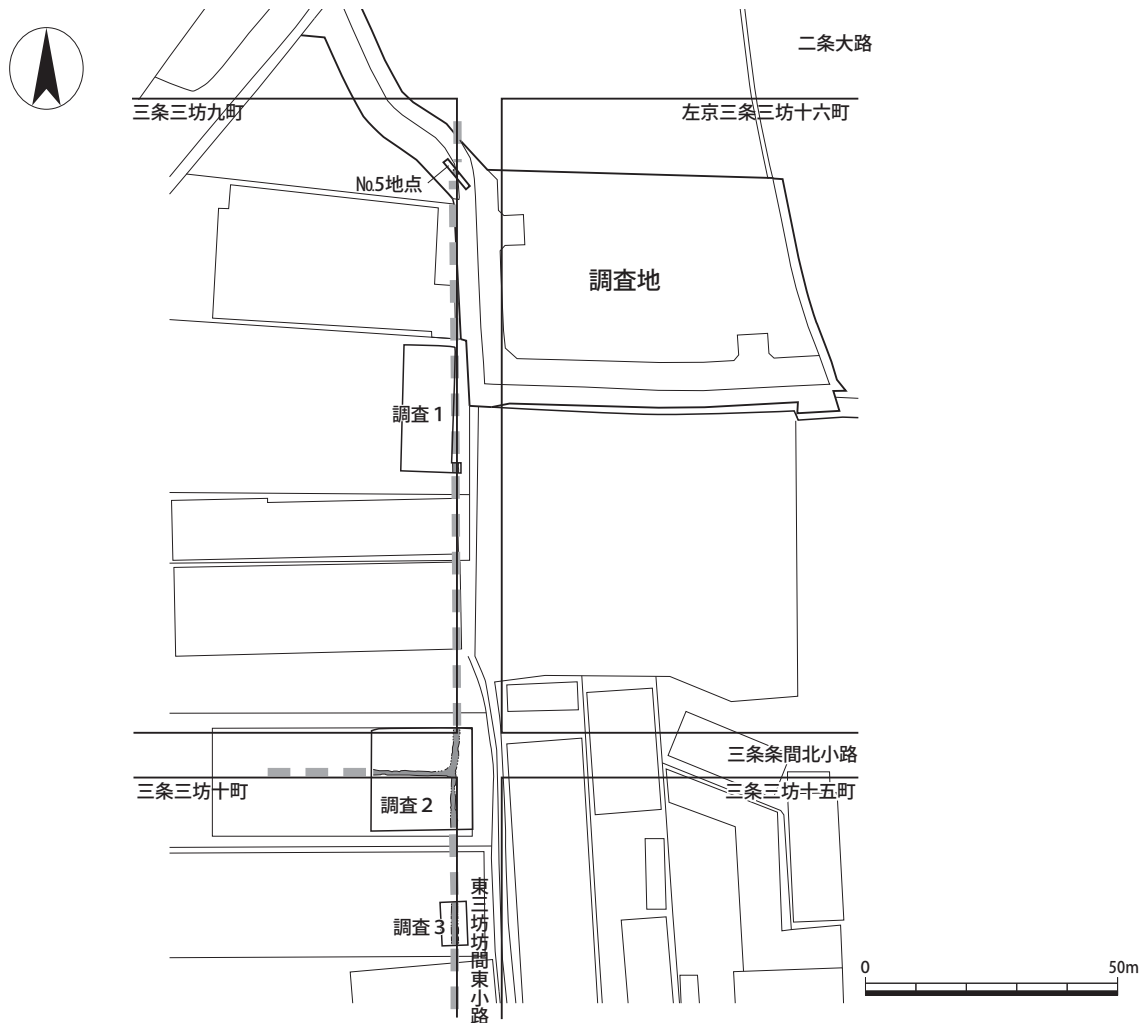


図 77 調査地周辺との条坊側溝位置図 (1 : 1,500)

その他の条坊関連の遺構は確認できなかった。今回は調査地の南側で検出された側溝との関連で報告したが、離れているが北側でも東三坊坊間東小路に関連する両側溝が確認されているため⁶⁾、今後の北側の調査に期待したい。

(八軒かほり)

註

- 1) 『長岡京左京三条三坊九町跡発掘調査報告書』 特定非営利活動法人平安京調査会、2023年。
- 2) 『長岡京左京三条三坊十町跡・鶏冠井清水遺跡』 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-19、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2013年。
- 3) 『長岡京左京三条三坊十町跡・鶏冠井清水遺跡』 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-3、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2014年。
- 4) 『長岡京左京三条三坊十六町跡』 京都平安文化財発掘調査報告第10集、(有)京都平安文化財、2020年。
- 5) 「調査一覧表」『京都市内試掘調査報告 令和6年度』、京都市文化市民局、2025年。
- 6) 「長岡京跡左京第241・267・268次 向日工区(7ANFWD-2、XKM-2、XYT、WIR-2、WSS-2地区)」、『京都府遺跡調査概報』第51冊、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、1992年。

IV-7 長岡京左京三条四坊九町跡 (23NG434・24NG649)

1. 調査に至る経緯

本件は、倉庫建設に先立つ造成工事（23NG434）と、倉庫建設工事（24NG649）に伴う詳細分布調査である。調査地は長岡京左京三条四坊九町跡に推定されている。

調査地では令和5年度に造成工事に伴う試掘調査を実施している¹⁾。その結果、長岡京期の遺構を検出したため、計画建物の北側では記録保存を目的とした発掘調査を指導し、南側では設計変更による地中保存が計られた。北側の発掘調査では、基盤層上面で長岡京期～中世の遺構を検出している²⁾。

本調査は地中保存が計られた範囲について、適切に遺構が保存されているかの施工状況の確認と、部分的に保護層以深に掘削が及ぶ範囲の記録保存を目的として実施した。

まず、造成計画時に届出された配管設置に伴う調査（調査A）において、時期不明の遺構を検出した（図79-A-No.1地点）。その後、建物計画とともに届出された浄化槽設置に伴う調査（調査B）においても、包含層と遺構を検出した（図79-B-No.1地点）。そのため、これらを報告する。

なお、計画建物範囲については掘削底が保護層上面までに収まり、遺構が保護されている状況を確認した（同B-No.2・3地点）。

造成計画に伴う調査は令和7年2月17日に、建物計画に伴う調査は同年6月2日～7月30日に実施した。

2. 遺跡

各調査地点の基本層序は概ね共通しており、現代盛土以下に旧耕作土、中世包含層、基盤層となる。なお、A-No.1地点では中世包含層は確認できない。同地点ではこの基盤層上面でピット・溝を検出した。また、B-No.1地点では基盤層の上に黄灰色シルトが堆積しており（図80-B-No.

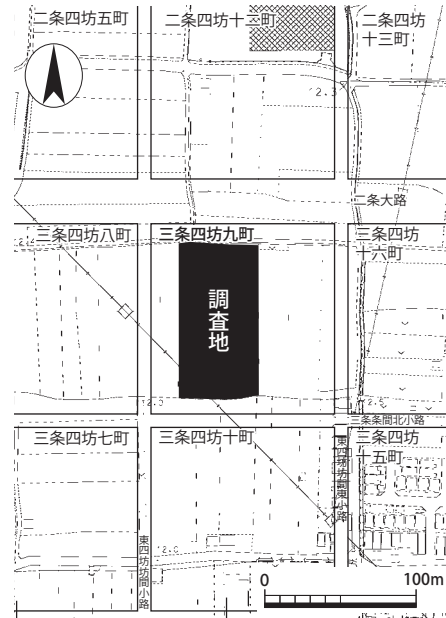


図78 調査位置図（1：5,000）

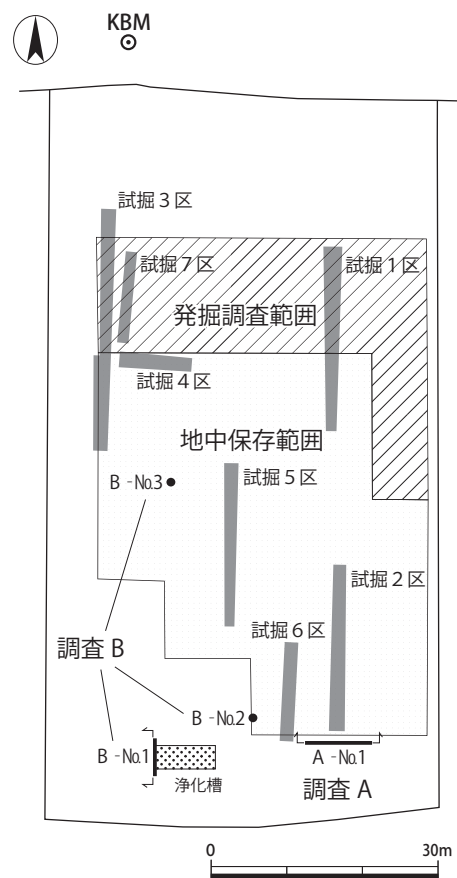
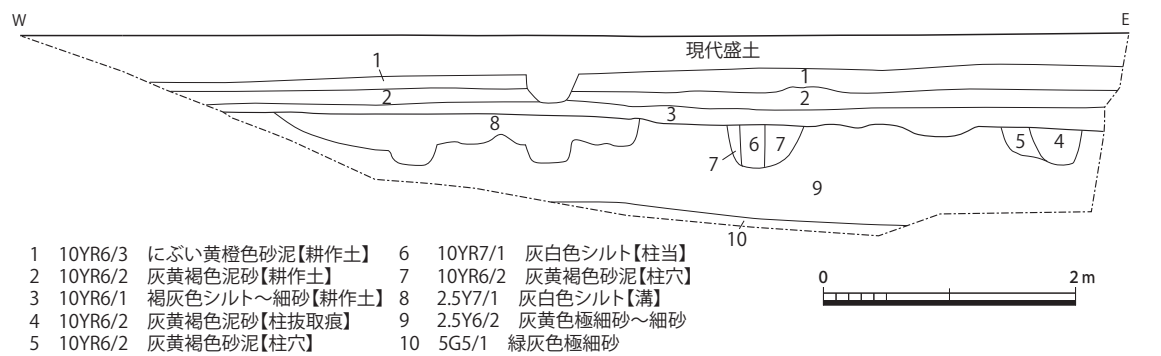


図79 調査区配置図（1：1,000）

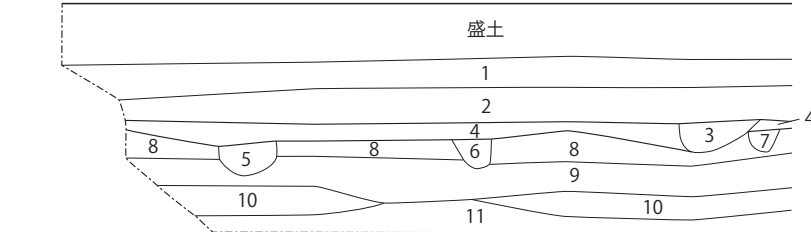
A-No.1 北壁

KBM±0



B-No.1 西壁

KBM±0



- | | | |
|-------------------------------|-----------------------|---------------------|
| 1 10YR6/3にぶい黄橙色砂質土【耕作土】 | 5 10YR5/2灰黄褐色シルト【ピット】 | 9 7.5YR4/2灰褐色微砂～シルト |
| 2 7.5YR5/3にぶい褐色泥砂【中世包含層、耕作土か】 | 6 10YR5/2灰黄褐色シルト【ピット】 | 10 7.5YR6/6橙色シルト |
| 3 2.5Y5/3黄褐色泥砂【ピット】 | 7 10YR5/2灰黄褐色シルト【ピット】 | 11 10BG5/1青灰色微砂～シルト |
| 4 2.5Y4/1黄灰色シルト【長岡京期包含層】 | 8 10YR6/6明黄褐色シルト | |

B-No.2 西壁 B-No.3 西壁

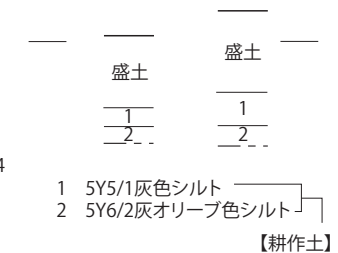


図 80 調査区断面図 (1 : 60)

1 - 4 層、以下長岡京期包含層)、この層から長岡京期頃の遺物がまとまって出土した。なお、長岡京期包含層と、基盤層上面で成立する遺構をそれぞれ検出したものの、いずれも遺物が出土せず時期は不明である。

3. 出土遺物

報告する出土遺物は、全て B- No.1 地点から出土したものである。

1・2は土師器皿である。口縁部のみが残り、内外面は磨耗が著しい。3は土師器甕である。口径 24.2cm、残存高 4.8cm を測る。内外面ともに摩耗しているが、胴部外面に縦ハケがのこる。4～7は須恵器杯 C である。4は口径 13.8cm、4～6は底径 9.6～9.8cm、7は底径 11.0cm を測る。全体に表面が磨耗し、特に7は顕著である。いずれも体部はロクロナデで、高台はケズリ出した後ナデで整形する。4は外面に煤が付着し、7は降灰釉がかかる。8・9は須恵器杯の口縁部である。口径 14.4cm を測る。9は外面に煤が付着する。同一個体の可能性があるが、接点はない。10・11は須恵器杯 A である。10は口径 12.6cm、底径 9.2cm、11は底径 8.4cm を測る。体部はロクロナデで整形し、底部にはケズリを施す。12は須恵器壺である。胴部径 21.6cm、底径 11.6cm を測る。胴部上半はロクロナデ、下半はケズリを施す。高台はケズリ出した後、ナデ



図 81 B-1 地点西壁断面 (東から)

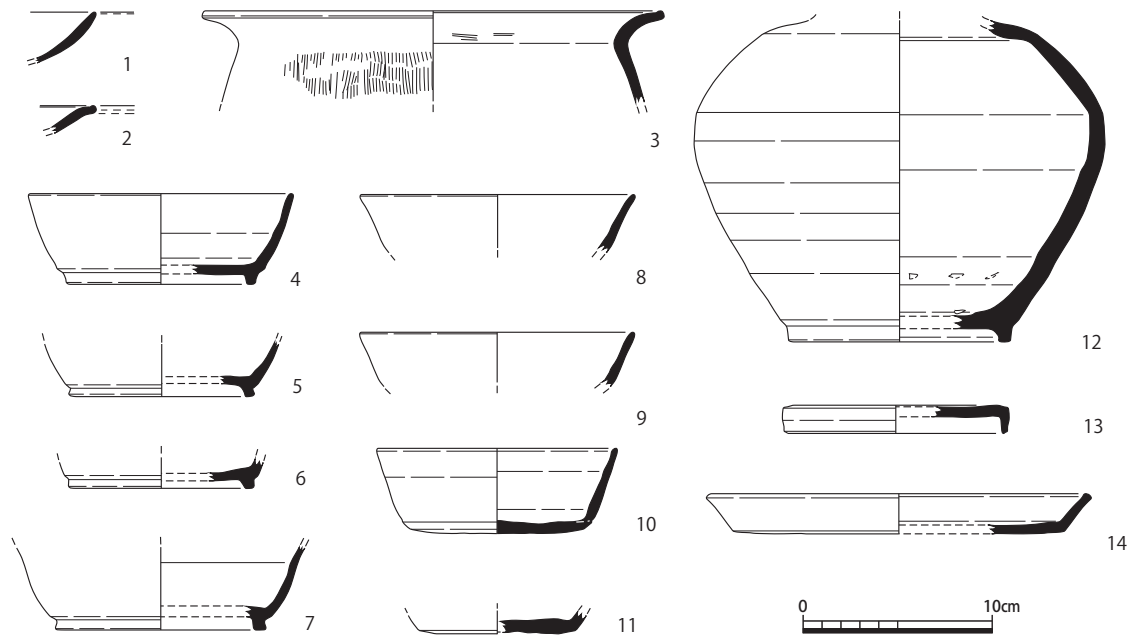


図 82 出土遺物実測図（1：4）

で整形する。13 は須恵器蓋である。口径 11.4cm を測る。14 は須恵器皿である。口径 19.8cm を測る。焼成は不良で、内外面ともに磨耗している。

4. まとめ

今調査では、時期不明のピットと長岡京期頃と考えられる遺物が含まれる包含層を検出した。

同一敷地内で行われた発掘調査では長岡京期の建物が検出されており、同一時期のものとするれば今回の調査地点まで宅地開発が及んでいたことがわかる。調査地における過去の土地活用に関する調査成果を得られた。

包含層については、周辺で行われた既往の調査ではこれに相当する地層を確認していない。その性格については、今後の周辺調査事例の増加を待ちたい。

（佐藤 拓）

註

- 1) 京都市文化市民局「IV 試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 令和6年度』2025年。
- 2) 望月麻佑・興梶千春『長岡京左京三条四坊九町跡』文化財サービス発掘調査報告書第34集、株式会社文化財サービス、2025年。

IV-8 淀城跡 (24S564)

1. 調査の経緯 (図83)

本件は、伏見区淀池上町 133-3 に所在する「淀城の石垣跡」として淀地域に伝わる塚状の土地である。

敷地は元和 9 年 (1623) に廃城を決定した伏見城に代わり、京と伏見を押さえる交通の要衝として築城された「淀城跡」に含まれる。この城郭は、幕府が松平定綱に築城を命じて造られている。定綱は寛永 2 年 (1625) 1 月 11 日に 1 万石を加増され、山城国に就封されており、城の築城は諸侯が分担して行われた。築城に際して、伏見城の殿閣や石垣石材が移されている。寛永 3 年には大御所 (徳川家忠) が淀城に入り、完成を視察している。さらに同年 8 月 2 日には、秀忠と 3 代将軍家光が淀城において対面している¹⁾。

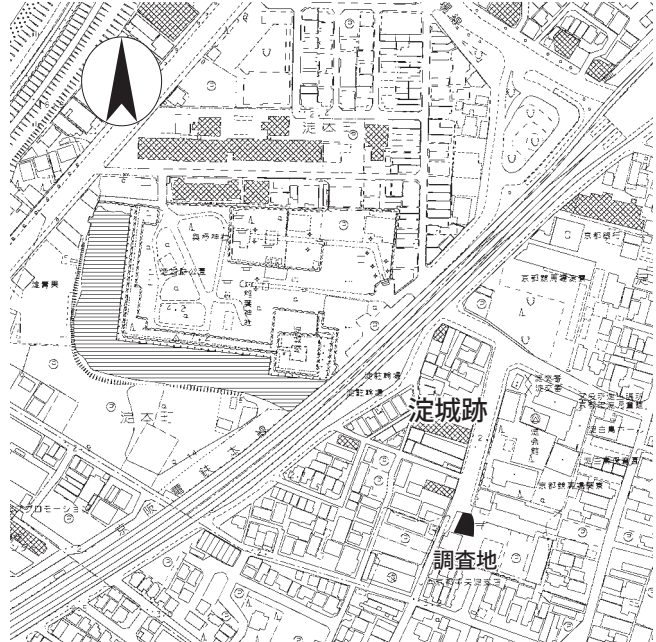


図 83 調査位置図 (1 : 5,000)

当該地は中堀に周囲を囲まれた東曲輪の南端中央部、虎口付近に想定されている。2 代目城主となった永井尚政が寛永 14 年 (1637) に治水対策と武家屋敷の拡張のために木津川を付け替え、中堀と内高嶋を造成しているが、この東曲輪部分は本丸の大手と京街道を結ぶ結節点にあたることから、築城当初から存在したと考える。

周辺では、本丸石垣の修理のために本丸南面石垣と天守台の発掘調査が行われている他、京阪電気鉄道高架化事業などで 90 次以上の発掘・試掘・詳細分布調査が行われており、内堀や中堀に伴う石垣や武家屋敷、蔵跡などの調査成果が蓄積されてきている²⁾。

今回、土地所有者が敷地の用途変更を考え、淀城の石垣と伝わる塚状の高まり (図 84) の解体計画を文化財保護法に基づき届出したことから、解体前にこの塚状の高まりと西辺及び南辺に残る石垣を記録保存するために詳細分布調査を実施した。調査は令和 7 年 2 月 18 日に行った。

2. 遺構

当該地は、西辺が約 13.0 m、南辺が約 6.4 m の略三角形をしており、特に西辺は北から約 7.5 m の所で横矢状に約 1.2 m 西へ張り出している。三角形の長辺である北～東面は、コンクリート及びブロック塀を塚状の高まりの擁壁としている。さらに西辺の北側約 7.5 m の地上部分はかなり新し



図 84 「淀城の石垣跡」全景（北東から）

い石垣であることから、張出部分の石垣について、北面、西面、南面に分けて説明する。

北面石垣【A-A'】（図 86・87） 上端幅 1.5 m、下端幅 1.7 mを確認した。東端で新しい石垣が接続する。現地表面から天端石までの高さは 1.64 mある。石垣の角度は 65 度で、上段 2 石分が反りに相当する。現状 6～7 段確認でき、西端の隅角部は算木積を意識しているものの、門脇石が欠如している段もあり、積み方は雑である。石材は矢穴のある長辺が 0.3～0.8 mの花崗岩を主体とするが、チャートも使用されており、一部はモルタルで固められている。

西面石垣【B-B'】（図 85・86） 上端幅 6.1 m、下端幅 7.5 mである。現地表面から天端石までの高さは 1.64 mある。石垣の角度は 62 度で、上段 2 石分が反りに相当する。現状 6～8 段確認でき、北隅角部に比べ中堀に面する南隅角部の積み方は丁寧である。石材は長辺が 0.3～0.8 mの花崗岩を主体とするが、チャートも使用されており、一部はモルタルで固められている。この面では地上部分のみではあるものの、石垣の積み方を確認することができる（図 85）。中央の南北約 3.0 m、高さ約 1.3 mの正面三角形部分を核（図 85 の中央着色部分）とし、南北の両隅角部（同図の左右着色部）を順に布積みしながら、核と隅角部の隙間について乱積みで積み上げている。なお天端石 1 段分は水平に揃えられており、上部に櫓や門などの構造物があったと想定できる。



図 85 張出部西面石垣（西から）

南面石垣【C-C】(図 86・88) 上端幅 5.2 m、下端幅 6.0 mが地上部分で認められる。現地表面から天端石までの高さは 1.1 ～ 1.64 mある。残存石垣の中央部分に境界柵がある。石垣の角度は 65 度で、上段 2 石分が反りに相当する。石材は長辺が 0.5 ～ 1.2 mの矢穴のある花崗岩が使用されており、現状 3 ～ 6 段確認できる。大半の石材が布積みであり、他面に比べ一つ一つの石材が大きく、間詰石も限定的であり、積み方も丁寧である(図 88)。

3. まとめ

今回、東曲輪の南虎口付近に残存する石垣について調査した結果、地表面下の状況は不明であるものの、石垣の構築方法の一端を解明することができた。

張出部分西面の石垣では、核と南北両隅角部を布積みし、残りを乱積みにしながらも天端部を水平に仕上げしており、上部に建物を意識した石垣であることがわかる。本丸部分を除き、天端石まで残存しているものは淀城跡では存在せず、東曲輪の虎口、つまり淀小橋から孫橋、淀大橋をつなぐ街道(京街道)を曲輪中心部に取り込んだ「東曲輪」(図 89)の築城技術を見る上で貴重である。

中でも、南面石垣の石材は西及び北面よりも大きく一定で、隙間が少ないこと、矢穴のある加工石が布積みされていることなど、地元伝承どおり淀城跡の石垣の姿を良好に残している。これは中堀に面し、京街道から京に入る虎口の正面性を意識したものであろう。さらに、南面石垣を含む張出は、中堀に面する東曲輪の南虎口が江戸時代の絵図面どおりの折れ虎口として機能していたことを示している(図 89)。

また、当該地の塚状の高まりは近年まで過去の土地所有者によって信仰されてきた祠と小規模な森が存在していた。石垣の状況を見ると、石材の補充やモルタルによる間詰めがなされており、積み直しされた部分もあ



図 87 張出部北面石垣(北西から)



図 88 張出部南面石垣(南から)

ることから、数次にわたって大切に修繕、維持管理がなされてきたことを示している。

(馬瀬智光)

註

1) 淀城の歴史については、『徳川実記』の記述をもとにしている。

2) 淀城跡については、京阪本線の高架化事業の他、本丸石垣の修繕、集合住宅建設、社屋建設等に伴う発掘調査により、石垣が確認されている。

江谷 寛他『淀城跡（天守台跡）』（伏見城研究会 2017年）

中谷俊哉『長岡京跡・淀城跡』（『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2021-14』（(公財)京都市埋蔵文化財研究所 2022年）に2021年度までの過去の調査が網羅されている。

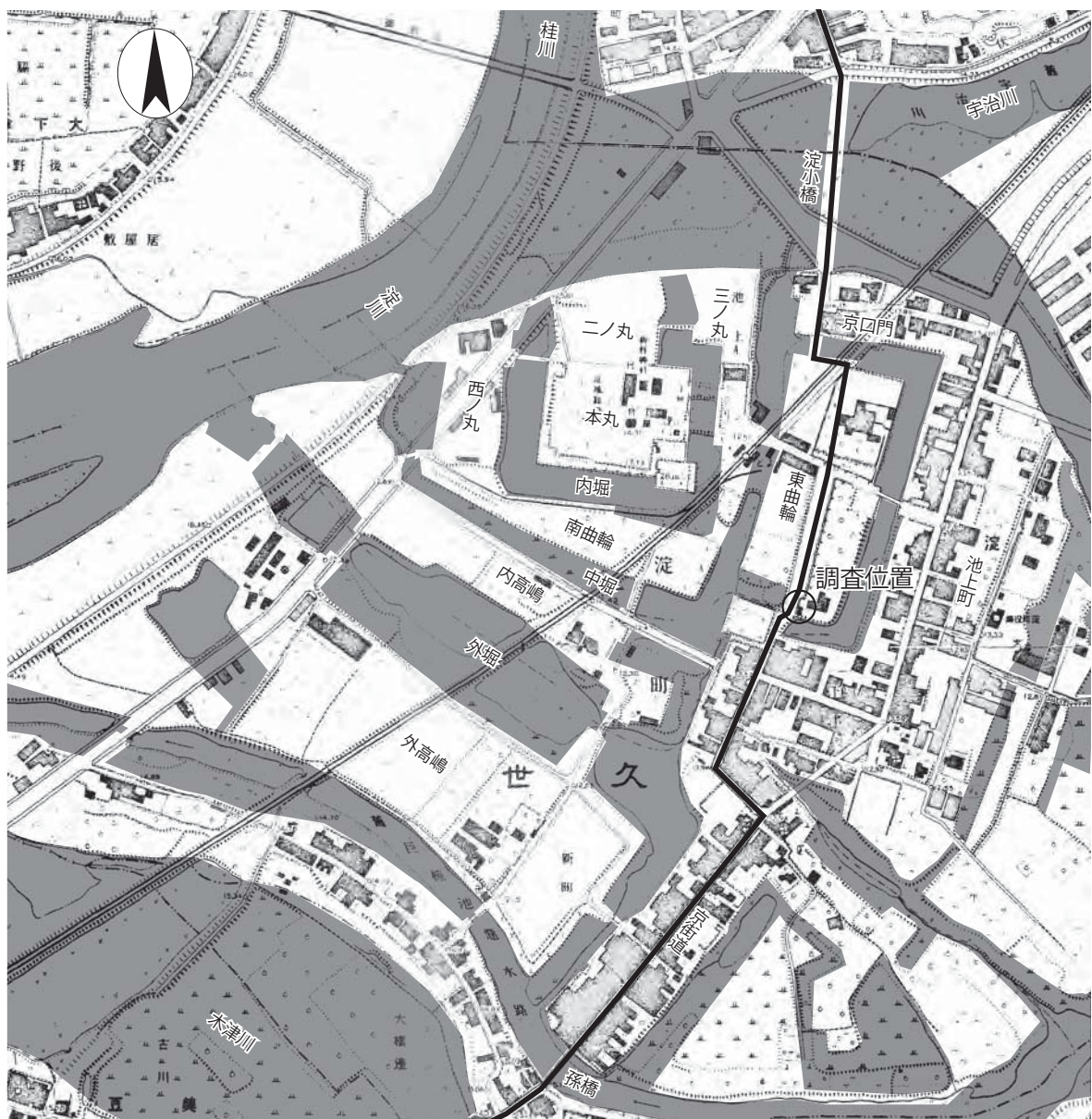


図 89 淀城跡復元図と調査地位置（1：6,000）

(大正 11 年測図、昭和 10 年修正測図・同 11 年製版 京都市土木局都市計画課修正「淀」図をもとに復元)

IV-9 愛宕山遺跡及び隣接地（25A004）

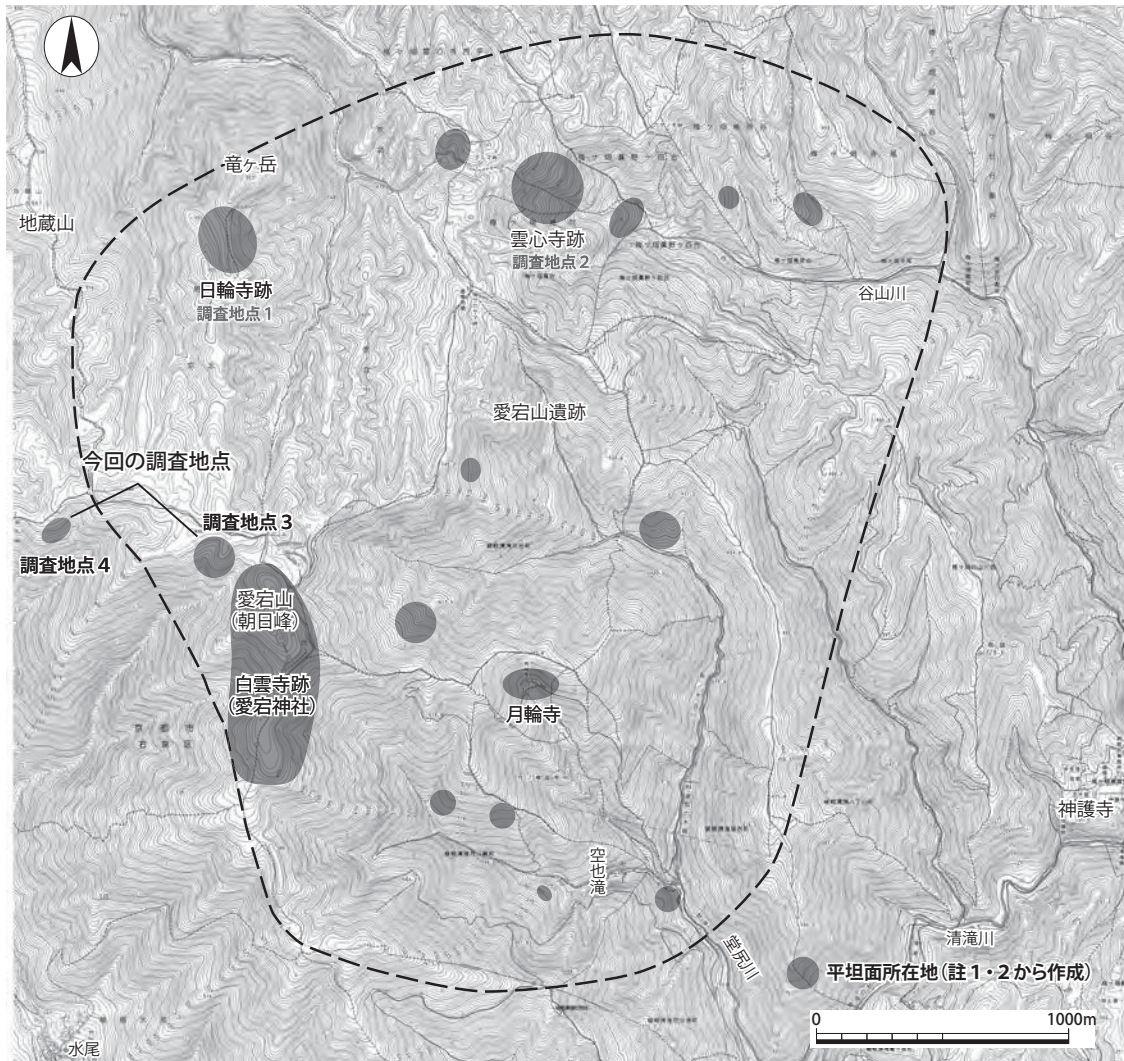


図 90 愛宕山遺跡及び調査位置図（1：30,000）
※調査地点1・2については、註2参照

1. 調査の経緯

愛宕山遺跡は、京都盆地北西にそびえる愛宕山中に点在する平安時代の寺院跡である。同遺跡では、これまで複数の箇所平坦面が展開し、平安時代の遺物が散布する状況が確認されている（図90）¹⁾。近年、当課では愛宕山系における山林寺院跡の踏査を進めており、令和3年には愛宕山北西の竜ヶ岳（標高923m）頂上直下で、新たに平安時代前期の山林寺院跡を確認した。山名と立地から『山城南勝志』にみえる愛宕五岳の一つ、「日輪寺」跡である蓋然性が高まり、五ヶ寺が山中に実在していたことを窺わせる状況となっている（図90 調査地点1・2）²⁾。

同書には、「五寺外営五千坊」とあり、さらに山中に遺構が多数展開することが想定された。そのような中、令和7年4月に森林情報オープンデータに基づき京都府下の「微地形表現図マップ

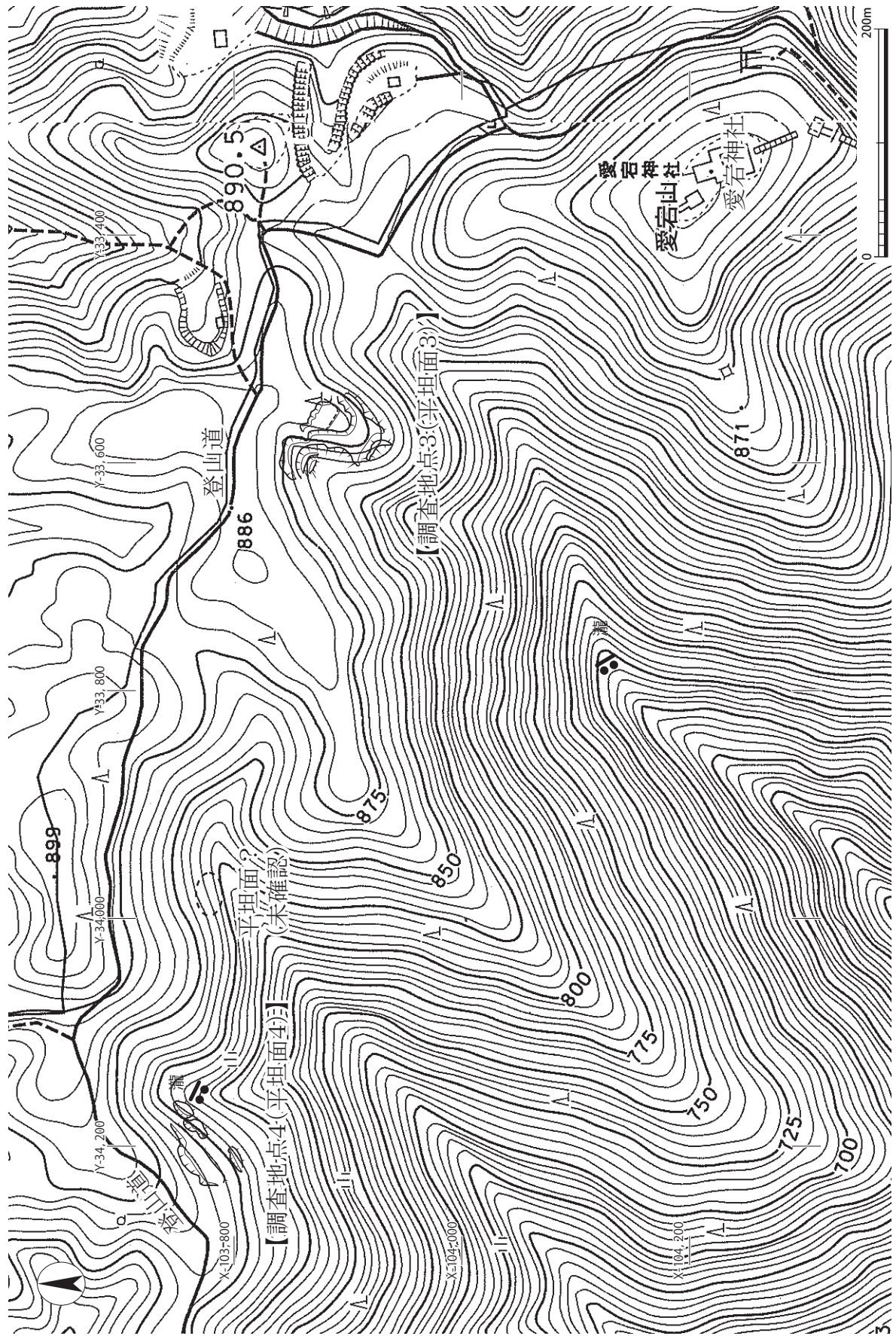


图 91 調査地点位置図 (1 : 5,000)

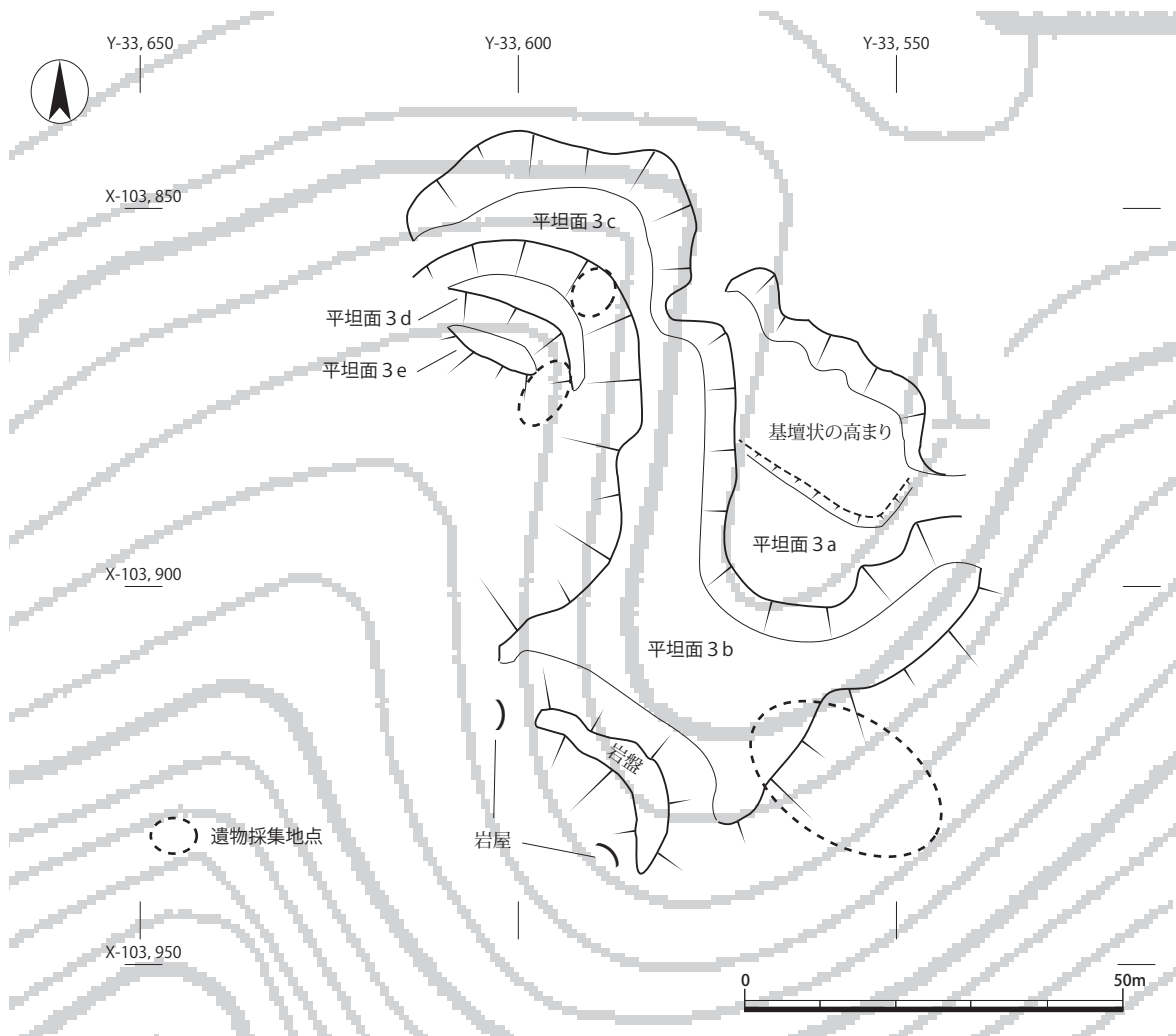


図92 調査地点3平面図（1：1,000）

タイル」(<https://forestgeo.info/webgis/topography.html>) が公開され、府下全域の赤色立体測量図が利用可能となったことで、山中に未知の平坦面を多数認めた。中でも、愛宕山西側で新たに大規模な平坦面を2箇所認めたため（図91 調査地点3・4）、踏査を行うこととなった。踏査にあたっては、愛宕山をはじめ、多数の山林寺院跡を発見された屋木英雄氏に同行いただき、令和7年5月16日に実施した。

踏査の結果、複数の平坦面と平安時代に属する遺物を採集したため、これを報告する。

2. 遺 構

調査地点3（図92・図版33）

愛宕山から地蔵山へ続く北西稜線から南に派生する支尾根の標高860～880m付近に立地する。眼下には山城と丹波の国境を成す老ノ坂や西山の稜線を望む。平坦面は、尾根筋に上下2段（平坦面3a・b）、西側の谷筋に上下3段（平坦面3c～e）の計5段が確認できた。平坦面には礎石等は認められなかったが、台風の影響による倒木が著しく（図版33-1）、根起こしによって遺物が地表面まで巻き上げられた状況を確認した。また、尾根筋の平坦面正面には、頁岩の岩盤が大

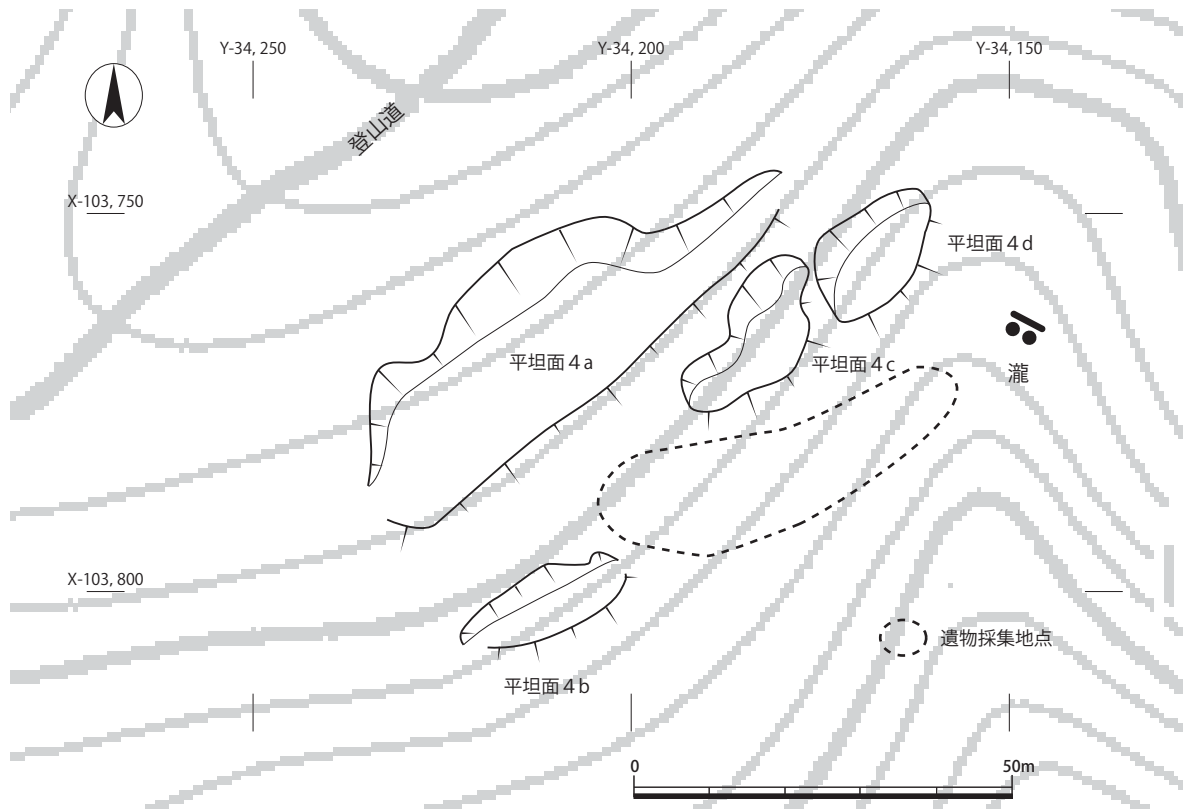


図93 調査地点4平面図(1:1,000)

きく隆起している。平坦面東側には谷が刻まれ、細い水流が認められる。今回は現地で確認出来なかったが、屋木氏から下流には瀧がかかるとの証言が得られた³⁾。

平坦面3a (図版33-1) 尾根筋の上段にある平坦面である。尾根を削平し、舌状に平坦面を成形し、最大で長辺40m、短辺30mを測る。中央やや西側には、長辺30m、短辺14mの範囲が一段盛り上がり、基壇状の高まりを呈する。遺物は採集できなかった。

平坦面3b (図版33-1) 尾根筋下段の平坦面で、調査地点3では最も広い。平面形は四隅が突出する方形で、方形部分は長辺45m、短辺17mを測る。北東部、北西部は等高線に沿って細長く延びる。北西部は谷筋の平坦面3cと接続する。

遺物は、平坦面東端付近で倒木の根起こしによる巻き上げと南東斜面から平安時代の土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器が散布していた(図版33-2)。

平坦面3c 谷筋に展開する3段の平坦面最上段に位置している。谷の源頭部を等高線に沿って弓状に造成し、東端で尾根筋の平坦面3bと水平に接続する。最大で長辺30m、短辺9mを測る。

平坦面3d・e 3c下段の小規模平坦面である。規模は3dが長辺20m、短辺4m、最下段の3cが長辺12m、短辺3.5mを測る。また、平坦面3c～e南斜面で平安時代の土師器・須恵器等を採集した。

岩盤 平坦面3b前面にある頁岩の岩盤である。長辺約20m以上、短辺約5m以上で、平坦面3bからの比高は3m以上ある。頂部には岩盤が立石状に林立する(図版33-7)。この岩盤の裾部には、南と西の2箇所空に空洞が認められ、岩屋として利用された可能性がある(図版33-8)。平坦

面と岩盤の位置関係及び頂部の特異な形状から、磐坐と考えられる。

調査地点4（図93・図版33）

平坦面3西側0.5km付近に位置している。北西稜線の南東斜面、標高820～835m付近に立地する。南側に視界が広がり、平坦面3と同様に山城と丹波の国境である西山の稜線を望む（図版33-6）。平坦面は斜面に計4箇所（平坦面4a～d）確認できた。いずれの平坦面にも礎石や基壇状の高まりは認められなかった。平坦面東側には瀧（図版33-5）を伴う谷が刻まれている。また、今回は踏査できなかったが、赤色立体測量図では、調査地点4東側約200mで2段の小規模平坦面の存在が想定される（図91）。

平坦面4a（図版33-3） 最も高所に位置する平坦面である。現状では物置小屋などの人工物が設置されているものの、平坦面下の斜面に遺物が散布すること、付近に複数の平坦面が展開することから、遺構と判断した。長辺65m、短辺15mを測り、調査地点4の中では最も広い。

平坦面4b～d 4a下部南～南東側に水平方向に展開する小規模平坦面である。規模は4bが長辺20m、短辺5m、4cが長辺20m、短辺7m、4dが長辺18m、短辺7mを測る。平坦面南東側斜面にかけて平安時代の土師器、須恵器等の散布を確認した（図版33-4）。

瀧（図版33-5） 平坦面東側に谷が刻まれており、現在も水流が認められる。平坦面4dの約20m南東には、落差3～5mの小規模な瀧が3段以上連続する。

3. 遺物

今回の調査では、平坦面3b東端から南東斜面、3c～e南斜面、4a～d南東側斜面にて、平安時代の土師器皿、杯、椀、緑釉陶器椀、須恵器椀、杯、甕、灰釉陶器椀などを採集した（図94）。

1～8は土師器である。1・2は口縁部が外半するいわゆる「て」の字状口縁の皿Aで、1は

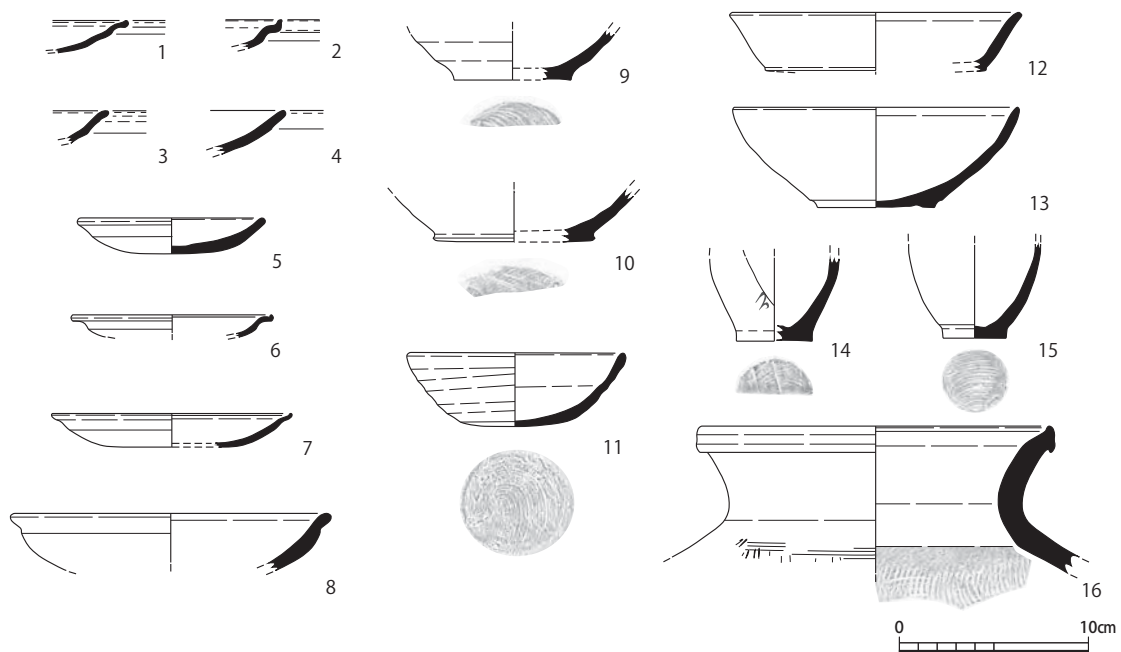


図94 遺物実測図（1：4）

端部を肥厚させ、2は上方に摘み上げる。3・4は口縁部が外半する皿Aで、3は端部上面に面を持つ。5はロクロ土師器の皿で、口径9.8cm、高さ1.9cmである。底部外面に糸切痕が僅かに残る。6・7は「て」の字状口縁の皿Aで、器壁は薄い。口縁部は外半し、端部は上方に摘み上げる。8は器壁が厚く、口縁部が外半する皿Nである。

9～16は須恵器である。9・10は椀又は鉢の底部で、9は底径6.2cm、10は8.4cmである。底部外面に糸切痕が残る。11は椀である。口径11.3cmを測る。内面には墨痕が残り、磨耗が著しいことから、硯に転用されている。底部外面に糸切痕が残る。12は杯Aである。13は椀である。低い輪高台を持つ。14・15は壺Mで、瓶子である。底部外面には糸切痕が残り、14には体部外面に墨書痕が、底部外面にヘラ記号が残る。16は甕である。口縁端部は肥厚し、上下に摘み上げる。

各遺物の採集地点は、平坦面3b東端から南東斜面が1～7・9・11・13、平坦面3c～e南斜面が8・10、4a～d南東側斜面が12・14～16である。

遺物の年代は、器壁の薄い土師器皿Aから口縁部が外半する皿Nを含むことから、9世紀後半から11世紀前半に属する一群である。

4. まとめ

今回の調査で確認した平坦面は、愛宕山系で確認された遺構の分布状況や立地、出土遺物の内容から、平安時代の山林寺院跡であることは間違いない。ここでは、今回確認した平坦面について、立地や空間構成、採集遺物から検討を行う。また、平坦面3b前面にある岩盤について考察を行う。

(1) 立地

これまで確認された愛宕山系の平坦面は、平安京への眺望が得られる愛宕山北方及び東方の東斜面にほぼ限られており、今回の調査で西方の南斜面にも展開していることが明らかになった。

古代の山林寺院は、その立地について下記のような条件があることが指摘されており⁴⁾、当該地が以下の条件に適合するかを見ていく。

①近くに谷川などがあり、水が確保できる場所②自然災害の影響を受けにくい場所③日当たりのよい場所④眺望の利く場所

①は、平坦面3・4とも南に隣接して谷が刻まれており、現在でも水流が認められる。平坦面4d南東には、小規模ながら瀧がかかり、行場としての役割も果たしていた可能性も考えられる(図版33-5)。②は、いずれも南向きの尾根筋又は南東斜面であり、南風の影響からは逃れ得なかったと考えられ、実際に尾根筋に当たる平坦面3a・bでは平成30年の台風21号による倒木が著しい状況であった。③については、上記理由から日当たりについては極めて良好である。④は、眼下に山城と丹波の国境を為す老ノ坂や西山の稜線を望む立地である(図版33-6)。

上記を踏まえると、②を除き、山林寺院の立地の特徴を備えていると判断できる。中でも、今回確認した平坦面の性格を理解する上で、眺望という視点が重要な要素であると考えられる。

平坦面3・4ともに、東側に愛宕山山頂から南に延びる稜線によって平安京への眺望は遮られるものの、眼下には山城と丹波の国境である老ノ坂及び西山の稜線を望むことができ、国境を強

く意識した立地といえる。

古代より愛宕山は、霊山として著名であり、天禄元年（970）に成立した『口遊』には「七高山」（比叡山・比良山・伊吹山・神峯山（ポンポン山）・愛宕山・金岑山（大峰山）・葛木山（葛城山））の一つとして愛宕山の名前があげられている。これらの山々は承和三年（836）に執り行われた「薬師悔過」に由来するとある。薬師悔過は仏（薬師如来）の前で自己の罪を懺悔することで祈願を成就しようとするもので、春秋の四十九日間常習されることから、仏像を安置し、修法を行うための寺院の存在が不可欠である。七高山は、いずれも畿内の境界又は国境に位置する霊山として信仰の対象となっており、薬師悔過は王城の地である畿内を疫神から守る役割を期待されていたことがわかる⁵⁾。したがって、今回確認した平坦面は、平安京が所在する山城国の国境を守護することを強く意識して造営されたと考えられる。

（2）空間構成

調査地点3では、尾根筋上に規模の大きい平坦面を上下2段に配し（3a・b）、北側の谷筋に小規模の平坦面が展開することから（3c～e）、尾根筋の平坦面に主要堂舎、谷筋に雑舎が配置されたと考えられる。中でも尾根筋の上部に位置する平坦面3aには、基壇状の高まりが認められることから、本堂に相当する建物が所在したと考えられる。尾根筋の平坦面3b正面には、磐坐と思しき頁岩の岩盤の存在が、国境への眺望とともに、平坦面の配置に大きな影響を及ぼしている可能性が高い（図版33-7）。

調査地点4では、面積の最も大きい最上部の平坦面4aに本堂相当、4a下部の3箇所平坦面に雑舎が配置されたと想定される。

（3）採集遺物

採集遺物は、土師器皿、杯や須恵器壺、甕、杯、椀、緑釉陶器片などである。遺物の年代は、9世紀後半から11世紀前半に位置づけられるもので、平坦面3・4ともに大きな時期差は認められない。これまでに愛宕山系で確認された平坦面で採集された遺物は、9～10世紀代に収まることが大半で、11世紀代まで存続する地点は少ない⁶⁾。

今回、11世紀代まで存続する平坦面を確認できたことは、愛宕山の歴史を考える上で重要である。愛宕山に寺院の存在を示す史料には、『口遊』「七高山」の薬師悔過の由来を除くと、天元5年（982）白雲寺にて源惟章・遠理兄弟の出家（『日本紀略』天元五年六月二日条）、永延2年（988）の戒壇建立計画（『帝王編年記』永延二年条）、万寿4年（1027）の藤原頼通の白雲寺参詣（『小右記』万寿四年八月二十九日条）等の記録が残る。また、11世紀前半に成立するとされる『本朝法華験記』には、愛宕山に籠り法華経を読誦する僧の説話が度々登場しており、史料からは、10世紀後半以降に山中で活発な寺院活動があったことが窺える。今回確認した平坦面は、当時の寺院活動の拠点の一つであった可能性が考えられる。

（4）平坦面3の岩盤について

平坦面3b正面に、長辺約20m、短辺約5m、平坦面からの比高が3m以上ある頁岩の岩盤が露出している。頂部には石材が天に突き上げるように林立しており、磐坐として信仰の対象とな

るような特異な形状を示している（図版 33- 7）。また、岩盤裾部に穿たれた 2 箇所（箇所）の岩屋の存在が注目される（図版 33- 8）。土砂が厚く堆積しており、本来の規模は定かではないが、西側の岩屋は、目測で入口の幅約 2 m、高さ約 1.5 m、奥行きは 5 m 以上あり、人が生活するスペースは十分確保できたと考えられる⁷⁾。『本朝法華験記』には、愛宕山中で修行する僧が幽洞に籠る記事が見受けられ、その候補地の一つとして当該地が挙げられよう⁸⁾。

以上の通り、愛宕山西方の南斜面で新たに平坦面を確認する成果が得られた。これまで、愛宕山中の山林寺院は、その分布状況から、平安京への眺望を強く意識した性格を備えたものと捉えていたが、山城国の国境を望む平坦面の存在は、愛宕山が「七高山」に挙げられる薬師悔過の場として相応しいことを示すものとして重要な成果といえる。「微地形表現図マップタイル」では、山中にこれまで言及されていない人工的な平坦面を複数確認でき、来年度以降も引き続き愛宕山遺跡の踏査・測量を実施し、全容を明らかにしていく所存である。

（西森正晃）

註

- 1) 屋木英雄・丸川義弘・宮原健吾・高橋潔「京都・愛宕山中の遺跡-雲心寺跡の発見-」『佛教藝術』259号、毎日新聞社、2001年
屋木英雄「京都・愛宕山中の遺跡—続報—（前編）」『京都考古』第92号、京都考古刊行会、2004年
屋木英雄「京都・愛宕山中の遺跡—続報—（後編）」『京都考古』第93号、京都考古刊行会、2004年
「愛宕山遺跡」『京都府中世城館跡調査報告書 第3冊-山城編1-』京都府教育委員会、2014年京都
- 2) 西森正晃「愛宕山遺跡隣接地」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和3年度』京都市文化市民局、2022年
西森正晃「愛宕山遺跡及び愛宕山遺跡隣接地」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和4年度』京都市文化市民局、2023年
- 3) 屋木英雄「京都・愛宕山中の遺跡—続報—（前編）」『京都考古』第92号、京都考古刊行会、2004年から位置を転載
- 4) 梶川敏夫「山岳寺院」『平安京提要』（財）古代学協会・古代学研究所編、角川書店、1994年
屋木英雄・丸川義弘・宮原健吾・高橋潔「京都・愛宕山中の遺跡-雲心寺跡の発見-」『佛教藝術』259号、毎日新聞社、2001年
- 5) 「神護寺 薬師如来像の世界」『朝日百科 日本の国宝別冊 国宝と歴史の旅3』朝日新聞社、1999年
- 6) 屋木英雄「京都・愛宕山中の遺跡—続報—（前編）」『京都考古』第92号、京都考古刊行会、2004年では、11世紀までの遺物が出土する平坦面は12箇所中、1箇所に留まる。
- 7) 愛宕山は中世以降、砥石の著名な産地として、頁岩の採掘が行われており、山中に大規模な採掘場跡が残る。砥石採掘の歴史に詳しい民俗写真家の出水伯明氏によると、調査地点3付近は、「ダルマ」と呼ばれる採掘場であったとのことで、今回確認した岩屋は砥石の採掘に関わる可能性もある。
- 8) 11世紀中頃に成立したとされる『本朝法華験記』巻55「愛太子山朝日法秀法師」や巻56「丹州長増法師」には、法師が愛太子山（愛宕山）の幽洞に籠る記載が認められる。

IV-10 鳥居古墳群 (25S354)

1. 調査にいたる経緯と経過

調査地は、右京区京北鳥居町の山中に位置する。地表面に墳丘と見られる高まりが複数現存することから、円墳を主体とする群集墳であると推定されている。ただし、これまで発掘調査は行われておらず、その詳細は不明である。

令和6年9月、森林環境保全支援事業の一環として、この区域に林道の建設が計画された。これを受けて当課は現地踏査を行い、事業者に対して墳丘推定地を回避し、地表面の掘削を最小限に抑えること、また工事施工時に詳細分布調査を実施するよう指導した。調査は、10月2日～18日のうち、計4日間実施した。本稿では、この調査成果について報告する。

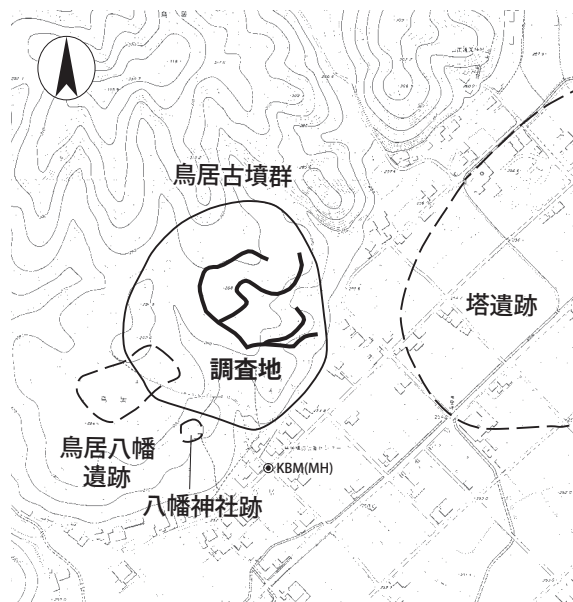


図95 調査位置図 (1 : 5,000)

2. 調査成果

調査地は北西から南東に下がる丘陵斜面で、小谷により尾根筋が二股に分かれる地点にあたる。古墳は尾根筋上に築かれており、航空レーザー測量成果からは、計16基程度の残存が推定される。また、周溝をもつものや方墳が含まれている可能性がある(図96・97)。

今回の調査では、計7地点で断面観察を行った。その結果、西側小尾根上のNo.2・3地点において、遺物包含層を確認した。No.2地点では、GL-0.2～0.3mで暗オリーブ褐色微砂混じりシルト、-0.4mで黄褐色細砂混じりシルトを確認した(図98左)。層内からは土師器高杯の脚部が出土した(図99-1)。杯部と脚の接合部分で、脚は中実である。6世紀頃の製品とみられる。

No.3地点では、GL-0.4mでにぶい黄褐色微砂混じりシルト、-0.6mで暗褐色細砂混じりシルトを確認した(図98右)。上層からは、土師器甕の底部が出土した(図99-2)。底面は平底で、緩い角度で胴部へと続く。外面にはタタキを施す。古墳時代前期の製品である。

No.2・3地点の斜面上位には、調査地の中でも最大級の径をもつ古墳の立地が想定される。上記成果との関連は明らかではないが、対象地に古墳が存在する可能性は極めて高まったと言える。なお、いずれの遺物包含層も表土直下で確認したことから、当該地点の今後の開発には十分注意を払う必要がある。

(黒須亜希子)

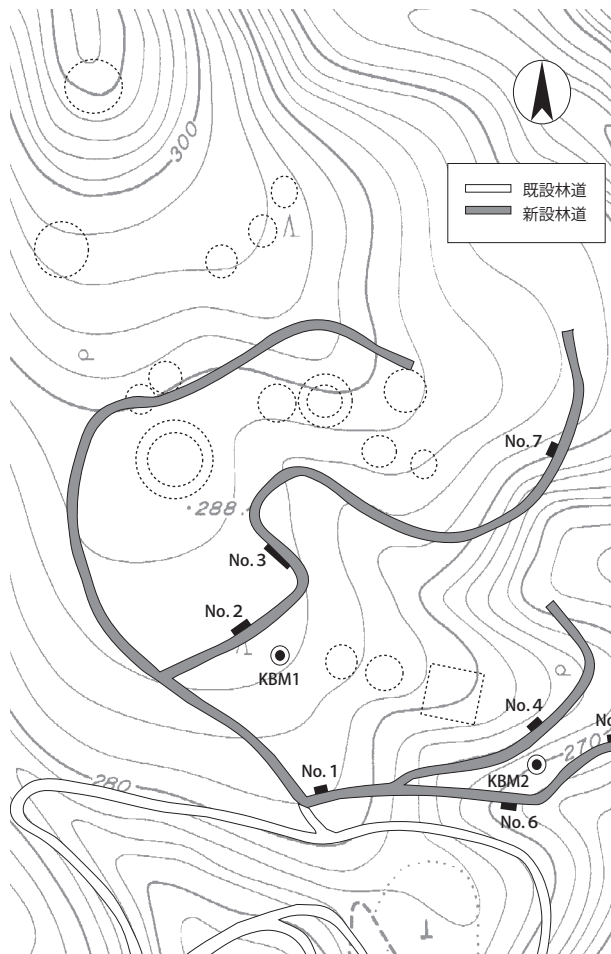


図 96 調査区配置図 (1 : 2,000)

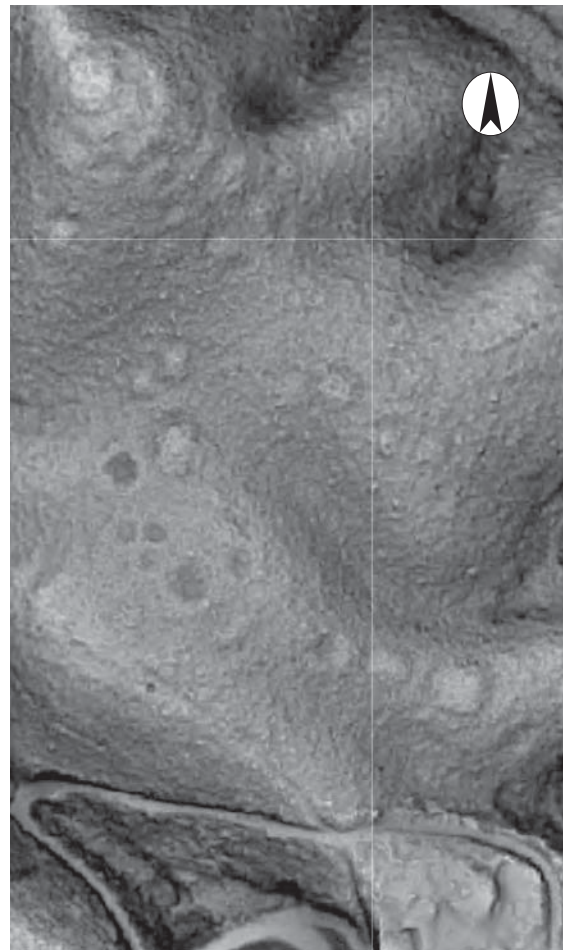


図 97 航空レーザー測量写真 (1 : 2,000)

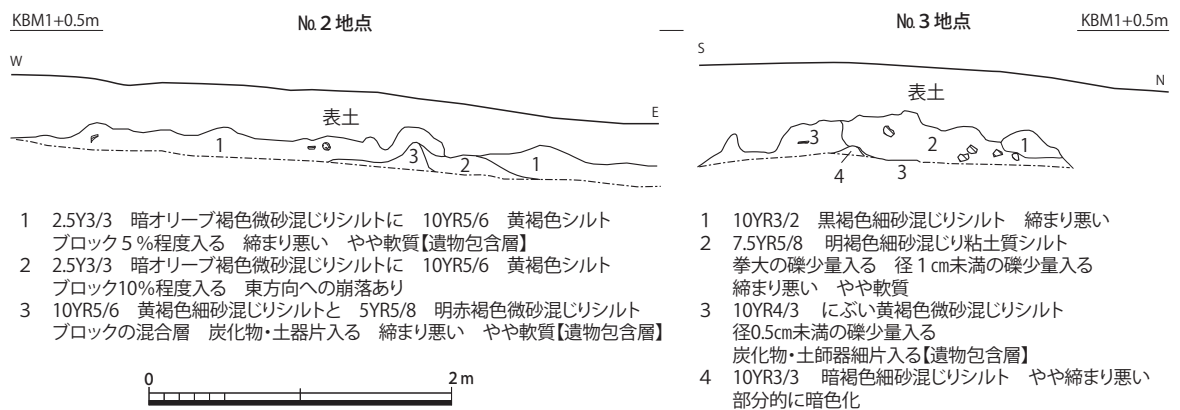


図 98 調査区断面図 (1 : 50)



図 99 出土遺物実測図 (1 : 4)

V 調査一覧表

I 2025年 1～3月期(令和六年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
漆室・兵庫寮・正親司跡	上・御前通一条下る東堅町132-1	24/11/25～25/1/20	GL-0.5mまで盛土。	24K297	HQ 320	1
大蔵省跡	上・西中筋町19-34	3/28	GL-0.25mまで盛土。	24K589	HQ 506	1
大蔵省跡	上・西富仲町470-12	2/25	GL-0.25mまで盛土。	24K530	HQ 450	1
函書寮跡	上・御前通下立売上る三丁目東入三助町281-2の一部	2/28	GL-0.4mまで盛土。	24K500	HQ 456	1
宴松原跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町247-53の一部、247-54	1/14	GL-0.3mまで盛土。	24K453	HQ 389	1
内蔵寮跡	上・千本通上長者町下る草堂前之町114	1/17・20・21・23・29、2/18	GL-0.37mで明黄褐色粗砂混砂礫、-1.04mで明黄褐色粘質土、-2.04mで浅黄橙色粗砂混砂礫、-2.49mで明黄褐色砂礫、-2.92～-3.53mで黄橙色粗砂。	24K191	HQ 394	1
左近衛府跡、聚楽第跡	上・出水通松屋町西入西天秤町155	2/28	GL-0.3mまで盛土。	24K607	HQ 457	1
内膳司跡	上・弁天町315-2	1/20・21	巡回時掘削終了。	24K535	HQ 397	1
中和院跡、聚楽遺跡	上・十四軒町410他	24/11/5～25/3/12	GL-2.69～-2.78mで暗褐色微砂混粘土質シルトの地山。試掘・発掘調査で検出された中和院神嘉殿南縁石組雨落溝が設計変更によって地中保存されたことも確認。	23K083	HQ 291	1
左馬寮跡	中・西ノ京左馬寮町7-36、7-37	3/14	巡回時掘削終了。	24K566	HQ 477	1
典薬寮跡	中・西ノ京車坂町2-5の一部	3/4	GL-0.75mまで盛土。	24K537	HQ 463	1
豊楽院跡、史跡平安宮跡 内裏跡 朝堂院跡 豊楽院跡、鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町74-3	3/13・14	GL-0.18mで暗褐色粗砂混シルトの時期不明包含層、-0.25～-0.74mで褐色粘土質シルトの地山。	6N039	HQ 478	1
豊楽院跡、鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町186-9、198	24/7/9～25/12/5	GL-1.9mまで盛土。	23K509	HQ 145	1
豊楽院跡、鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町 地先	1/20	巡回時掘削終了。	24K517	HQ 398	1
監物跡、聚楽遺跡	上・下立売通千本東入下る中務町490-13	1/6・7	GL-0.3mまで盛土。	24K433	HQ 374	1
主水司・宮内省跡、聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町953-1	24/8/19～25/1/29	平安前期の土坑を検出。 本報告7ページ。	24K115	HQ 186	1
主水司跡、聚楽遺跡	上・下立売通千本東入下る中務町486-41	3/24・27	GL-0.6mまで盛土。	24K591	HQ 492	1
大炊寮跡、二条城北遺跡	上・丸太町通黒門東入薬屋町536-9	3/27	GL-0.4mまで盛土。	24K593	HQ 503	1
大膳職・大炊寮跡、左京二条二坊二・六・七町跡、二条城北遺跡	上・南伊勢屋町～下堀川町 地内	24/12/5～25/7/16	GL-0.45～-1.5mで褐色泥砂の近世包含層。	24K476	HQ 336	1・2
太政官跡、聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町996-3	2/20	GL-0.69～-0.73mで黄褐色粘質土の近世包含層。	24K560	HQ 444	1
雅楽寮、左京二条二坊三・四・五・六町跡、史跡旧二条離宮(二条城)	中・二条通堀川西入二条城町541	1/7～8/21	江戸の本丸東虎口関連遺構他を検出。 本報告19ページ。	6N065	HQ 466	1・2
判事跡	中・西ノ京内畑町13-34	2/28	GL-0.45mまで盛土。	24K394	HQ 455	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊三町跡	上・葎屋町通中立売下る北俵町318	1/10	GL-0.4mまで盛土。	24H347	HL 388	2
北辺三坊一町跡、 内膳町遺跡	上・中立売通室町西入三丁目457	1/9・22・23	GL-0.9mまで盛土。	24H346	HL 384	3
一条二坊十一町跡	上・東堀川通出水下る四町目196-1、 192-1、193、194、195	2/4・5・7	GL-0.41mで暗褐色シルトの近世堆積層を切って 黒褐色シルトの近世火災処理土坑、-0.58mで黒 褐色粘質シルトの中近世包含層、-0.73mで暗褐 色粘土質シルトの中世包含層、-1.04m～-2.10m で褐色砂礫の河川堆積。	23H537	HL 420	2
二条二坊一町跡、 二条城北遺跡	上・丸太町通黒門東入薬屋町534	1/6・9・14	GL-0.76mで暗褐色粘質土、-0.99mで黄色粗砂の 地山、-1.55～-2.58mで明黄褐色砂礫。	24H401	HL 375	2
二条二坊十町跡、 高陽院跡、 二条城北遺跡	中・油小路通丸太町下る大文字町 51-2	3/17	GL-0.46mでにぶい黄褐色砂泥、-0.56～-0.61mで 褐色砂泥(焼土混)。	24H548	HL 481	2
二条二坊十六町跡、 高陽院跡	中・横鍛冶町119、上・夷川町392-7	1/27、2/3・ 7・14	GL-0.34mで暗褐色粗砂混シルトの近世包含層、 -0.61mで暗褐色砂礫の近世焼土層、-0.86mで黒 褐色微砂混粘土質シルトの近世包含層、-0.96m で黄褐色粘土質シルトの地山。	24H446	HL 409	2
二条三坊十五町、 四坊一町跡、 公家町遺跡、 烏丸丸太町遺跡	上・京都御苑3	24/11/19～ 25/1/28	GL-0.3mで黒褐色粗砂混シルト(炭化物・焼土 混)を切って暗褐色砂泥(焼土混)のピット・ 土坑群、-0.5mで黒褐色砂泥、-0.55mで黒褐色 砂泥の近世後期包含層。	24H182	HL 315	3
三条二坊十二町跡	中・姉東堀川町78-1他	1/7～16	GL-0.88mで黄橙色泥砂、-1.03mで褐灰色粘質 土の平安後期～鎌倉包含層(土師器・瓦・青磁)、 -1.19mでにぶい黄橙色砂泥、-1.37mで灰黄褐色 泥砂、-1.52mで明褐色砂礫の地山、-1.91～-2.12m で明黄褐色粗砂。	23H300	HL 378	2
三条四坊二町跡	中・東洞院通押小路下る船屋町 412-1、間之町通押小路下る高田町、 東洞院通御池上る船屋町412-2	3/31～4/16	GL-1.39～-1.66mで黒褐色泥砂の時期不明包含層。	23H563	HL 509	3
三条四坊四町跡、 烏丸御池遺跡	中・東洞院通三条上る曇華院前町 706-3他地内	24/7/29～ 25/12/8	GL-0.6mで褐色粘質土、-1.0～-1.2mで灰褐色粘 質土。	24H083	HL 169	3
四条一坊一・ 二・七・八町跡	中・後院通、千本三条～四条大宮 地内	24/12/2～ 25/12/3	GL-0.8～-1.1mで黄褐色砂礫の地山。	24H335	HL 330	4
四条三坊八町跡、 烏丸御池遺跡	中・室町通三条下る烏帽子屋町 479-1	3/13～7/3	GL-3.1mまで盛土。	24H209	HL 480	5
四条四坊十二町跡	中・富小路通錦小路下る西大文字町 611	2/28、3/3・ 31、12/5	GL-1.2mまで盛土。	24H528	HL 454	5
五条一坊七町跡	中・壬生賀陽御所町49、50-1	1/20～2/14	GL-0.72mでにぶい黄褐色砂泥の鎌倉包含層(土 師器)を切って浅黄色シルトの時期不明土坑、 -0.9mでにぶい黄褐色シルトの地山、-1.28～ -2.03mでにぶい黄褐色粗砂。	19H595	HL 399	4
五条二坊十三町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・松原通油小路東入天神前町 327-2	2/21～3/18	GL-1.0mまで盛土。	24H565	HL 445	4
五条三坊一町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通四条下る妙伝寺町710他 13筆	3/11	巡回時掘削終了。	24H454	HL 474	5
五条三坊五・六・ 七・八・九・十・ 十一・十二町、 六条三坊七・ 八・九・十町跡	下・四条通～五条通、新町通～ 烏丸通地内	24/10/1～ 25/11/27	GL-0.28mで赤褐色泥砂の時期不明焼土、-0.32m で暗灰黄色泥砂(小礫多量混、固く締まる)の 時期不明路面、-0.38～-0.45mでにぶい黄色泥砂 (小礫多量混、固く締まる)の時期不明路面。 推定室町小路に位置する。	24H194	HL 253	5
六条二坊三町跡	下・黒門通五条下る柿本町595-130、 595-145	1/17	GL-0.3mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明整地層を 切って暗褐色砂泥の時期不明土坑、-0.5mで黄褐 色砂泥、-0.7～-1.0mで褐色粘土質シルトの地山。	24H380	HL 395	4
六条三坊十五町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・万寿寺通烏丸東入大堀町495	3/11・17	GL-1.0mまで盛土。	24H389	HL 473	5
六条四坊九町跡	下・富小路通松原下る本上神明町 448	3/3～5・10・ 11	GL-1.66m～-2.08mで黄褐色砂礫の河川堆積。	24H549	HL 459	5

遺 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
六条四坊十一・十四町跡、寺町旧域	下・本塩竈町558-7	1/28、3/21	GL-2.4～-2.8mで黄褐色砂礫の地山。	24H553	HL 411	5
七条四坊四町跡	下・堀詰町455	1/14・15・16	№2；GL-0.57mで暗オリーブ褐色粗砂混シルトの近世堆積層を切って礫土坑、-0.91mで暗褐色粗砂混シルトの近世堆積層、-1.13mで黒褐色粗砂混シルトの中近世包含層、-1.27mで黒褐色細砂混シルト、-1.43mで暗褐色粗砂混シルトの中世包含層（土師器皿）、-1.82～-2.03mで黒褐色粗砂混シルトの地山。№3；GL-0.45mで黒褐色砂泥の近世包含層、-0.55mでオリーブ褐色砂泥の近世整地層、-0.68mで黒褐色砂礫の時期不明包含層、-1.1mで暗褐色砂泥、-1.28mでオリーブ褐色粗砂～粗砂混シルトの中世包含層、-1.42～-1.6mで黄灰色砂礫の河川堆積。	24H490	HL 137	7
七条四坊十六町跡	下・梅湊町他 地内	3/24	GL-0.96～-1.15mで暗灰黄色粗砂。	24H584	HL 494	7
七条四坊十六町跡	下・六軒通二ノ宮町東入波止土濃町358	1/27・29・30	GL-0.72mで灰黄色細砂の洪水砂を切って灰黄褐色砂礫の近世土坑、にぶい黄褐色粗砂～細砂の時期不明土坑、-0.94mでオリーブ褐色砂礫の洪水砂、-1.1～-1.45mで灰黄褐色粗砂の洪水砂。	24H318	HL 406	7
八条四坊八町跡、御土居跡	下・上之町19他	3/25	GL-0.95mで灰オリーブ色泥砂、-1.08mでにぶい黄褐色泥砂、-1.21～-1.78mで灰黄褐色砂礫。	24H415	HL 482	7
八条四坊九町跡	下・郷之町 地内	24/6/11、25/12/5	GL-1.1mまで盛土。	23H109	HL 097	7
八条四坊十五町跡	下・上之町他 地内	1/27～12/8	巡回時掘削終了。	24H353	HL 410	7
八条四坊十五町跡	下・上之町 地内	1/30～2/27	GL-0.6mで黒褐色粗砂混シルトの旧耕作土、-0.8mで褐色粗砂の河川堆積、-1.2～-1.5mで暗灰黄色砂礫の河川堆積。	24H499	HL 413	7
九条一坊八町跡	南・壬生通八条下る東寺町526-1	2/3	GL-0.35mで暗褐色粗砂混シルトの近世堆積層、-0.5～-0.52mで黒褐色粘土質シルトの時期不明包含層。	24H392	HL 414	6
九条二坊五・六町跡	南・西九条唐橋町16-2、16-3、23	3/26～4/28	GL-0.69mでにぶい黄褐色泥砂、-0.87mで灰黄褐色細砂の地山、-1.08mで黄色粗砂、-1.21～-1.83mでにぶい黄色砂礫。	24H482	HL 499	6
九条四坊三町跡、烏丸町遺跡	南・東九条南山王町5-5	1/9・10	GL-1.0mまで盛土。	24H334	HL 385	7

平安京右京(HR)

遺 跡 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊一町跡	上・一条通御前西入大工之町53他	2/28、3/3・4・12	GL-1.0～-2.0mで明黄褐色砂礫の地山。	24H336	HR 453	9
北辺二坊八町跡	北・大將軍西町195	2/25	GL-0.68mで灰白色シルトの地山、-0.94～-1.13mで浅黄褐色砂礫。	23H590	HR 449	9
一条二坊十一・十三・十四町、三坊一・三・四・六・八・十一・十四町、四坊三・四・五・六町跡、御土居跡	右・花園木辻南町～中・西ノ京中保町 地内	24/8/19～25/9/25	GL-0.9～-1.0mで明黄褐色砂礫の地山。	24H080	HR 193	8・9
一条四坊十六町跡、史跡妙心寺境内	右・花園妙心寺町	3/6～7/10	GL-0.08mで黄褐色シルト、-0.2～-0.53mで黄褐色シルト。	24H365	HR 511	8
二条二坊五町跡、西ノ京遺跡、御土居跡	中・西ノ京笠殿町164	1/7	GL-0.65mまで盛土。	24H365	HR 377	9
二条二坊九町跡、西ノ京遺跡、御土居跡	中・西ノ京南円町26他	1/21・23・28、2/4・10・13・14・18	GL-0.16mで淡黄色シルト、-0.3mでにぶい黄色砂礫、-0.83mで灰白色シルト、-1.12～-2.77mで明黄褐色砂礫。	24H047	HR 403	9

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
二条二坊十三町、三坊四町、四坊十六町、三条二坊十五・十六町、三坊一・二・七町跡、西ノ京遺跡、法金剛院境内	中・西ノ京南上合町～西ノ京西中合町他 地内	24/4/15～25/3/18	№15；GL-0.3mで黄褐色粗砂、-0.65～-1.3mで灰色粘土。№19；GL-0.4mで暗青灰色シルト、-0.55mで明黄褐色シルト、-0.8mで暗灰黄色粗砂、-1.25mでにぶい黄色微砂、-1.35～-1.45mで青灰色シルト。№23；GL-0.25mでオリブ褐色泥砂、-0.4mで灰黄色粗砂、-0.65～-1.0mで明褐色砂礫。	23H472	HR 016	8・9・21
二条四坊五・十二町跡	右・太秦安井柳通町15	24/12/16～25/12/10	GL-0.45mまで盛土。	24H358	HR 360	8
三条一坊十五町跡	中・西ノ京船塚町14-2、21-2	3/24・26・31、4/2・4	GL-0.75mで黄色シルトの地山を切って時期不明土坑。	24H557	HR 493	9
三条二坊五・六・十一・十二町跡、西ノ京遺跡、御土居跡	中・西ノ京新建町他 地内	2/13	GL-0.3mまで盛土。	24H578	HR 431	9
四条一坊十三町跡	中・壬生森町56-5	3/5～13	GL-0.5mで暗オリブ褐色砂泥の近世耕作土、-0.8mでオリブ褐色砂泥の時期不明耕作土、-0.97mで暗褐色シルト（粗砂混）の時期不明耕作土、-1.17mで黒褐色粗砂～細砂の氾濫堆積、-1.31mで黒褐色砂泥の平安末～鎌倉初包含層、-1.57～-2.1mでにぶい黄色シルト（粗砂混）の地山を切って黒褐色砂泥の時期不明土坑。	24H342	HR 464	11
四条三坊十・十一・十四・十五町跡	右・西院春栄町25の一部、25-33の一部、山ノ内赤山町1-1の一部	24/11/11～25/12/5	№4；GL-0.39mで黄色粘質シルト、-0.51mで明黄褐色粘質シルト、-1.18～-1.23mで暗灰黄色微砂混シルトの平安前期の包含層（須恵器杯）。	24H081	HR 302	10
四条三坊十五町跡	右・山ノ内養老町15-3	3/12	GL-0.45mまで盛土。	24H424	HR 475	10
四条四坊四・五町跡、山ノ内遺跡	右・西院四条畑町47-1他	2/4	GL-0.6～-0.85mで黒褐色細砂混シルトの旧耕作土。	24H467	HR 421	10
五条一坊六町跡	中・壬生松原町49-4	24/12/16～25/1/16	GL-0.34mで明黄褐色砂泥の地山、-0.62mで灰黄褐色砂泥～微砂、-0.7～-0.81mで明黄褐色微砂。	24H417	HR 358	11
五条一坊九町跡	中・壬生森前町8-54、8-64、8-65、8-67	3/31～5/7	GL-0.58mで旧耕作土、-0.66～-0.77mで明黄褐色シルトの地山を切って褐色シルトの時期不明溝。	24H618	HR 510	11
五条四坊二町跡、西京極遺跡	右・西院日照町52-1、53-2	24/6/13～25/12/5	巡回時掘削終了。	23H464	HR 105	10
六条一坊一町跡	下・中堂寺北町3-3	1/16	GL-0.85mまで盛土。	24H451	HR 393	11
六条二坊五町跡	下・西七条御前田町28	3/25-5/30	GL-0.29mで黄褐色粘質土、-0.44mで灰黄褐色粘質土、-0.55～-0.7mで褐色粗砂の地山。	24H622	HR 497	11
六条三坊六町跡	右・西院西溝崎町22-1、22-4、22-5	3/3・5	GL-0.4～-0.95mで明黄褐色砂礫の地山を切って黒褐色粘質土の時期不明馬代小路東側溝。	24H421	HR 462	10
六条四坊二町跡、西京極遺跡	右・西院清水町162	3/21	GL-0.13mまで盛土。	24H255	HR 490	10
七条一坊一町跡、御土居跡	下・朱雀分木町12-1の一部他	24/12/6～25/3/6	安土桃山の御土居堀を検出。本報告32ページ。	24H388	HR 337	13
七条一坊二・七町跡、堂ノ口町遺跡、御土居跡	下・朱雀分木町25、26-2、80の一部、80-2の一部、94の一部、104の一部	1/15～3/26	GL-0.65mで黒褐色粗砂混粘土質シルトの旧耕作土、-0.75mで黒褐色細砂混粘土質シルトの時期不明包含層、-0.8～-1.0mで黄褐色微砂混砂質シルトの地山を切って時期不明ピット。	24H345	HR 391	13
七条一坊十四町跡、西市跡、衣田町遺跡	下・西七条御領町32	24/12/10～25/1/16	GL-1.0mまで盛土。	24H343	HR 348	13
七条四坊十一町跡	右・西京極北裏町8-1、8-13の一部、8-12の一部	3/28	GL-1.0mまで盛土。	24H601	HR 505	12
七条四坊十四町跡	右・西京極西川町1-1の一部、1-4	1/8	GL-0.86mで明黄褐色粘質シルトの地山、-1.3m～-1.84mで灰色細砂礫。	24H370	HR 380	12
九条一坊十一・十二町跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町65他	24/12/11～25/1/10	GL-0.2mで黒褐色シルト、-0.33mで黄褐色シルト、-0.39～-0.42mでにぶい黄褐色シルトの平安包含層（土師器）。	6N051	HR 512	13
九条一坊十四町跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町43	1/7	GL-0.29mまで盛土。	6N059	HR 376	13

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
九条一坊十四・十五町跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町29-1	3/7	GL-0.53~-0.8mで橙色シルトの平安包含層(瓦)。	6C136	HR 469	13

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大覚寺古墳群	右・嵯峨大覚寺門前登り町40-3他	24/12/23~25/1/14	GL-0.28mまで現代耕作土。『京都市内遺跡試掘調査報告 令和7年度』に報告。	24S307	UZ 363	24-1
史跡仁和寺御所跡、名勝仁和寺御所庭園	右・御室大内33	24/7/22~25/1/10	GL-0.02mまで灰白色細砂、-0.02mでにぶい黄橙色細砂、-0.04mでにぶい黄褐色細砂、-0.08mでにぶい黄褐色泥砂に礫多く含む、-0.13mで褐色シルト、-0.2mで褐色泥砂、-0.3mで褐色泥砂。	5N082	UZ 513	21
仁和寺院家跡	右・宇多野福王子町~御室双岡町他地内	1/15~5/30	No.1 ; GL-0.8mで橙色粘質土の地山、-1.0~-2.05mで黄褐色砂礫。No.2 ; GL-0.4~-1.4mで橙色砂礫の地山。	23S366	UZ 383	21
仁和寺院家跡	右・常盤古御所町1-1、16	3/12	GL-0.7mの黄褐色砂泥(礫混)の地山、-0.8mで淡黄色砂泥、-0.85mで灰白色シルト質極細砂、-0.95~-1.3mで灰白色粗砂。	24S498	UZ 476	21
鳴滝藤ノ木町古墳隣接地	右・鳴滝桐ヶ淵町26	1/8	GL-0.28mまで盛土。	24S428	UZ 379	21
草木町遺跡、常盤柏ノ木古墳群	右・常盤下田町13-1の一部、13-4の一部	3/10~4/23	GL-0.17~-0.66mで明黄褐色シルトの地山、-0.77~-2.14mで明黄褐色砂礫。	24S579	UZ 472	21
太秦馬塚町遺跡	右・太秦京ノ道町1の一部、1-2	2/19~12/5	GL-0.3mでにぶい黄褐色シルトの土壌化層、-0.47mで明黄褐色シルトの地山。	24S397	UZ 438	21
上ノ段町遺跡	右・太秦垂箕山町14	2/19	巡回時掘削終了。	24S475	UZ 439	21
常盤仲之町遺跡、広隆寺旧境内	右・太秦東峰岡町10	24/10/15~25/5/13	鎌倉~室町の遺構を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 令和7年度』に報告。	24S364	UZ 269	21
多藪町遺跡	右・太秦多藪町14-144	3/17	GL-1.0~-3.5mでにぶい黄褐色泥砂の地山。	24S440	UZ 485	21

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
堂ノ庭遺跡	北・大宮釈迦谷	24/5/9~25/2/7	No.2 ; GL-0.25mで明赤褐色砂泥礫混の地山、-0.7~-2.2mで明赤褐色のチャート岩盤。No.5 ; GL-0.25~-2.4mで明褐色砂礫の地山。	23S634	RH 042	25-2
蟹ヶ坂瓦窯跡	北・西賀茂蟹ヶ坂町26-15(1号棟)	3/26	GL-0.35mまで盛土。	24S479	RH 484	17-1
蟹ヶ坂瓦窯跡	北・西賀茂蟹ヶ坂町26-16(2号棟)	3/26	GL-0.3mまで盛土。	24S480	RH 498	17-1
船山須恵器窯跡	北・西賀茂今原町33-5	2/20	GL-0.6mまで盛土。	24S539	RH 443	25-3
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉忠在地823	2/13	GL-0.7mまで盛土。	24S550	RH 434	27-4
南池田窯跡	左・岩倉幡枝町1061-1、1034-2	24/8/19~25/2/20	巡回時掘削終了。	24S177	RH 192	27-5
木野墓窯跡	左・岩倉幡枝町1067-4	2/26~28	奈良の須恵器、瓦、近世後期の土師器皿が出土。 本報告37ページ。	24S643	RH 452	27-5
植物園北遺跡	北・上賀茂岡本町14、15	24/4/17~25/12/11	GL-0.68mまで盛土。	24S001	RH 023	24-2
衣笠氷室町遺跡	北・氷室道、蓮華谷ポンプ場~原谷ポンプ所	24/5/7~25/2/7	No.9 ; GL-0.8~-1.6mで橙色砂礫の地山。No.11 ; GL-0.18mで明黄褐色粗砂の地山、-0.38~-1.35mで黄褐色シルト。	23S547	RH 039	16-2
御土居跡	北・紫竹上堀川町3	24/12/9、25/2/20	GL-0.49mで褐灰色泥砂(炭含)、-0.64mで褐色シルトの御土居構築土?。	24S437	RH 341	17-2
相国寺旧境内	上・相国寺門前町647-9	1/27	巡回時掘削終了。	24S534	RH 408	17-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
相国寺旧境内、 上御霊遺跡	上・今出川通烏丸東入相国寺門前町703の一部	10/15	GL-0.3~-0.7mで褐色砂質土の時期不明包含層。	24S363	RH 268	17-3
上京遺跡	上・継孝院町77-1	24/11/26~ 25/3/19	室町の土坑群を検出。 本報告41ページ。	24S434	RH 322	17-3
上京遺跡	上・橋之上町376	1/20	巡回時掘削終了。	24S536	RH 396	17-3
上京遺跡	上・針屋町他地先	24/8/2~ 25/1/22	GL-0.94mで暗褐色砂泥混シルトの近世後期包含層、-1.06mで暗褐色砂泥の時期不明火災処理層、-1.3mで黒褐色粗砂混シルトの時期不明包含層を切って黒褐色粗砂混シルトと暗褐色砂泥の混合層の落込、-1.58~-1.9mで灰黄褐色シルトの地山を切って黒褐色砂泥の時期不明ピット。	24S044	RH 176	17-3
上京遺跡	上・今出川通室町西入堀出シ町280	3/27~4/24	GL-1.6mまで盛土。	24S477	RH 504	17-3
上京遺跡	上・堀川通一条上る清明町814	3/19~7/1	GL-0.6mまで盛土。	24S637	RH 487	17-3
上京遺跡、 草堂跡(行願寺)	上・武者小路通小川東入西無車小路町612-1他	1/27~2/13	GL-0.31mで黄褐色シルト(礫混)の近世整地層、-0.66mで暗褐色砂泥の近世堆積層、-1.05mで黒褐色砂泥の近世堆積層、-1.53mで黒褐色砂泥の時期不明包含層、-1.83~-2.05mでにぶい黄褐色砂礫の地山を切って黒褐色砂泥の時期不明ピット。	24S366	RH 405	17-3
公家町遺跡	上・京都御苑3	3/27	GL-0.05mでにぶい黄褐色砂質土、-0.2mで黒色泥砂(締まり弱い)、-0.45~-0.65mで暗灰黄色微砂(固く締まる)の時期不明整地層。	24S627	RH 502	17-3
北野鳥居前町遺跡	上・御前通今出川上る鳥居前町671	3/5	GL-0.16mまで盛土。	24S559	RH 465	16-3
北野天満宮、 史跡御土居	上・馬喰町	1/15~9/30	史跡御土居で土師器皿、伏見人形がまとまって出土。 本報告44ページ。	23S260 6C061	RH 390	16-3
香隆寺跡、 北野遺跡、 北野廃寺	北・平野宮西町~北野紅梅町他地内	24/6/5~ 25/6/12	No.2; GL-0.3mで灰褐色細砂の近世以降包含層、-0.38mで明褐色シルトの地山を切って黒褐色砂泥の平安前期土坑。No.3; GL-0.8mで褐色泥砂、-0.95mで黒褐色泥砂の時期不明包含層、-1.05mで黄褐色泥砂~粗砂、-1.7mで黄褐色粘質土の地山、-1.8mで灰黄色粘質土。	23S516	RH 086	16- 1・3
北野遺跡、 北野廃寺	北・北野紅梅町81-2の一部、81-1の一部	2/12	GL-0.4mまで盛土。	24S404	RH 430	16- 1・3

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
修学院遺跡	左・上高野掃部林町1-14~修学院檜峠町10地先	1/20~3/25	GL-0.3~-1.11mで黄橙色粗砂の地山。	24S470	KS 402	28-1
一乗寺向畑町遺跡	左・修学院大林町7	3/7	GL-0.2mまで盛土。	24S403	KS 467	27-7
一条寺西浦畑町遺跡	左・一乗寺西浦畑町6-2、7-2	3/28	GL-0.25mまで盛土。	24S325	KS 508	27-7
北白川廃寺、 上終町遺跡	左・北白川山田町1-1、東瀬ノ内町44-2	24/12/11~ 25/1/27	No.1; GL-1.11~-1.21mで淡黄色粗砂の洪水砂。No.4; GL-2.89~-3.64mでにぶい黄橙色~明黄褐色粗砂~細砂の洪水堆積。	24S154	KS 353	22
白河街区跡	左・岡崎入江町1-1	2/19	GL-0.4mで明黄褐色粗砂。	24S439	KS 441	22
白河街区跡、 尊勝寺跡、 岡崎遺跡	左・岡崎西天王町	1/24	GL-1.6mで褐灰色砂質土、-1.75mで灰白色砂質土、-2.07mで褐灰色砂質土、-2.17mで灰白色砂質土、-2.59mで褐灰色砂質土、-2.72~-3.48mでにぶい黄橙色細砂。	24R496	KS 404	22
法成寺跡、 御土居跡	上・宮垣町他地内	24/12/16~ 25/7/16	GL-0.75mで黒褐色細砂混シルト、-1.05mで暗褐色粗砂混シルトの時期不明包含層、-1.3mで暗褐色砂礫、-1.6~-1.85mでにぶい黄褐色砂礫の河川堆積。	24S458	KS 357	26-1
法成寺跡	上・河原町通、荒神町~上生洲町地内	1/20~6/17	GL-1.5mまで盛土。	24S395	KS 401	26-1

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
法興院跡	中・河原町通夷川上る指物町333	2/21・27	GL-0.58mで赤褐色粗砂混シルトの焼土層、-0.69mでにぶい黄褐色粗砂混シルト～細砂の近世包含層、-0.82mで褐色砂礫の氾濫堆積、-0.98mでにぶい黄褐色粗砂混シルトの時期不明包含層、-1.14～-2.44mでにぶい黄褐色砂礫の河川堆積。	23S611	RT 447	28-1
六波羅政庁跡	東・松原通大和大路東入弓矢町57-1の一部	3/24	GL-1.0mまで盛土。	24S654	RT 496	23
六波羅政庁跡	東・本町通五条下る本町三丁目96、96-2、98	24/12/18・19・24・25・27、25/1/6・1/9	№2；GL-2.2mで灰オリーブ色シルト質極細砂の時期不明氾濫堆積（土師器）、-2.5～-3.0mで淡黄色砂礫の氾濫堆積。№3；GL-1.0mでオリーブ褐色泥砂の近世包含層を切って黒褐色泥砂の土坑、-1.45mでオリーブ褐色粗砂混シルト～粗砂の近世包含層、-1.7mで黄褐色泥砂の中世包含層を切って黒褐色泥砂のピット2、-1.8mでオリーブ褐色細砂混シルトの時期不明整地層、-2.0～-3.0mで暗灰黄色～黄褐色粗砂の氾濫堆積。	24S024	RT 361	23
六波羅政庁跡、方広寺跡、法住寺殿跡	東・茶屋町530	2/19・21	GL-0.1～-0.3mでにぶい黄褐色粘質土（礫混）。	24S587	RT 442	23
法住寺殿跡	東・三十三間堂廻り町644-7	24/12/23～25/9/24	GL-3.0mまで解体攪乱。	24S495	RT 364	23
法住寺殿跡	東・今熊野池田町12他30筆	3/17・19・31、4/2	GL-0.79mで明黄褐色粗砂の地山、-1.11mで灰白色シルト～細砂、-1.77～-2.2mで褐灰色粗砂。	24S448	RT 483	23
鳥部（辺）野	東・清閑寺清水上山町	24/11/18～25/1/15	GL-0.3mで明黄褐色粘質土の地山、-0.6m～-1.4mで岩盤。	23S534	RT 312	23
鳥辺（辺）野、法性寺跡	東・今熊野本多山町1、1-1、1-3、1-4、1-5、1-6、1-7、1-8、1-9、1-10、2、3、今熊野南谷町16-21	3/28	GL-1.06mまで盛土。	24S603	RT 507	28-4
法性寺跡、塚本古墳	東・本町十六丁目	24/11/15・18、25/1/20	GL-0.58mで淡黄色礫混粘質土（縮まり良い）の地山を切って灰黄褐色泥砂の時期不明土坑、-1.18mで橙色粘質土（鉄分多量に含む）、-1.27～-1.52mで暗褐色粘質土。	24S339	RT 310	23
西野山遺跡群（西野山古墓）	山・西野山岩ヶ谷町31-2	24/4/17～25/10/21	GL-0.3～-0.6mでにぶい赤褐色粘質土。	23S567	RT 021	28-3
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野山階町40-1の一部	1/30、2/3	GL-0.36mまで盛土。	24S435	RT 412	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野広見町42-2	24/4/5～25/12/5	巡回時掘削終了。	23S531	RT 007	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）、左義長町遺跡	山・東野舞台町20-30（10号地）	2/25	GL-0.2mまで盛土。	24S595	RT 448	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）、左義長町遺跡	山・東野舞台町20-21（1号地）	3/4・5・7	GL-0.4mまで盛土。	24S615	RT 461	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）、左義長町遺跡	山・東野舞台町20-23（3号地）	3/10	GL-0.3mまで盛土。	24S632	RT 471	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）、左義長町遺跡	山・東野舞台町20-21の一部（7号地）	2/12・13・14・25	GL-0.39mまで盛土。	24S586	RT 432	26-2
芝町遺跡	山・四ノ宮奈良野町65-1、65-3	1/9	GL-0.24～-0.58mで黄褐色粘質土。	24S540	RT 381	28-5
中臣遺跡	山・東野森野町地先	3/3・4	GL-0.7mまで盛土。	24N648	RT 458	26-4
中臣遺跡	山・栗栖野打越町47-2、48、48-2	3/21	GL-1.3mまで盛土	24N531	RT 489	26-4

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見稲荷大社境内、 稲荷山坊崖遺跡、 稲荷山古墳群	伏・深草願成町～深草開土口町 地内	2/5、12/5	巡回時掘削終了。	23S297	FD 372	28-7
貞観寺跡	伏・深草瓦町30-1	2/4	巡回時掘削終了。	24S526	FD 416	28-8
深草坊町遺跡	伏・深草東伊達町62-9、71-19、 71-33、74-18 (B棟)	2/4・5・7	GL-0.25mまで盛土。	24S489	FD 417	28-8
深草坊町遺跡	伏・深草東伊達町62-9、71-19、 71-33、74-18 (A棟)	2/4	GL-0.5mで暗灰黄色細砂混シルトの近世堆積層、 -0.65mで褐色細砂～灰黄褐色細砂の地山。	24S488	FD 418	28-8
がんせんどう廃寺	伏・深草谷口町70	2/4	巡回時掘削終了。	24S525	FD 419	28-8
伏見城跡	伏・桃山町丹下43	24/12/2～ 25/2/19	惣構の土塁を検出。 本報告60ページ。	24A009	FD 331	14
伏見城跡	伏・桃山町正宗9-1、9-6の一部、 9-7、9-13、9-14、9-15、9-16	4/22・24、 12/8	GL-0.35mで黄褐色泥砂の時期不明整地層を切っ て明褐色砂泥の時期不明土坑、-0.41mで明褐色 泥砂の時期不明整地層、-0.54mで明褐色シルト の時期不明整地層、-0.63mで明黄褐色粗砂の時期 不明整地層、-0.82～-1.1mで橙色シルトの地山。	23F446	FD 027	14
伏見城跡	伏・桃山町三河59-4	3/13・17	GL-0.5mまで盛土。	24F529	FD 479	14
伏見城跡	伏・桃山町三河69-19	3/10	GL-0.4mまで盛土。	24F494	FD 470	14・15
伏見城跡	伏・片原町289-2	3/27	GL-0.35mまで盛土。	24F555	FD 500	14
伏見城跡	伏・魚屋町573	2/12	巡回時掘削終了。	24F527	FD 429	14
伏見城跡	伏・桃山町板倉周防32-2他 6筆	3/27	GL-0.25mまで盛土。	24F580	FD 501	15
伏見城跡	伏・桃山町西町18	2/10・12	巡回時掘削終了。	24F524	FD 427	15
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町立売14	2/21	巡回時掘削終了。	24F522	FD 446	14
伏見城跡、指月城跡	伏・常盤町40-3～桃山町泰長老 地先	1/9～4/10	巡回時掘削終了。	23F273	FD 382	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町泰長老31-21	2/13	GL-0.24mでにぶい黄褐色泥砂、-0.3～-0.64mで 橙色泥砂。	24F407	FD 436	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町泰長老 地内	1/9～2/18	GL-0.3～-1.1mで橙色泥砂(粘土混)の時期不明 造成土。	24F533	FD 386	14・15
太閤堤 (小倉堤、槇島堤)	伏・向島吹田河原町	2/6	巡回時掘削終了。	24S521	FD 423	15
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐伽藍町1	24/12/18～ 25/3/28	平安の庭園遺構を検出。 本報告51ページ。	6N026	FD 362	26-3
日野谷寺町遺跡	伏・日野谷寺町50	24/12/13～ 25/6/16	GL-0.40mで黄褐色粘質土の地山、-0.62mで灰 褐色泥砂、-0.84～-1.53mで灰黄色粗砂。	24S038	FD 354	29-2

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
御土居跡	南・四ツ塚町～西九条南田町 地内	24/10/16～ 25/9/16	№6 ; GL-0.2mで黒褐色粗砂混シルトの旧耕作 土、-0.4mで黒褐色粗砂混シルト、-0.6～-0.8m で黒褐色粗砂混粘土質シルト。№7 ; GL-0.15m で黒褐色細砂混シルト、-0.5～-0.9mで暗褐色砂 礫の河川堆積。№20 ; GL-0.7mでオリーブ黒色 泥砂、-0.9～-1.1mで黄褐色砂礫の地山を切って 黄灰色泥砂の時期不明土坑。	24S216	TB 273	29-3
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町 地先	2/3～17	巡回時掘削終了	24T551	TB 415	25-1
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町 地先	3/17	巡回時掘削終了。	24T596	TB 486	25-1
鳥羽離宮跡	伏・中島前山町122	2/6	巡回時掘削完了。	24T523	TB 424	25-1
鳥羽離宮跡、 鳥羽遺跡	伏・中島中道町81・82・83	1/10	GL-0.49mまで盛土。	24T409	TB 387	25-1
淀城跡	伏・淀池上町133-2	2/18	淀城石垣を検出。 本報告73ページ。	24S564	TB 440	20
淀城跡	伏・淀下津町193-1、285の一部、 淀池上町163-2	24/6/12～ 25/2/3	GL-0.3mで淡黄色粘質土(灰白色粘土混)の地山、 -0.5mで暗褐色砂質土(礫混)、-0.65～-0.9mで 黄褐色粘質土。	23S343	TB 103	20

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京一条四坊十五・十六町跡	伏・久我石原町7-18	3/21	GL-0.06mまで盛土。	24NG018	NG 491	18-3
左京三条三坊九町・十六町跡	伏・久我西出町3-7、-146、-175、-176、4-7の一部、-8、-9	3/7～4/22	東二坊坊間東小路西側溝を検出。本報告67ページ。	24NG147	NG 468	19
左京三条四坊九町跡	伏・久我西出町7-4～7	2/17	長岡京期と考えられる柱穴、溝を検出。本報告70ページ。	23NG434	NG 437	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽東師菱川町545-65 (60号地)	2/5	GL-0.3mまで盛土。	24NG546	NG 422	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽東師菱川町545-64 (59号地)	2/13	GL-0.2mで灰色シルトの旧耕作土、-0.38mで明黄褐色シルト、-0.65～-0.83mで灰黄色シルト。	24NG545	NG 435	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽東師菱川町545-55 (43号地)	3/21	GL-0.24mまで盛土。	24NG644	NG 488	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽東師菱川町545-11 (3号地)	3/24	GL-0.5mまで盛土。	24NG617	NG 495	19
左京四条四坊三・六町跡、曆田遺跡	伏・羽東師菱川町640他 地内	24/9/5、25/1/29	No.1 ; GL-1.1～-1.18mで灰色粘土の湿地状堆積。 No.2 ; GL-0.98～-1.4mで明黄褐色粘質土。	24NG088	NG 217	19
左京四条四坊七町跡	伏・羽東師菱川町624-6	2/6	GL-0.35mまで盛土。	24NG543	NG 426	19
左京四条四坊七町跡	伏・羽東師菱川町624-7	2/7	GL-0.25mまで盛土。	24NG544	NG 425	19
左京五条四坊一・五・六・七・八・九・十・十一町跡、羽東師遺跡	伏・羽東師菱川町～羽東師古川町 地内	24/7/23～25/10/3	No.1 ; GL-0.43mで灰黄褐色泥砂の旧耕作土、-0.5mで黄褐色砂泥、-0.65～-1.0mで黄褐色砂泥。 No.2 ; GL-0.7～-1.25mでオリーブ褐色シルトの地山。 No.14 ; GL-0.6mで青灰色粘質土、-0.85～-1.05mで明オリーブ灰色粘質土。	23NG595	NG 163	19
左京五条四坊十五町跡、羽東師志水町遺跡	伏・羽東師志水町 地内	2/25～3/19	GL-1.26mで青灰色泥土、-1.43mでオリーブ灰色泥土(有機物混)の湿地状遺構、-1.8mでオリーブ灰色泥土。	24NG378	NG 451	19
左京六条四坊六町跡	伏・淀樋爪町地内	24/12/12～25/3/6	GL-1.5～-2.4mで青灰色シルト～細砂の水成堆積。	24NG377	NG 342	19
左京九条四坊五町跡	伏・葭島渡場島町32	1/20・22	GL-0.61～-0.95mで黄褐色粗砂。	23NG600	NG 400	20
左京条坊外	伏・葭島渡場島町32	1/27	GL-1.35mまで盛土。	23NG601	NG 407	20
右京北辺三坊六町、一条三坊九・十・十一町跡	西・大原野上里北ノ町～大原野上里男鹿町 地先	24/11/5～25/1/8	GL-0.4mで灰オリーブ色粘質シルトの地山。	24NG386	NG 296	29-7
右京北辺四坊一町跡	西・大原野上里南ノ町300他 地内	24/9/3、25/2/20	GL-1.0mまで盛土。	24NG090	NG 213	29-7

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
下津林遺跡	西・下津林佃1-1、116、301、302	2/12	GL-0.28mで橙色粘質土の地山。	23S393	MK433	18-2
檜原遺跡	西・檜原塚ノ本町1-3、1-4、1-65	1/6・7・14	GL-0.46mで明黄褐色粘質土の地山、-1.31～-1.64mで黄褐色礫混粘質土。	24S119	MK373	18-1
上久世遺跡	南・久世上久世町454	1/16・23・31	GL-0.35mで明黄褐色微砂混シルト、-0.6mで暗灰黄色細砂混粘土質シルト、-0.8～-0.9mで褐色砂礫の地山。	24S385	MK392	18-3
上久世遺跡、上久世城跡	南・久世上久世町他 地内	24/9/27、25/4/8	GL-1.6～-2.3mで褐色粘土質シルトの地山。	24S106	MK248	18-3
福西古墳群	西・大枝東長町 地先	2/10	GL-0.4mで黄褐色粘質土、-0.5mで橙色粘質土の地山、-0.8～-1.1mで明黄褐色粘質土。	24S581	MK428	27-1
福西古墳群	西・大枝北福西町1 地先	3/3	GL-1.0mまで盛土。	24S518	MK460	27-1

京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
あやめ塚隣接地	右・京北宮ヶ谷町	24/9/3、 25/12/23	日吉神社境内に所在する、墳丘状隆起の確認。 参道に1箇所、本殿北側の尾根上に1箇所確認。 いずれも、遺物の散布などは認められず。また、 本殿北側に岩盤を掘りぬいた石室を確認。現在の 神社に伴う遺構の可能性はある。	24A005	UK 214	30-1

II 2025年 4～12月期(令和七年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省跡、聚楽第跡	上・一条通浄福寺東入南新在家町335-1	11/21	GL-0.3mまで盛土。	25K414	HQ 339	1
内教坊跡、聚楽第跡	上・日暮通中立売下る須浜池町244 地先	12/1・2	巡回時掘削終了。	25K478	HQ 352	1
正親司跡	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町225-16、225-17	7/22～8/6	GL-0.62mで黒褐色泥砂の地山、-0.96～-1.77mでにぶい黄褐色シルト。	25K090	HQ 165	1
宴松原跡	上・下長者町通六軒町西入利生町294-193	12/23	GL-0.15mまで盛土。	25K487	HQ 392	1
宴松原跡	上・下立売通七本松東入長門町413-6 地先	12/18	巡回時掘削終了。	25K520	HQ 387	1
宴松原跡	上・下立売通七本松西入西東町 地先	12/2	巡回時掘削終了。	25K488	HQ 354	1
内蔵寮跡	上・千本通上長者町下る草堂町114-1 地先	11/12・14	巡回時掘削終了。	25K370	HQ 322	1
内裏跡、聚楽遺跡	上・千本通下立売下る小山町908-11	10/27	GL-0.4～-0.5mで暗褐色シルトの近世包含層。	25K369	HQ 302	1
内匠寮跡、鳳瑞遺跡	中・西ノ京左馬寮町26-1	12/1	GL-0.2mまで盛土。	25K461	HQ 351	1
左馬寮跡	中・西ノ京左馬寮町3-1	8/12～18	GL-0.65mまで盛土。	25K264	HQ 201	1
典葉寮跡	中・西ノ京車坂町2-28の一部	6/20	GL-0.6mまで盛土。	25K116	HQ 105	1
典葉寮跡	中・西ノ京車坂町2-30の一部	6/26	GL-0.55mまで盛土。	25K117	HQ 118	1
典葉寮跡	中・西ノ京車坂町2-29の一部	6/26	GL-0.45mまで盛土。	25K118	HQ 119	1
典葉寮跡	中・西ノ京車坂町3-6の一部	7/1	GL-0.25mまで盛土。	25K119	HQ 125	1
豊楽院跡、鳳瑞遺跡	中・聚楽廻西町186-5 地先	11/17	巡回時掘削終了。	25K452	HQ 325	1
朝堂院跡、聚楽遺跡	上・竹屋町通千本東入主税町1176-1ほか	6/30	GL-0.4mまで盛土。	25K029	HQ 124	1
朝堂院跡、聚楽遺跡	中・聚楽廻東町10-14	10/29	GL-0.5mまで盛土。	25K404	HQ 304	1
朝堂院跡、聚楽遺跡	上・千本通下立売下る小山町906、下立売通千本東下る中務町491-48、491-84	11/17～20	GL-0.23mで黒褐色礫混シルトの近世包含層、-0.53mで褐色砂礫の時期不明洪水砂、-0.7mで暗褐色粗砂混粘土質シルトの地山、-0.81mで黒褐色微砂混粘土質シルト、-0.88～-2.76mで褐色粘土質シルトの地山。	23K310	HQ 324	1
中務省跡、聚楽遺跡	上・主税町1135	4/14	GL-0.6mまで盛土。	24K651	HQ 016	1
主水司跡、聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町953-2 地先	10/10	巡回時掘削終了。	25K394	HQ 284	1
大炊寮跡、二条城北遺跡	上・日暮通丸太町下る南伊勢屋町771-3の一部	4/7	GL-0.4mまで盛土。	24K639	HQ 007	1
大炊寮跡	上・日暮通丸太町上る四町目802-18	5/30	GL-0.29～-0.4mで灰黄色粘質土の近世以降包含層。	25K131	HQ 069	1
大炊寮跡	上・日暮通丸太町下る四町目802-9	8/26	GL-0.6mまで盛土。	25K259	HQ 218	1
宮内省跡	上・竹屋町通千本東入主税町1226-1	12/9	GL-1.3mまで盛土。	25K423	HQ 367	1
民部省跡、聚楽遺跡	上・千本通二条下る東入主税町825-6の一部	7/28	GL-0.38～-0.53mで黒褐色シルトの時期不明包含層。	25K171	HQ 173	1
兵部省跡	中・西ノ京内畑町24-51、24-52	10/2・3	GL-0.15～-0.4mで黒褐色細砂混シルト。	25K338	HQ 267	1

平安京左京(HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊五・八町跡、上京遺跡	上・豎富田町～東橋詰町 地先	9/8・11	GL-1.5mまで攪乱。	24H501	HL 233	2・17-3
北辺三坊一・四町跡、内膳町遺跡	上・中立売通室町他 地内	7/23～8/8	GL-2.0mまで盛土。	25H045	HL 167	3
一条二坊四町跡	上・下立売通黒門西入橋西二町目638、641	8/7～18	GL-0.62mで黒褐色細砂混シルトの近世後期包含層(土師器、染付、施釉陶器)、-1.31～-1.6mで暗褐色粗砂混シルトブロックとにぶい黄褐色シルトブロックの混合層。	25H015	HL 195	2
一条二坊七町跡	上・堀川通出水上る榎屋町25他	10/24～11/7	GL-0.3mで黒尾褐色粗砂混シルト(焼瓦多量含)の近現代堆積層、-0.5mで褐色細砂混シルトを切って褐色細砂混粘土質シルトの土坑、-0.8mでにぶい黄褐色礫混シルト、-1.05～-1.75mで黄褐色細砂混粘土質シルトの地山を切ってにぶい黄褐色砂礫の溝。	25H009	HL 297	2
一条四坊九町跡、京都新城跡、公家町遺跡	上・京都御苑	10/30、11/7	GL-0.14mで明黄褐色泥砂の近世整地層を切って褐色砂泥の江戸ビット、-0.3～-0.55mでにぶい黄褐色砂泥の近世火災処理層。	25H435	HL 306	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
二条二坊二町跡、 二条城北遺跡	上・丸太町通黒門東入藁屋町 536-1	12/23	GL-0.65mまで盛土。	25H378	HL 394	2
二条二坊七町、 二条城北遺跡	上・下堀川町地先	9/22	GL-1.1mまで盛土。	25H267	HL 253	2
二条三坊一町跡	中・梅屋町他地内	9/18～12/24	GL-1.7mで灰黄色砂礫の地山。	25H059	HL 248	3
二条三坊十三町跡、 烏丸丸太町遺跡	中・東洞院通二条上る壺屋町506	5/23・26・ 27	GL-1.0mでにぶい黄褐色粘質土（焼土多量混）、 -1.55mでにぶい黄褐色粘質土の時期不明土坑、 -1.85mで灰黄褐色粘質土の室町包含層、-2.05～ -2.52mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	24H562	HL 060	3
二条四坊十二町跡、 烏丸丸太町遺跡	中・富小路通二条上る鍛冶屋町391 の一部	4/14・17	GL-1.2mで浅黄色砂泥の平安～鎌倉包含層（土 師器灯明皿）。	24H493	HL 017	3
三条二坊三町跡、 堀川御池遺跡	中・新シ町通御池下る大文字町239	6/19、7/14	GL-1.08～-1.21mで明黄褐色粘土の地山。	25H070	HL 104	2
三条二坊十二町跡	中・三条通堀川東入橋東詰町23	4/2・3	GL-0.98mで褐色泥砂、-1.16mで褐色砂礫の地山、 -1.54～-1.74mで明黄褐色シルトの地山。	24H693	HL 002	2
三条三坊一町跡	中・釜座通二条下る上松屋町693	9/10・11・ 12・16・ 17・18	GL-0.7mで暗褐色粗砂混シルト（炭混）の時期不 明包含層（土器）、-0.87mで暗褐色粗砂混シル ト（炭混、土器）の中世包含層を切って黒褐色 粗砂混シルトの時期不明ピット（土器）、 -1.04mで黒褐色粗砂混シルト（炭混）の中世包 含層（土器、瓦）、-1.25mで暗褐色細砂混シルト （炭混）の平安末期包含層（土器）を切って黒 褐色粘土混シルト（炭混）の土坑、-1.4mで黒褐 色微砂混粘土質シルト（炭混）の平安後期包含層 （土器）、-1.5～-1.6mで灰色砂礫の地山。	25H323	HL 243	3
三条三坊一町跡	中・釜座通二条下る上松屋町694	7/3～28	№1；GL-0.68mで灰黄褐色泥砂、-1.02～-1.22m で褐色泥砂の室町包含層。№3；GL-1.2～-1.65m で褐色砂泥の地山を切って黒褐色砂泥の中世落込。	24H425	HL 128	3
三条三坊四町跡、 烏丸御池遺跡	中・新町通姉小路下る町頭町113	6/26～8/18	GL-1.75mまで盛土。	24H312	HL 115	3
三条三坊五町跡、 烏丸御池遺跡	中・突抜町125	8/1	GL-0.4mまで盛土。	25H223	HL 186	3
三条三坊七町跡、 烏丸御池遺跡、 妙覚寺城跡	中・室町通押小路下る御池之町 307、307-1	10/16	GL-2.05mで暗灰黄色泥砂の時期不明包含層、 -2.24mで黄褐色砂泥の整地層、-2.29mで灰黄褐 色砂泥の時期不明包含層、-2.6mで黄灰色砂泥礫 混の室町時代前期の池埋土、-3.04mで黄色粗砂 の地山。	25H062	HL 290	3
三条三坊十二町跡、 烏丸御池遺跡	中・室町通姉小路下る役行者町366	6/18・20・ 23	GL-1.99mで明黄褐色シルトの地山。	25H006	HL 097	3
三条四坊九町跡、 烏丸御池遺跡	中・押小路通富小路上る橘町635-2	4/22・24・ 30、5/16	GL-0.6mでにぶい黄褐色泥砂を切って黄灰色粘質 土の時期不明土坑、その土坑を切って暗灰黄色粘 質土の時期不明土坑、-1.0mで暗灰黄色砂泥の時期 不明包含層、-1.6～-1.75mで浅黄褐色粘質土。 巡回時掘削終了。	24H635	HL 031	3
四条一坊一・八町跡	中・壬生朱雀町2-10～壬生馬場町 8-2地先	11/25	巡回時掘削終了。	25H413	HL 342	4
四条一坊四町跡	中・壬生御所ノ内町27-18	12/9・12	GL-0.88～-1.01mで明黄褐色シルト～微砂（炭化 物含）。	25H303	HL 366	4
四条二坊四町跡	中・新シ町通錦小路下る藤岡町508 の一部、510	4/8	GL-0.55mで暗オリーブ褐色粗砂混シルトの時期 不明包含層、-0.8～-0.95mで暗褐色細砂混シル トの平安末～鎌倉包含層。	24H602	HL 011	4
四条二坊十一町跡	中・油小路通錦小路上る山田町525 の一部	7/8～8/5	№5；GL-1.38mで黒褐色泥砂、-1.59～-1.84mで 褐色粘土の平安末期包含層（土師器、白磁）。 №6；GL-2.35mで黄褐色粗砂の地山。	25H053	HL 137	4
四条三坊五町跡、 烏丸綾小路遺跡	中・新町通四条上る小結棚町427、 429他	9/8～12、 10/29・31、 11/4～19	GL-1.12mで灰黄褐色泥砂を切ってにぶい黄褐色 泥砂の平安末期土坑、-1.28mでにぶい黄褐色泥 砂の地山、-1.52～-1.82mで灰黄褐色粗砂。	23H510	HL 234	5
四条三坊十六町跡、 烏丸御池遺跡	中・三条通烏丸東入梅忠町9、饅頭 屋町595	6/16	GL-2.4～-3.9mでにぶい黄褐色シルトの地山。	25H134	HL 090	5
四条四坊五町跡	下・四条通堺町東入立売中之町100-1 の一部	12/18	巡回時掘削終了。	25H396	HL 386	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条一坊一町跡	中・壬生柳ノ宮町18-2 地先	6/24・25	巡回時掘削終了。	25H115	HL 109	4
五条一坊十二・十三町跡	中・壬生相合町1	8/26・29	GL-0.5～-0.9mで黒褐色砂泥の近代盛土。	23H627	HL 219	4
五条一坊十三町跡	下・大宮通高辻下の高辻大宮町105	4/7～15	GL-1.6～-2.24mでにぶい黄橙色砂礫の地山。	24H563	HL 006	4
五条二坊十二町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・醒ヶ井通高辻下る住吉町497-1	9/2	GL-0.7mまで盛土。	25H159	HL 226	4
五条二坊十三町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・東中筋通高辻下る舟屋町664-1 他	11/6・7・11	GL-0.42mで明黄褐色砂礫、-0.5mで灰黄褐色砂泥の時期不明包含層を切って灰色泥砂の中世落込(土師器)、-0.93mでにぶい黄色泥砂の地山。	25H464	HL 313	4
五条三坊一町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通四条下る妙伝寺町710 他 13筆	4/21～5/9	№2 ; GL-1.49mで淡黄色泥砂、-1.66mで浅黄色粗砂、-1.85～-2.7mで灰黄色砂礫の地山。№3 ; GL-0.69mで灰褐色泥砂(焼土混)の時期不明包含層、-0.96～-1.19mで灰オリーブ色粗砂～細砂の流水堆積。	24H454	HL 025	5
五条三坊四町跡、 だいうすの城跡、 烏丸綾小路遺跡	下・西洞院通高辻下る高辻西洞院町796-1・4・5	5/26	GL-0.78mで灰白色粗砂～砂礫の地山、-1.07～-2.32mで黄灰色シルト。	24H588	HL 062	5
五条三坊八町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・松原通新町東入中野之町～万寿寺通新町東入徳万町 地先	11/21～12/17	GL-1.05mまで盛土。	25H491	HL 337	5
五条四坊一町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・高倉四条下る高材木町213	12/8	GL-0.4mまで盛土。	25H468	HL 364	5
五条四坊七町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・仏光寺通柳馬場西入東前町415、 415-1、411-1	11/21・25	GL-0.7mまで盛土。	25H392	HL 338	5
五条四坊九・十六町跡	下・麩屋町通四条下る八文字町339、 341-1	9/12	GL-0.6mまで盛土。	25H319	HL 244	5
五条四坊十二町跡	下・吉文字町435-1	6/2	GL-0.69mで暗灰黄色泥砂の近世包含層、-1.07～-1.33mで灰黄褐色細砂～泥砂。	21H787	HL 071	5
五条四坊十五町跡	下・寺町通綾小路下る中之町558-1、 558-3、558-4、558-5	10/15～11/25	GL-0.75～-1.1mで黒褐色粗砂混粘土質シルトの近世後期包含層。	25H260	HL 289	5
五条四坊十六町跡	下・御幸町通四条下る大寿町386	11/4	GL-1.3mまで盛土。	25H355	HL 308	5
五条四坊十六町跡	下・御幸町通四条下る大寿町392他	11/10、12/4	GL-1.6mまで盛土。	25H397	HL 317	5
六条二坊三町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・猪熊通五条下る柿本町594-11	11/20・25・ 27・28、12/1	GL-0.8mで灰黄褐色泥砂の中世整地層(土師器)を切って暗褐色小礫混泥砂の中世土坑(土師器)、-1.2mで浅黄褐色細砂～シルトの地山。	25H300	HL 335	4
六条二坊十五町跡、 烏丸綾小路遺跡	下・油小路通五条上る上金仏町 249-3	7/11～9/9	GL-0.23mで灰黄褐色砂泥(炭化物混)の江戸包含層、-0.57mで灰黄褐色砂泥の鎌倉包含層、-0.75mで黄褐色砂泥の平安末期包含層(土師器皿)、-0.94mで褐色シルトの地山、-1.63～-2.24mでにぶい黄褐色泥砂(礫混)。	24H487	HL 146	4
六条三坊五町跡	下・新町通鍵屋町上る蛭子町136、 136-1	10/17・20	GL-0.65mまで盛土。	25H368	HL 292	5
六条三坊十一町跡	下・楊梅通室町東入横諏訪町322	6/9	GL-1.30mまで解体攪乱。	25H038	HL 083	5
六条三坊十一町跡	下・大黒町196、196-12、196-14、 196-17	9/8・11	№1 ; GL-3.09mで褐色粗砂～細砂(炭化物含・土器)の時期不明河川堆積を切って、暗褐色砂礫～シルトの落込。№2 ; GL-1.99～-3.19mで褐灰色砂礫の地山。	24H167	HL 235	5
六条三坊十二町、 七条三坊九町跡、 東本願寺前古墓群	下・上柳町、北町、大黒町 地内	5/13・16	GL-1.8mまで盛土。	24H652	HL 045	5・7
六条三坊十二町跡	下・鍵屋町通烏丸西入鍵屋町341	11/4・11	GL-1.94mで黄褐色砂礫の地山。	25H128	HL 310	5
六条四坊七町跡	下・高倉通五条上る亀屋町179、180、 183、185-1	11/6、12/3・ 5・10	GL-1.43mで灰黄色砂泥(固く締まる)の中世包含層、-1.69mで固く締まった灰黄色砂礫の時期不明整地層、-1.79～-3.02mで灰白色砂礫の地山。	25H249	HL 312	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六条四坊八町跡	下・松原通堺町東入杉屋町288-1・2・3、289-1・2、柳馬場通松原下の忠庵町296、298	10/9・10・15・16・22・29	№1；GL-0.88mで黄褐色粗砂～細砂の河川堆積、-1.36～-1.55mで黒褐色粗砂混粘土質シルトの古代末～中世包含層。№2；GL-1.1mで黒褐色礫混シルトの近現代整地層、-1.25mで黒褐色礫混シルトの近世包含層を切って黒褐色粗砂混シルトの土坑、-1.35mで暗褐色粗砂混シルトの中世包含層、-1.55～-1.75mで黒褐色粗砂混シルトの中世包含層。	25H334	HL 282	5
七条一坊一町跡	下・西新屋敷下之町9-3の一部	6/10	GL-0.35mまで盛土。	24H633	HL 085	6
七条一坊十四町跡、東市跡	下・大宮通花屋町下る大宮二丁目605	10/30、11/18	GL-0.5mまで盛土。	25H415	HL 307	6
七条二坊二町跡、東市跡	下・堀川花屋町下る本願寺門前町	9/22・24	GL-0.35mで褐色泥砂。	24H650	HL 251	6
七条三坊一・二町跡	下・花屋町通新町通西入東松山町834、834-3	7/22	GL-0.5mまで盛土。	25H160	HL 159	7
七条四坊四町跡、東本願寺前古墓群	下・東洞院通七条上る胎屋町252-4	11/10	GL-0.6mまで盛土。	25H363	HL 318	7
七条四坊十六町跡	下・加茂川端六軒町西入波止土濃町346-3	12/10・15	GL-0.7mまで盛土。	25H436	HL 371	7
八条一坊十六町跡	下・御器屋町67-1、70-1、70-3、70-6	7/29～31	GL-0.75mで黒褐色泥砂、-0.95mで褐色シルト、-1.02mでにぶい黄色シルトの時期不明整地層、-1.16～-1.49mで黄灰色砂礫の地山。	24H303	HL 174	6
八条三坊一町跡、東本願寺前古墓群	下・新町通七条下る東塩小路町594-3	9/24～10/9	GL-0.52mで黒褐色微砂混シルトの近世包含層、-0.64mで暗オリーブ褐色細砂混シルトの近世包含層、-0.86mで暗灰黄色砂礫を切って黄灰色粗砂混シルトの平安末～鎌倉の土坑(土師器Ⅲ)、-1.39～-2.6mで灰白色砂礫の河川堆積。	25H106	HL 254	7
九条一坊二町跡	南・八条源町76の一部	4/18	GL-0.17mでにぶい黄褐色泥砂、-0.32～-0.38mで黄褐色細砂～粗砂。	24H572	HL 022	6
九条一坊四町跡	南・八条内田町20-2	12/11	GL-0.76mまで攪乱。	25H383	HL 372	6
九条二坊二町跡	南・東寺東門前町46、47、132-2、133-2、138-2、西九条猪熊町47-2、49-2	10/17・22・24	GL-0.78mで褐色泥砂、-1.06mで褐色粗砂の河川堆積、-1.2mで灰白色礫混粗砂、-1.41～-1.73mで黄褐色粗砂。	25H151	HL 293	6
九条三坊十一町跡、烏丸町遺跡	南・東九条北烏丸町3-1、3-15	6/10	巡回時掘削終了。	24H619	HL 084	7
九条三坊十二町跡、烏丸町遺跡	南・東九条烏丸町2-3、2-6	6/2～6	GL-0.25mで黒褐色泥砂の旧耕作土、-0.65～-0.8mで黒褐色シルト。	24H444	HL 075	7
九条四坊一町跡、烏丸町遺跡	南・東九条東山王町22-1の一部、23の一部	9/2・3	GL-0.75mまで盛土	25H215	HL 227	7
九条四坊十町跡、烏丸町遺跡	南・東九条東岩本町1-1	4/21・23	GL-0.64～-2.77mで明褐色粗砂～砂礫(鉄分含)の氾濫堆積。	24H605	HL 027	7

平安京右京(HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条二坊二町跡	中・西ノ京北円町58-1の一部、58-2、58-3	8/18～9/12	平安の勘解由小路南側溝及び土坑、平安中～後期の整地層を検出。 本報告29ページ。	25H105	HR 205	9
一条二坊十五・十六町跡、御土居跡	中・西ノ京中保町 他 地内	12/18～24	№1；GL-1.11mで黒褐色砂泥、-1.24mで明黄褐色シルト、-1.42mで砂礫を含む明黄褐色シルトの地山。№4；GL-0.27mでにぶい黄褐色砂質土、-0.49～-0.69mで黒褐色シルトの平安包含層。	25H047	HR 384	9
一条三坊二町跡	中・西ノ京御輿岡町16-10	6/4	GL-1.0mまで盛土。	25H004	HR 078	8
一条三坊十一町跡	中・西ノ京馬代町9-10	7/22・23	GL-0.6mまで盛土。	25H132	HR 160	8
一条三坊十五町跡	右・花園北町20-3 他	4/18	GL-0.4～-2.0mで江戸以前石組井戸。牛若丸首途乃井の石碑付近の敷地内で井戸の一部が見つかり、確認のための詳細分布調査。	23H520	HR 023	8
一条四坊十三町跡	右・花園伊町38-18の一部(A号地)	7/3	GL-0.55mまで盛土。	25H072	HR 129	8
一条四坊十三町跡	右・花園伊町38-18の一部(B号地)	7/3	GL-0.4mまで盛土。	25H073	HR 130	8

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
二条二坊三町跡 二条二坊五町跡	中・西ノ京冷泉町30-2 中・西ノ京笠殿町153	7/22 4/11・14	巡回時掘削終了。 GL-0.28mで黄灰色泥砂、-0.5~-0.64mでにぶい黄橙色砂質土。	25H170 24H571	HR 163 HR 014	9 9
二条二坊十四町跡、 西ノ京遺跡	中・西ノ京北壺井町43-2	6/18・25、 7/25	GL-1.0~-1.85mでにぶい黄褐色砂礫の氾濫堆積。	25H017	HR 101	9
二条二坊十四町跡、 西ノ京遺跡	中・西ノ京北壺井町43-1	6/18・25・ 30、7/2・25	GL-0.75mで灰黄褐色砂泥礫混、-0.87~-1.09mで明黄褐色砂礫の氾濫堆積。	24H675	HR 100	9
三条一坊一町跡、 壬生遺跡	中・西ノ京星池町215~220	8/19~11/12	№1；GL-0.85~-1.06mで褐色砂礫。№5；GL-1.33mでにぶい黄褐色砂礫の河川堆積、-2.72~-4.37mで黄褐色粘土質シルトの地山。	24H688	HR 207	9
三条一坊十一町跡、 壬生遺跡	中・西ノ京東月光町27 他	6/16・17・ 20	GL-0.77mで褐灰色微砂含む黒褐色シルト、-0.9mで黒褐色微砂、-1.01~-1.45mで緑灰色微砂。	24H655	HR 091	9
三条三坊八町跡、 西ノ京遺跡	中・西ノ京徳大寺町1、2-1、2-2、 3、4-1、5、200-1、200-2、西中合 町100-11	7/23~28	GL-0.77mで黄灰色シルト、-0.95mで明黄褐色シルト（旧耕作土?）。	25H138	HR 166	8
三条四坊五町跡	右・山ノ内北ノ口町8-1、8-2の一部、 8-27	5/29・30	GL-0.35mでオリブ褐色砂泥、-0.5mで明黄褐色粘質土を切って暗褐色シルト質泥土の時期不明土坑、-0.7~-0.9mで浅黄橙色粘質土の地山。	24H671	HR 066	8
四条一坊十三町跡 四条二坊二町跡、 壬生遺跡	中・壬生森町59-15の一部 中・壬生東大竹町25-5他	10/24 7/29	GL-0.35mまで盛土。 GL-2.03~-2.37mで明黄褐色砂礫。	25H244 25H239	HR 298 HR 169	11 11
四条二坊九町跡 四条三坊五町跡、 西院城跡(小泉城)	右・西院上今田町24 右・西院巽町25-2、25-3	7/22 9/8・11	GL-0.45mまで盛土。 GL-0.25mで暗褐色細砂混シルトの近世後期包含層、-0.45mで黒褐色細砂混シルトの近世包含層、-0.68mで暗オリブ褐色細砂混シルトの中世包含層、-0.85mで黒褐色細砂混シルトの平安末期~鎌倉包含層（土師器、白磁碗）、-1.04mで明黄褐色粘土質シルトの地山を切って黒褐色細砂混シルトの時期不明土坑、暗灰黄色細砂混シルトの時期不明ピット。	24H683 25H092	HR 164 HR 240	11 10
四条三坊七町跡、 西ノ京遺跡	右・西院春栄町19の一部	7/4	GL-0.3mまで盛土。	25H182	HR 132	10
四条三坊十・ 十五町跡 四条三坊十三町跡、 山ノ内遺跡、 西院城跡(小泉城)	右・西院春栄町25-33、25-47、 山ノ内赤山町1-31 右・小米町7-5、8-1の一部	6/2・4・6・ 9 9/8	GL-0.41mで黄褐色砂泥、-0.57mでにぶい褐色泥砂、-0.78~-1.07mで褐色泥砂。 GL-0.45mまで盛土。	25H139 24H684	HR 073 HR 236	10 10
四条三坊十四町跡 四条四坊八町跡 四条四坊八町跡、 山ノ内遺跡	右・山ノ内赤山町7-3 右・山ノ内中畑町1、1-2 右・山ノ内中畑町24、24-4、24-5	10/17 5/29・30 4/4	GL-0.5mまで盛土。 GL-1.2mまで盛土。 GL-0.4mまで盛土。	25H181 24H689 24H573	HR 291 HR 067 HR 004	10 10 10
五条一坊五町跡	中・壬生松原町47-4	11/28、12/2	GL-0.52mでにぶい黄色シルトの時期不明包含層、-0.6~-0.77mでにぶい黄橙色泥砂（礫混）。	25H240	HR 349	11
五条一坊十三町跡	中・壬生下溝町38-9	6/12・13	GL-0.38mの灰色シルトの旧耕作土、-0.6mで明黄褐色シルトの地山、-0.92mで明黄褐色シルト（小礫含）、-1.08mで黄灰色粗砂、-1.3~-1.86mで灰黄褐色砂礫。	24H685	HR 088	11
五条二坊三町跡	中・壬生東檜町19、20	8/25・28・ 29、9/1	GL-0.49mで黄橙色シルトの地山、-0.72~-0.87mで黄橙色砂礫。	25H218	HR 215	11
五条二坊七町跡、 御土居跡	中・壬生西土居ノ内町11-2	7/29	GL-0.28~-0.37mでにぶい黄橙色シルト。	25H098	HR 176	11
五条三坊一町跡、 西院城跡(小泉城)	右・西院松井町26の一部	7/25	巡回時掘削終了。	25H064	HR 170	10
五条三坊一町跡、 西院城跡(小泉城)	右・西院巽町21	12/12	GL-0.79mでにぶい黄灰色泥砂、-1.08mで灰黄色砂礫、-1.38mで灰黄色シルト、-1.84mで浅黄色砂礫。	25H148	HR 376	10
五条四坊三町跡、 西京極遺跡	右・西院日照町27-1・2	11/25	GL-0.4mまで盛土。	25H418	HR 341	10
六条一坊一町跡	下・中堂寺北町1-13	10/10・15	GL-1.0~-1.8mでにぶい黄褐色砂礫の河川堆積。	25H130	HR 285	11

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六条二坊四町跡	下・西七条東御前田町33-3他	8/27・28	No.1 ; GL-0.44mで淡黄色泥砂(礫混)、-0.66~-0.88mで灰黄色細砂(礫混)。No.2 ; GL-1.57mで明褐色シルト礫混の地山。	25H065	HR 221	11
六条二坊五町跡	下・西七条御前田町3	10/6・9	GL-0.37mで黒褐色細砂混粘土質シルトの旧耕作土、-0.55mで暗オリーブ褐色微砂混粘土質シルトの時期不明包含層、-0.64~-1.3mで褐色微砂混粘土質シルト~灰黄褐色粗砂の地山。	25H287	HR 271	11
六条三坊五町跡	右・西京極北庄境町34	7/7・8・11	GL-0.35mで灰褐色シルト、-0.53mで灰黄褐色シルト、-0.83mで暗灰黄色泥砂、-1.05mで黄灰色細砂、-1.26mで灰黄色細砂、-1.62~-2.19mで黄灰色砂礫。	25H057	HR 133	10
六条四坊一町跡、 西京極遺跡	右・西院清水町151	4/21	GL-0.92mで黄色細砂、-1.12mで灰オリーブ色粘質土を切って灰色泥砂の時期不明土坑(土師器)、-1.58~-1.74mで明黄褐色砂礫の地山。	24H561	HR 026	10
七条一坊一町跡、 御土居跡	下・朱雀分木町80	6/27・30、 7/7	巡回時掘削終了。	25H168	HR 121	13
七条一坊二町跡	下・朱雀分木町80	7/22	GL-0.62mまで盛土。	25H167	HR 162	13
七条一坊二町跡、 御土居跡	下・朱雀分木町12-13の一部他	10/01・10	GL-0.85mで黄褐色シルト~極細砂、-1.35mでオリーブ灰色シルト、-1.5m以下灰黄色砂礫。	25H076	HR 263	13
七条一坊九町跡	下・西七条東八反田町4-2	4/7	GL-0.5mまで盛土。	24H676	HR 008	13
七条三坊一町跡	下・西七条八幡町21-1	6/25	GL-0.1mまで盛土。	24H552	HR 114	12
七条四坊十一町跡	右・西京極北裏町8-2の一部	12/25	GL-0.55~-0.7mでにぶい褐色泥砂の近世包含層。	25H336	HR 396	12
八条一坊九町跡	下・朱雀裏畑町11	4/10	GL-0.32~-0.40mで黄橙色粘質土の地山。	24H662	HR 013	13
八条二坊四町跡、 梅小路城跡	下・梅小路西中町61	12/23	GL-0.48mでにぶい黄褐色シルト。	25H545	HR 393	13
八条二坊五町跡	下・梅小路西中町39-2	8/25	GL-0.35mまで盛土。	25H263	HR 216	13
八条二坊九町跡、 衣田町遺跡	下・西七条南衣田町95	11/20・25	GL-1.26mでにぶい黄褐色礫混粗砂の流れ堆積、-1.53mで明褐色粗砂、-1.85mでにぶい黄褐色粗砂、-1.92mで黒褐色泥砂、-2.03~-2.79mで灰黄褐色細砂と明赤褐色中粒砂の互層。	25H400	HR 336	13
八条三坊五町跡	南・吉祥院西ノ庄西浦町地内	11/4・6	GL-0.5mで耕作土、-0.7mでにぶい黄色シルト~細砂。	25H310	HR 309	12
八条三坊十五町跡	右・西京極下沢町1-14、2-3、1-65	9/25	GL-0.6mまで盛土。	25H289	HR 257	12
九条一坊一町跡	南・唐橋赤金町31、37の一部	6/18	GL-0.35mまで盛土。	24H640	HR 098	13
九条一坊二町跡	南・八条源町1-14	6/16	GL-0.79~-0.92mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	25H152	HR 092	13
九条一坊二町跡	南・八条源町1-15	6/19~7/4	GL-0.8mまで盛土。	25H039	HR 103	13
九条一坊十二町跡、 史跡西寺跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町	7/11	GL-0.28~-0.5mまで暗灰黄色泥砂。	7N008	HR 148	13
九条一坊十二町跡、 史跡西寺跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋西寺町	11/28、12/4	GL-0.22mで褐色泥砂の平安包含層、-0.44mで褐灰色泥砂(礫混)、-0.65~-0.75mで暗灰黄色泥砂(砂礫多く含む)。	6N102	HR 356	13
九条一坊十五町跡、 西寺跡、唐橋遺跡	南・唐橋門脇町5-1、5-32	8/22	GL-0.25mまで盛土。	25H282	HR 213	13
九条二坊二町跡、 唐橋遺跡	南・唐橋平垣町49-6	5/19	GL-0.07~-0.13mで灰黄褐色砂泥の時期不明旧耕作土(土師器)。	24H660	HR 053	13
九条三坊九町跡	南・吉祥院西ノ庄西中町12	5/16	GL-0.67mで褐色礫混泥砂、-0.82mでにぶい黄褐色砂泥、-1.08mでにぶい黄褐色粘質土の地山、-1.37~-1.63mで褐灰色粘質土。	24H687	HR 050	12
九条四坊二町跡	南・吉祥院宮ノ東町21	10/20	GL-0.35mまで盛土。	25H041	HR 296	12

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
愛宕山遺跡	右・嵯峨橋原稲荷元町他	5/16	平安前～中期の平坦面2箇所確認。本報告78ページ。	25A004	UZ 052	30-4
嵯峨遺跡	右・嵯峨鳥居本仏餉田町17-3、17-4	10/20・23	GL-0.34mでにぶい黄褐色泥砂、-0.61mで明黄褐色シルト地山、-1.14～-1.33mで黄褐色砂礫。	25S345	UZ 294	24-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺若宮町31	12/11	GL-0.48mで明褐色泥砂の時期不明包含層。	25S450	UZ 374	24-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺北造路町2-3、3の一部	10/30・31、 11/4・5	GL-0.67mで明黄褐色シルトの地山を切って褐色泥砂の落込、灰黄褐色泥砂のピット、-1.17～-1.28mで灰黄褐色砂礫。	25S250	UZ 305	24-1
嵯峨遺跡	右・嵯峨中通町13-1	10/27・29	GL-0.83～-0.93mで暗褐色粗砂混シルトの時期不明包含層。	25S367	UZ 300	24-1
嵯峨遺跡、 宝幢寺境内	右・嵯峨北堀町20-203の一部	6/17	GL-0.4mまで盛土。	25S155	UZ 096	24-1
南野古墳群	右・嵯峨広沢南下馬野町21-21	10/6	GL-0.28～-0.42mで黄褐色シルトの地山。	25S291	UZ 272	27-2
龍安寺 御陵ノ下町遺跡	右・龍安寺御陵ノ下町1-14の一部	6/30	GL-0.5mまで盛土。	25S058	UZ 122	16-1
仁和寺院家跡	右・宇多野長尾町9	6/26・30	GL-0.25mで橙色泥砂の地山、-0.42～-1.17mで黄褐色シルト（礫混）。	25S010	UZ 117	21
仁和寺院家跡、 円乗寺跡	右・花園円成寺町10、花園天授ヶ岡町41-1	7/30	GL-2.69～-2.9mで灰白色粘土。	24S290	UZ 177	21
村ノ内町遺跡、 常盤東ノ町古墳群	右・常盤村ノ内町地先	4/17～5/26	№2；GL-0.5mで浅黄褐色粘質土の地山、-0.9mで黄褐色粗砂（鉄分含む）、-1.0～-1.25mで灰白色シルト。№10；GL-0.27mでにぶい黄褐色砂泥の土壌化層、-0.36m淡黄色粗砂（小礫混）の地山、-0.57～-0.7mで淡黄色砂礫。	24S570	UZ 021	21
和泉式部塚古墳、 森ヶ東瓦窯跡、 和泉式部町遺跡	右・太秦和泉式部町7-4	7/31	GL-0.4mまで盛土。	25S197	UZ 180	21
広隆寺旧境内、 常盤仲之町遺跡	右・太秦東蜂岡町10	4/23～12/10	竪穴建物と考えられる遺構を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 令和7年度』に報告。	24S646	UZ 033	21
広隆寺旧境内、 常盤仲之町遺跡	右・太秦東蜂岡町10	9/1・3・9・ 30	時期不明包含層を検出。『京都市内遺跡試掘調査報告 令和7年度』に報告。	25S192	UZ 223	21
広隆寺旧境内、 常盤仲之町遺跡	右・太秦東蜂岡町10	5/12・13・ 21	GL-0.41mでにぶい褐色シルト、-0.49～-0.56mで明褐色砂礫。	24S171	UZ 047	21
広隆寺旧境内、 常盤仲之町遺跡	右・太秦東蜂岡町10	8/15	GL-0.32mまで盛土。	24S645	UZ 202	21
広隆寺旧境内、 常盤仲之町遺跡	右・太秦東蜂岡町10	9/29	GL-0.35mまで盛土。	24S599	UZ 259	21
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町3-6、3-60	6/25	GL-0.4mでにぶい黄褐色粘質土の中世包含層、-0.5mで明黄褐色シルトの地山。	24S623	UZ 113	21
多藪町遺跡	右・太秦多藪町14-144	10/1	巡回時掘削終了。	25S321	UZ 264	21

洛北地区(RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
補陀落寺跡	左・静海市原町	6/5	現況確認。平坦面に林業作業道が敷設されていることを確認。	25A005	RH 079	27-6
大雲寺跡	左・岩倉上蔵町297	7/10・14	GL-0.19mでにぶい褐色砂礫の河川堆積、-0.47mで灰黄褐色岩盤。	25S217	RH 143	27-3
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉三笠町158、159	4/21	GL-0.16mで淡黄色泥砂の旧耕作土、-0.50mで明黄褐色砂泥の近世包含層、-0.88～-1.0mで黄褐色砂礫。	24S474	RH 030	27-4
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉忠在地町405、406、407、409の一部	7/31	GL-0.29mで明黄褐色砂質土、-0.42mで明黄褐色砂礫。	25S083	RH 179	27-4
蟹ヶ坂瓦窯跡	北・西賀茂蟹ヶ坂町26-17の一部 (3号棟)	4/7	GL-0.3mまで盛土。	24S481	RH 010	17-1
醍醐ノ森瓦窯跡	北・西賀茂中川上町52-1地先	5/29・30	巡回時掘削終了。	25S031	RH 065	25-3
醍醐ノ森瓦窯跡	北・西賀茂中川上町52-1	11/11	GL-0.26～-0.32mまで黄褐色泥砂。	25S320	RH 320	25-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
角社瓦窯跡	北・大宮北山ノ前町3-1地先	11/19	巡回時掘削終了。	25S420	RH 333	25-3
元稲荷窯跡	左・岩倉幡枝町743-24	10/7	GL-0.14～-0.44mで明黄褐色細砂～シルトの地山。	25S143	RH 279	27-5
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町641-25	7/15	GL-0.35mまで盛土。	25S203	RH 149	27-5
栗栖野瓦窯跡	左・岩倉幡枝町641-29	10/15	GL-0.5mまで盛土。	25S390	RH 288	27-5
南池田窯跡	左・岩倉幡枝町1061-1、1034-2	6/10	GL-0.5～-0.8mで暗灰色砂礫の地山。	24S177	RH 086	27-5
史跡賀茂別雷神社境内	北・上賀茂本山	7/2	GL-0.03～-0.3mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明包含層（土師器）。	7N004	RH 147	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂豊田町2-2	5/2	GL-1.2mまで盛土。	22S658	RH 036	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂豊田町73-1、73-2、75	6/2	GL-0.5mまで盛土。	24S658	RH 072	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂土門町67、68	7/7	GL-0.46mで黒褐色砂泥の時期不明包含層（竪穴埋土?）、-0.66mでにぶい黄褐色シルトの土壌化層、-0.73～-0.85mで褐色シルトの地山。	25S164	RH 136	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂蟬ヶ垣内町65-1、65-3	9/8	GL-0.62mで黄灰色細砂混シルトの旧耕作土、-0.7mで褐色微砂混シルトブロックとにぶい黄褐色細砂混シルトブロックの混合層を切って暗褐色微砂混シルトのピット、-0.86mでにぶい黄褐色細砂混シルトの地山。	25S306	RH 232	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂荒草町50の一部	9/2・3	GL-0.12～-0.28mでにぶい黄灰色シルトの地山を切って黄灰色シルトの古墳の南北溝。	25S220	RH 228	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂高縄手町12～89地先	10/14～12/24	No.7；GL-0.42mで褐色微砂混粘土質シルトの時期不明包含層、-0.5mで暗褐色細砂混じり粘土質シルト、-0.7～-0.85mで褐色砂質シルトの地山。	25S362	RH 286	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂松本町59	7/31	GL-0.39mで黒色シルト、-0.57～-1.5mで褐色シルトの地山。	25S133	RH 181	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨北茶ノ木町22	5/19・21、6/19	GL-0.27mで黄灰色泥砂の旧耕作土、-0.63mで暗褐色中砂（φ3～7cmの礫混）、-0.78～-1.59mで黄褐色砂礫の地山。	24S609	RH 055	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨南芝町11の一部	5/23・26	GL-0.55～-0.61mで灰黄褐色細砂。	25S077	RH 059	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨南芝町38-1、38-3	10/2	GL-0.5mまで盛土。	25S125	RH 268	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂桜井町103-1	9/1	GL-2.5mまで盛土。	25S265	RH 222	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂桜井町22-2	5/7	GL-0.14～-0.57mで暗灰黄色砂泥の旧耕作土。	25S003	RH 037	24-2
植物園北遺跡	北・上賀茂桜井町64	4/28・30	GL-0.7mまで盛土。	24S630	RH 034	24-2
植物園北遺跡	左・下鴨梁田町27-1、27-3の一部	11/7	GL-0.2mまで盛土。	25S359	RH 316	24-2
御土居跡	北・紫竹北大門町6-4	9/3	GL-0.28～-0.4mでにぶい黄褐色砂礫の地山。	25S261	RH 231	17-2
御土居跡	北・紫竹大門町6-3の一部	6/18	GL-0.3mまで盛土。	25S056	RH 099	17-2
御土居跡	北・衣笠開寺町80-8～鷹峯旧土居町地先	5/16・19・20・21	GL-0.6～-0.7mで明褐色砂質土。	25S005	RH 051	16-3
御土居跡	北・紫野花ノ坊町40-1地先	12/4	巡回時掘削終了。	25S457	RH 361	16-3
市指定史跡	北・紫竹下竹殿町47	9/10	GL-0.13mでオリーブ褐色泥砂の時期不明包含層（土師器）、-0.34～-0.66mで褐色泥砂の地山。	25A012	RH 345	17-2
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町44の一部	10/6・7・8・15	GL-0.24mで黒褐色細砂混シルトを切ってにぶい黄褐色細砂混粘土質シルトの土坑とにぶい黄褐色細砂混シルトのピット、-0.4～-0.45mで褐色細砂混粘土質シルトの地山を切って黒褐色微砂混粘土質シルトのピットと黒褐色微砂混粘土質シルトの溝。	25S022	RH 270	16-3
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町10の一部	8/18	GL-0.2mまで盛土。	25S209	RH 206	16-3
史跡船岡山	北・紫野北舟岡町42	10/6	GL-0.12mでオリーブ褐色泥砂、-0.2～-0.35mで明黄褐色シルトの地山。	6N101	RH 347	16-3
史跡船岡山	北・紫野北舟岡町42	9/12	GL-0.12mで褐色泥砂、-0.18～-0.4mで明黄褐色砂泥の地山。	7N022	RH 346	16-3
北野鳥居前町遺跡	上・御前通今出川上る鳥居前町671	8/4	GL-0.4mまで盛土。	25S033	RH 189	16-3
北野天満宮	上・観音寺門前町816、817-1、821-90、866	4/9・10	GL-0.34mで黄褐色砂泥、-0.59～-0.78mで黄褐色砂礫の地山。	24S625	RH 012	16-3
上京遺跡	上・大宮通寺之内下る花開院町109	8/8	GL-0.5mまで盛土。	25S114	RH 200	16-3・17-3
上京遺跡	上・寺之内通猪熊東入東西町393	10/27	GL-0.03～-0.1mまで盛土のみ。	25S314	RH 301	17-3
上京遺跡	上・寺之内通堀川西入東西町406-1、406-2、406-3、409	4/14～28	GL-0.79mで褐色泥砂、-1.05mで灰黄褐色泥砂の近世包含層、-1.27mで褐色泥砂の中世包含層、-1.73～-1.95mで明黄褐色砂礫。	24S628	RH 018	17-3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
上京遺跡	上・大宮通五辻下る観世町123-6他、 今出川通大宮東入元伊佐町271-4他	11/21・25・ 26・27・28、 12/2・8・15	GL-1.49mで黄褐色粘質土のブロック含むにぶい 黄褐色砂泥、-1.54~-1.82mで暗褐色泥砂（炭含） の近世包含層（土師器、陶器）。	24S472	RH 340	17-3
上京遺跡	上・猪熊通今出川上る北猪熊町311	10/10	GL-0.4mまで盛土。	25S174	RH 280	17-3
上京遺跡	上・室町通今出川上る築山南半町 247-1	6/24~7/11	GL-1.1mまで盛土。	24S621	RH 110	17-3
上京遺跡	上・今出川通寺町西入二丁目草堂内 町517-1-1、517-1-2、519-3	4/21	GL-1.25mまで盛土。	24S405	RH 024	17-3
上京遺跡、 寺ノ内旧域	上・上立売通小川東入上る挽木町 530	7/15・16・ 17	No.1；GL-0.69mでにぶい黄褐色泥砂、-0.93~ -1.11mで灰黄褐色泥砂の近世包含層。No.2； GL-1.02mで黄褐色砂礫の地山。	25S144	RH 150	17-3
上御霊遺跡、 相国寺旧境内	上・相国寺門前町他 地内	7/16、10/21・ 23	GL-0.7mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明包含層。	25S046	RH 154	17-3
上御霊遺跡、 相国寺旧境内	上・今出川通東入相国寺門前町701	9/3・19	GL-0.45~-0.6mで褐色砂泥の地山。	25S142	RH 230	17-3
上御霊遺跡、 相国寺旧境内	上・今出川通東入相国寺門前町701	11/18・20・ 26	GL-0.16mでにぶい黄褐色砂泥（近世互混）、 -0.57mで灰黄褐色砂泥、-0.97~-1.15mでにぶい 黄褐色シルトの地山。	25S205	RH 331	17-3
公家町遺跡	上・京都御苑3	9/17	GL-0.18mでにぶい黄褐色砂質土、-0.26mで黄灰 色シルトの時期不明包含層、-0.41~-0.48mで黄 灰色砂質土。	24S620	RH 247	17-3

北白川地区(KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一乗寺跡	左・一乗寺燈籠本町26の一部	6/23	GL-0.29~-0.39mで浅黄色粗砂。	24S614	KS 106	27-7
北白川廃寺	左・北白川山田町6-1	9/24、12/15	GL-0.1mまで盛土。	25S325	KS 256	22
北白川廃寺、 上終町遺跡	左・北白川大堂町2-1	6/3	GL-0.3mまで盛土。	25S086	KS 077	22
小倉町別当町遺跡	左・北白川別当町70	12/9・10	GL-0.25~-0.55mで黄褐色粗砂の時期不明包含層。	25S377	KS 368	22
浄土寺七廻り町 遺跡隣接地	左京区浄土寺大山町 地先	5/15・18	信楽焼さや鉢が出土。	25A003	KS 048	28-2
白河街区跡	左・吉田下大路町13	11/17	巡回時掘削終了。	25S458	KS 330	22
白河街区跡	左・聖護院山王町9	9/18~22	巡回時掘削終了。	25S278	KS 249	22
白河街区跡	左・岡崎北御所町56-11	7/10・11	No.1；GL-0.2mで灰オリーブ色粗砂混シルト、 -0.55mでオリーブ黒色粗砂混粘土質シルトを切っ て黒色細砂混粘土ブロックとオリーブ黒色ブロッ クの混合層の近世土坑（板材含）、-0.7mで灰色 シルトブロックと黒灰色シルトブロックの混合層、 -0.9~-1.6mで灰色粗砂混粘土~シルトの地山を 切って灰オリーブ色粗砂混粘土質シルトの時期 不明土坑。No.2；GL-0.52mで、黄灰色~黄褐色 粗砂混粘土質シルトの地山を切って東西方向の近 世後期溝。	25S179	KS 144	22
白河街区跡、 白河北殿跡	左・聖護院川原町26-2	8/1	GL-0.2~-0.3mでにぶい黄褐色粗砂。	25R213	KS 185	22
白河街区跡、 白河北殿跡	左・丸太町通川端東入東丸太町30-6	11/17・18	GL-0.17mでにぶい黄色泥砂、-0.28~-0.41mで にぶい黄褐色泥砂。	25R403	KS 328	22
白河街区跡、 白河南殿跡	左・聖護院蓮華蔵町31-1の一部、 31-3の一部	11/20	GL-0.6mまで盛土。	25R433	KS 334	22
白河街区跡、 法勝寺跡、岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町2	8/4	GL-0.3mまで盛土。	25R224	KS 190	22
岡崎遺跡	左・岡崎円勝寺町39-3	11/17・18・ 19	GL-0.41mでにぶい黄褐色粗砂~細砂、-0.76mで 灰黄色細砂~粗砂、-0.92mで黒褐色粗砂混シル トの時期不明包含層、-1.1~-1.32mで黒褐色粗 砂混シルト。	25S221	KS 329	22
寺町旧域	上・新烏丸通下切通シ上る新烏丸頭 町147	11/28	GL-0.4mまで盛土。	25S275	KS 348	26-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
寺町旧域	上・新烏丸通下切通シ上る新烏丸頭町184	7/22・30	GL-0.91～-2.08mでにぶい黄褐色砂礫混細砂の時期不明河川堆積。	24S631	KS 161	26-1
寺町旧域	上・今出川通寺町東入大宮町341-1	5/8・9	GL-0.21mで褐色泥砂（焼土混）、-0.33mで灰黄褐色砂泥、-0.53～-0.72mでにぶい黄褐色砂礫。	24S668	KS 039	17-3

洛東地区(RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
寺町旧域	中・寺町通二条上る常盤木町54	6/23～7/3	GL-1.47mで暗灰黄色泥砂、-1.77～-1.9mでにぶい黄色砂礫の地山。	24S558	RT 107	26-1
寺町旧域	中・上本能寺前町他 地内	6/17	GL-1.4～-1.7mで褐色砂礫の地山。	24S054	RT 089	26-1
八坂神社	東・祇園町東側627	6/16	GL-0.15mまで盛土。	25S109	RT 093	23
建仁寺旧境内	東・祇園町南側570他	5/21・22・26、6/9	No.1；GL-0.95mで褐色泥砂、-1.35～-1.7mで暗褐色砂泥。No.2；GL-0.43～-0.58mで黒褐色泥砂の鎌倉包含層。	24S460	RT 058	23
法観寺旧境内	東・金園町390-1	5/12	GL-0.18m～-0.2mで明黄褐色泥砂の時期不明整地層。	25S063	RT 043	23
妙法院境内	東・東大路通渋谷下る妙法院前側町441	6/16・17	GL-0.2～-0.4mで明黄褐色砂泥（粘性有）。	24S391	RT 094	23
六波羅政庁跡	東・大和大路通五条上る東入池殿町207	7/10・14	GL-0.8mまで盛土。	25S078	RT 145	23
六波羅政庁跡	東・本町五丁目184他	10/3	GL-1.5mまで盛土。	25S410	RT 269	23
六波羅政庁跡、方広寺跡、法住寺殿跡	東・茶屋町	4/21～6/5	GL-0.78mで明黄褐色シルトの地山、-1.1～-1.96mで明黄褐色シルト（礫混）。	24S582	RT 029	23
法住寺殿跡	東・今熊野宝蔵町	4/1～14	GL-1.4mまで盛土。	24S667	RT 001	23
法住寺殿跡	東・今熊野池田町12他 30筆	4/11・14	GL-0.76mで灰色粘質土、-0.83～-1.64mで黄橙色粗砂～灰白色砂礫の地山。	24S449	RT 015	23
法住寺殿跡	東・今熊野宝蔵町 地内	12/1	GL-0.25mで橙色粘質土の地山、-0.5～-0.6mでにぶい橙色シルト混粗砂。	25S342	RT 350	23
法性寺跡	東・一橋野本町21-1、36-1の一部	4/3	GL-0.94mで灰黄褐色粘質土、-1.13mで褐灰色粘質土の古墳包含層（土師器）、-1.32mで灰黄褐色粘質土の古墳包含層（土師器）、-1.54mで明黄褐色砂礫の地山。	24S266	RT 003	23
清水寺境内、清水寺経塚	東・清水一丁目294	4/15、7/8	GL-0.13mで黄褐色シルトの地山、-0.18mで明黄褐色シルト、-0.35～-0.43mで灰白色シルト。	24S682	RT 020	23
泉涌寺境内、鳥部（辺）野、本多山古墳群	東・泉涌寺山内町	11/5	GL-0.12mでにぶい黄橙色砂質土礫混の時期不明造成土、-0.25mでにぶい褐色シルトの基盤層を切って橙色砂礫の無縫塔基底石掘方。	25S395	RT 311	28-4
西野山遺跡群（西野山古墓）	山・川田清水焼団地町11-4の一部	9/30	GL-0.7mまで盛土。	25S257	RT 262	28-3
四手井城跡	山・厨子奥矢倉町 地内	12/4	GL-0.35mまで盛土。	25S341	RT 358	26-2
四手井城跡	山・西野八幡田町 地内	8/7	GL-0.7mまで盛土。	25S273	RT 196	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野山階町42-3、44-11、44-12	9/2	GL-0.4mまで盛土。	25S237	RT 229	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山・西野山階町11-18	9/8・11・12・18	GL-1.16～-1.31mで褐色シルトの時期不明整地層。	25S030	RT 239	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）、左義長町遺跡	山・東野舞台町20-28	6/16	GL-0.24mまで盛土。	25S112	RT 095	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）、左義長町遺跡	山・東野舞台町20-26	8/7、9/17	GL-0.36mまで盛土。	25S256	RT 199	26-2
山科本願寺跡（寺内町遺跡）、左義長町遺跡	山・東野舞台町20-24	8/7・18	GL-0.28mまで盛土。	25S154	RT 197	26-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
山科本願寺跡 (寺内町遺跡)、 左義長町遺跡	山・東野舞台町20-25	8/7・18	GL-0.28mまで盛土。	25S255	RT 198	26-2
山科本願寺跡 (寺内町遺跡)、 左義長町遺跡	山・東野舞台町20-29他2筆	10/7	GL-0.31mまで盛土。	25S277	RT 277	26-2
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町32-47	9/16	GL-0.27mまで盛土。	25S356	RT 246	28-6
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町32-46 地先	10/6	GL-0.6mまで盛土。	25S357	RT 274	28-6
中臣遺跡	山・東野舞台町57-6	7/8	GL-0.4mまで盛土。	25N214	RT 140	26-4
中臣遺跡	山・東野森野町23-16～栗栖野中臣 町10-3 地先	10/27～12/18	GL-0.2mで浅黄色シルトの地山、-0.55mで明黄 褐色砂礫、-0.85～-1.15mで浅黄色粗砂。	25N438	RT 303	26-4
中臣遺跡	山・栗栖野打越町7-16～栗栖野打越 町6 地先	8/5～12/24	No.3 ; GL-0.2mで灰黄褐色シルト、-0.45mで明 黄褐色シルトの地山、-0.75～-1.2mで灰黄色砂 礫。No.4 ; GL-0.35mで暗褐色微砂混じり粘土 質シルトの整地層、-0.4mで暗褐色微砂混粘土質 シルトの時期不明包含層、-0.6mで黄褐色微砂混 シルトの整地層、-0.7mで黒褐色細砂混シルトの 時期不明包含層、-0.95～-1.05mで明黄褐色細砂 混粘土質シルトの地山。No.5 ; GL-0.5mでにぶい 黄褐色シルトの時期不明包含層、-0.7～-1.3mで 明黄褐色粘土質シルトの地山。	25N187	RT 192	26-4
中臣遺跡	山・東野舞台町97-11	12/16	GL-0.55～-0.71mで浅黄色シルト。	25N324	RT 383	26-4
中臣遺跡	山・栗栖野華ノ木町19-3	8/27	GL-0.3mまで盛土。	25N184	RT 217	26-4
中臣遺跡	山・柳辻番所ケ口町43-1、44-3	11/17	GL-0.6mまで盛土。	25N371	RT 327	26-4
中臣遺跡	山・勸修寺西栗栖野町140、143-1	12/2	GL-0.3mまで盛土。	25N328	RT 355	26-4
中臣遺跡	山・勸修寺東栗栖野町87-4の一部、 勸修寺西栗栖野町21-1の一部	11/18	GL-1.03mまで盛土。	25N375	RT 332	26-4
中臣遺跡	山・勸修寺東金ヶ崎町 地内	12/3	GL-0.4mまで盛土。	25N343	RT 357	26-4
中臣遺跡、 中臣十三塚	山・西野山中臣町70-6、70-29	9/24・25	GL-0.36mで黒色細砂～シルト、-0.63mで明黄褐 色シルトの地山、-1.12～-1.34mでオリブ黄色 砂礫。	25N302	RT 255	26-4
大宅廃寺 史跡随心院境内	山・大宅中小路町10-1の一部、12 山・小野御霊町35	6/25 5/7	GL-0.2mまで盛土。 GL-0.04mで褐色泥砂の近世包含層（陶磁器、 瓦）、GL-0.2～-0.29mで黄褐色シルト。	24S610 6N110	RT 112 RT 344	29-6 26-3

伏見・醍醐地区(FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見稲荷大社境内、 稲荷山古墳群 極楽寺跡	伏・深草稲荷山官有地 地内 伏・深草藪之内町9、11	9/8 6/9	巡回掘削終了。 GL-0.11mで明黄褐色砂礫、-0.23～-0.28mでにぶ い黄褐色粗砂。	24S288 24S575	FD 238 FD 080	28-7 28-7
嘉祥寺跡	伏・深草瓦町10の一部、108の一部	4/21	GL-0.43mで暗灰黄色粘質土、-0.51～-0.68mで 明黄褐色粗砂の地山。	24S679	FD 028	28-8
伏見城跡	伏・深草墨染町715-1、714-1	6/26	GL-1.28～-1.51mで明黄褐色砂礫の地山。	24F583	FD 116	14
伏見城跡	伏・桃山最上町54-2	8/1	GL-0.4mまで盛土。	24F677	FD 184	14
伏見城跡	伏・両替町十四丁目156	10/7	GL-0.25～-0.4mで暗褐色粗砂混シルトの近世包 含層。	25F153	FD 278	14
伏見城跡	伏・新町十一丁目355-2、355-3の 各一部	5/13・14	GL-0.99m～-1.11mで褐色泥砂（炭化物含）の 近世包含層。	24F594	FD 046	14
伏見城跡	伏・桃山井伊掃部西町14-5	7/8	GL-0.38～-0.26mで橙色粘質土。	25F161	FD 139	14
伏見城跡	伏・桃山福島大夫北町52	11/27	地中保存された井戸跡に隣接する部分の杭打設を 確認。	24F410	FD 343	14
伏見城跡	伏・桃山福島大夫北町 地先	9/19	巡回時掘削終了。	25F296	FD 250	14
伏見城跡	伏・桃山町島津 地先	5/27	GL-1.0mまで盛土。	25F081	FD 064	14・15
伏見城跡	伏・京町六丁目61	6/23～7/14	GL-1.15mまで盛土。	24F692	FD 108	14

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡	伏・桃山羽柴長吉東町60、61	12/4・8・9・10	GL-0.44~-0.83mでにぶい褐色粘質土の時期不明造成土。	25F219	FD 360	14
伏見城跡	伏・銀座町四丁目281	8/20	No.1 ; GL-0.78mで黄褐色砂礫の地山、-0.95~-1.24mで黄褐色粗砂の地山。No.2 ; GL-0.31mでにぶい黄褐色粘質土、-0.43mで黄褐色粗砂の地山。	25F166	FD 211	14
伏見城跡	伏・桃山町三河68-9、68-10、68-15	8/1	GL-0.35mまで盛土。	24F690	FD 183	14・15
伏見城跡	伏・今町676-8、676-17	12/8~10	GL-1.0mで黄褐色泥砂、-0.28~-0.36mで明黄褐色粘質土を切って褐色泥砂(焼土含)のピットと褐色泥砂(焼土含)の土坑。	25F532	FD 363	14
伏見城跡	伏・桃山筑前町31-5、31-6、31-7、31-8、31-9、31-10、31-18、31-19、31-20	9/22	GL-0.05mで明褐色礫混粘質土の造成土。	25F243	FD 252	14
伏見城跡	伏・新町五丁目504	9/10	GL-1.0mまで盛土。	25F235	FD 241	14
伏見城跡	伏・両替町二丁目352-1	8/12	GL-0.3mまで盛土。	25F241	FD 212	14
伏見城跡	伏・新町一丁目526-1	6/9	GL-0.72mで明黄褐色粗砂、-0.99mで黄褐色泥砂、-1.56mで黒褐色シルトの近世包含層、-1.98~-3.16mで黄色粗砂の地山。	25F002	FD 082	14
伏見城跡	伏・丹後町142	12/22	GL-0.35mまで盛土。	25F366	FD 390	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町地先	11/12・14	GL-0.75mで黄褐色礫混粗砂、-0.79mで黄褐色礫混砂質土、-0.89~-0.97mで明黄褐色粗砂~シルト。	25F445	FD 321	15
伏見城跡	伏・桃山町伊庭地先	6/2	GL-0.47~-0.8mで灰色微砂。	25F082	FD 074	15
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町474、475の各一部	12/25	GL-0.91~-1.11mで、伏見城期造成土。	25F439	FD 395	15
伏見城跡、桃陵遺跡	伏・西奉行町1	10/6~27	GL-0.7mまで盛土。	25F318	FD 273	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町立売4-7、桃山町泰長老13-3	7/25	GL-0.35~-0.6mで明黄褐色粗砂小礫混の造成土。	25F120	FD 171	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町泰長老24-14	5/30	GL-0.15mで黄褐色礫混砂泥、-0.24mで明黄褐色礫混砂質土(固く締まる)の時期不明整地層。	24F606	FD 070	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町立売地先	11/11	GL-0.7mまで盛土。	25F446	FD 319	14
伏見城跡、指月城跡	伏・桃山町桃山10	6/18・19	GL-0.2mで橙色粘質土、-0.44mでにぶい褐色粘質土(φ2~4cmの礫含)、-0.85~-0.96mで明黄褐色粘質土。	25F028	FD 102	14
向島城跡	伏・向島立河原町~向島二ノ丸町地内	5/21~12/26	GL-0.85mまで盛土。	24S576	FD 056	29-1

鳥羽地区(TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥丸町遺跡	南・東九条中御霊町45	7/7	GL-0.45mまで盛土。	25S194	TB 135	29-4
鳥羽離宮跡	伏・竹田真幡木町~竹田西樋ノ井町地先	4/28・30	GL-1.2~-1.5mで黄灰色泥土。	25T032	TB 035	25-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町116-5、116-7、117-2	8/1	GL-0.45mまで盛土。	25T202	TB 182	25-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町地先	6/11~7/24	GL-0.8mまで盛土。	24T551	TB 087	25-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町	12/16	GL-0.03mでにぶい黄色砂泥、-0.2mで灰白色泥砂、-0.3mで灰色泥砂、-0.5~-0.7mで灰色細砂。	25T434	TB 382	25-1
鳥羽離宮跡	伏・中島前山町地先	7/30	巡回時掘削終了。	25T175	TB 178	25-1
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町13-3、14-15合併、16、17、18、19-2	12/5	巡回時掘削終了。	25T349	TB 362	25-1
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町地先	8/5	GL-0.95~-1.25mで暗灰黄色砂泥。	25T176	TB 193	25-1
鳥羽離宮跡	伏・中島前山町地先	7/17・18	GL-0.3mで灰オリブ色シルト、-0.7~-0.85mでオリブ褐色粘土質シルトの湿地堆積。	25T204	TB 155	25-1
鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡	伏・竹田西小屋ノ内町12	11/6	GL-0.8mまで攪乱。	25T308	TB 314	25-1
鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡	伏・中島秋ノ山町地先	4/22	巡回時掘削終了。	25T007	TB 032	25-1
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽西芹川町41-1	8/20	GL-0.63~-0.84mで黄灰色シルト。	22S303	TB 209	25-1
芹川城跡	伏・下鳥羽渡瀬町127、128	8/4・8	GL-0.9~-1.29mで旧耕作土。『京都市内遺跡試掘調査報告 令和7年度』に報告。	24S362	TB 187	29-5
久我殿遺跡	伏・久我本町5-12の一部	11/7	GL-0.24~-0.39mで黄褐色細砂。	25S021	TB 315	19

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
横大路城跡	伏・横大路柿ノ本町1-25、1-30	7/22・25・28	GL-0.49mで明黄褐色粗砂の氾濫堆積、-0.99mで黒褐色粘土の湿地状堆積、-1.21～-1.31mで灰色粘土の湿地状堆積。	25S075	TB 158	19
淀城跡	伏・淀池上町103	5/8・9	GL-0.08mでにぶい黄橙色シルト（焼土混）、-0.13mでにぶい黄橙色シルト、-0.37mで灰白色粗砂、-0.76mでオリブ褐色泥砂（炭化物・焼土混）、-0.82mでにぶい黄橙色砂泥、-0.92mで灰黄色砂泥（炭化物混）、-1.05～-1.11mで浅黄色細砂（固く締まる）。	24S681	TB 040	20
淀城跡	伏・淀池上町106	12/18～22	GL-0.35mまで盛土。	25S471	TB 385	20
木津川河床遺跡	伏・淀美豆町地先	10/20～11/21	GL-0mでにぶい黄橙色泥砂、-0.75mで灰黄褐色泥砂、-1.0mでにぶい黄褐色泥砂、-1.35mで黄褐色泥砂、-1.6mで褐灰色粘質土、-1.9mでにぶい黄褐色粘質土、-2.5mでにぶい黄褐色粘質土、-3.4mで青灰色粘質土の湿地状堆積、-3.8mで緑灰色粘質土、-4.1mで青灰色粘質土、-4.45mで暗青灰色粘質土、-4.5mで暗青灰色粘質土混青灰色粘質土、-4.9mで明青灰色砂質土、-5.25～-5.4mで青灰色粗砂。	25S252	TB 295	20

長岡京地区(NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京三条四坊九町跡	伏・久我西出町7-4、7-5、7-6、7-7	6/2、7/24・30	長岡京期の包含層、ピットを検出。 本報告70ページ 。	24NG649	NG 076	19
左京四条三坊十一町跡	伏・羽東師菱川町460の一部	5/19・20	GL-0.1mで浅黄褐色泥砂の旧耕作土、-0.26mで明黄褐色泥砂、-0.42mでにぶい黄褐色泥砂、-0.54mでにぶい黄褐色シルト質泥土を切って灰白色泥砂の時期不明溝、-0.8～-0.9mで褐灰色粘質土（マンガン含）の湿地状堆積。	25NG035	NG 054	19
左京四条三坊十四町跡	伏・羽東師菱川町544-17	7/18	GL-0.1mまで盛土。	25NG140	NG 156	19
左京六条四坊九・十六町跡	伏・羽東師古川町地先	7/4～9/1	GL-0.35mで灰色砂泥の旧耕作土、-0.63～-0.72mでにぶい黄褐色シルト。	25NG183	NG 131	19
左京七条四坊十四町跡、桂川関連遺跡	伏・横大路南島～横大路下島地先	10/9・28、11/4	GL-1.45mで暗灰黄色細砂混粘土質シルトの近世末期包含層、-1.66～-1.95mで灰色粘土質シルトの時期不明湿地状堆積。	25NG172	NG 281	19
左京八条二坊四・五町、九条二坊一・二・八町跡	伏・淀水垂町4-1の一部、4-7の一部、6-1の一部、6-7の一部、10	7/7	GL-0.8mまで盛土。	25NG198	NG 134	20
左京九条二坊十一町跡	伏・淀大下津町1	12/11	巡回時掘削終了。	25NG525	NG 375	20
左京九条三坊十町跡	伏・納所町280	12/23	GL-0.2mまで盛土。	25NG405	NG 391	20
左京条坊外、淀城跡	伏・淀本町167	9/1	GL-0.2mでにぶい黄褐色砂泥、-0.35～-0.8mで明黄褐色砂泥。	25NG246	NG 224	20
右京一条三坊八町跡	西・大原野上里紅葉町6-8	7/8・9	GL-0.64mで明赤褐色砂質土。	25NG147	NG 138	29-7
右京一条四坊十四町跡、大原野石見遺跡	西・大原野石見町地内	9/29	GL-0.45mまで盛土。	25NG020	NG 260	29-7

南桂川地区(MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
西芳寺川古墳群	西・松尾山国有林	6/24	巡回時掘削終了。	25S095	MK111	30-3
下津林遺跡	西・下津林佃65-1	9/16	GL-0.26mまで盛土。	25S299	MK245	18-2
下津林遺跡	西・下津町佃65-11	5/7	GL-0.37mまで盛土。	25S014	MK038	18-2
下津林遺跡	西・下津林佃65-3	7/9	GL-0.29mまで盛土。	25S177	MK141	18-2
下津林遺跡	西・下津林佃65-8	5/9	GL-0.4mまで盛土。	25S012	MK042	18-2
下津林遺跡	西・下津林佃65-5	6/30	GL-0.3mまで盛土。	25S141	MK123	18-2
下津林遺跡	西・下津林佃65-9	7/15	GL-0.28mまで盛土。	25S178	MK152	18-2
下津林遺跡	西・下津林佃65-6	9/8	GL-0.32mまで盛土。	25S316	MK237	18-2
下津林遺跡	西・下津林佃65-10	5/16	GL-0.27mまで盛土。	25S013	MK049	18-2
下津林遺跡	西・下津林佃65-7	5/21	GL-0.21mまで盛土。	25S011	MK057	18-2
福西古墳群	西・大枝東長町1-733	7/24	GL-0.35まで盛土。	25S191	MK168	27-1
福西古墳群	西・大枝東長町1-13	12/15	GL0～-0.2mで明褐色シルトの地山。	25S428	MK378	27-1
福西古墳群	西・大枝東長町1-727	12/15	GL0～-0.2mで明褐色シルトの地山。	25S431	MK380	27-1
福西古墳群	西・大枝東長町1-725	12/15	GL-0.5mまで盛土。	25S429	MK379	27-1
福西古墳群	西・大枝東長町1-13の一部	6/27	GL-0.22～-0.37mで明黄褐色シルトの地山。	24S611	MK120	27-1
上久世遺跡	南・久世上久世町256-2	5/13	GL-0.25mまで盛土。	24S659	MK044	18-3
上久世遺跡	南・久世中久世町一丁目21	5/9	GL-0.6mまで盛土。	24S666	MK041	18-3
上久世遺跡	南・久世中久世二丁目38	5/26	GL-0.14mでにぶい黄橙色砂泥の時期不明包含層、 -0.24～-0.38mでにぶい黄橙色シルトの地山。	24S624	MK063	18-3
中久世遺跡	南・久世大藪町 地内	7/15、9/19・ 25	GL-0.6mで灰黄色シルト、-1.16mでにぶい黄橙色シルト、-1.6～-1.9mで褐灰色シルト。	25S042	MK151	18-3
中久世遺跡	南・久世殿城町128の一部	5/29	GL-0.24～-0.33mでにぶい黄褐色砂泥。	25S040	MK068	18-3
中久世遺跡、 下久世構跡	南・久世殿城町164-1、170	7/9・10・ 14・15・16	GL-0.2mで暗オリーブ色細砂混粘土質シルトの 時期不明包含層、-0.3mで黒褐色細砂混シルトブ ロックとオリーブ褐色粗砂混粘土質シルトブロッ クの混合層の時期不明整地層を切って黒褐色粗砂 混粘土質シルトと暗灰黄色細砂混シルトの土坑2基、 -0.4～-0.6mで暗オリーブ褐色砂礫の地山。	24S600	MK142	18-3
中久世遺跡、 下久世構跡	南・久世殿城町164-1、170各一部	9/29	GL-0.26～-0.53mでにぶい黄褐色砂質土。	25S228	MK258	18-3
金蔵寺境内	西・大原野南春日町	8/13	現境内上部の平坦面にて須恵器片採集。	25A008	MK204	29-8

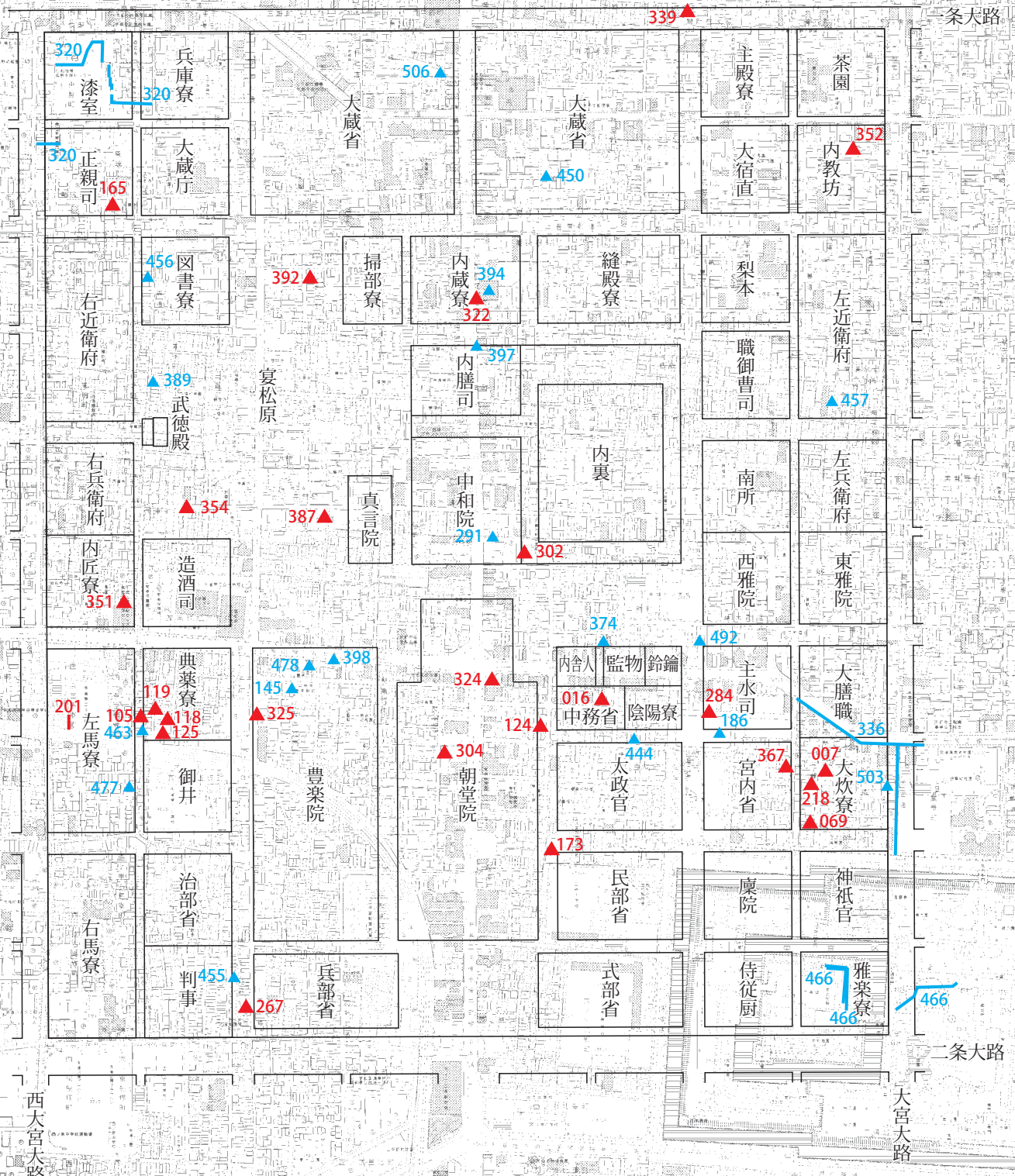
京北地区(UK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥居古墳群	右・京北鳥居町中山39	10/2～18	古墳の包含層を検出。本報告86ページ。	25S354	UK 266	30-2
鳥居古墳群	右・京北鳥居町松根40 地先	10/2	巡回時掘削終了。	25S344	UK 265	30-2

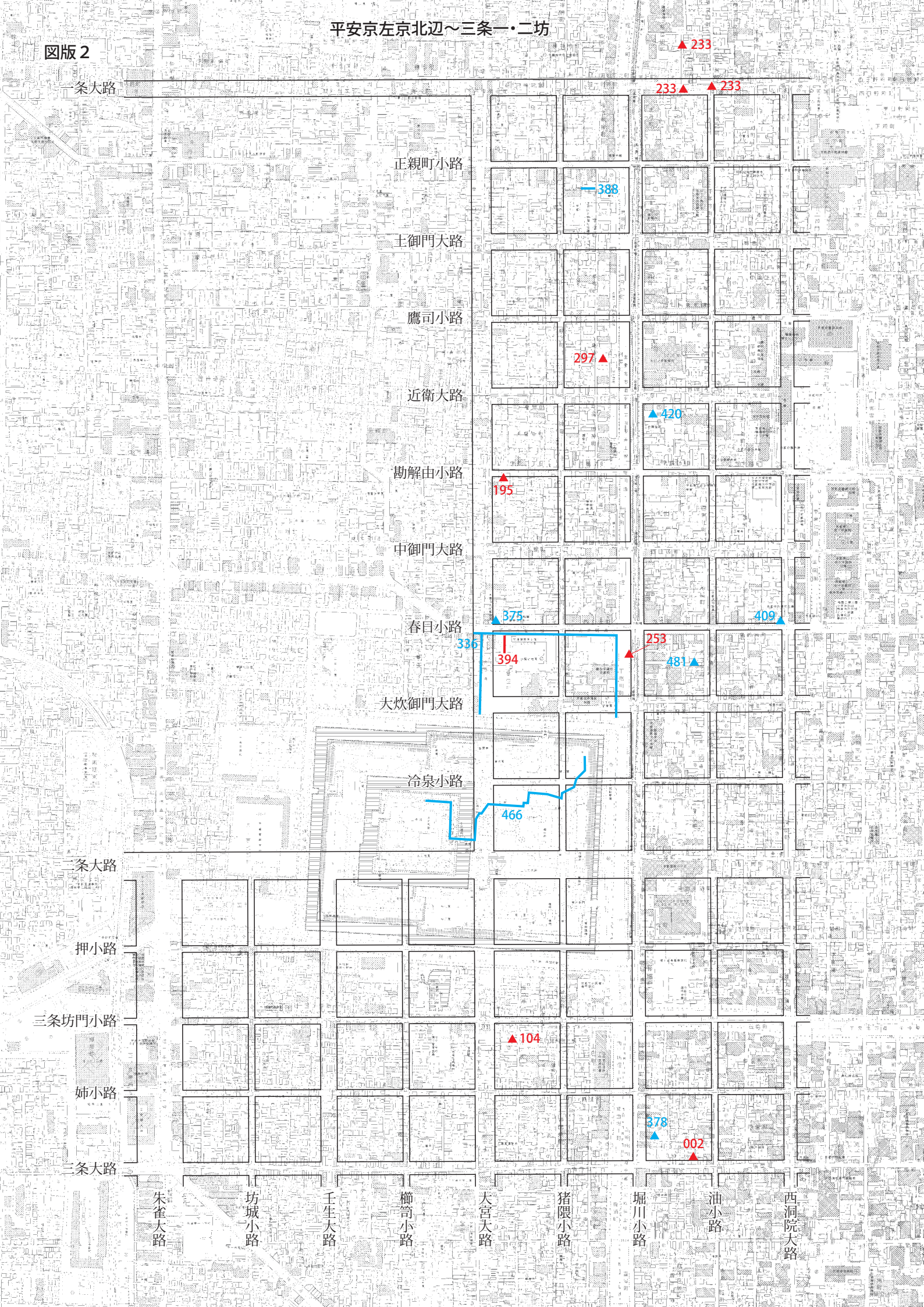
圖 版

凡 例

- ▲ — 2025年1～3月期(令和6年度)詳細分布調査地点
- ▲ — 2025年4～12月期(令和7年度)詳細分布調査地点



図版 2



▲ 233

233 ▲

▲ 233

← 388

297 ▲

▲ 420

▲ 195

← 375

336

↓ 394

▲ 253

▲ 481

409 ▲

466

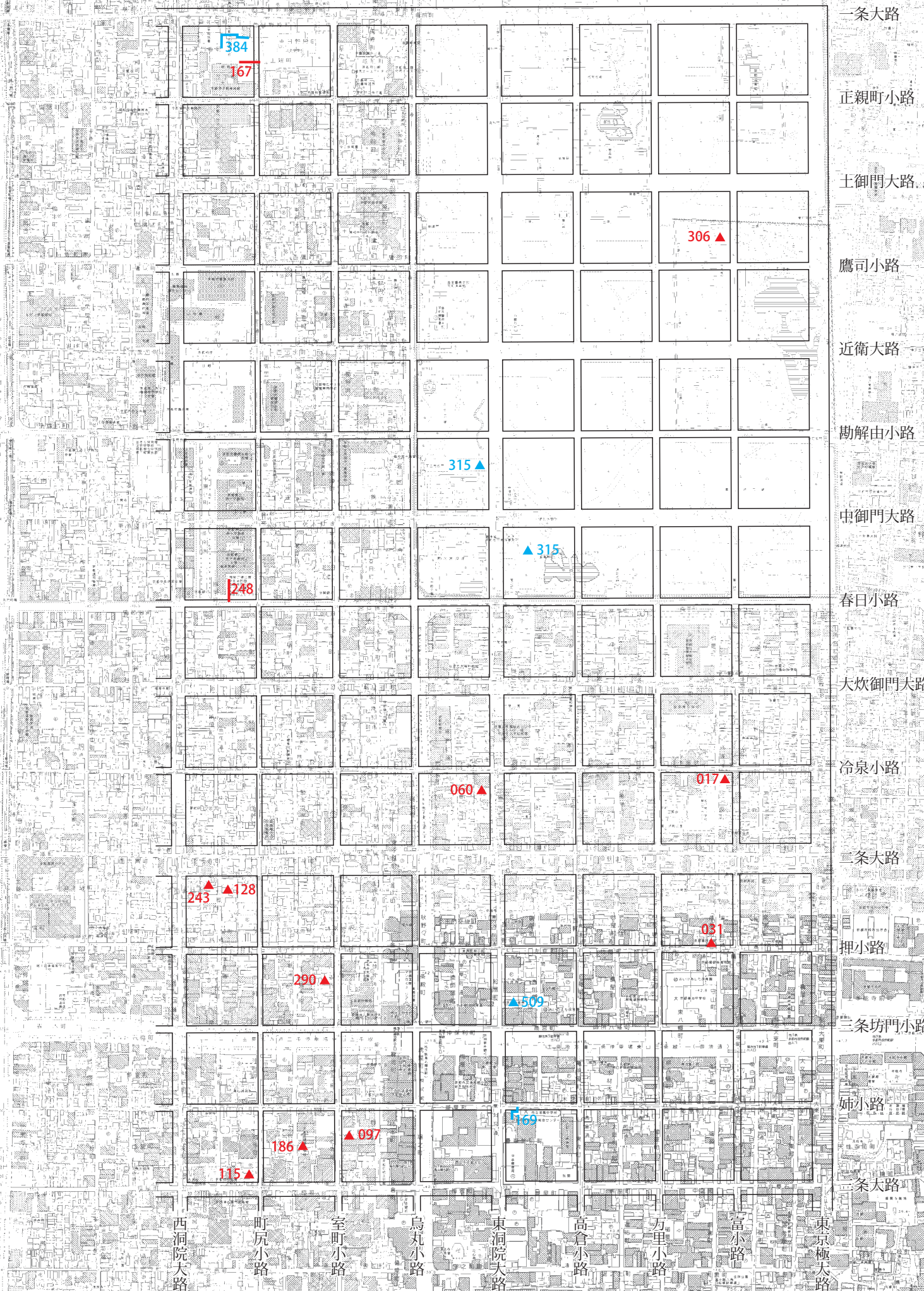
▲ 104

▲ 378

▲ 002

平安京左京北辺～三条三・四坊

図版 3

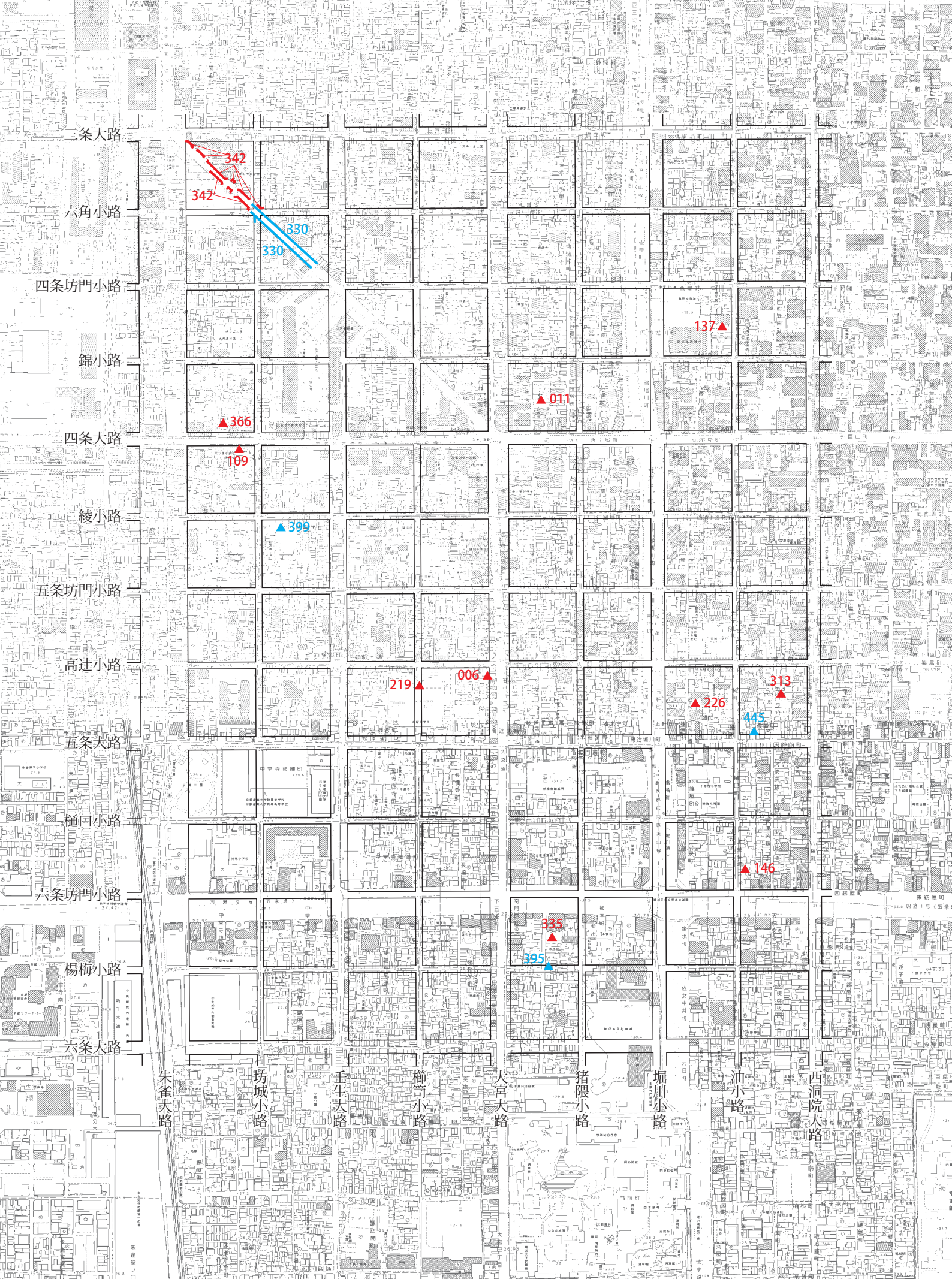


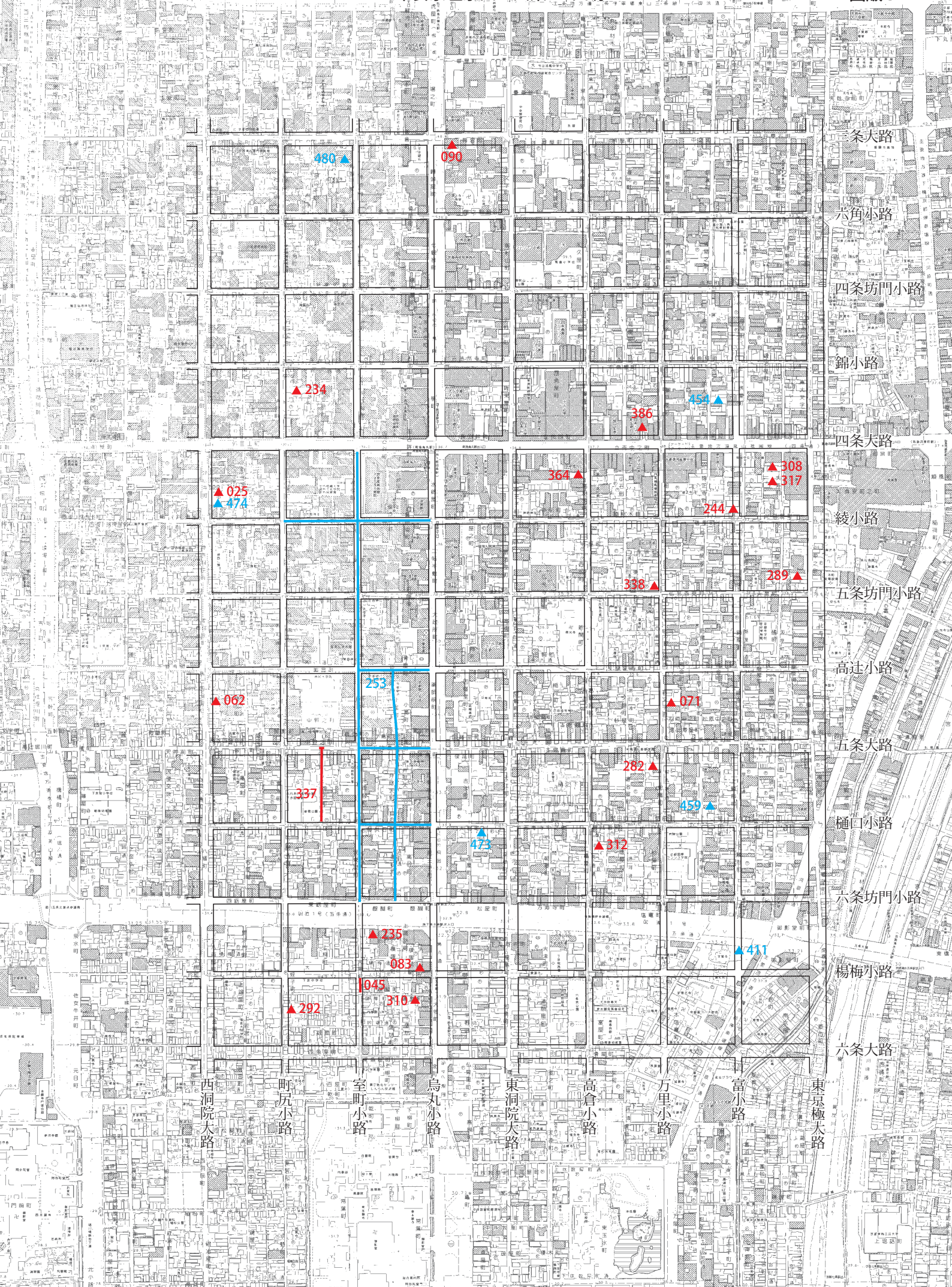
一条大路
 正親町小路
 土御門大路
 鷹司小路
 近衛大路
 勘解由小路
 中御門大路
 春日小路
 大炊御門大路
 冷泉小路
 二条大路
 押小路
 三条坊門小路
 姉小路
 三条大路

西洞院大路
 町尻小路
 室町小路
 烏丸小路
 東洞院大路
 高倉小路
 万里小路
 富小路
 東京極大路

図版4

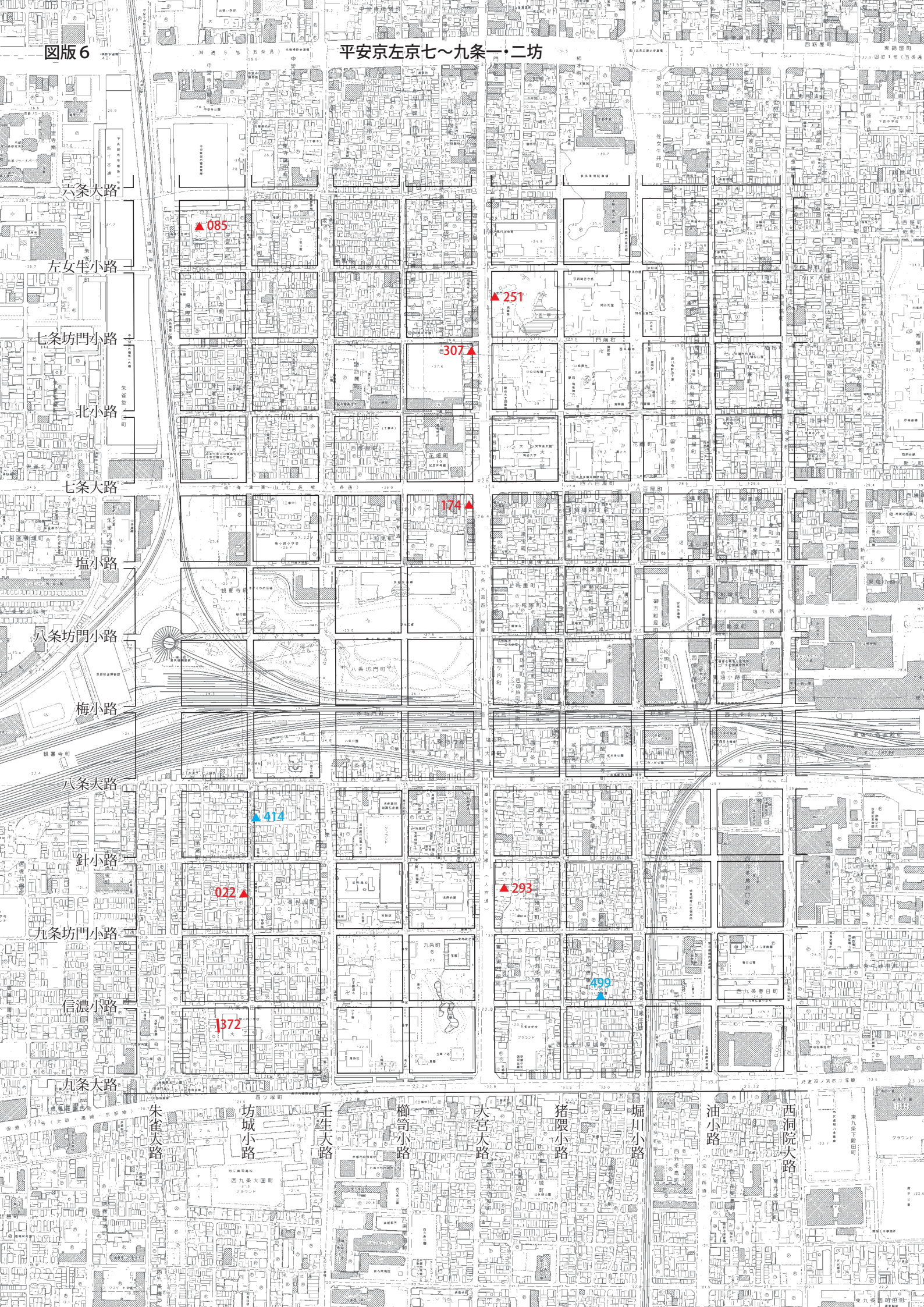
平安京左京四～六条一・二坊





図版 6

平安京左京七～九条一・二坊



▲085

▲251

▲307

▲174

▲414

▲022

▲293

▲499

▲372

六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

朱雀大路

坊城小路

壬生大路

楠筒小路

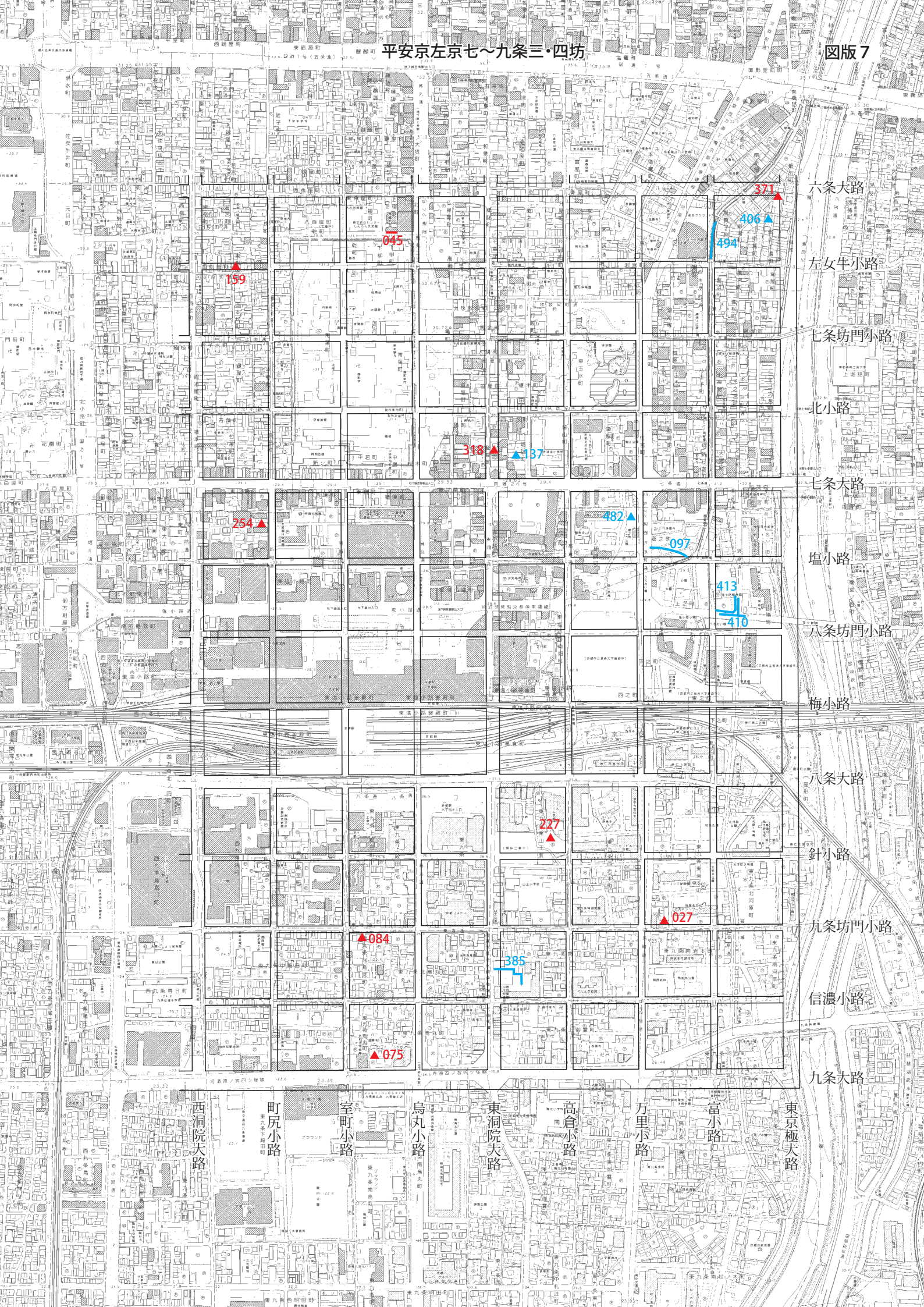
大宮大路

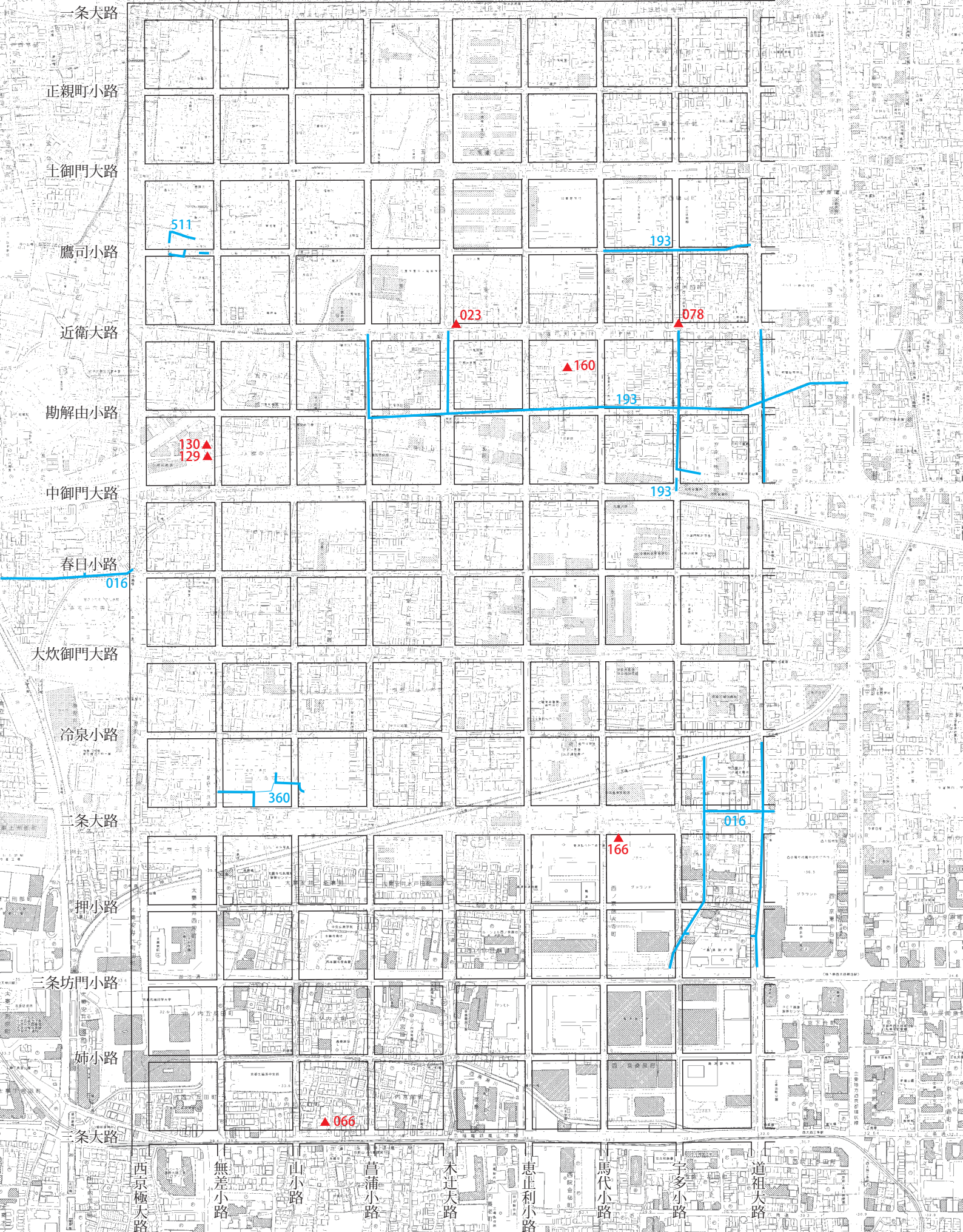
猪隈小路

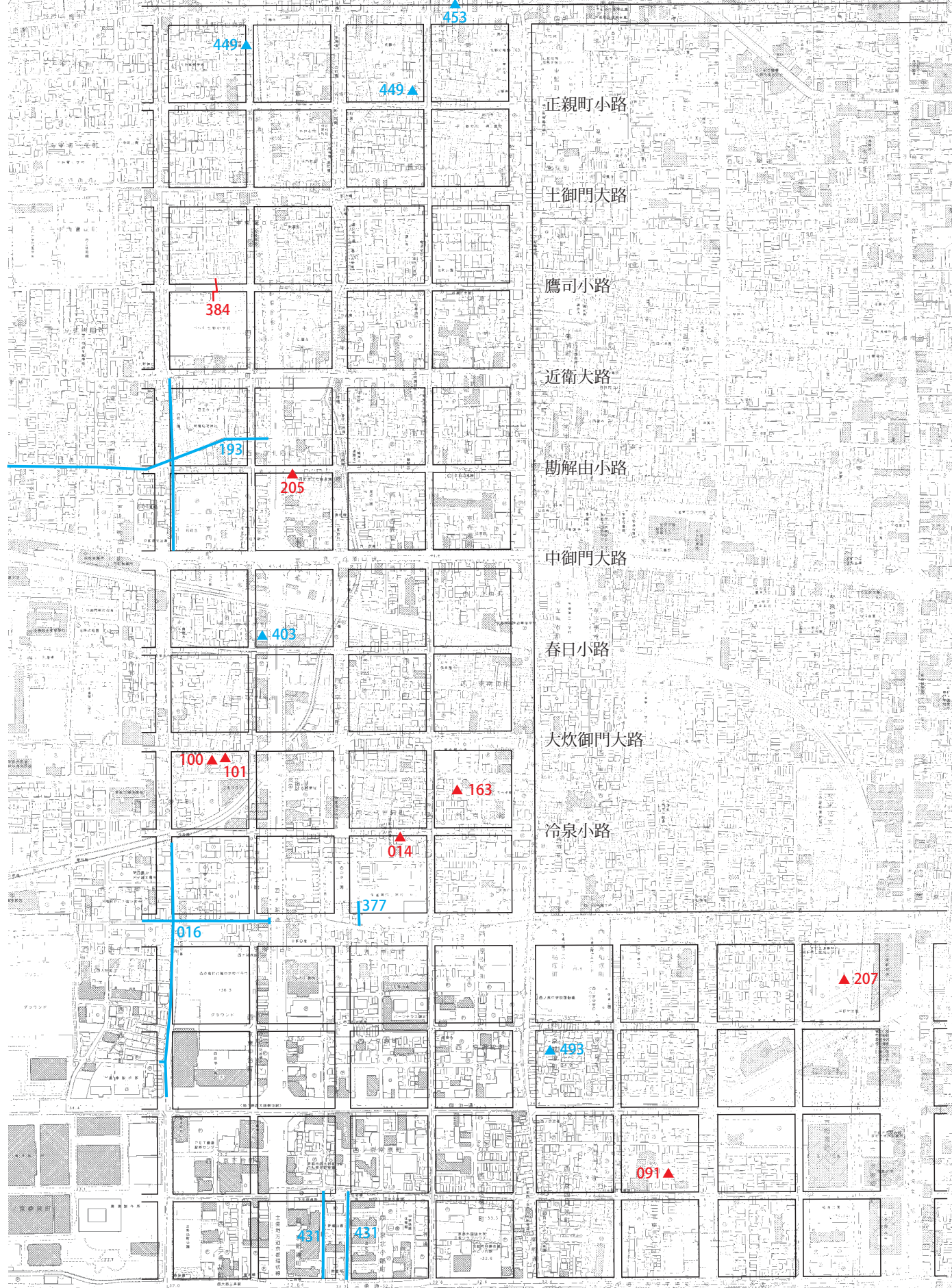
堀川小路

油小路

西洞院大路







正親町小路

上御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

押小路

三条坊門小路

姉小路

二条大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西鞠負小路

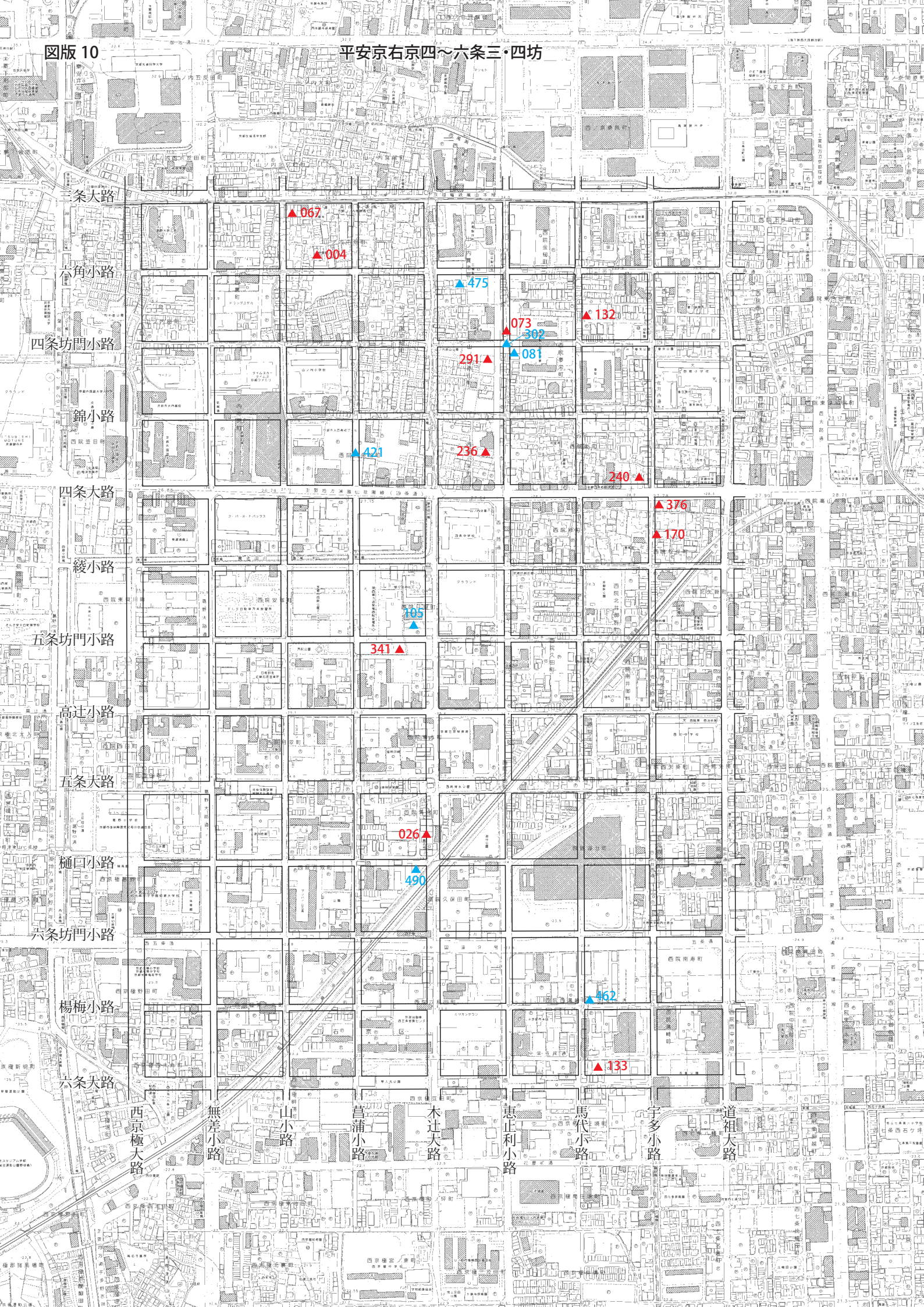
西天宮大路

西櫛笥小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路



三条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋口小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

西京極大路

無差小路

山小路

喜浦小路

木辻大路

惠正利小路

馬代小路

宇多小路

道祖大路

▲067

▲004

▲475

▲073

▲302

▲132

▲291

▲081

▲421

▲236

▲240

▲376

▲170

▲185

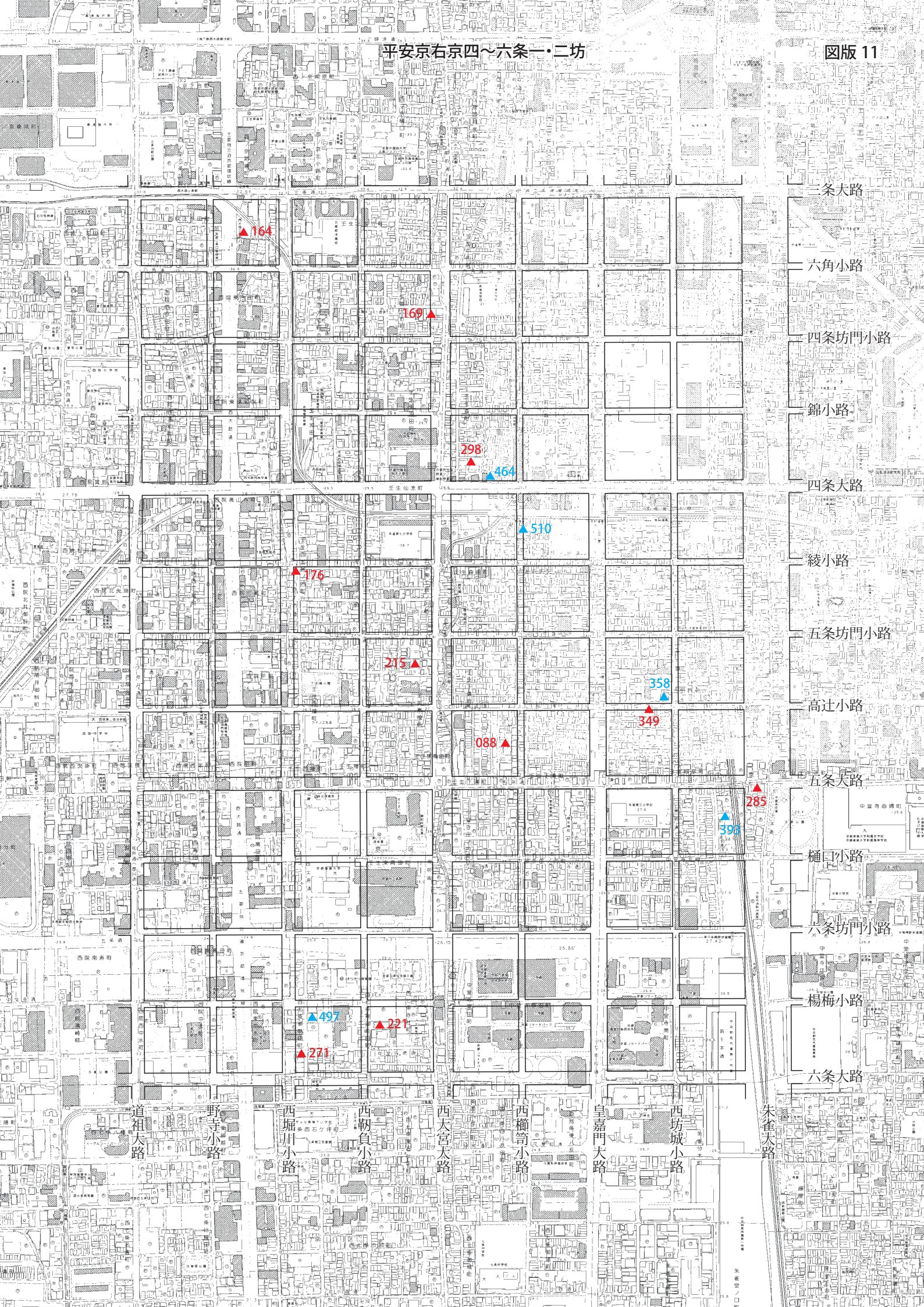
▲341

▲026

▲490

▲462

▲133



三条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋目小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

朱雀大路

西坊城小路

皇嘉門大路

西櫛筒小路

西大宮大路

西朝負小路

西堀川小路

野寺小路

道祖大路

▲164

▲169

▲298

▲464

▲510

▲176

▲215

▲358

▲349

▲088

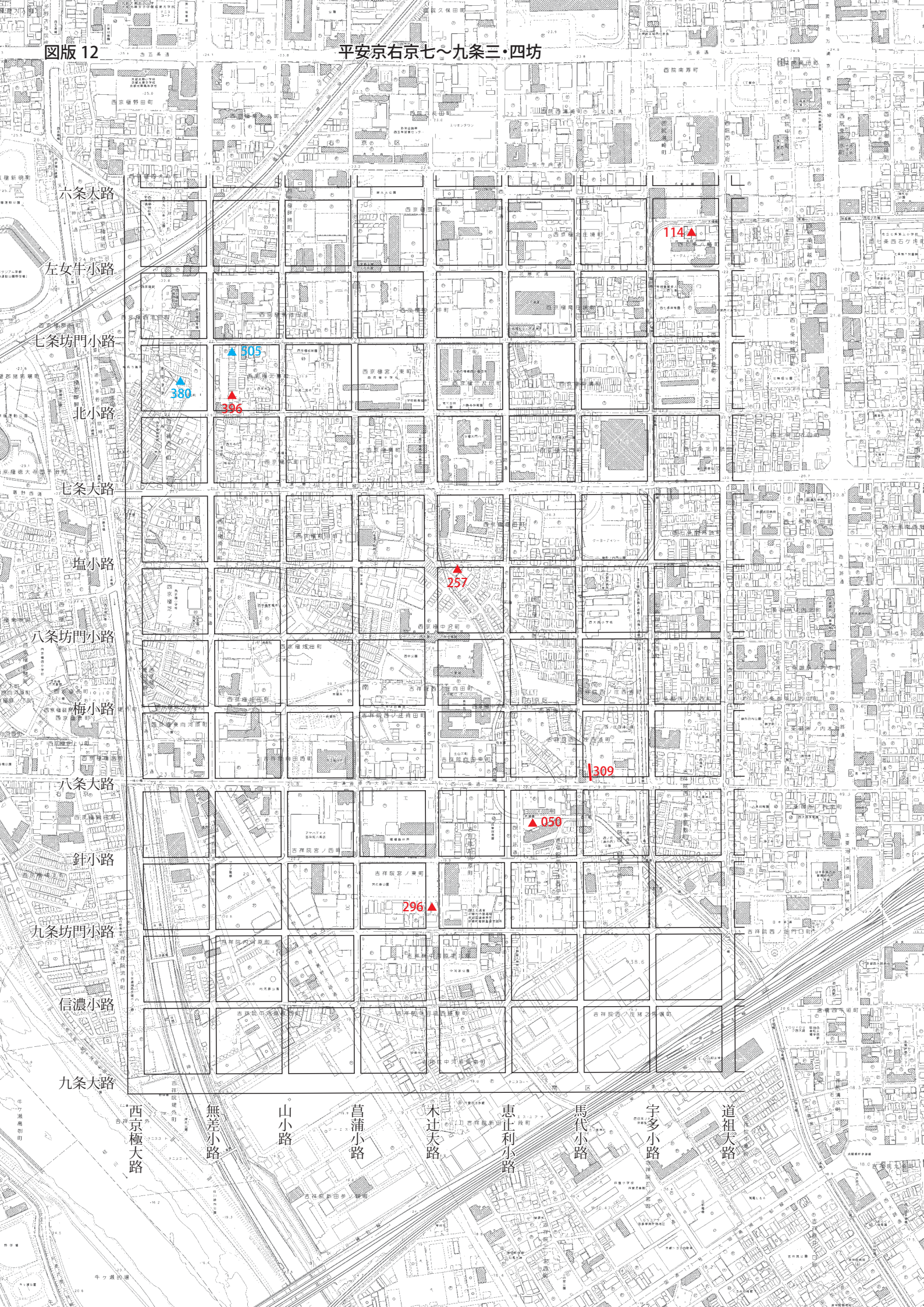
▲285

▲398

▲497

▲221

▲271



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西京極大路

無差小路

山小路

菖蒲小路

木辻大路

惠止利小路

馬代小路

宇多小路

道祖大路

114▲

380▲

305▲

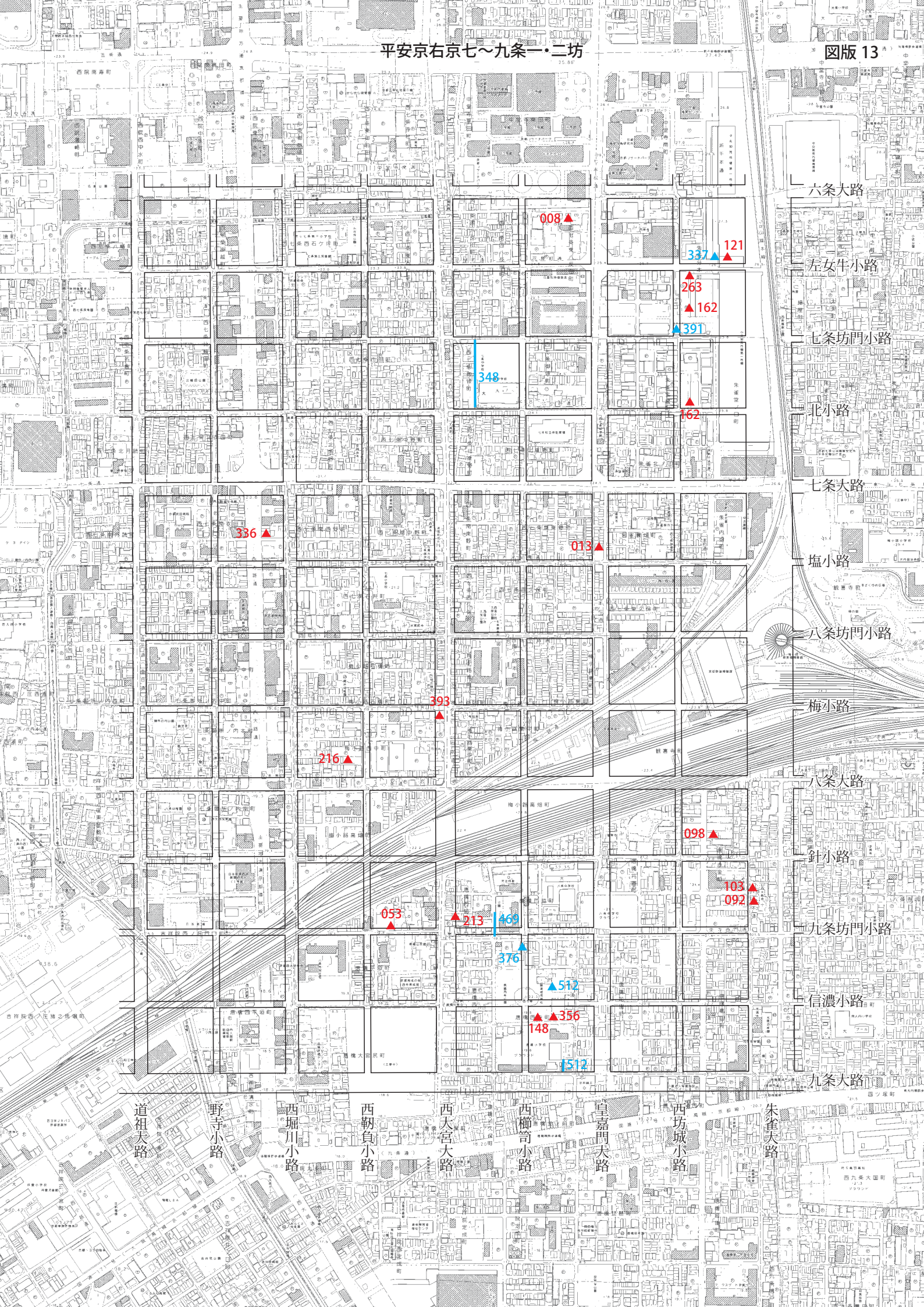
396▲

257▲

309▲

050▲

296▲



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西朝負小路

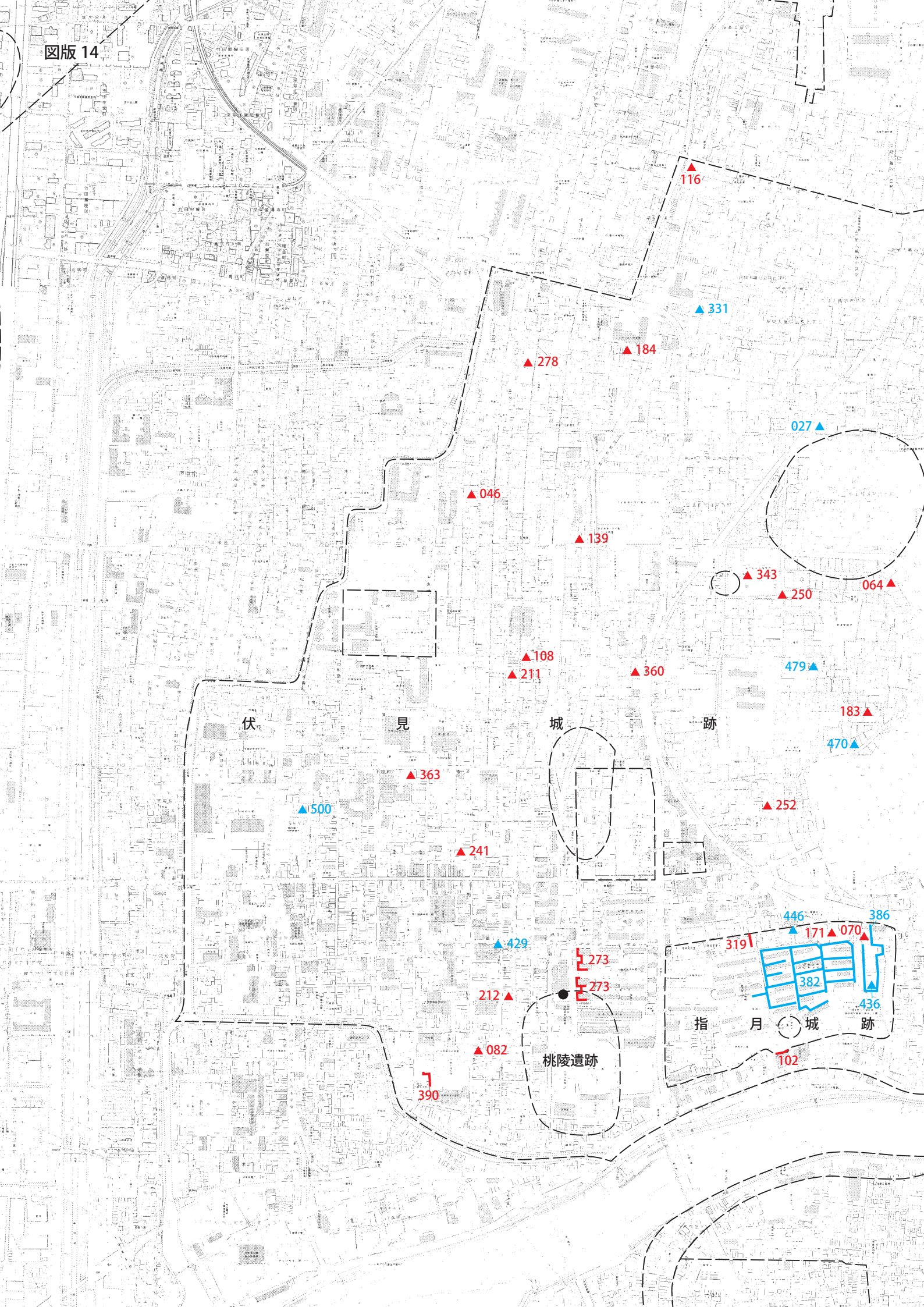
西大宮大路

西柳筒小路

皇嘉門大路

西坊城小路

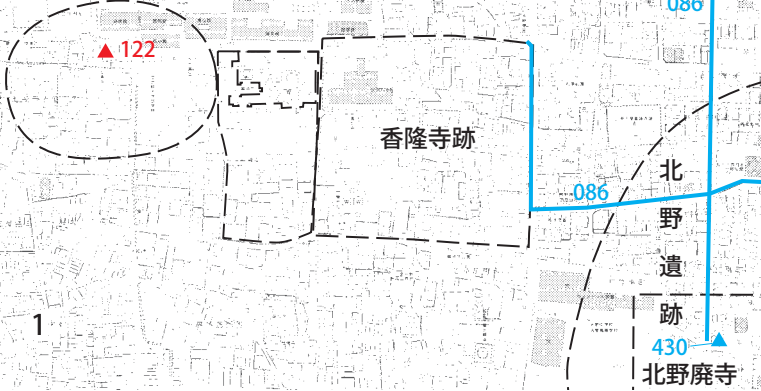
朱雀大路



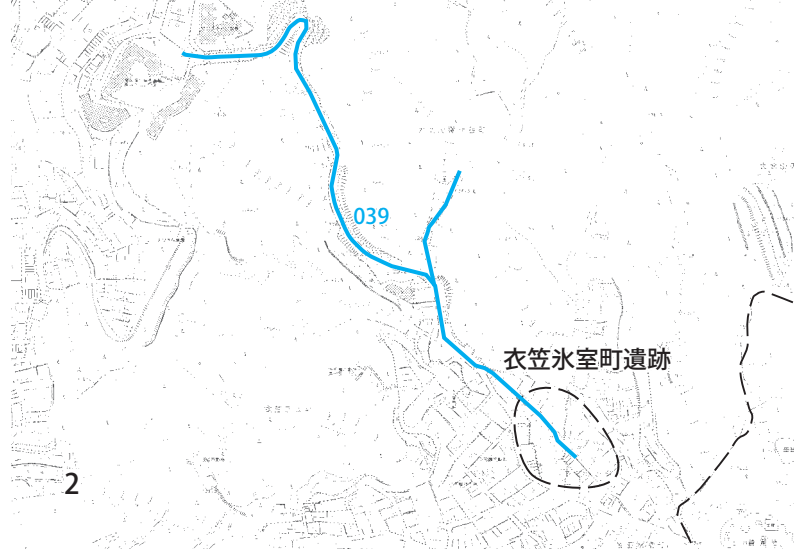


図版 16

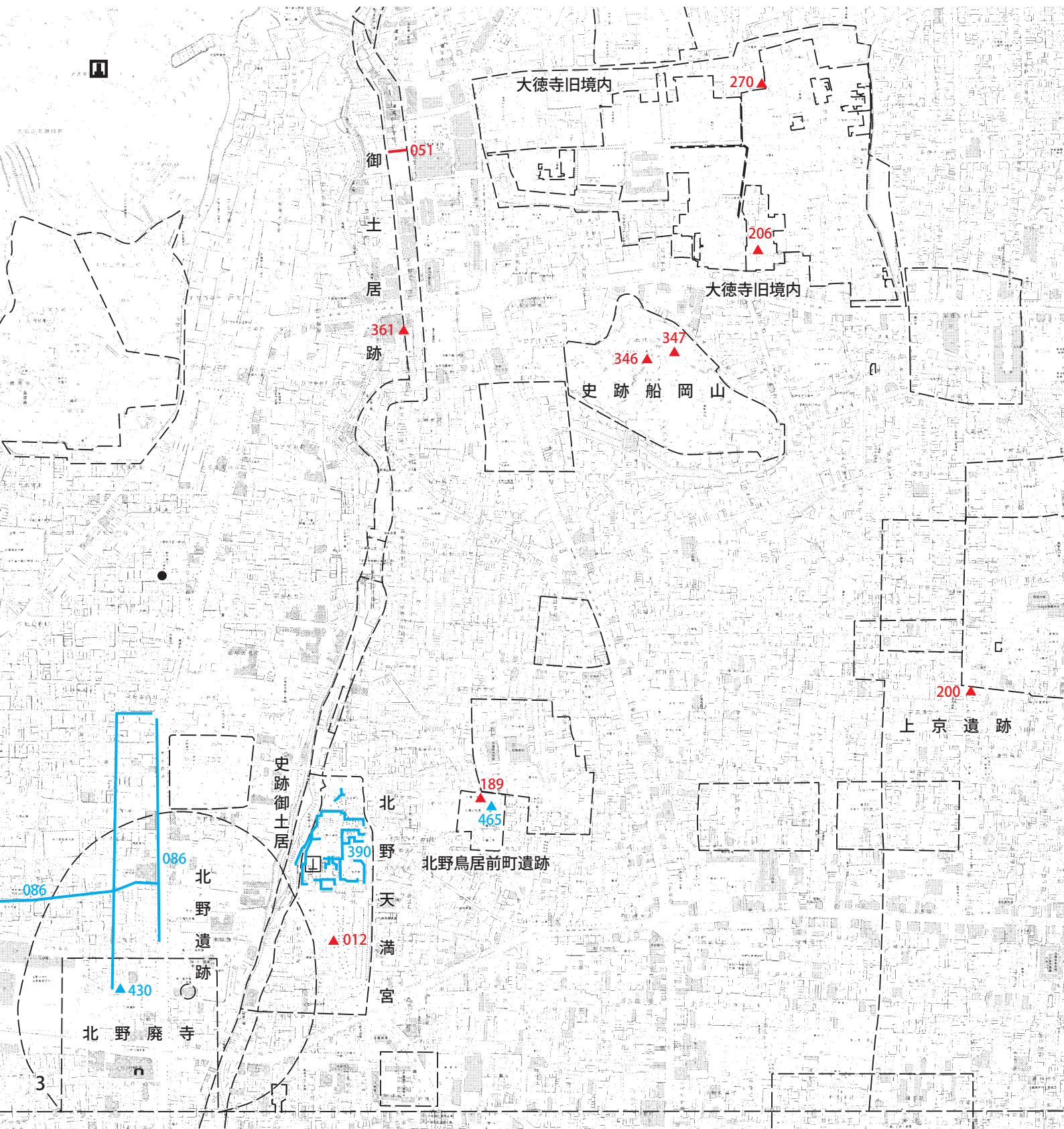
龍安寺御陵ノ下町遺跡



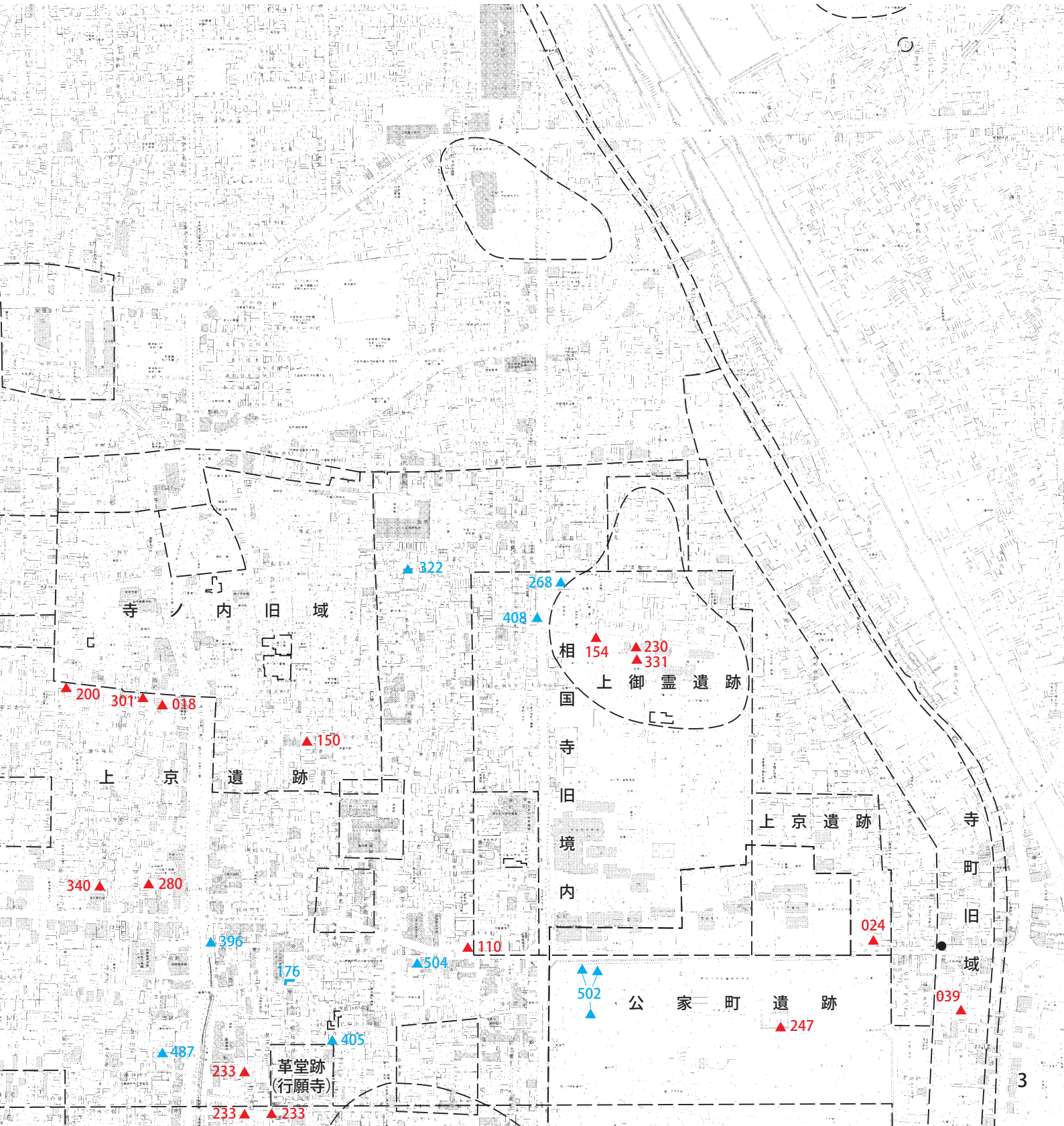
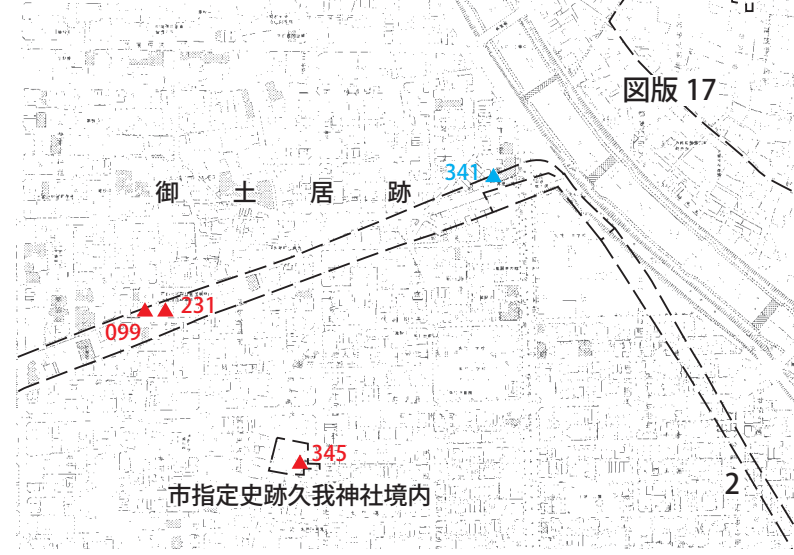
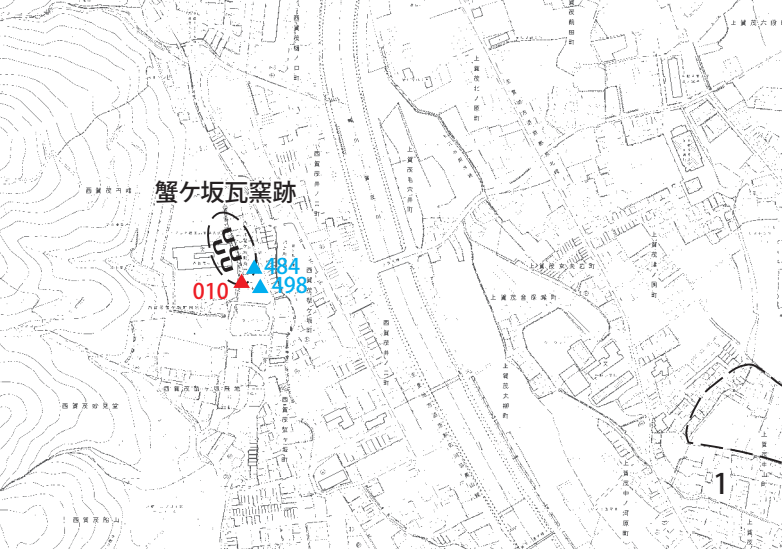
1



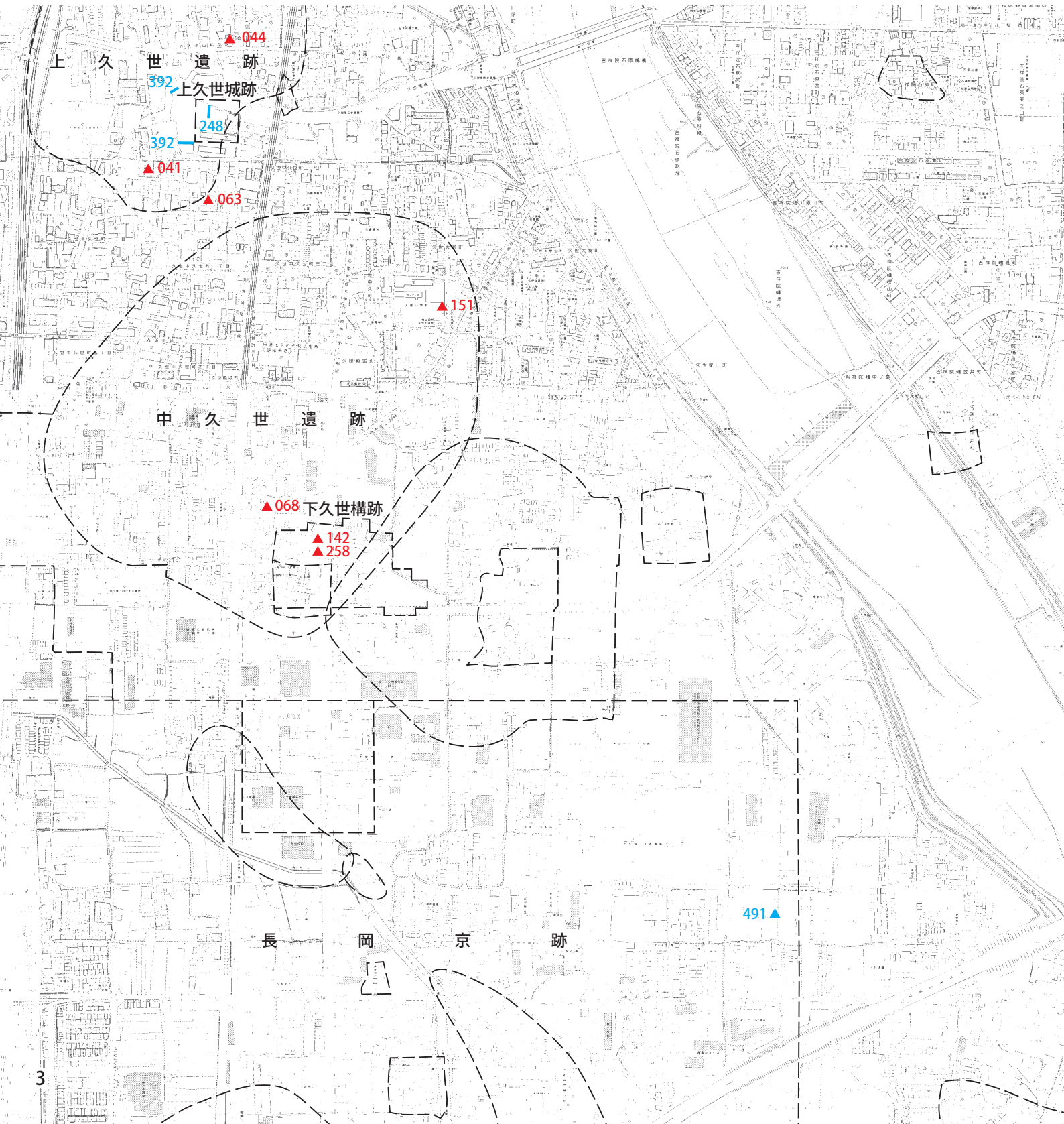
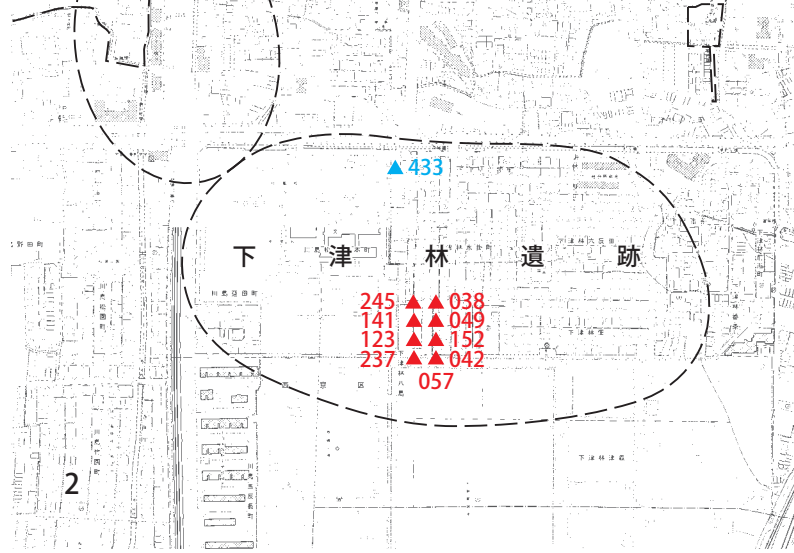
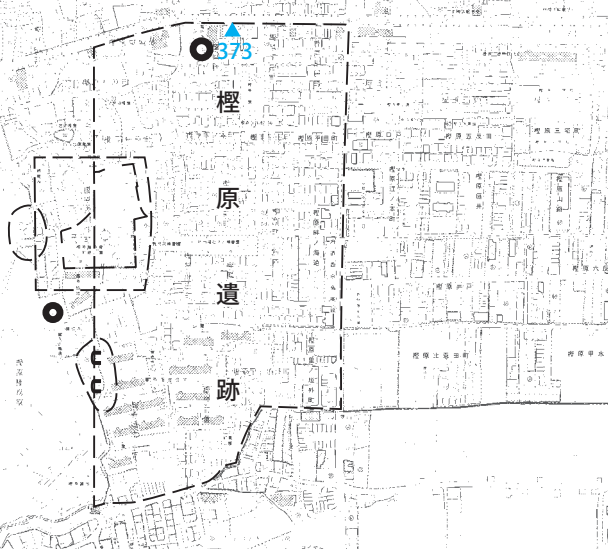
2



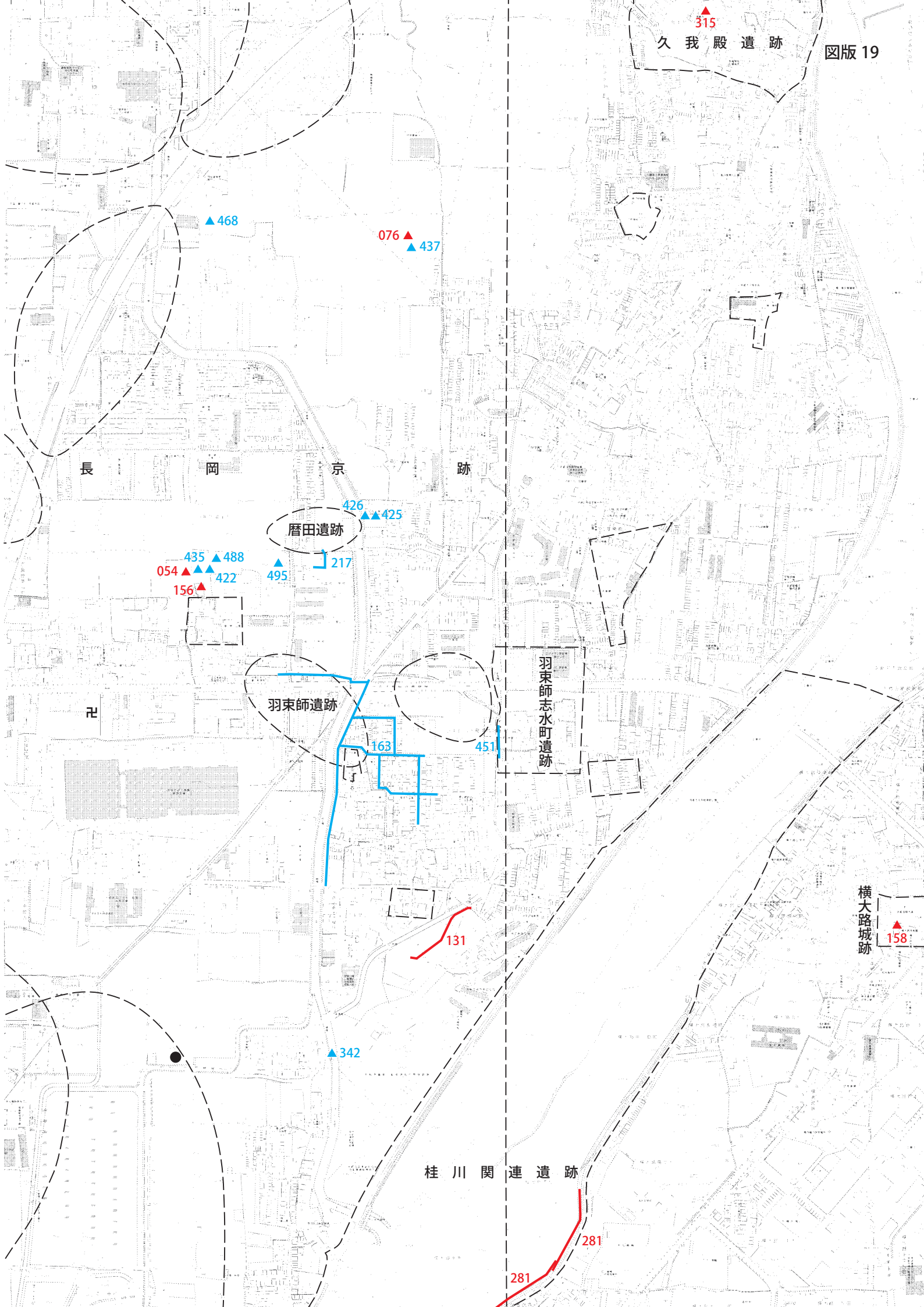
3



図版 18



315 ▲
久我殿遺跡



長岡京跡

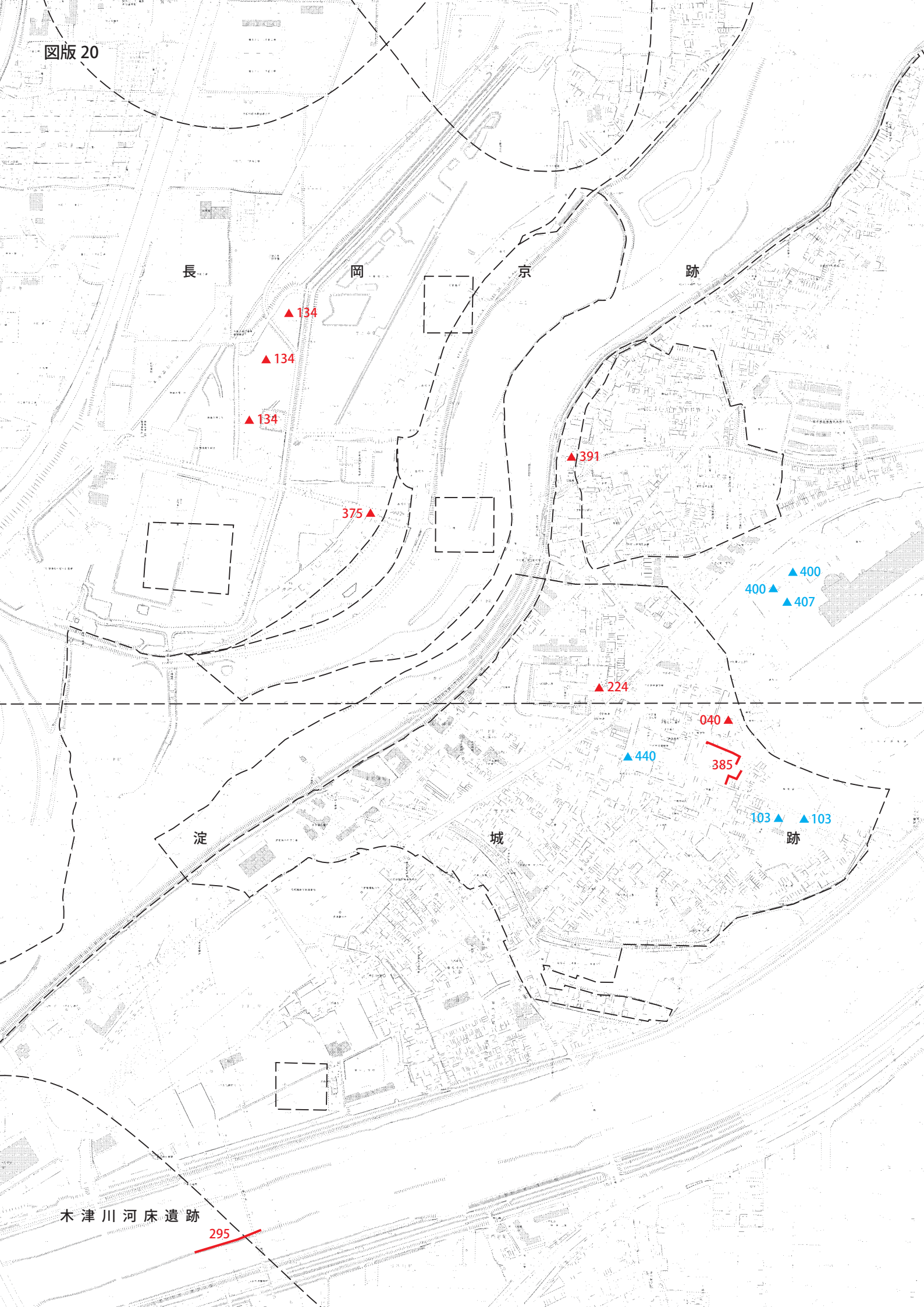
曆田遺跡

羽束師遺跡

羽束師志水町遺跡

桂川関連遺跡

横大路城跡



長

岡

京

跡

▲ 134

▲ 134

▲ 134

▲ 375

▲ 391

▲ 400

▲ 407

▲ 224

▲ 040

▲ 440

▲ 385

▲ 103

▲ 103

淀

城

跡

木津川河床遺跡

▲ 295



史跡仁和寺御所跡

名勝仁和寺御所庭園

内乗寺跡

鳴滝藤ノ木町古墳 ▲379

▲117

仁和寺院家跡

▲383

草木町遺跡

常盤柏ノ木古墳群

村ノ内町遺跡

常盤東ノ町古墳群

太秦馬塚町遺跡 ▲438

常盤仲之町遺跡

和泉式部塚古墳

森ノ東瓦窯跡

法金剛院境内

▲439

廣隆寺旧境内

上ノ段町遺跡

遺跡 033

和泉式部町遺跡

▲180

多藪町遺跡

井遺跡

▲113

▲485 ▲264

▲264 ▲485 ▲264

▲016

③③



上総町遺跡
353
256
北白川廃寺
077

小倉町別当町遺跡
368

白河区跡
330

白河北殿跡
328
185
249

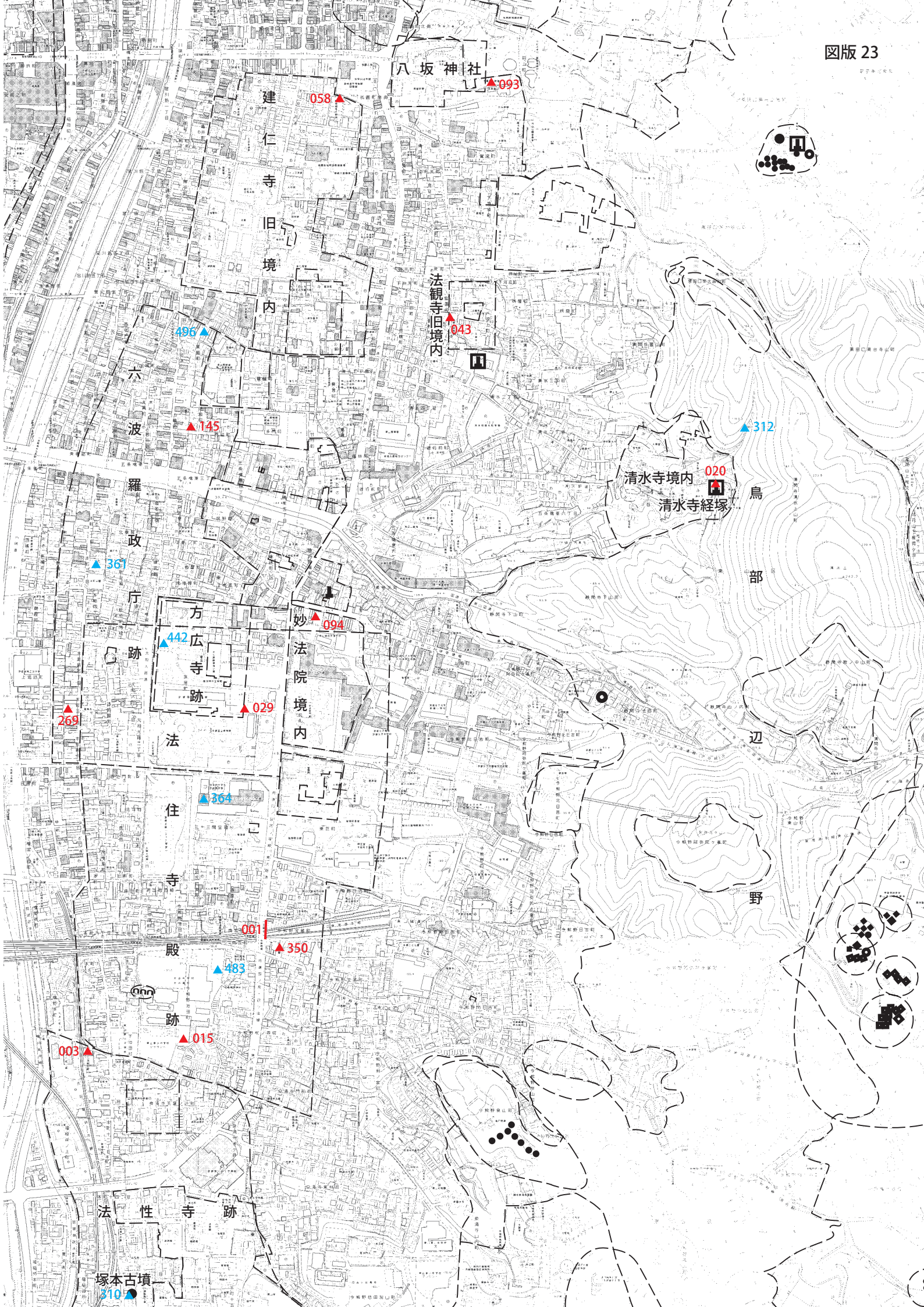
白河南殿跡
334

岡崎遺跡
441
144

尊勝寺跡
404

法勝寺跡
190

岡崎遺跡
329



八坂神社 ▲093

建仁寺旧境内 ▲058

法観寺旧境内 ▲043

清水寺境内 ▲020
清水寺経塚

六波羅政庁跡

方広寺跡 ▲029

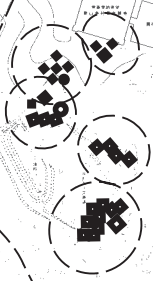
法院境内 ▲094

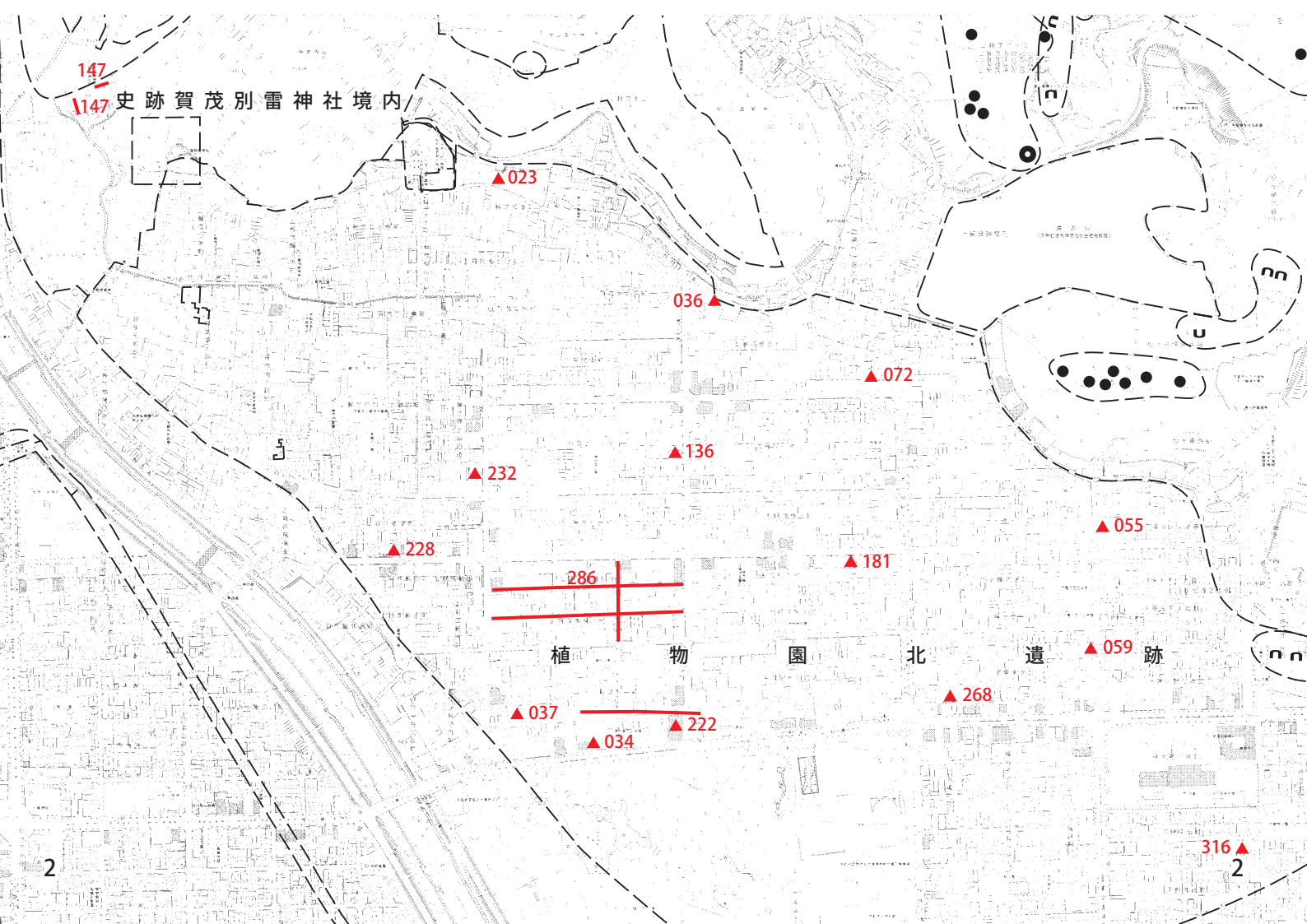
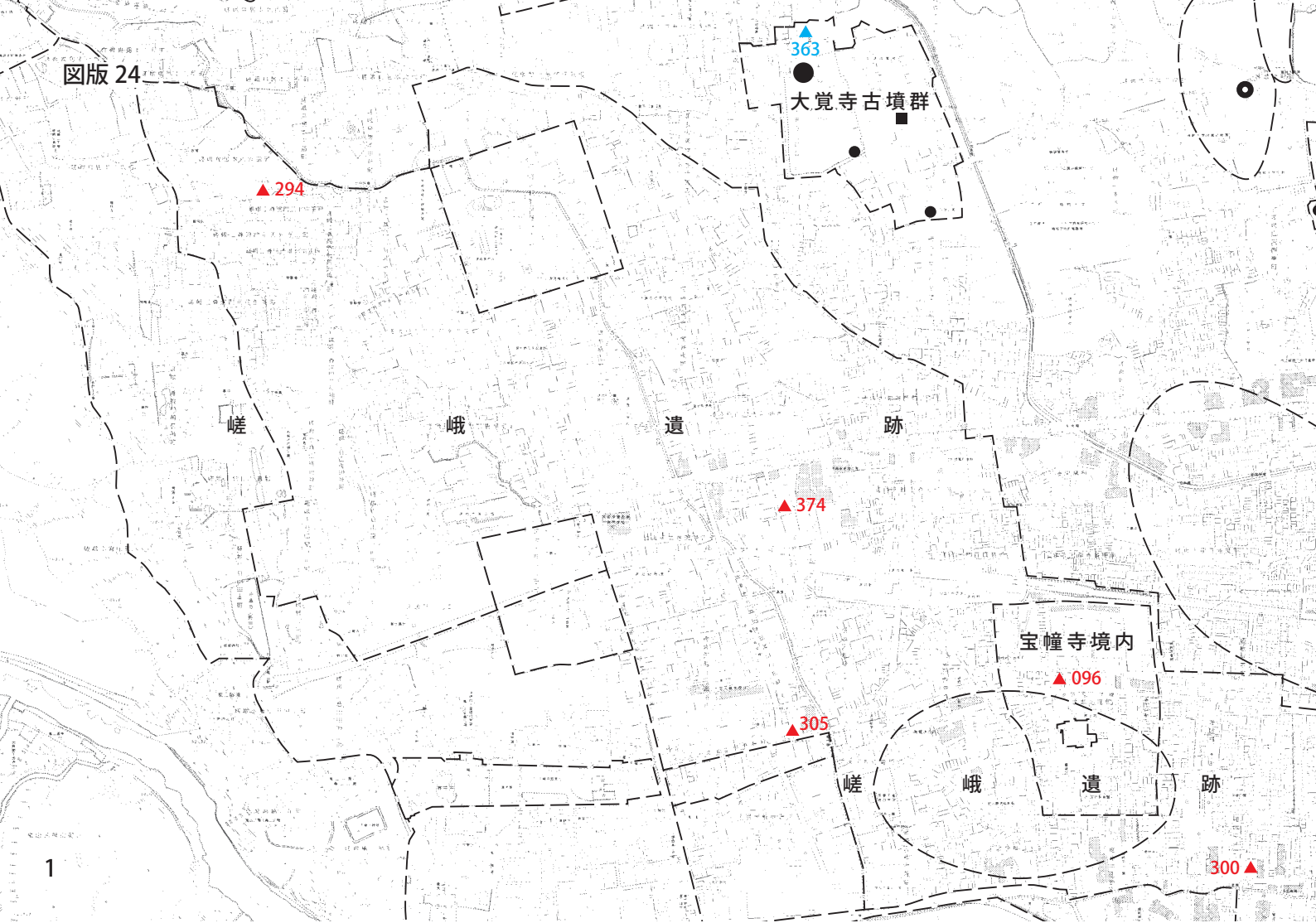
法住寺殿跡 ▲001

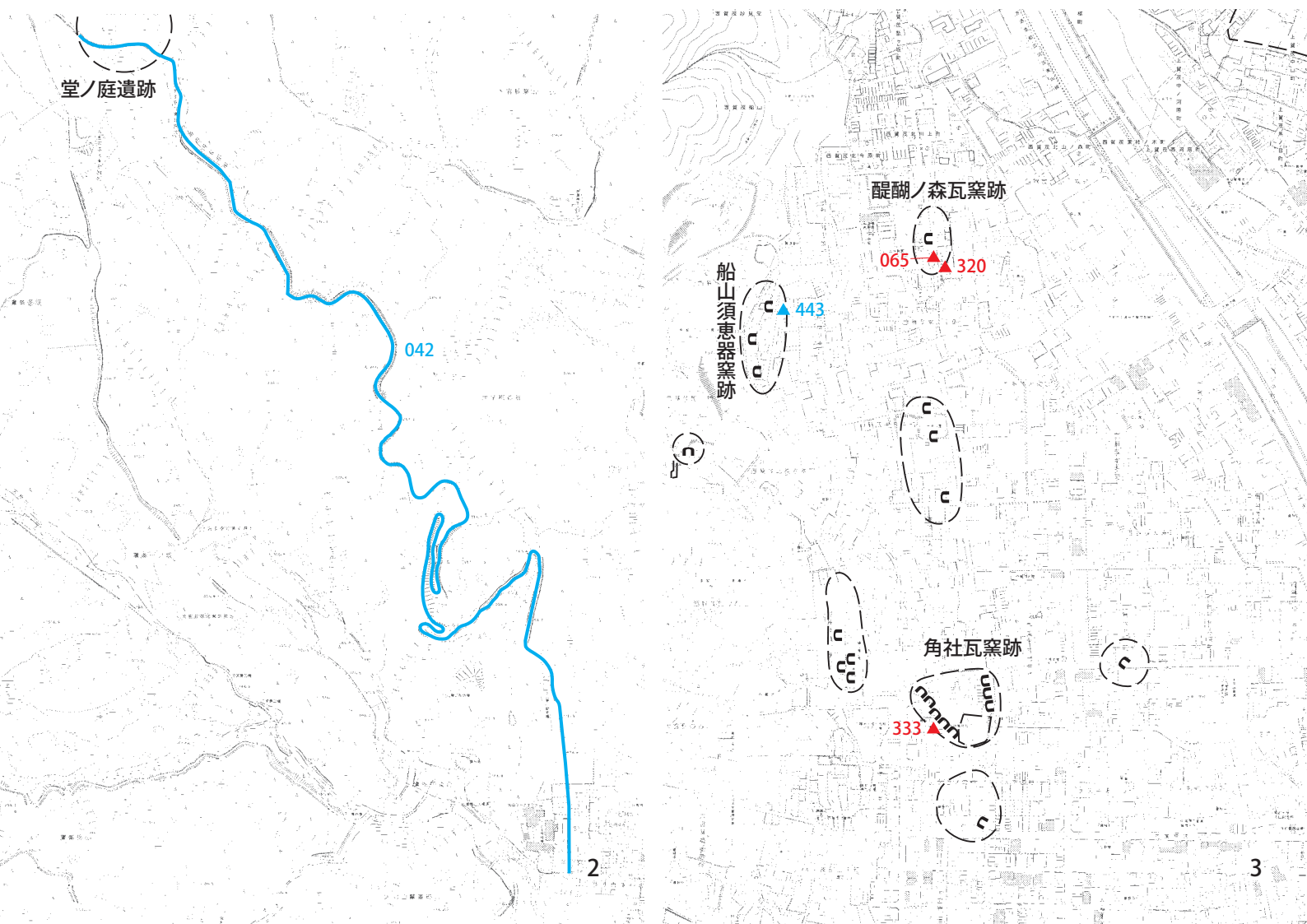
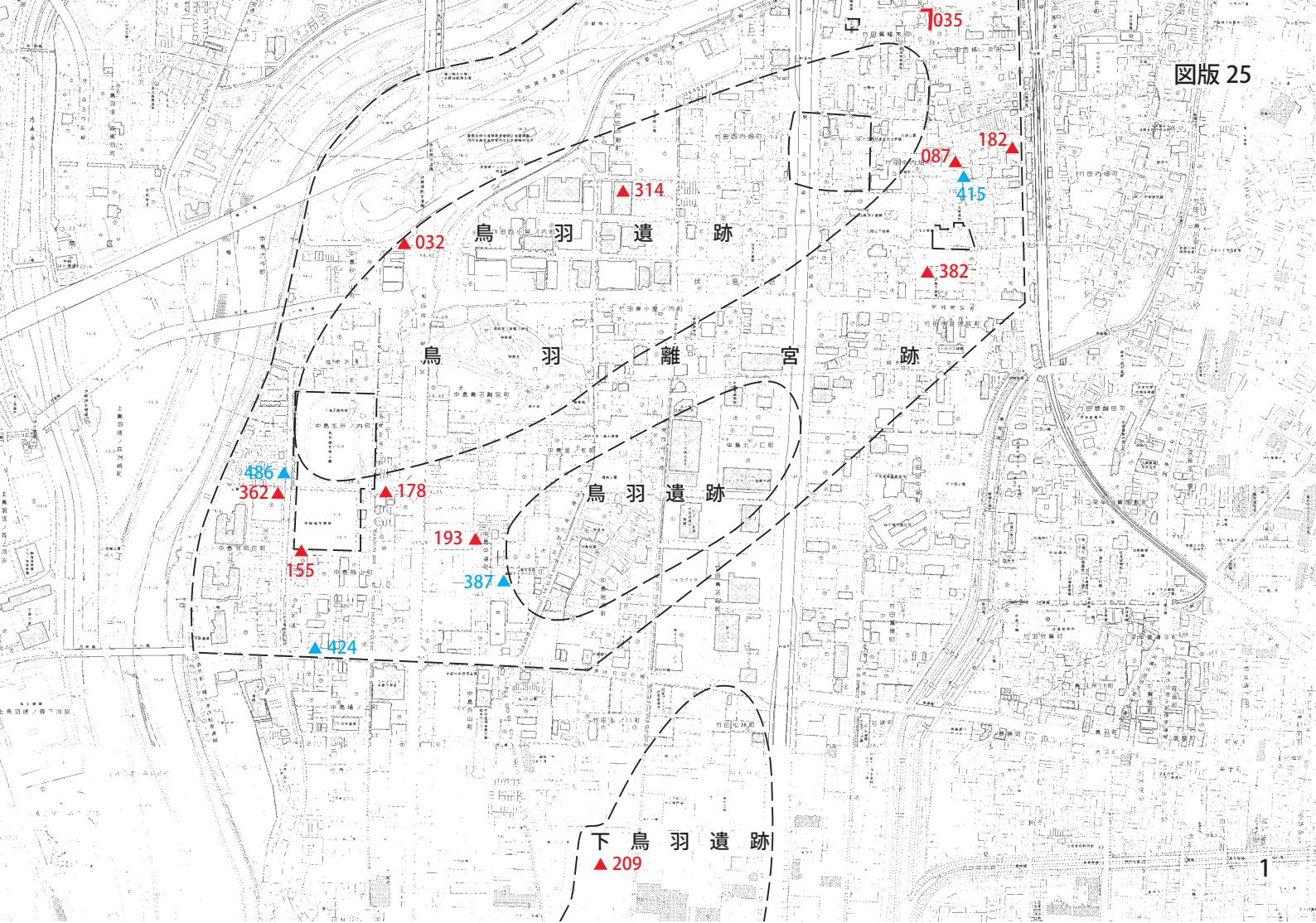
法性寺跡

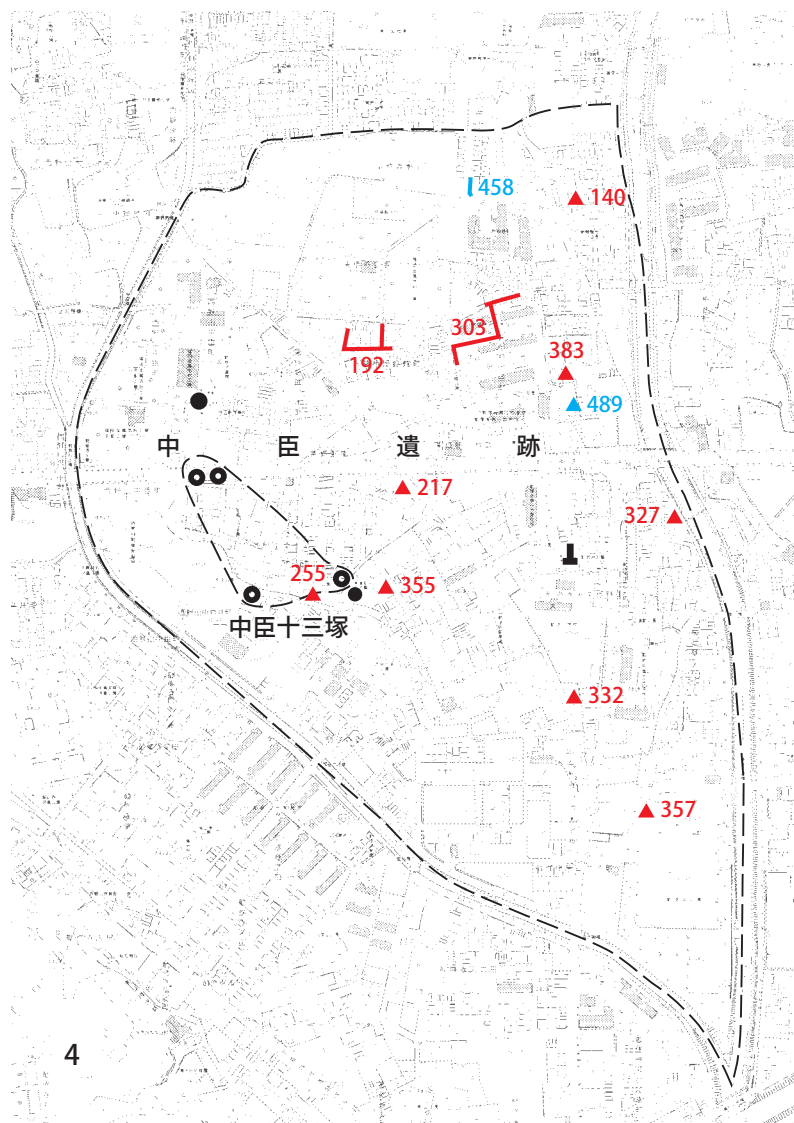
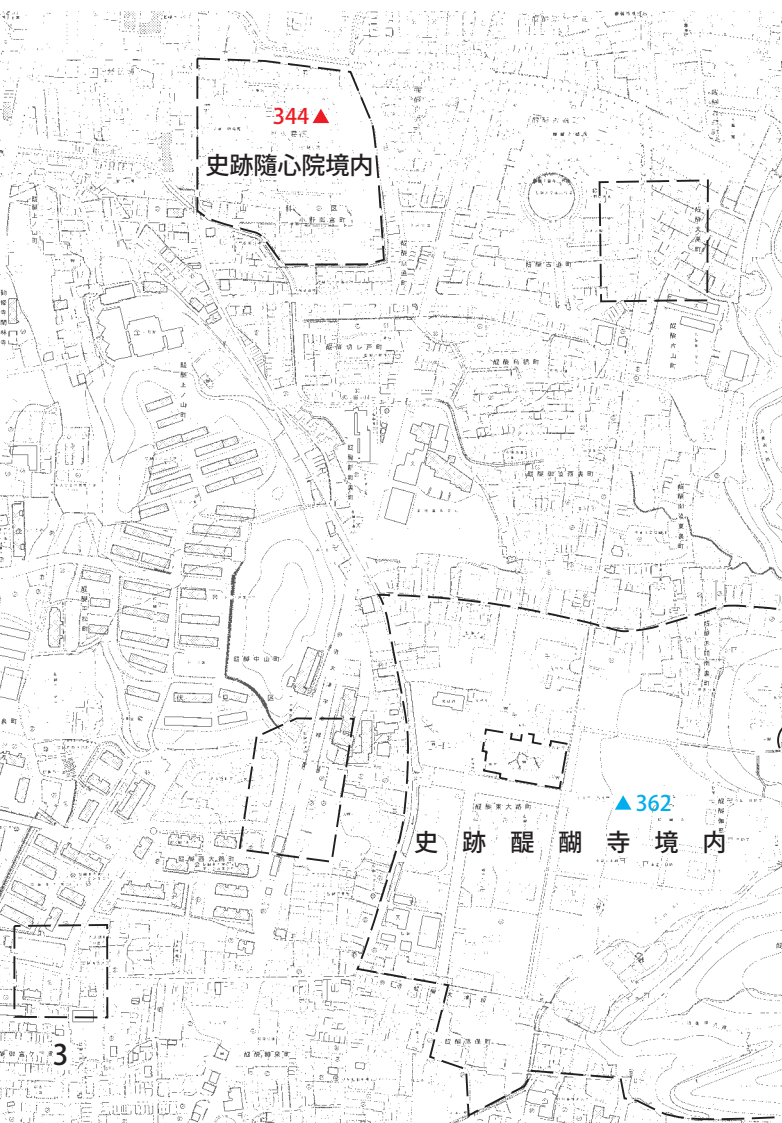
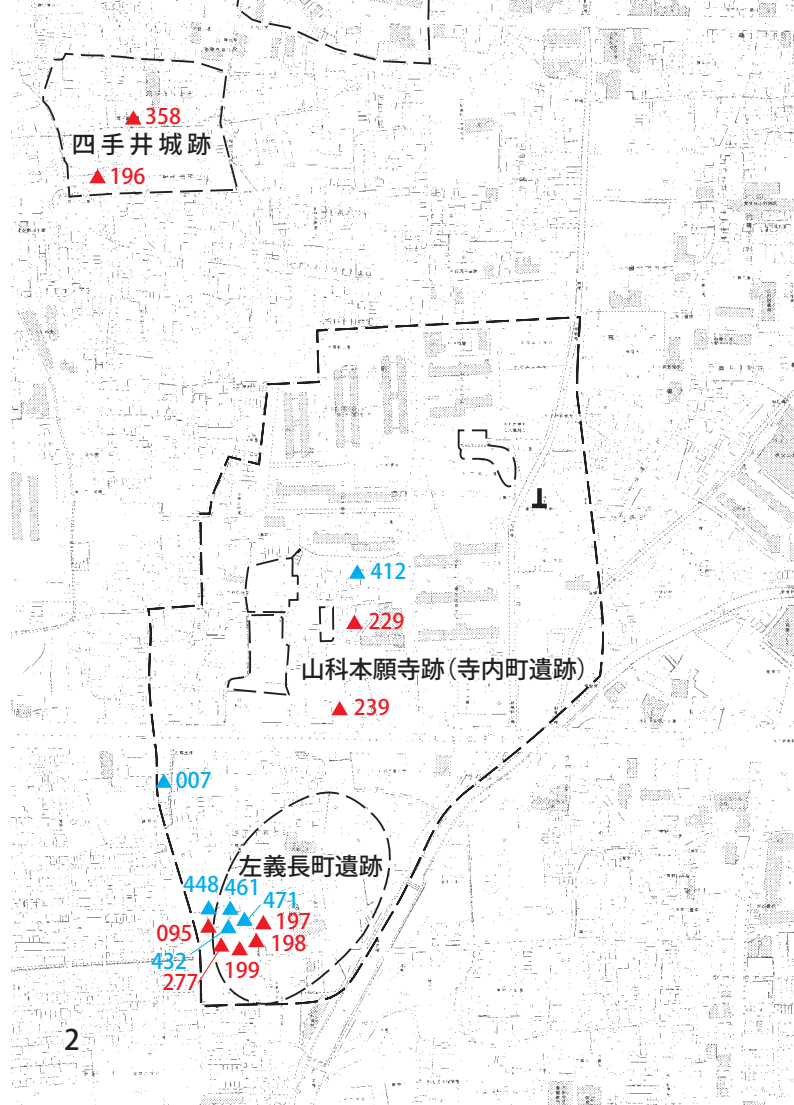
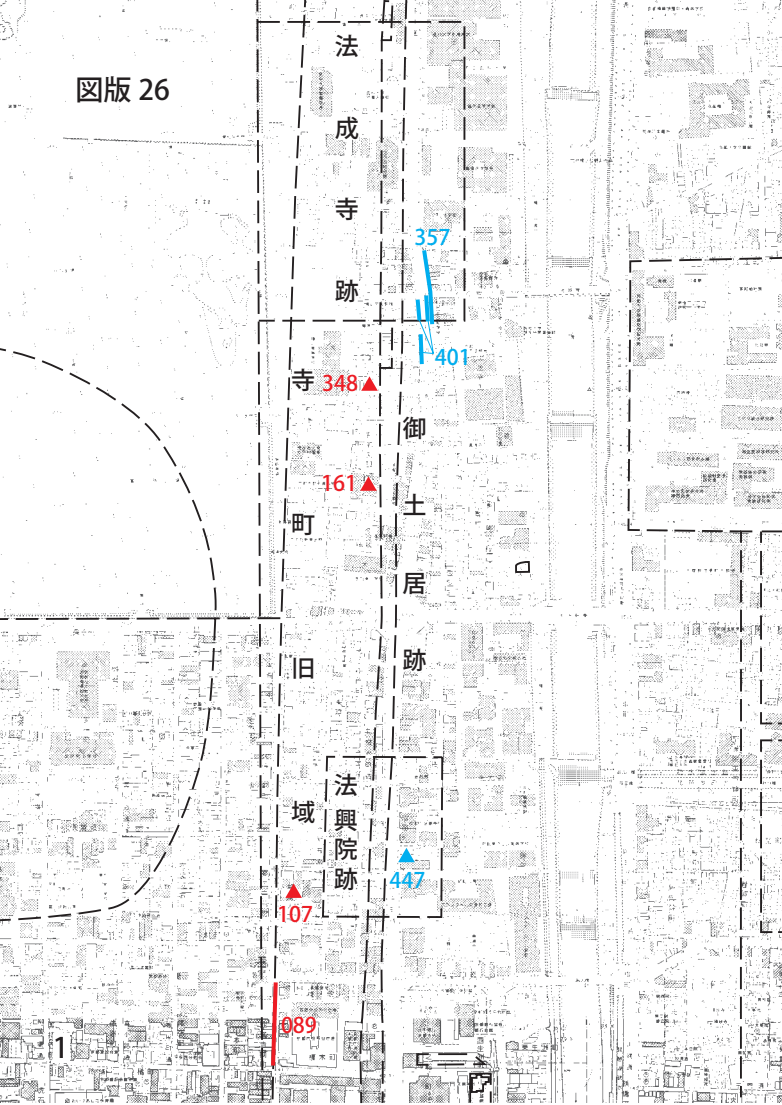
塚本古墳 ▲310

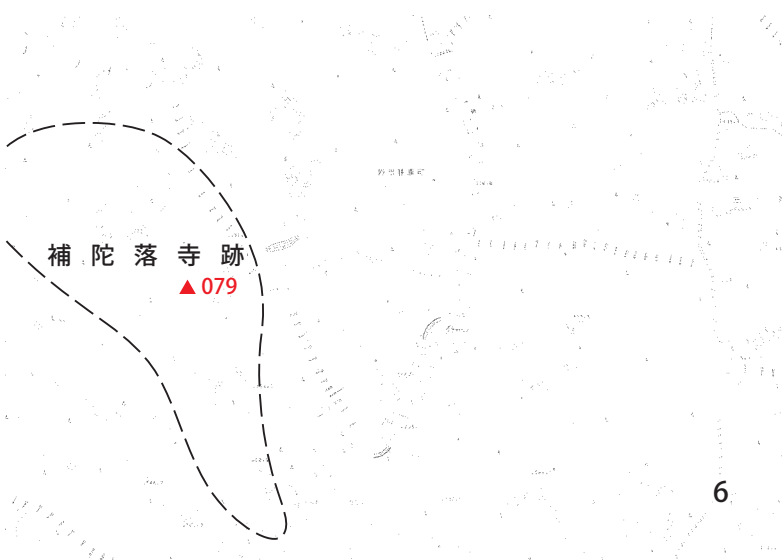
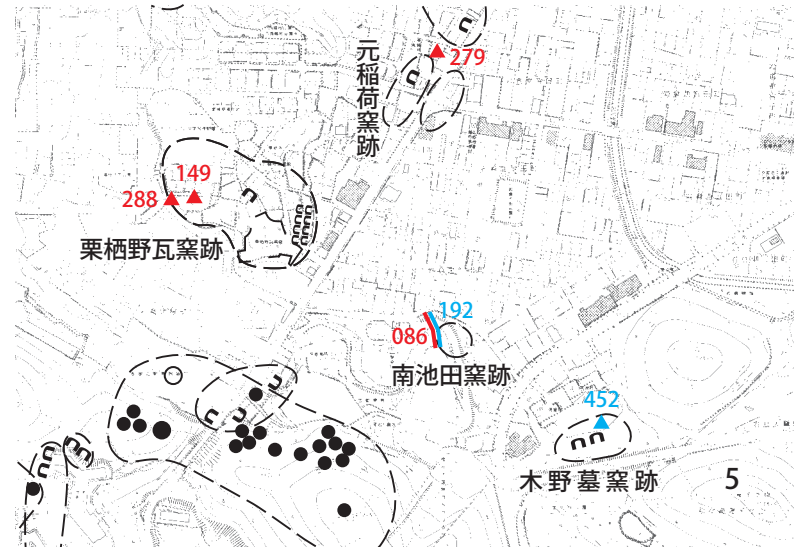
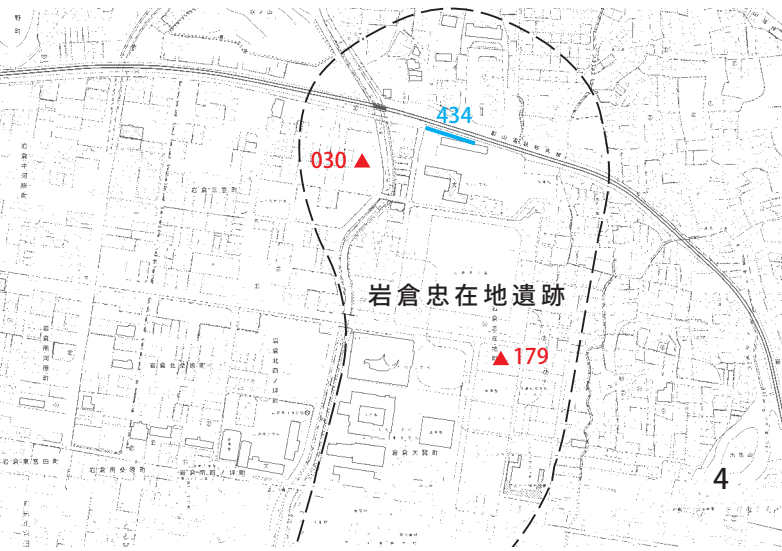
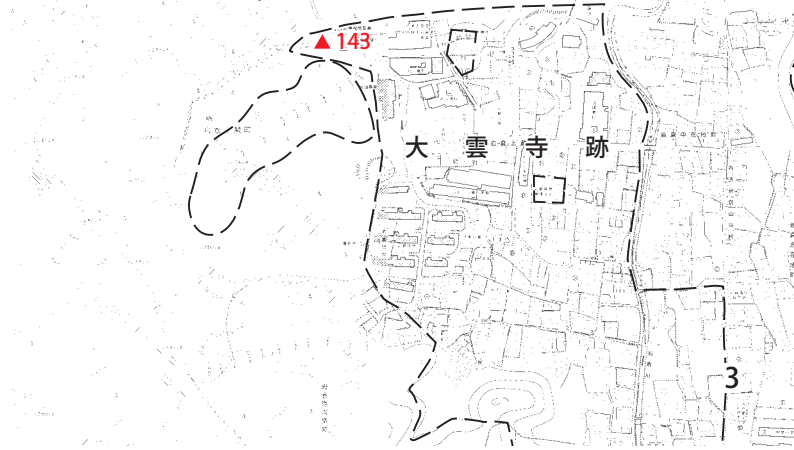
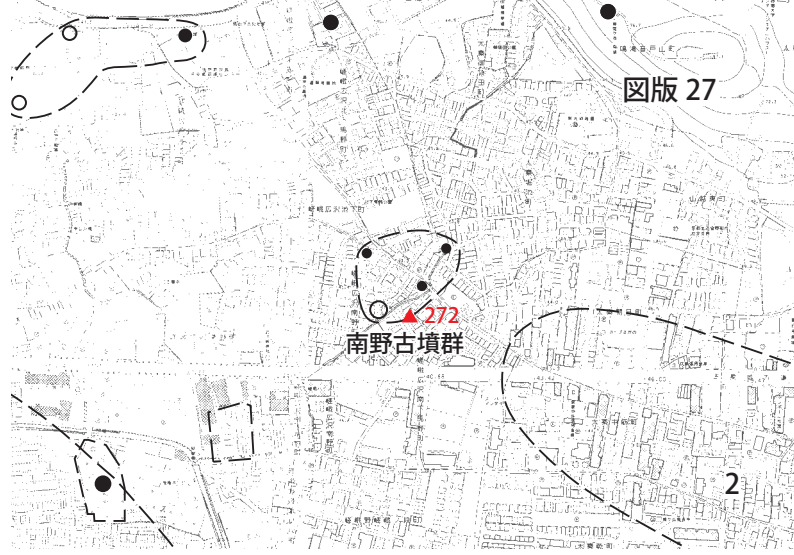
鳥辺野

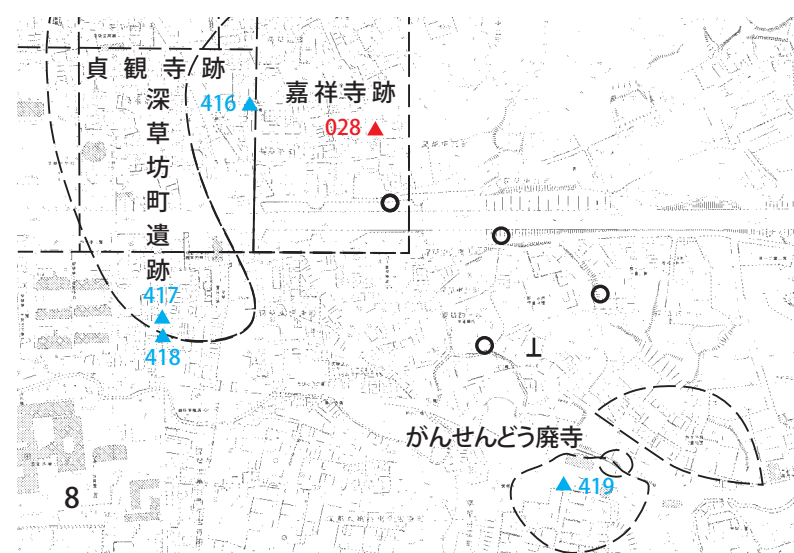
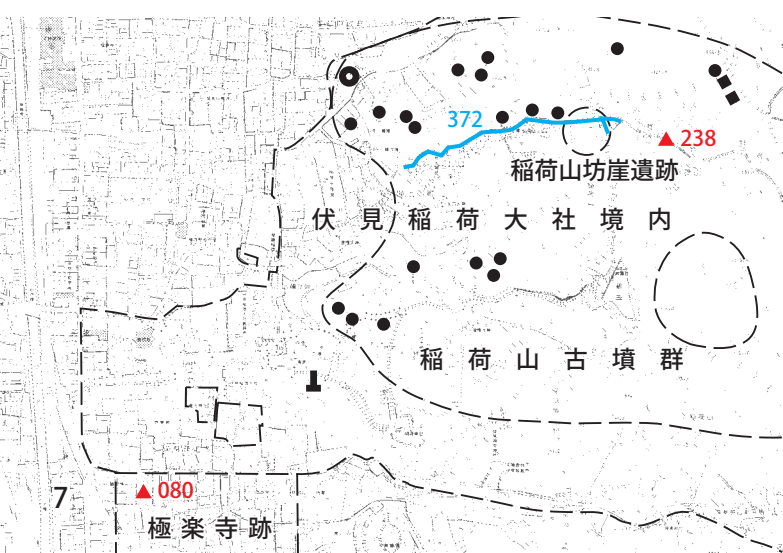
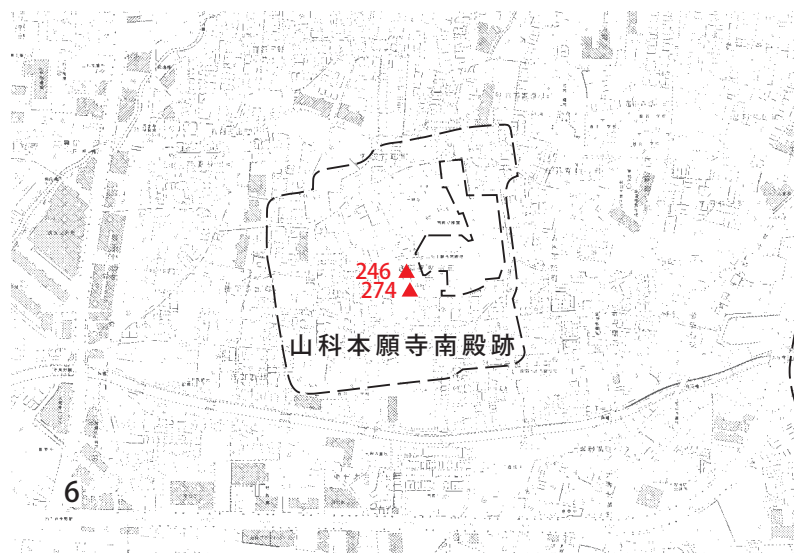
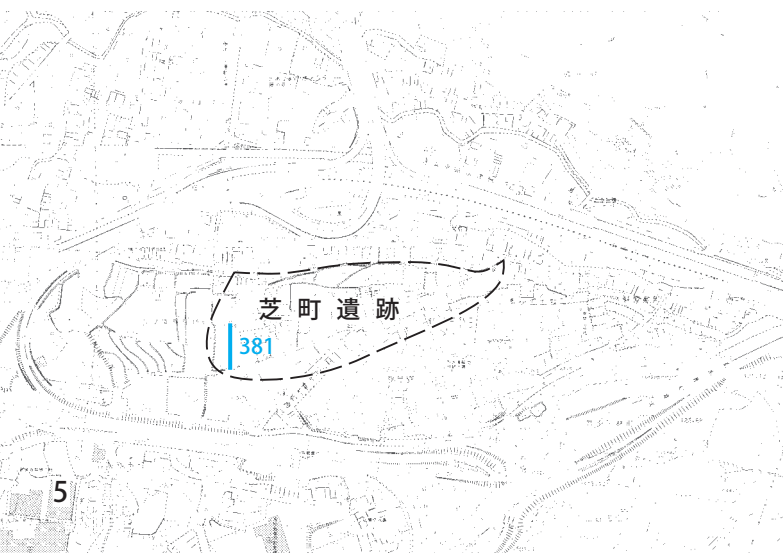
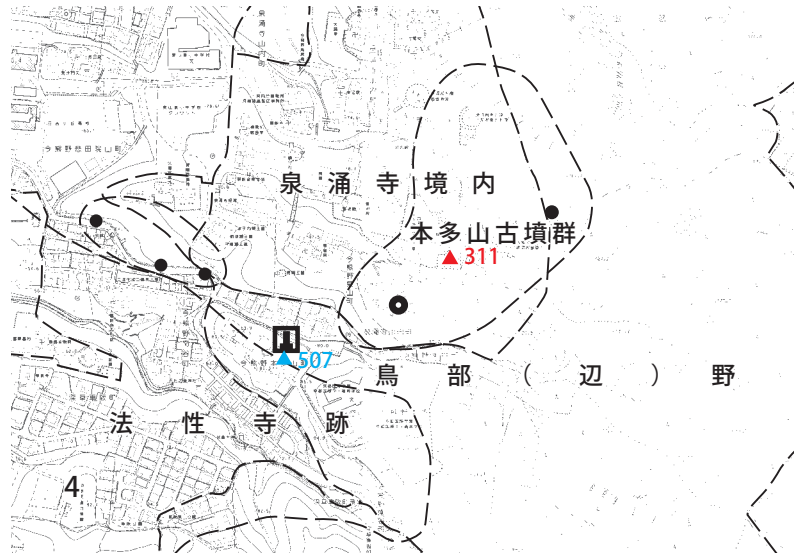
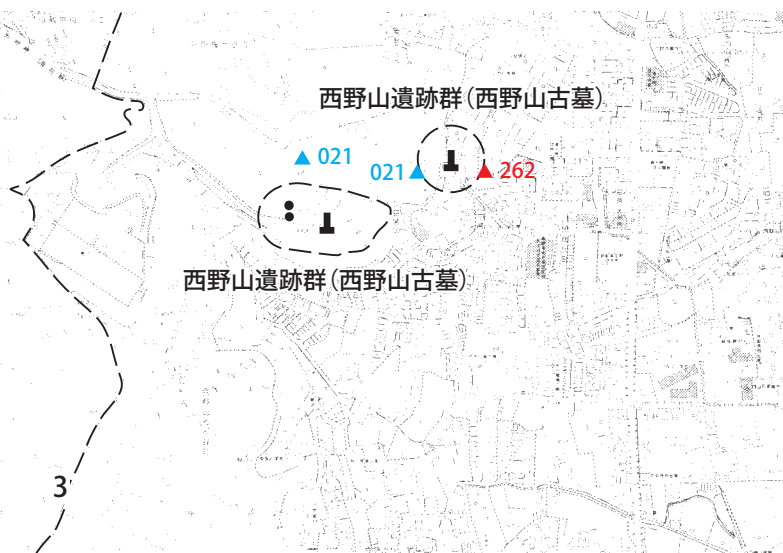
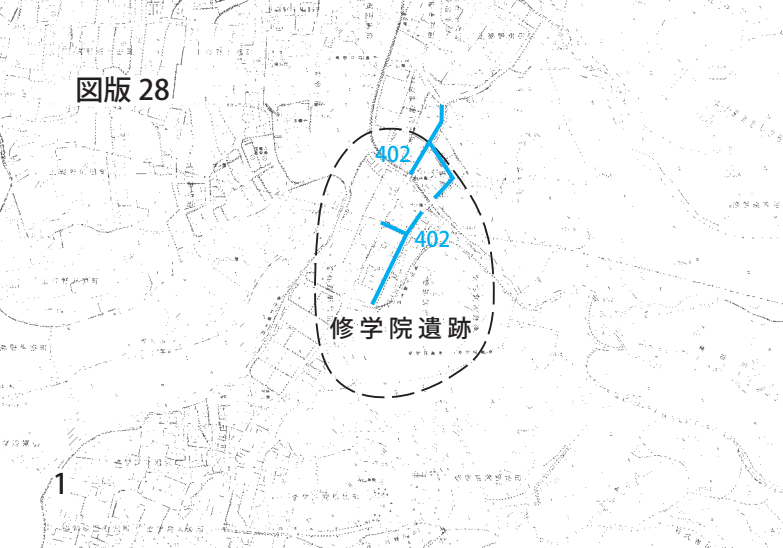


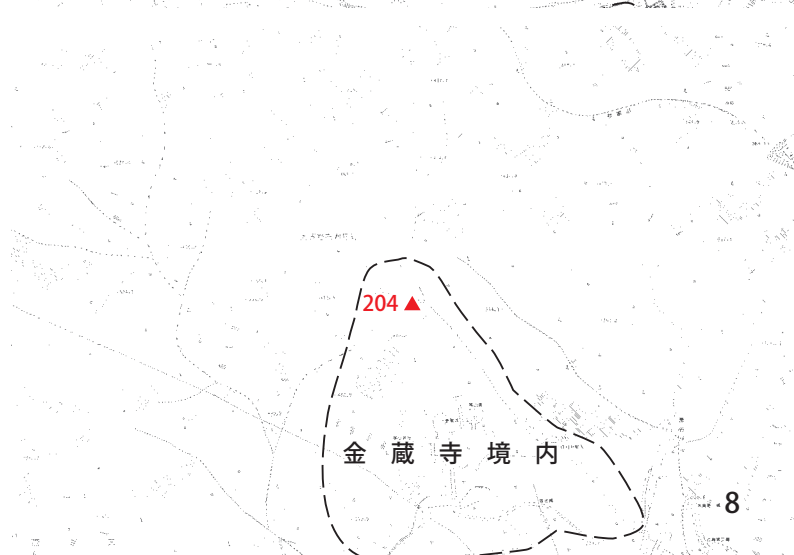
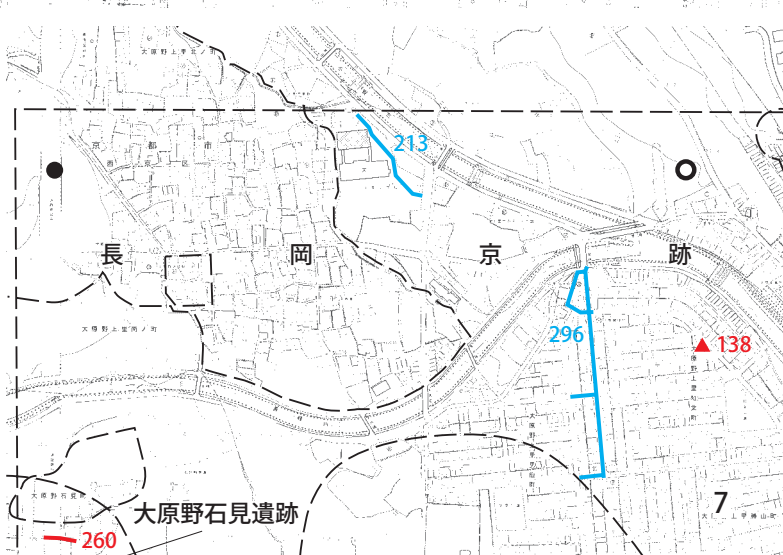
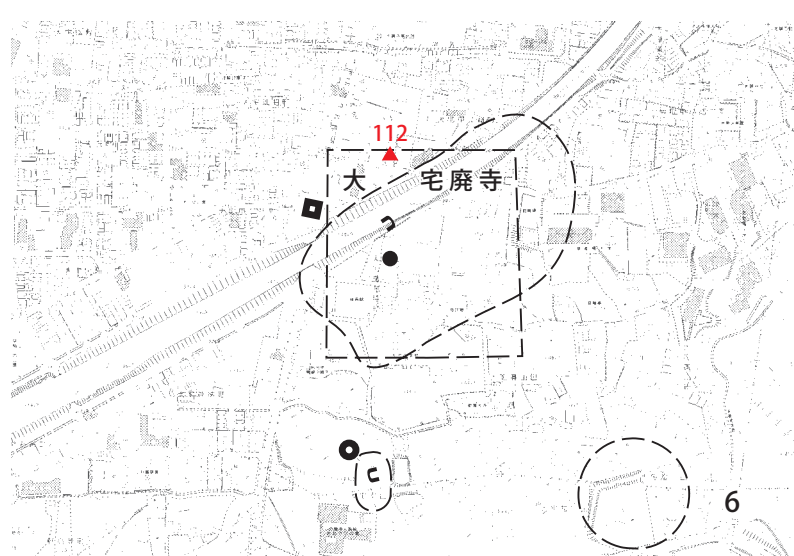
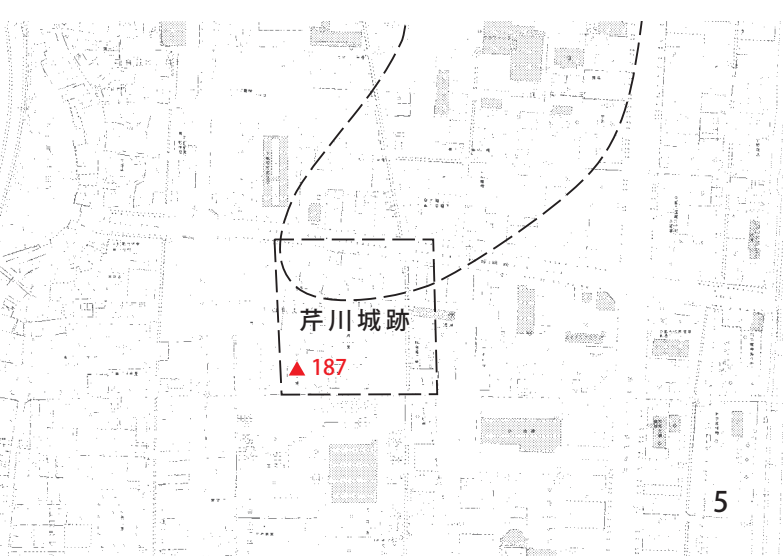
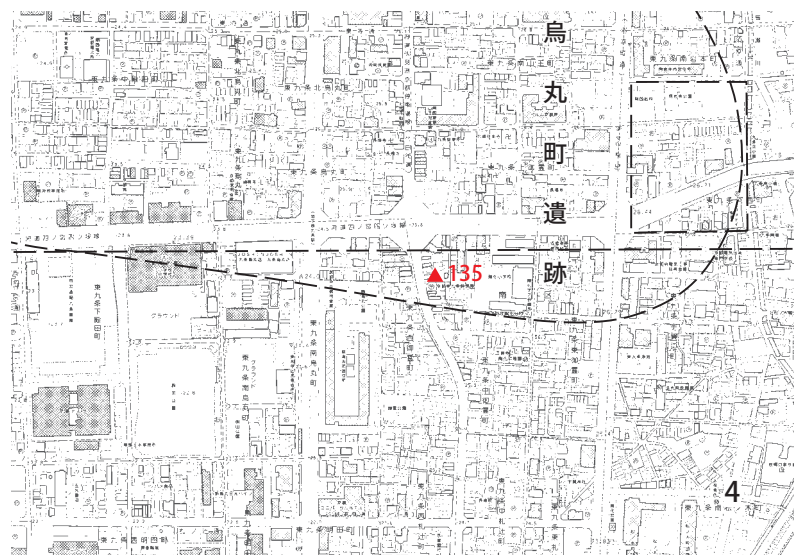
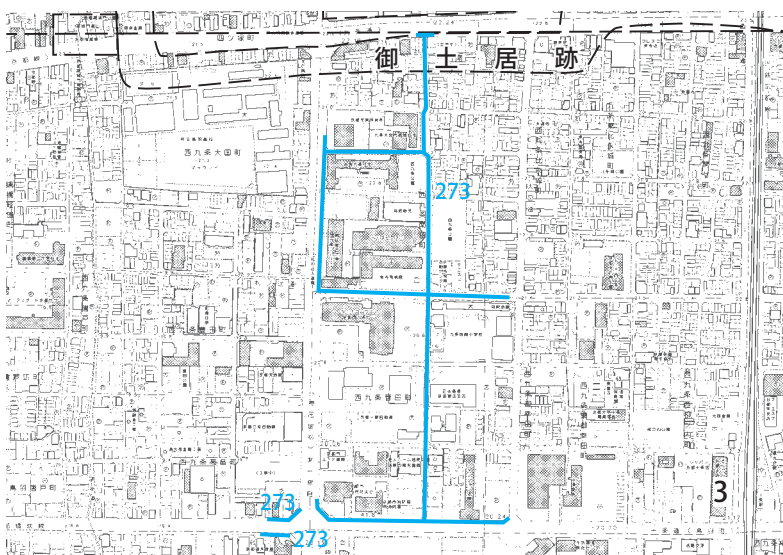
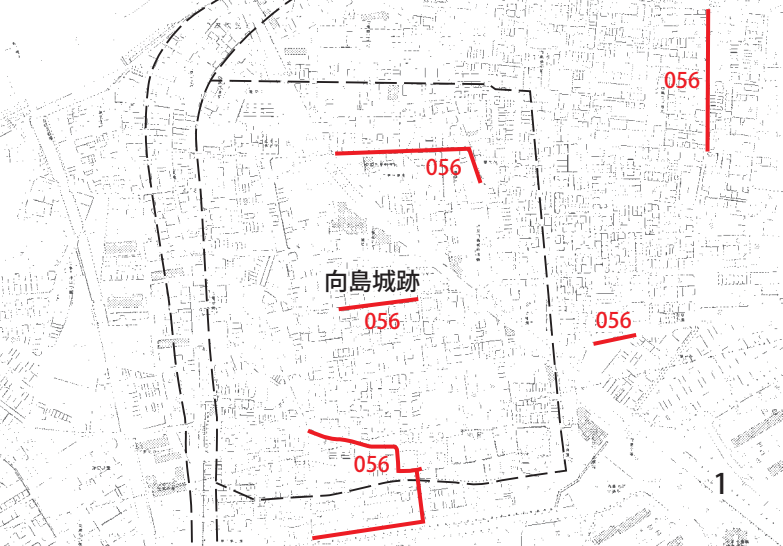


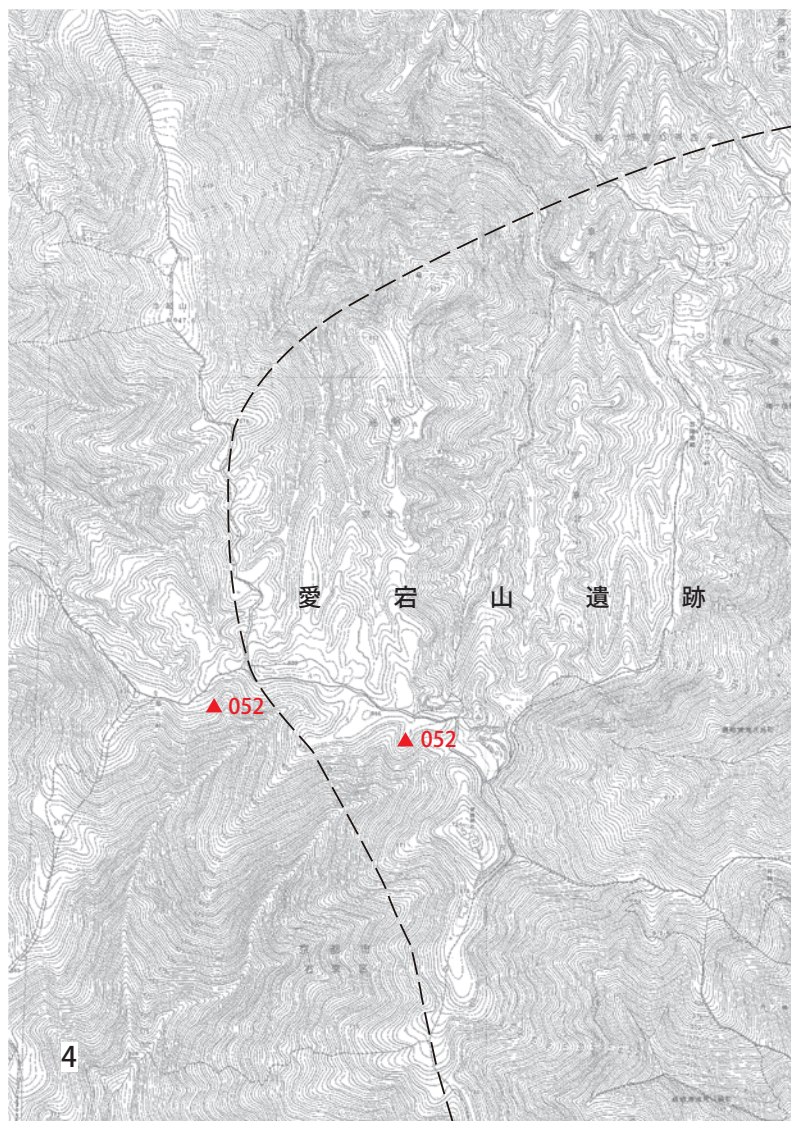
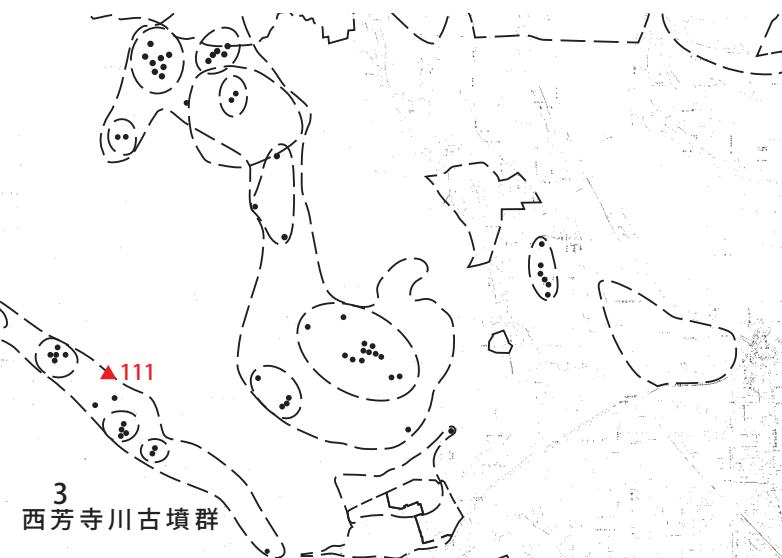
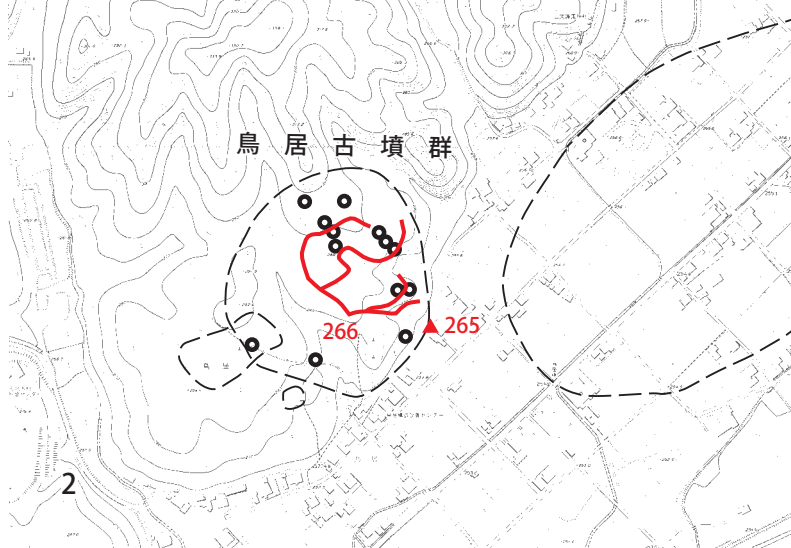
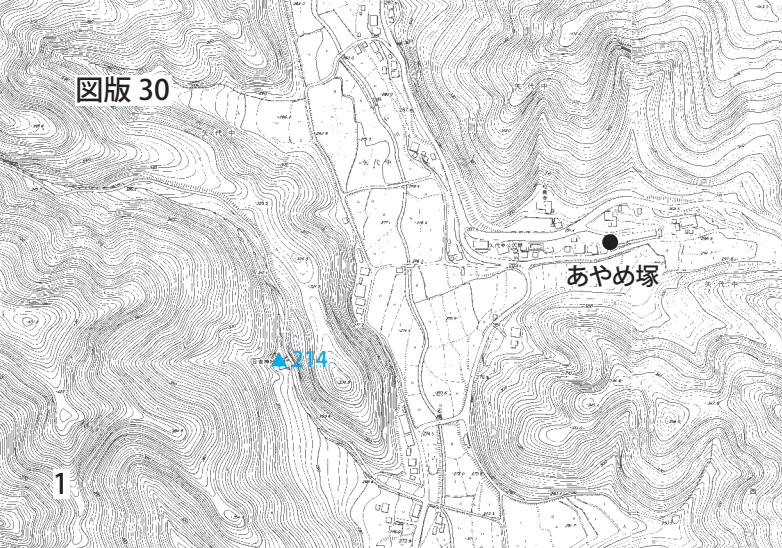
















1 No.2 全景 (西から)



2 No.3～6 遠景 (北西から)



1 平坦面 3a・b (南西から)



2 平坦面 3b 東端遺物散布状況



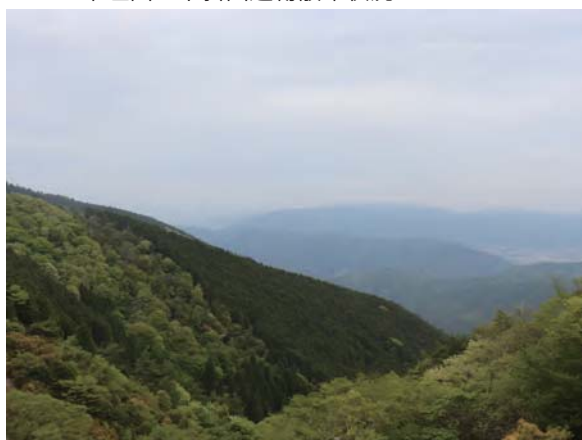
3 平坦面 4a (東から)



4 平坦面 4 下斜面遺物散布状況



5 平坦面 4 東側の瀧 (南から)



6 平坦面 4 付近から南側眺望 (北から)



7 磐座頂部の立石 (北東から)



8 磐座裾部の岩屋 (西から)

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなしいせき しょうさいぶんぶちょうさほうこく れいわななねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和7年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・堀大輔・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・佐藤拓・八軒かほり・吉本健吾・佐藤まお							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地							
発行年月日	西暦 2026 年 3 月 31 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安宮主水司・ 宮内省跡・ 聚楽遺跡	京都市上京区 千本通二条下る東入 主税町 953-1	26102	2 237	35度 01分 03秒	135度 44分 46秒	2024/8/19 ～2025/1/29		共同住宅 建設
史跡旧二条離宮、 平安宮雅楽寮跡、 平安京左京二条 二坊三～六町跡	京都市中京区 二条通堀川西入 二条城町 541	26104	A453 2 1	35度 00分 50秒	135度 44分 54秒	2025/1/7 ～2025/8/26		電線埋設
平安京右京一条 二坊十二町跡	京都市中京区 西ノ京北門町 58-1 の 一部、58-2 及び 58-3	26104	1	35度 01分 15秒	135度 43分 55秒	2025/8/18 ～9/12		共同住宅 建設
平安京右京七条 一坊一町跡、 御土居跡	京都市下京区 朱雀分木町 12-1 の 一部ほか	26106	1 149	34度 59分 35秒	135度 44分 29秒	2024/12/6 ～2025/3/6		市場整備
木野墓窯跡	京都市左京区 石倉幡枝町 1067-4	26103	358-17	35度 03分 44秒	135度 46分 40秒	2025/2/26～28		フェンス 建替
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安宮主水司・ 宮内省跡、 聚楽遺跡	宮殿跡 集落跡	平安時代初頭	土坑	土師器、須恵器、 瓦、凝灰岩片		平安京遷都直後の 土器廃棄土坑を確認。		
史跡旧二条城離宮、 平安宮雅楽寮跡、 平安京左京二条 二坊三～六町跡	史跡（城跡） 宮殿跡 都城跡	江戸時代～近代	門跡、礎石列、 煉瓦基礎など			門跡と思われる本丸虎 口の建物遺構を確認。		
平安京右京一条 二坊十二町跡	都城跡	平安時代	溝、ピット	土師器、須恵器、 陶磁器など		溝は勘解由小路の 南側溝と考えられる。		
平安京右京七条 一坊一町跡、 御土居跡	都城跡 土塁跡	安土桃山 ～江戸時代	堀	木製品		御土居の堀を確認。		
木野墓窯跡	窯跡	江戸時代		土師器、須恵器、瓦		土師器焼成関連遺物を 確認。		

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせき しょうさいぶんぶちょうさほうこく れいわななねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和7年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・堀大輔・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・佐藤拓・八軒かほり・吉本健吾・佐藤まお							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2026年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみぎょういせき 上京遺跡	きょうとしかみぎょうく 京都市上京区 継孝院町77-1	26102	224	35度 02分 09秒	135度 45分 22秒	2024/11/26 ～2025/3/19		共同住宅 建設
きたのてんまんぐう 北野天満宮、 しせきおどいあと 史跡御土居跡	きょうとしかみぎょうくぼくろうちょう 京都市上京区馬喰町	26102	220	35度 01分 51秒	135度 44分 04秒	2023/10/2 ～2025/9/30		防災設備 設置
しせきだいでじけいだい 史跡醍醐寺境内	きょうとしふしみく 京都市伏見区 だいごがらんちょう 醍醐伽藍町1	26109	A1103	34度 57分 05秒	135度 49分 16秒	2024/12/18 ～2025/3/28		史跡整備
ふしみじょうあと 伏見城跡	きょうとしふしみく 京都市伏見区 ももやまちょうたんげ 桃山町丹下43	26109	1172	34度 56分 40秒	135度 46分 08秒	2024/12/2 ～2025/2/19		擁壁設置
ながおかきょうさきょうさんじょう 長岡京左京三条 さんぼうきゅうじゅうろくぢょう 三坊九・十六町跡	きょうとしふしみくごがにしでちょう 京都市伏見区久我西出町 3-7、3-146、3-175、3-176、 4-7の一部、4-8、4-9	26109	3	34度 56分 26秒	135度 43分 09秒	2025/3/7 ～4/22		道路及び 擁壁工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上京遺跡	都城跡	室町時代	土坑	土師器皿		室町時代の遺構・遺物を 確認した。		
北野天満宮、 史跡御土居	神社、 史跡（土塁）	江戸時代	ピット、土坑、溝、土塁	土師器皿、灯明皿、 伏見人形		御土居斜面から遺物が まとまって出土。		
史跡醍醐寺境内	史跡（寺院）	平安時代 ～江戸時代	土塁、園池	土師器皿、瓦		平安時代の園池を確認。		
伏見城跡	平城跡	安土桃山時代	総構の土塁			伏見城総構の現存土塁 断面を確認。		
長岡京左京三条 三坊九・十六町跡	都城跡	奈良時代	溝			東三坊坊間東小路の 西側溝を確認。		

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなしいせき しょうさいぶんぶちょうさほうこく れいわななねんど							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和7年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・堀大輔・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織・佐藤拓・八軒かほり・吉本健吾・佐藤まお							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地							
発行年月日	西暦 2026 年 3 月 31 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ながおかきょうさきょうさんじょう 長岡京左京三条 四坊九・十町跡	きょうとしふしみく 京都市伏見区 こがにしでちよう 久我西出町 7-4、7-5、7-6、7-7	26109	3	34 度 56 分 27 秒	135 度 43 分 27 秒	2025/2/17、 6/2～7/30		倉庫建設
よどじょうあと 淀城跡	きょうとしふしみく 京都市伏見区 よどいけがみちよう 淀池上町 133-2	26109	1191	35 度 54 分 13 秒	135 度 43 分 09 秒	2025/2/18		整地
あたごやまいせき 愛宕山遺跡	きょうとしうきょうく 京都市右京区 さがしきみがほらいなりもちちよう 嵯峨嵯原稻荷元町ほか	26108	831	35 度 03 分 41 秒	135 度 37 分 60 秒	2025/5/16		範囲確認
とりいごふんぐん 鳥居古墳群	きょうとしうきょうく 京都市右京区 けいほくとりいちちやうなかやま 京北鳥居町中山 39	26108	2025	35 度 09 分 56 秒	135 度 38 分 21 秒	2025/10/2～18		林道設置
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
長岡京左京三条 四坊九・十町跡	都城跡	長岡京期	包含層	土師器、須恵器				
淀城跡	平城跡	江戸時代	東曲輪の南虎口石垣			虎口石垣の構築過程が 判明。		
愛宕山遺跡	寺院跡	平安時代	平坦面	土師器、須恵器、 灰釉陶器、緑釉陶器		平安時代前期～後期の 山林寺院跡。		
鳥居古墳群	古墳	古墳時代	高まり	土師器		古墳時代前～後期の 包含層を確認。		

京都市内遺跡詳細分布調査報告

令和7年度

発行日 2026年3月31日

発行 京都市文化市民局

編集 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課

住所 〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

分庁舎地下1階

TEL. (075) 222-3130

印刷 株式会社昭英社

TEL. (075) 351-1811